

わが国唯一の
空飛ぶ円盤専門誌

UFOと宇宙 第19号 昭和51年8月1日発行(年6回刊) 第3巻第19号 昭和50年2月28日国鉄首都特別扱承認誌第2170号

UFOと宇宙

UFOs & SPACE
隔月刊・1976・8月号

UFOと宇宙科学

No.19

大地震は予知できるか / 工学博士 内田秀男
火星生物発見の旅 / 理学博士 宮本正太郎



本誌特別取材 私はUFOを何度も見た
鬼才・横尾忠則氏が語る神秘的体験

チャールズ・ムーディ軍曹砂漠で円盤に誘拐される
宇宙人はなぜ人類と正式に交流しないのか / 坂元邁

世界の12の“魔の墓場” / アイバン・サンダーソン

連載科学記事 (続) 宇宙・引力・空飛ぶ円盤(2) / レナード・クランプ

好評発売中

UFO写真300とその解説!

●空飛ぶ円盤シリーズ●

高梨純一著 ¥900
空飛ぶ円盤実在の証拠

黒沼健著 ¥950
空飛ぶ円盤と宇宙人

G・アダムスキ D・レスリー 高橋豊訳 ¥980
空飛ぶ円盤実見記

T・ベサラム 久保田八郎訳 ¥800
空飛ぶ円盤の秘密

久保田八郎編 ¥980
空飛ぶ円盤とアダムスキ

G・バーカー 平野威馬雄訳 ¥950
空飛ぶ円盤ミステリ

世紀の謎をとらえる!

世界のUFO 高梨純一 編著 写真集

B6・美麗カバー付308頁 ¥1500

世界各国で撮られた驚異のUFO写真を広く収録・網羅し、体系的に構成すると共に、その1枚1枚に詳細・正確な解説とデータを付した、UFO写真集の総まとめの決定版。円盤ファン、専門研究者にとってはまさしく貴重な写真資料集として必備の書といえる。

写真／一二〇頁 極上ア
ト紙使用 収録写真三〇〇
枚(カラー六枚)
解説／8P2段組一八〇頁

●東京都文京区本郷5-30 振東6-141750●

高文社

●京都市左京区百万遍 振京23523●

知識欲、好奇心を満足させる地人書館の天文図書

太陽黒点の予言

解明された気候変動の謎 ●須田滝雄著

B6 / 190頁 / 予価1,300円 / 〒200円

不順気候期がくると、ここ数年来、警告しつづけてきた筆者が、農作物の不作による政治的経済的変動を防止するため、なぜ不順気候期がくるのか、太陽黒点から気候変動のメカニズムを本書で明らかにし、食糧自給率の低いわが国関係者に、対策の検討を訴える!

天文の基礎教室

子供の素朴な質問を180項目のQ&Aにまとめた図書館協会選定図書 土田嘉直著 A5判・195頁・¥1,200・〒200

ほしぞらの探訪

望遠鏡をのぞき星や星雲星団をさがす楽しさを育てる図書館協会選定図書 山田卓著 A5判・320頁・¥1,800・〒200

パロマ天体写真集

上: ¥750・〒160 下: ¥700・〒160
上: わが銀河系 下: 100億光年のかなた B4・60頁 へ
ー爾天文台の大望遠鏡がとらえた宇宙の姿を大沢清輝が解説

天体望遠鏡入門

天体望遠鏡を上手に使うために性能や機構をやさしく解説した望遠鏡解説書 太田健太郎著 B5判・120頁・¥700・〒160

彗星の観測ガイド

天文ファンが知りたい新彗星発見法を発見者の体験から詳しく解説 天文と気象編集部編 B5判・104頁・¥750・〒160

天体写真講座

全4巻 ●広瀬秀雄監修
各巻 ¥1,500・〒200

天体写真の基本

撮影イメージを忠実に映像化し、撮影領域を広げるため、撮影の基礎知識をあつめた入門書 下保茂著 A5判・240頁

天体写真の写し方

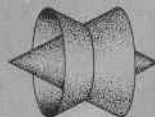
観賞写真や観測写真など天体写真を初めて写す人を対象に書かれた撮影テクニックガイド 香西洋樹著 A5判・244頁

天体写真のDPE

写真を生かすも殺すも暗室しだい。写真の仕上げを自分でするためのDPE図解ハンドブック 秦茂著 A5判・240頁

天体写真の応用と工作

天体写真の高度な技術と天体写真の撮影にかかせない付属品の自作ガイドブック 香西洋樹・秦茂著 A5判・240頁



UFOと宇宙
口絵

〈口絵写真〉玄海灘にサラ状物体飛来
●カラー飛行機の窓からUFOキャッチ
星図にない天体が——
長楕円形の光体が移動
日本の宇宙開発



表紙写真
インド、ナギン湖上の横尾忠則氏。
(1976年5月6日)
写真=倉橋 正

本誌特別取材
私はUFOを何度も見た! 8
鬼才・横尾忠則氏が語る神秘的体験

スタンフォード大学での地球外文明共同研究 18

チャールズ・ムーディ軍曹
砂漠で円盤に誘拐される 中津要二 20
彼は宇宙人を殴り倒したのだが——

UFOのスポークスマン? 26
オッター・B・ワインダー
●テッド・オーウェンスの予言を果たしてUFOが実現させたのか

航空機や船舶が不思議な消滅をとげる地域はパーミュダだけではない? アイバン・サンダーソン 33
世界の12の“魔の墓場”

宇宙人はなぜ人類と正式に交流しないのか 40
坂元 邁

■あなたもできる巨大地震の予知
大地震は予知できるか 工学博士 内田秀男 44
1982年有史以来前例がないさそり座惑星直列で巨大地震が世界中に頻発か?

UFO、日本書紀に出現! 伝法千登里 50

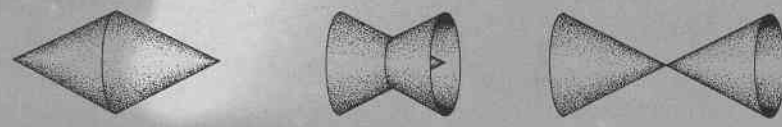
火星生物発見の旅 54
—米探索機ヴァイキング火星到達への期待—
京都大学教授
理学博士
宮本正太郎

UFO目撃レポート 60 UFO情報 66 科学ニュース 72

連載科学記事
レナード・克蘭プ
(続) **宇宙・引力・空飛ぶ円盤(2)** 79
空飛ぶ円盤は重力場推進方式で飛ぶ! 英国の科学者克蘭プが画期的な推進法を発見、見事な理論を展開した。

声—OPINIONS 92 蚤の市 (売ります・買います) 98

目次イラスト 松岡吉樹
本文イラスト



玄海灘に
ナラ状物体
飛来

志岐の小学生が撮影





玄海灘に浮かぶ島、長崎県壱岐の小学校6年生横山俊朗君は4月17日、自宅の窓から鮮明なサラ状飛行物体をカラーフィルムにとらえた。彼の話によると、午後4時頃、自宅2階で勉強中に「ウーン、ウーン」という音を耳にし、窓から空を見上げると西の方に黒っぽい銀色のサラ状飛行物体を発見。彼はとっさに机の上のポケットカメラを手にして10枚シャッターを切り、そのうち5枚にこの物体が写っていた。物体は約40秒間民家の上空をゆっくり飛行。その後あっという間に姿を消したという。横山君は「その日はよく晴れていて風もなく、夕日が揚がっていたり気象のいたずらとは考えられない。絶対に円盤だと思う」と話している。

飛行機の窓から
U F O キ ャ ッ ツ ー

長楕円形の光体が移動



これは飛行機の窓から撮影されたU F Oである。4月2日、京都府船井郡八木町の電気商片谷督夫さん（28歳）は旅行のため大阪空港から空路香港へ向かっていた。午前10時半飛行機が沖縄北東上空8000 mにさしかかった頃、進行方向右側の翼の下に白い物体を発見、約10分くらい眺めていたが、突然物体が下降を始めたので急いでシャッターを切った。物体は1 mくらいの楕円形で、表面は銀色に輝き、クラゲの足のようなヒラヒラがついていたという。



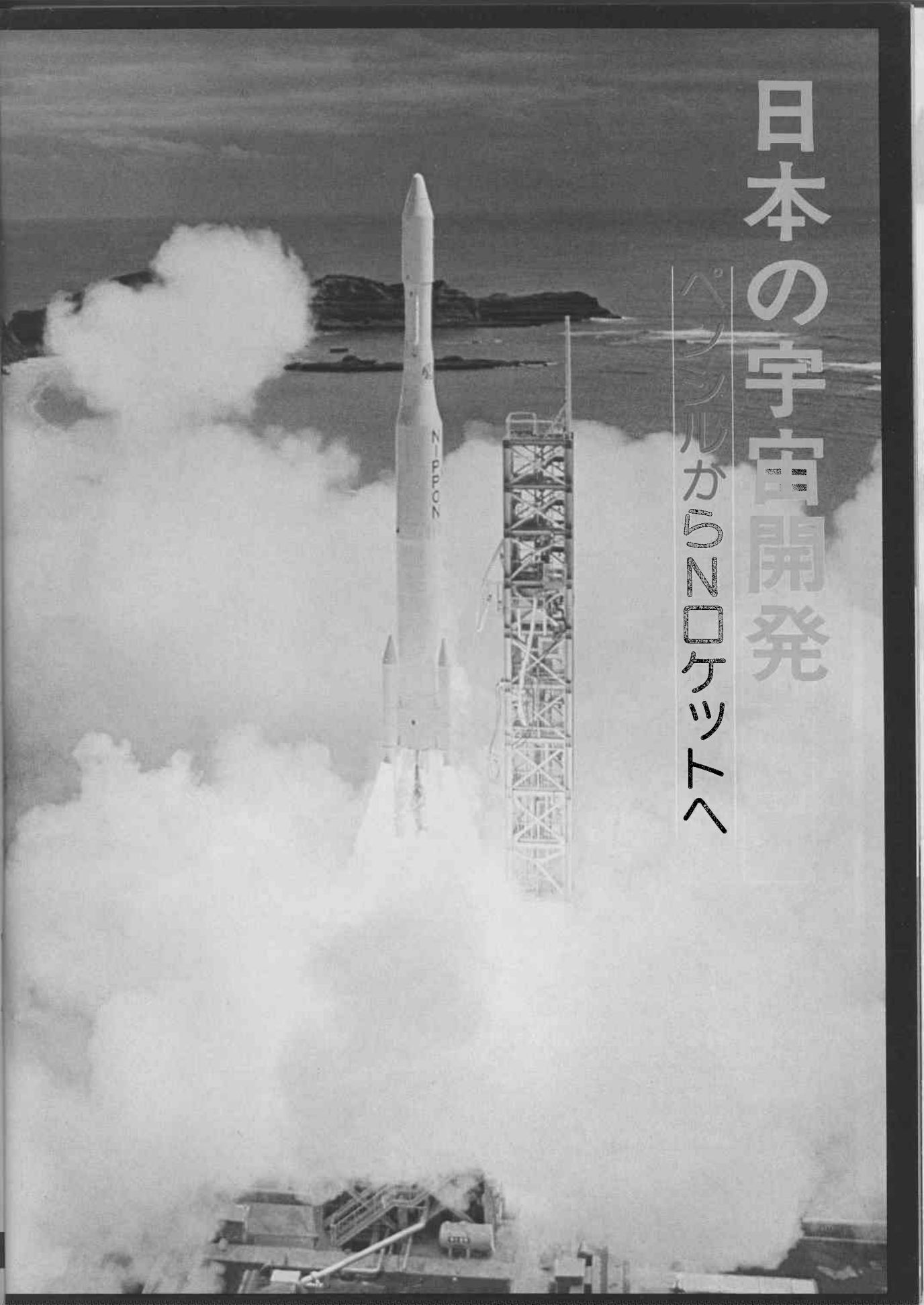
林徹二さん（会社員、23歳）は埼玉県新座市のある男子寮に住んでいる。5月3日午後9時過ぎ、彼は寮の3階から白い長楕円形の光体が低空飛行しているのを発見した。そこで急いで自室へ戻ってカメラを持ち出し、屋上に昇ってシャッターを切った。あわてていたため三脚を使用できず、被写体がブレている。また彼によると、光体は写真ではオレンジ色だが、肉眼では白かったという。

星
図
に
な
い
天
体
が

谷中哲雄さん(22歳)は栃木県芳賀郡茂木町に住むアマチュア天文家である。彼は昨年5月16日の夜、観望好期になった水星を約10分の間隔をおいて2枚撮影した。ところが、プリントができて見ると星図にない光体が写っており、2枚の写真の中で位置が移動しているばかりか光の色も白色から青色へと変わっていた。これは2枚目の写真であるが中央上部の白色に光る金星の左下に青い光体がとらえられている。

日本の宇宙開発

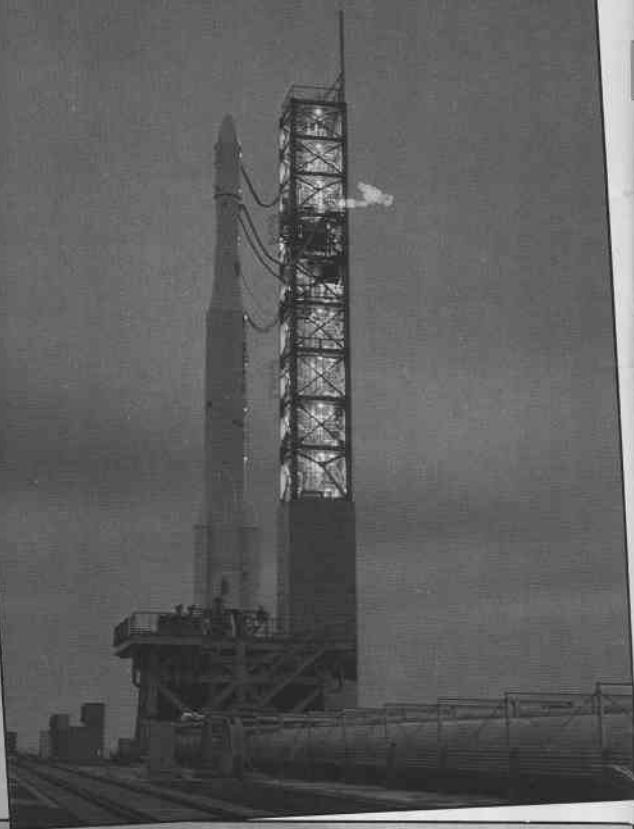
パシフィックからNOROCKETSへ



宇宙開発といえば米ソの独壇上である。一連のアポロによる月面探査はすでに一段落し、昨年ソ連の金星1・2号が金星に、またつい先頃、アメリカが昨年打ち上げたヴァイキング1号が火星に軟着陸したばかりである。(ヴァイキング関連記事は本文P.54“火星生物発見の旅”参照)

一方、米ソに遠く及ばないとはいえ、日本の宇宙開発も着実な歩みを進めている。昨年9月には初の実用試験衛星「さく」が、また今年2月には最初の実用(電離層観測)衛星「うめ」が打ち上げられた。ここに掲載した写真はいずれも「うめ」を打ち上げたNロケットである。Nロケットは3段からなり、第1段は米国からの技術導入によって製造され、第2段は宇宙開発事業団が開発、第3段は米国から輸入されたものだが将来は国産化される予定である。このロケットは全長32.6m、直径2.4m、重量90tで、約130kgの衛星を静止軌道に、また約600kgの衛星を高度1,000kmの円軌道に打ち上げる性能をもっている。

今後、国産衛星としては気象衛星、静止通信衛星、放送衛星などが計画されている。



本誌特別取材

鬼才・横尾忠則氏が語る神秘的体験

私はUFOを何度も見た!

「これくらいの大きさの
柔らかく光る銀色の物体が
スーッと眼の前を……」



西脇市の

怪光体

—最初にUFOを目撃されたのはいつですか。

「年月日ははっきり記憶していませんが、私が中学三年だったか高校一年のいづれかだったと思います。夜学の英語を習いに行っていたんです。その帰りに目撃したわけですが、仲間が五、六人いて、みな自転車に乗っていました。そしてぼくの住んでいた西脇という町（兵庫県）の杉原川に豊川橋があった。その橋のたもとにさしかかったときに川向こうに童子山という海拔五十メートルぐらいの丘があるんです。その丘のすそに家が何軒かあって、その屋根の上空、高度約二十メートルあたりの所に光る物体が見えたんです。以前からそこにいたのか突然現れたのかよくわかりませんが、とにかく全員が気づいたんです。

そこで、あれは何だろうということ、みんなは火の玉だろうと言っているんですが、ぼくは火花が炸裂する瞬間だと思っただけです。その瞬間にしては時間的に長いわけです。そのうち、光が普通の光り方ではなくて、非常にメカニックな光なんです。だから全然火の玉という感じではないし、かなり長時間滞空しているんです。

みんなが騒いでいると、それが突然

スーッと川の上流の方へ空を切るように移動したんです。尾を引きながら。そしてまた停止して、止まると同時にその尾は物体にスッと吸収されるようなかたちで消えたんですが、これはおそらく残像でしょう。それでみんなは驚いたわけですね。しばらくすると物体の光は消えてしまいました。

その頃はUFOというものを知らなかったんですが、今思うとあれは小型円盤じゃなかったかと考えています。大きさは洗面器ぐらいだったでしょうね。それ以後UFOのことを少しづつ知るようになったんですが、まさか小型円盤というUFOがあるとは思っていませんでしたから、そのことはわからなかったんです。ただその目撃事件が今から五、六年前まではずっと気になっていたことはたしかです」

—それがUFOというものに関心をお持ちになった動機ですか。

「いや、それが動機ではないんです。その事件は気がかりになったままぼくの少年時代の鮮明な記憶として残っていたんです。その他にもその頃いろいろと体験をしましたが、日常的な体験はほとんど忘れていきます。しかしその不思議な超常現象に関しては今でもありありと思ひ出せます」

しばしばUFO

の夢を見る

横尾 忠 則

1936年生。兵庫県出身。西脇高校卒。

- 第6回バリ青年ビエンナーレ展・版画部門大賞(バリ)
 - 第4回ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ展・ユネスコ賞
 - 第5回ブルーノ国際グラフィックアート・ビエンナーレ展・特別賞(チェコスロバキア)
 - 東京ADC最高賞
 - アムステルダム市立美術館個展
 - 第5回ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ展・金賞
 - 第6回ブルーノ国際グラフィックアート・ビエンナーレ展・銀賞(チェコスロバキア)
 - 第9回東京国際版画ビエンナーレ展・兵庫県立近代美術館賞
 - 第20回毎日産業デザイン賞
- その他受賞多数

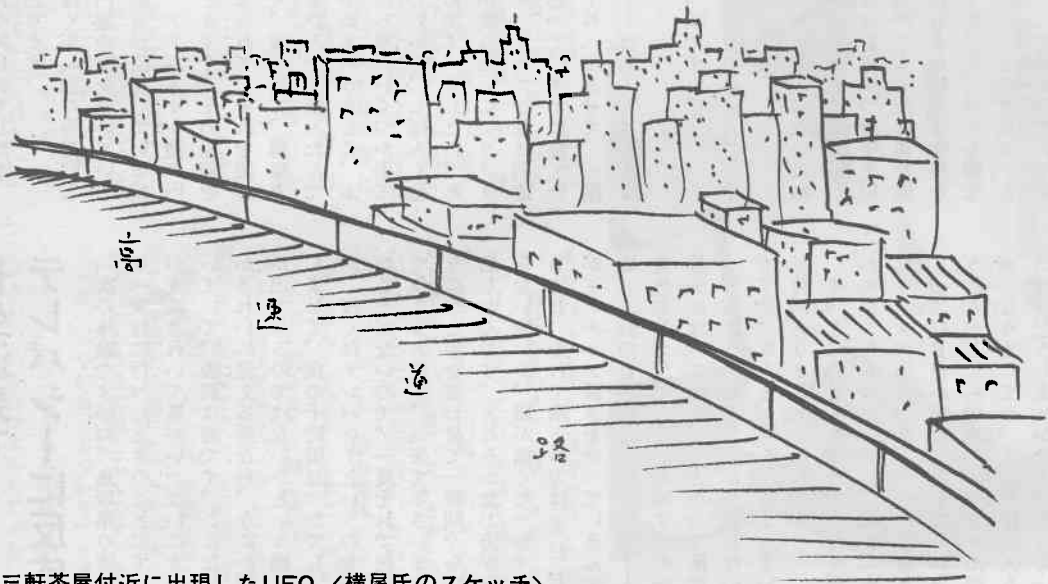
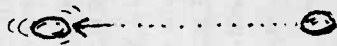
<作品所蔵>

- ニューヨーク近代美術館(米)
 - ハンブルグ工芸美術館(西独)
 - アムステルダム市立美術館(オランダ)
 - ウェールズ国立美術館(英)
 - 鎌倉近代美術館/京都市立美術館
- その他

日本の生んだ世界的イラストレーター
横尾忠則氏は熱烈なUFO研究者！
そして数多くのUFOを目撃！
その不思議な現象は
何を意味するののか。
さあ、聞こう
神秘の体験を！

<聞き手=久保田八郎>

一回転々同時消滅



●三軒茶屋付近に出現したUFO <横尾氏のスケッチ>

く警戒心の強い人です。

その人がいるときに、こんな大きな物体が横にS字型にぼくの視界いっぱいにグワッとすごいスピードで飛んで行ったことがあるんです」

横尾氏は両手で大きくジェスチャーを示す。

——ほほう、それは円盤ですか。

「星みたくないやつですね。そのあと上空にも飛んだらしいですけど、それはぼくは見なかったんです。でも同行した数名の人は見えています。夜のことです。場所は静岡市のあるホテルから海に面した所です」

その他あちこちで円盤を目撃された体験を話されたが、その日時については記憶が混乱して判然としないらしいけれど、右の目撃は一九七〇年以後であるとのこと。

巨大な黒い

UFOを目撃

「高輪プリンスホテルでカン詰にされて仕事をしていたときのことです。毎日窓から空を見ていました。なんとかしてここで円盤を見たいと思っていたんです。

ある夕方、ふっと外へ顔を出したら真上に黒い物体がいるんです。かなり大きくてジャンボ機よりもっと大きかったでしょうね。見たのは一瞬ですがアッと思ったとたん、方向転換して東

京湾に沿って、南西の方向に向きを変えたんですが、その頃から物体がものすごく光り始めましたね」

——お一人で目撃されたのですか。

「いや、彼女もいましたね、編集者もいましたし、もう一人いました。その編集者というのはさっき話した車の中に同乗していて、『円盤だろう』と茶化した、円盤を全然信じていない人なのです。彼が目撃したものですから興奮して社に電話をかけて、早く望遠レンズをつけて屋上へ上がって写真を撮れと命令していましたがね(笑う)。でも実際は神田辺からは見えなかったようです」

右の「彼女」というのは横尾氏のアシスタント、山本法香さんである。彼女も目撃して驚いたらしい。インタビューのあいだずっとそばにいて、ときどき横尾氏の話を訂正したり相づちを打ったりする。

「それは、もうすごい光で、地平線の間へ行くまで光っていきまして、やがて雲の中へかくれたんですが、雲を透してまだ光っているんですよ。ぼくは最後まで見ていましたがね」

——その最後に消えるまでは何分間ぐらいでしたか？

「約三分ぐらいかな。ぼくは大声で円盤に呼びかけましたね。五階の窓から見ていたんですがね」

——その年月日は？

「ぼくの友達がマリファナでつかまっ

て、テレビで報道された日でしたね。一九七三年の十月の何日かでしたが、それは調べればわかります。

それ以降は、ぼくが『話の特集』という本の表紙に円盤の絵を描いていまして、その下に聖者が瞑想している絵を描いたんです。アダムスキー型の円盤を描いているときです。その原稿を編集者が取りに来られて、それを渡したのが夜の三時で、表へ出て、編集者たちがタクシーをひろって帰ったんです。ぼくが家の中に入ろうとして、ふつと空を見上げたら星がいくつか出ていてきれいな感じだから、しばらく星をながめていたんです。そしたら、その内の一つの星が蝶みたいにフラフラ動き出したんです。それでこれは間違いなく円盤だと思って、すぐに寝ていた女房を起こして外へ出させて、一緒に確認しました。しばらくして消えましたがね」

——それはいつ頃ですか。
「昭和四十九年の五月のある日です」
年月日をいちいち記録してないため正確な日時は思い出せないようだが、横尾氏の話しぶりは真剣かつ誠実そのもので、実に迫力のこもった説明を展開される。それはUFO問題に情熱を燃やす人の態度であって、単なる興味本位のそれではない。また言葉使いもきわめて丁寧で、「世界の横尾」を意識した尊大さなどはみじんもない。

皆生温泉で

テレパシーに反応

「次の体験ですがね。鳥取県の皆生温泉へ取材に行ったときのことで。空が実にきれいで星がいっぱいにきらめいていて、眼前は海です。こんなに星がきれいに見える所なら、なにか円盤が出て来るのではないかという感じがしまして、夜の十時頃だったでしょうか、ぼくはテレパシーというのをやってみようと思いで、一度それで送信してみようと思いで、『来て下さいますように』と手を合わせて一時間ぐらい送信したんです。ところが念じ方がわからないせいか、頭が痛くなっちゃいますね、それで階下の方はまだお客がドンチャン騒ぎをやっているんですよ。大鼓の音が聞こえたりして——。全然気分が集中しないんです。だから静かになって始めようと思って床に入って横になったんですが、眠れないんですよ。なんか呼んでみようという気持ちがありましたからね。」

——やうと二時近くになってあたりが静かになったものですか、二時に表のベランダへ出て、ある一点の星をきめて、(UFOが)姿を現してくるようにと念じたんです。するとまた頭が痛くなりましてね、もう部屋へ入ろうかな、どうしようかなと、思っているとき、もう出現するんじゃないかな、と

いう気がするんです。それで寒くなったものからドテラを着て頑張りましたね。やめよう、やめようと思いいながらもついに四時近くになったときです。突然、頭上をすごいスピードで一点の光体が走り出して、しばらくして直角にチョンチョンと片カナの「レ」を書くように動いて、ふつと止まってしまったんです。そこで寝ている友達をすぐ起こして、あそこに止まっている光体がさっき動いた円盤だ、しばらくすると絶対動き出すか見てごらん、と言って、一緒に見ているあいだに、だんだん空が明るくなって夜が明け始めて、ついにそれが動かないままに見えなくなりました」

——その年月日はいつですか。

「まるで警察の取り調べを受けているようですね(一同笑う)。それはまた調べてお知らせしましょう。」

京都付近で車に

接近した光体

その次は京都です。これは一昨年だったと思いますが、車に四人乗って滋賀へ行く途中です。夜の七時か八時頃でしたか。何月頃でしたか、ちょっと寒かったから十月頃と思います。車でずーっと走っていたんです。ぼくは運転手のうしろの座席にすわっています。外の空を見ながら、やはりUFOのことを考えていたと思います。する

と山の向こうに強く光る星が一点見えしていました。どうもそれがこちらへ移動しているような気がするんですよ。で、他人には言わないでぼくだけジッと見ていたんです。すると車が進行するに当たって光体が次第に接近して来るんです。そのうち物体は車の向こうに行つて見えなくなつて、そのとき車が道を左折したんです。そのとたん光体は真横へ来ています。左折したとたん前方が渋滞して車が止まったんです。そうすると物体も同じように止まったものだから、ぼくはみんなに『あれは何だ!』と言ったら、みんなも一生懸命に見たんですね。するとその物体は、まるで我々が確認したのを見とどけたかのようにスーッと光を消したんですが、光は消えたけれども物体は残っているんです。薄暗い夜空の中に黒いシルエツトになって残っているんです。どこか一カ所小さな光がついていましたが、止まったままになっていました。しかし我々は車が進行するので、見失いました。高度はかなり低くて、大きさは飛行機ほどでもなく、せいぜい一メートル四方ぐらいだったでしょう。しかし接近して来るときは相当に光っていましたね。」

神奈川県での

UFO目撃

それ以後はあまりUFOを見ていま



●「突然、頭上をすごいスピードで一点の光体が走り出して…」

せんが、自衛隊の秋元君という人がいますね(注1日本誌第12号口絵に秋元さん撮影のUFO写真を掲載)。その秋元君と何かの機会に知り合って、彼と一緒に何度もUFOを見ました。場所は大山という山の見える所です(神奈川県伊勢原市の付近)。その山の頂上に出たり、山からかなり離れた所に出たり、中腹に出たり、いろんなことをするわけです」

——それは円盤とはっきりわかるような物体ですか。

「物体ではなくて光です。強烈にカーッと光るんです。見ている最中に、ぼくはフッと上空を見たんですが、それまで全天に雲はなかつたんですが、そのとき頭上に雲がちょうど穴があいたように現れて、星が一つ二つ見えてい

ました。見上げると同時ぐらいにそこへ一直線にもすごく早いスピードでピューッと走って行く光体を見たんです。もしかしたら円盤かな、それとも人工衛星かな、と思っっていますと、それがスッと消えると同時に、それに対して直角にボンと一個の光体がこっちに現れたんです。それもすごいスピードで十字を切るように飛んで行ったわけです。飛びながら、こっちに星が一個見えていたんですが、その星に対して来るんです。だから、距離は違うんですが平面的に見ると、その光体が星にぶつかるように見えるんです。それで『あ、ぶつかる、ぶつかる』と言ったんです。ぼくはそれも円盤と思ったんですが、いま合体するんじゃないかと思っっていますと、相手にその気持が

わかったかのように、ぶつからないで、そのそばをぎりぎりに通って直角にヒュッと回って行ってしまいました。すごくユーモラスでしたね。その動きは……。そのときはちょっと感動しました」

——それは秋元さんとは別な体験ですか。

「秋元君がさかんに円盤を呼んでいるときです。こっちにどんだん円盤を呼んじゃうんです。で、ぼくが観測しているときに突然現れたんです」

——その人が呼ぶと確実に現れるんですか。

「ぼくは今まで何度も彼と一緒に行きましたが、最初のうちは三回ぐらい、トライしましたが、だめでした。彼がぼくのことに気を使って、とにかく見せなきゃいけないという気持が強すぎたんでしようね。あとはリラックスして『秋元君、円盤は出なくってもきみが円盤を呼ぶことは信頼しているから、気楽にやってくれ』と言ったら、それから彼の所へ行くたびに見るようになりました」

——そのあとはいかがですか。

「秋元君と友達になる以前に親しくしていた飯島夫妻がぼくの所へよく絵のことで遊びに来ていました。それでぼくがUFOの話をしているあいだに夫妻もUFOに関心を持ちだしたわけなんです。『どうやってから見れるんですか』と聞くので、テレバンシーで見れることも

できるので、一度あなたたちもやってみたらどうですかとすすめたら、ほんとうに信用して、その気になって実行し始めたわけです。

それからどんだん小型円盤を見るようになって、屋根すれすれに現れるんです。その小型円盤を見る期間がだいぶ続きました。必ず耳に音波が入ってくるんです。うちのそのバルコニーからも彼は何度も見ましたけどね。ぼくはこっちで仕事をしていましたから見なかつたんですがね。彼が自分のアパートの屋上でよく円盤を呼んでいるというので、じゃ一度ぼくが行こうかというわけで、この前行ったんです。

すると突然……。そのときは秋元君も一緒に……。中空にボンと現れたんです。わりと近い距離で、それがズッとしばらく飛んで、フッと消えました。それが消えたときには空は薄ら明るかつたですから、光が消えれば物体は見えたはずなんですが、消えると同時に物体も消滅していました」

——直径数十センチの超小型円盤ですか。

「いや、あれは自動車一台ぐらいの大きさでしたね。あの高さ、あの感じからみて……。小型円盤じゃないような気がしますね。小型自動車一台ぐらいはあつたでしょうね」

——それはいつ頃のことですか。

「今年に入ってからのことです。そのあとまた秋元君の所へ行って、また大

山で一晩に一時半ぐらいいいて、四回 UFOが出ましたね。

白銀色の

超小型円盤！

平野威馬雄さんの家で UFO を一回見ました。でもあれを見たということはありません。でもあれを見たというものはあまり言いたくないですね。というのは沢山人がいて、ぼくと関口淳君と淳君のお父さんとお母さんだけがいて、あとの人はみなむこうの方にいたんです。「お化けの会」がありましたね、みんなが平野さんの家に集まっています。わいわいお化けの話をしていたんです。ぼくはなにげなく、すぐ近くの家とのあいだを見たら、白銀色に光った柔らかな、なんとも言えないきれいな気持のいい発光体がスーッと通って行ったんです。完全な超小型円盤で、これはもう絶対に間違いないと思います。それでぼくはハッとして淳君の顔を見ました。すると淳君も驚いた顔をしてぼくの顔を見ているんです。そうしたら淳君のお父さんもぼくの顔を見て、ぼくが小さな声で『見ました？』と言ったら『見ました！』と言っています。そこで我々四人がワッと声をあげました。するとむこうにいた大勢の人たちがなんであんなに騒いでいるのかと聞くもんですから、実は今こうこうこれこれだったと話したんですが信用してもらえたかはわかりませんね。火

の玉とは違って、完全に超小型円盤です」

——光ってはいない——？

「発光体で、柔らかくて、大きさはフットボールを少し小さくしたぐらいですね。柔らかくフーッと浮かんで行きました。そのあと関口淳君が先に帰りまして、帰って外からすぐ電話がかかってきて『いま車を停めているんだけど、我々の方に円盤がどんどん近づいて来る』というわけです。だから関口淳君に見せるための超小型円盤ではなかったかと思えます。それにたまたまぼくが便乗して見せてもらったんじゃないかと思えますけどね」

——関口君の超能力ですが、これは間違いないのですか。

「間違いないですね。ぼくは彼の実験を何度も眼の前で見せてもらいましたが、あれはまったく間違いないものです」

次の例としては、京王線沿線に住む女性で UFO をよく目撃する人のことを話された。その家へ行った帰りの夜空を、すごく長い尾を引きながら飛んで行く光体を目撃されたという。低空を水平に飛ぶ光景はたとえようもなく美しく、消える瞬間に後部からパッパッと火を噴いた。

——ずいぶん、いろいろと目撃されたわけですね。

「なかには天体現象もあったかもしれませんが。全部が空飛ぶ円盤かどうかは

わかりませんね」

月に向かって送念

したら物体が飛来

——インドで何か体験されたそうですが。

「インドへ行く前に自宅の二階から一生懸命月に向かって送念したんですよ。月の裏側にいる宇宙人たちに送ったんです。もしそこにいるのなら姿を見せてくれと。二十分ぐらいたって疲れたので家の中へ入ろうかなと思っていたら、ちょうどぼくが見ている真正面の上からスーッと降りて来た物があるんです。それは大きくて、世田谷通りの手前ぐらいに感じましたね。白銀色ですごく霊的な感じがしました。中心が真っ白で、その周囲が薄緑、その外側がオレンジ色で、細い線が光っているんです。それがスーッと降りて来て、パッと消えましたね。それが円盤かどうかわかりませんが、それは実に霊的な光景で、思わず感謝したくなりました」

インドで、

テレパシーで呼ぶ

——インドへ行かれたのはいつですか。

「インドへ行ったのは今年の五月四日です。今お話ししたのはその一カ月ぐ

らい前のことです。インドのスリナガルという所へ行行って、そこにナギン湖という湖があるんです。そこでハウスボートというホテル形式の船が浮かんでいて、そこに泊まったんです。そこへ着いた日は五月六日ですが、その船の屋上へあがりまして——屋上といっても甲板ですが——食事のあとで満天に星が輝いていましたね。それでぼくの頭上の真上に北斗七星が輝いていたんです。それをずっと見ていまして、送念してみようと思いい、どういふうにやればよいかと考えたんです。最初はとにかく口から出していたんですが、言葉としてどうも送りにくいです。送念が集中しないんです。それで、アダムスキー撮影の円盤と金星人オーソンの顔と形、足の先から頭までのペンまでありありと心に浮かべたんです。これはいつかあなたにいただいたカラーの肖像写真を毎日見ているから心中に克明にイメージを描くことができたわけです。それに金星人の靴の裏の図形、円盤から投下した金星文字と図形なども心に描き、母船の写真も描いて、送念したんです。そしてまもなくして空を見上げたら、眼をあけるとすぐに北斗七星を横切るように一つの光体がスーッと飛んで行ったんです。で、ぼくは流れ星かなと思ったんです。スピードはあまり早くなく、尾は引いてないんですけど、まあ流星だろうと思いつながら見ている、



●横尾氏の作品「意識と心と人間と」(美術手帖1963年4月号付録 103×73cm)

もう一度やってみようと思ってまた同じように送念したんです。今度はだいぶ長く瞑想しました。十分か十五分ぐらいです。それで確信を持ったんですよ。ぼくが眼をつむっているあいだは円盤は絶対に出てこない、もし出てくるんだらぼくが眼をあけたときに出て来るだろうと確信を持ちましたね。そういう確信を持つちゃうと、だんだん眼をあけられなくなっちゃったんですよ(笑う)。眼をあけてもし出なかつたら自信をなくしますからね。だから時間が長引いたんです。それでもこの辺でいいだろうと思ってパッと眼をあけたら、なんかいけるという感じがしたんです。そしたら北斗七星のヒシヤクの水を汲む部分から一等星ぐらいの光体がフッとこれぐらいのスピードで出て来たんです(と言って両手でその様子を示す)。そして消えました。そのときは嬉しかったですね。もう間違いなく円盤だと思いましたがね」

——ジグザグに飛んだのですか。
「こまかいジグザグではなくて、こんな大きな波形です。ほんとに生き物という感じがしました。それで満足してすぐ部屋へ降りました。」

“北斗七星”が 北斗七星に変化

その後、しばらくその場所は天候が

悪くて、夜は雨が降ったり曇ったりして見る事ができなくて、ナギン湖のハウスボートから移動して、五月九日にブロードウェイホテルというスリナガルの市内にあるホテルへ移って、その中庭からやはり北斗七星に向かってナギン湖でやったのと同じような念を送ったんです。——あ、そうじゃなくて庭へ出たときに同行者がいて、その人が『何をしているんだ』と聞くものだから『ぼくは星空を見ているんだ』と言ったんです。彼も円盤に興味を持ってはいるんですよ。実は円盤を観測しているんだとか、ナギン湖で円盤を見たんだという話をしようと思ったんですけど、その話をすると、どうもぼくが念を送るのに集中度が弱まるんじゃないかと思って、ちょっと悪いけど彼にはぼくが夜そんなことをやっていることを伏せていたんです。いまだに彼は知らないんですよね。

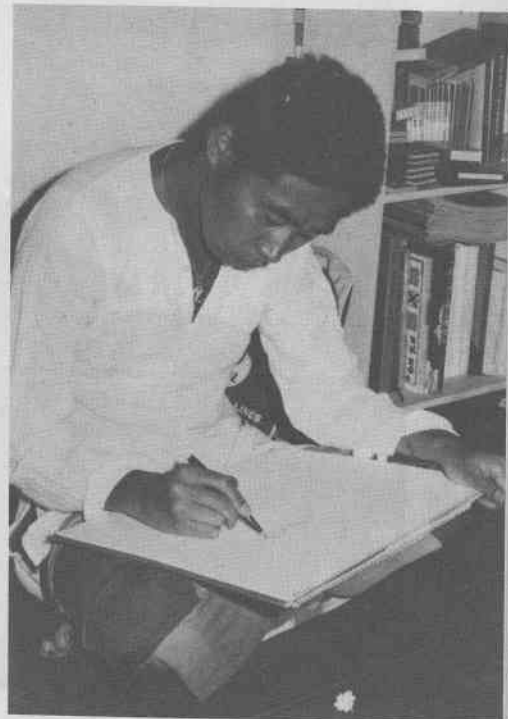
それで五月九日にホテルで夜空を見ているときにちょうど彼が来たもんですから、『あれが北斗七星だよ』と説明したんです。彼は前から北斗七星に非常に関心を持っていたんです。それでうちへよく来るんですが、来るたびに北斗七星を一回見たいといつも言っていたんですよ。それでその日たまたま頭上に見えたんです。すると彼は『あれか、意外と小さいなあ』と言いながら部屋へ入ったんです。入ったときは星の数はたしかに七つだったんで

●スケッチする

すが、彼が入ったあと、しばらくしてぼくが上を見ると、星の数が八つになっているんですね。その八つがこういう形になっていました」

横尾氏は紙に北斗七星を描いて、柄の端にもう一個をつけ加える。

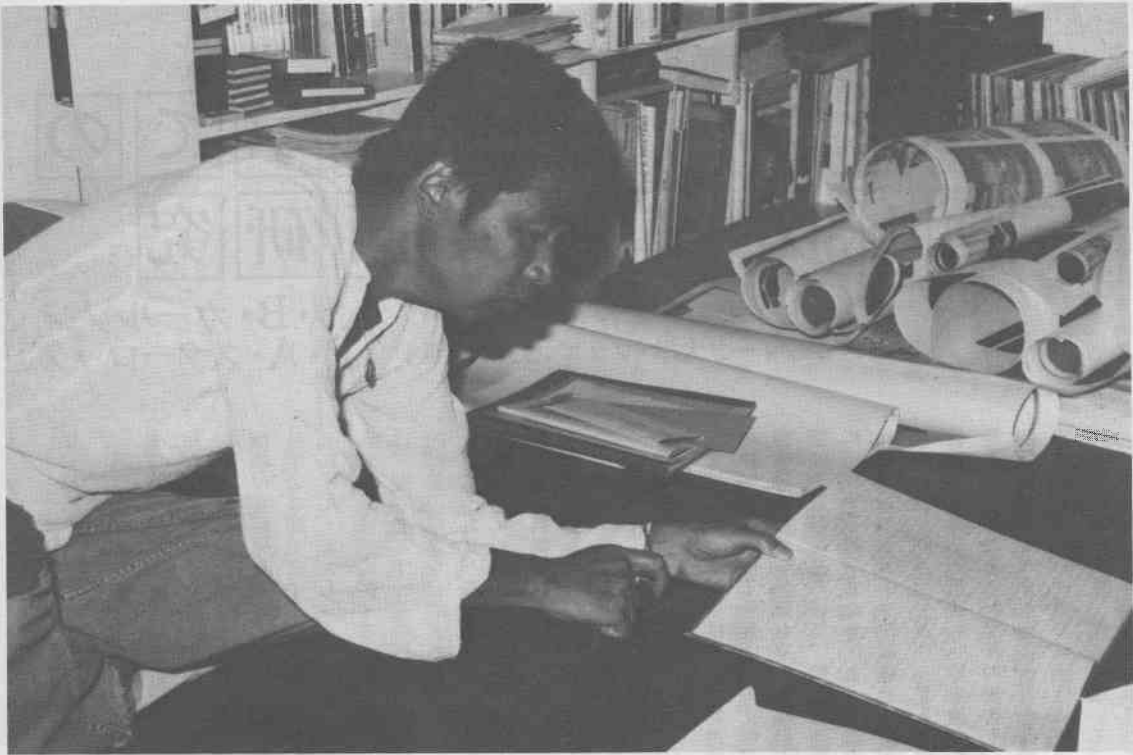
「その八番目の星がかなり強く光っているんですよ。それで、おかしいなあ、さっき彼に説明したときは七つだったんだけど、八つになっているのはおかしいなあ、と数え直してみるのに、やっぱり八つあるんです。以前から八つあったのかなあと思ったりして、だんだん自信がなくなりましたね。そしてしばらく見つめていたんですが、大体ぼくはいつも空を見ているから、星の位置は大体頭の中でつかめるんです。それで、絶対これは本物の星じゃないと思って、頭の中で『もし円盤だったら消えて下さい』と眼をつむって消したんです。そして眼をあけたら消



えていました。消えてもぼくはまだ疑っていて、もしかしたら雲でかくれたかもしれないと思ったんですが、雲なんか全くない夜空で、透明なきれいなヒマラヤの山のすそで、海拔の高い所だし、空気も澄んでいるんです。しかし万一、その星だけをかくす雲がいるかもしれないと思って、一時間以上も見ていました。ところが、全く雲もなく、消えたままでした。

その夜、夢を見ました。夢の中で“北斗七星”がバンと現れたんです。やっぱり星は八つだったのかな、と思っている、その八番目の星がスーッと動いて行ったんです。それで夢の中でやっぱりあれは円盤だったのかなあと思ったんです。

そのあとも五月十四日に引き続いてやっています。同じ場所です。北斗七星が気になっていたんで、八つ目の星を探していましたね(横尾氏は克明に



●夢の記録を見せる

記録したノートを見ながら説明する。やはり八つ目の星はないということの確認と、南から北へ向かって二個の小さな光体が走ったということを書いています。その光体はくっついていました。サッと止まって、そのまま消えただんです。

あと五月の十七日にやはり北斗七星を見ていたときに、上空を小さな波形を描いて北極星に向かって光体が飛んで、北極星の手前で消えました」

のぞき込むと、記録ノートには夢の記録もぎっしりと書き込んである。元来、横尾氏は高度な求道精神の持ち主で、アダムスキー哲学やヨガなども研究され、あれほどの有名人でありながら実に謙虚な、人格高潔な方である。

異常なほどにたびたびUFOを目撃されたり不思議な夢をよく見たりされるのも、そのような高貴な精神が要因となったカルミックなものなのだろう。神秘的な画風をかもし出すインスピレーションもこれに関連するのだろうか。

横尾氏は三軒茶屋付近で目撃されたUFOのスケッチを始めた。「素人より下手だなあ」とつぶやきながら、一枚仕上げる。

日本列島沈没？

の予知夢か

最後にまた夢の話で興味深い体験を

洩らされた。

「円盤の夢を沢山見るんですよ。いつも無数の円盤が空いっぱい飛んで来て、それが日本地図の形をなしているんです。すると北海道がガランと落ちこちて、四国もガランと落ちるんです。それを見て、どこが安全なのかなと思っていると、岡山と広島の間境だけがやっとなり残って、あとはもう全部だめという感じが伝わってくるんです。

東京なんか全然だめみたいな感じでした。その円盤の数が十万機あるんです。飛んで来る前に海の水が全部なくなっちゃいます。そのあとでワッと水が来るんじゃないかなと、見ていたんですがね。これは一年程前の夢です。

最近見た夢では、地球のバンアレン帯が他の星からの宇宙船が何かの放射線か何かによって異常になり、地球自体が非常に危険な状態になっているので、それを地球のテレビ、ラジオ、電話など、あらゆる電気メディアを通じて知らせるが、宇宙人の送る波動とキヤッチする人の波動が合わなければ、全部に知らせることができないという夢なんです。そしてすごく巨大な母船が現れて、地球から他の惑星へ移動しようというわけです。でもこれは夢ですからね」

近日中に横尾氏はヨーロッパへ旅立たれるが、今度はアダムスキー関係の本だけを持って行くと話された。

○新しい科学的対話を目指して

スタンフォード大学での 地球外文明共同研究

メリーランド大学・天文学プログラム J・B・カールソン
スタンフォード大学・プラズマ応用物理学会 P・A・スターロック

はじめに

通信理論・電波天文学の技術的進歩、地球外生物学に関する新発見及び化学的前進、それに人工衛星や惑星観測から得られた無数の成果により、地球外の文明発見に対する関心が多くの科学者の間でますます高揚してきた。

P・A・スターロックが主宰する「地球外文明に関する会議(ETC)」は、関心を示す一連の科学者間の科学的対話の確立を目的として一九七四年八月二十九日、三十の両日にわたり、スタンフォード大学で開催された。この会議の機構と意義については、出席者を主要なふたつのグループに分けることによつて最もよく説明できよう。

会議の意義

まず、Aグループは我々の物理学上の領域—いわゆる物理学、天文学、生態学等の物理学分野とその諸原則—に関する理解に基づいて、問題を理論的に研究する科学者たちによつて構成された。このグループの卓越せる論文の数々は「星間通信」及び「星々との通信」その科学的見通し、等の論文集に発表されている。いずれの場合も、知的情報をともなった電波信号を探究することが地球外文明の可能性に接近する妥当な研究方法と指摘している。

実際に今日まで電波天文学者のある

者はこのプロジェクトを遂行してきたし、そういう理由から、Aグループは理論家と観測者(自称観測者も含めて)の双方から成り立っているといえるのである。

もうひとつの科学者団体が地球外文明に関してBグループを結成している。しかし、前述の論文集はこのBグループの諸活動を掲載していない。このグループの科学者たちは、いわゆる「UFO」現象(UFOとは未確認飛行物体の頭文字を組み合わせた造語)の真相をつきとめることに懸命である。この研究に適切な観測を自ら行ってきた科学者はほとんどいないし、また理論の確立に熱心した者もわずかに存在しない。ほとんどは他の人々によつてなされた目撃事例を、収集し検討しシステム化し分類する「データ分析活動」である。UFO現象は地球外文明が存在する証拠であると明確に主張する科学者は極めて少数に限られており、この研究にかかわっている大部分の科学者はこの問題を未解決の仮説と考えている。心霊的憶測であるのみなしている者も中にはいる。(こういう理由で)このグループ分けは便宜上のものである点、特に留意すべきである。この方法で配属できない科学者もいるだろうし、両グループの活動に所属され得る科学者も存在するからである。

同じ基礎の上になつた問題に多くの科学者が関心をもつ場合、普通彼らにはできるだけ広く知ろうとして、共に話し合う機会を設けることに努めるし、更には、自分たちの成果やアイデア並びにプランに対する助言や批評をおおごうとして会議が催されるものである。地球外文明に関する分野ではこのようなケースは発生しなかった。Aグループにおける諸会議だけが開かれてきたのであって、Bグループを構成する科学者は時おり非公式に、もっと最近では、イリノイ州エバンストン市に新設されたUFO研究センターの諸活動の一端として催されてきたのである。(UFO研究センター「CUFOS」は、UFO問題を討議するために一九六三年から行われている科学者連の「インビジブルカレッジ」より派生したもの)両グループを合わせた会合はこれまでなかったのである。このように専門家同士の接触が欠けているのは重大な手ぬかりであり、かつまた、統合した会議はできるだけ速かに実行されるべきであるという見地から、このスタンフォード大学地球外文明会議が発足した。

宇宙は我々を導いている

なぜこのような会合が今までに開かれなかったのか？ この理由を尋ねるのは妥当な質問である。

このことについて我々は、Bグループが行っている諸活動は真面目な考慮に値しないとAグループのメンバーが信じがちだからと推量できるだろう。Aグループの科学者連は「UFOデータ」は科学的見地から見ても無益であると考えてきた。また、科学的に重要なデータは、地球外文明の場合と違ってもっと別の因果関係をともなっているものだとも指摘されるだろうし、更には、宇宙旅行を拒否する理論的ケースか、観測的証拠に基づくあらゆる主張を苦しめているともいえる。しかしながら今回の提案は両グループの科学者にとって重要であり、双方のグループが共同して問題を討議することに期待が寄せられているのである。

宇宙は、今回のワークショップの期間中に支持された話題よりもあるかに多くのものを含み、我々を導いている。もっと詳細な説明を望む人々は、「ライフ・オブ・オリジン」一九七五年七月号を参照されたい。

ワークショップで発表された論文や討論の内容は、八つのカテゴリーに分類されよう。すなわち、

①地球外生物及び文明の存在の可能性。

②星間旅行の成否。

③宇宙通信並びに電波探知及び電波通信に関する問題。

④地球外生物及び知性との人的接触から起こる問題。

⑤UFO証拠の性質とその範囲。

⑥UFO現象の評価に対する科学的体系的確立。

⑦我々の無知性の査定と根本的に新しい物質界の客観的実在の可能性。

⑧はるか先の問題と迫りつつある思潮—UFO現象と地球外文明とのコネクション、UFO現象の将来にわたる調査など。

科学者は関心を示している

Aグループに所属する者にはUFOを物理現象としてとらえることや、その研究の科学的有益性について懐疑論者のままに留まろうとする傾向が見られたけれども、グループ全体としてはBグループの諸活動に対して明らかに興味を示し、喜んでその話に耳を傾ける心構えのあることを表明してきた。Aグループのスポークスマンは、Bグループのメンバーが、様々な憶測よりもむしろその証拠に対して関心を示してきたことや、注意深い議論を行ってきたことに対して世辞を供した。

そして今回の会議に前兆が見られたことを出席者全員が認めた。真面目な態度と相互の尊敬感のもとで対話が進められ、出席者一同来たるべき再会を約したからである。依然としてAグループはBグループによる確固たる成果を待ち望んでいるけれども、お互いの科学的な助け合いと信頼感によって、今までに許されなかった調査への機会を大きく開拓することになるだろう。

地球外文明問題は今や正当な科学部門

思うに、科学界の大勢の人々が、UFO現象と地球外文明に関する科学的調査を公開したがっているにちがいない。地球文明問題の研究は、科学的立場から尊敬に値しないとみなしたのとは、そう遠い日のことではないが、たとえ

ば、電波天文学のような新技術や化学的前進並びに宇宙生物学のごとき新知識の出現から数々のデータが提供され、今までは正当な科学的研究の一部門を形成しているのである。また今日UFO問題は、個人的活動かあるいはUFO研究センターと行動を共にしながらも、アマチュア組織のみならず一連の科学者たちの手によってデータが集められ調査される、そのような舞台に近づきつつある。地味ながらもこの対話は首尾よくスタートしたのであり、心おどるような新発見を目指して実りある科学的探究が促進されんことを我々は願うものである。

森脇十九男記

スタンフォード大学科学者会議出席者名簿

- W・M・アダムズ (スタンフォード大学)
- C・W・バーニーズ (スタンフォード大学)
- R・N・ブレイスウェル (スタンフォード大学)
- J・B・カールソン (メリーランド大学)
- R・A・ダナ (スタンフォード大学)
- D・W・デイビーズ (ジェット推進研究所)
- C・M・ハーランド (オークリッジ国立研究所)
- J・A・ハーダー (カリフォルニア・パークレー大学)
- R・C・ヘンリー (ジョンホプキンス大学)
- J・A・ハイネック (UFO研究センター)
- J・W・ナイト (スタンフォード大学)
- B・M・オリバー
- P・E・パーマー (シカゴ大学)
- V・ペトロシアン (スタンフォード大学)
- C・L・シーガー (カリフォルニア州サンフランシスコ)
- R・J・シェイヴァー (グロニンゲン大学)
- P・A・スターロック (スタンフォード大学)
- G・W・スウィムソン (イリノイ大学)
- P・S・ヴィッツァ (スタンフォード大学)
- W・H・タッカー (カリフォルニア州ボンゾール)
- J・F・ヴァレー (UFO研究センター)
- T・ウィンターベルグ (ネバダ大学)
- J・ウォルフ (NASA, 原子力研究センター)
- R・M・ウッド (マクダネル-ダグラス社)

チャールズ・ムーディ軍曹

砂漠で円盤に誘拐される！

中津要二

本誌前号にトラビス・ウォルトンのUFO同乗事件を掲載したが、この事件をさかのぼる三カ月ばかり前、場所もさして離れていない砂漠で一米軍人が宇宙人に誘拐され、円盤内を案内されていた。そして彼が「インクワイアラー」紙に語った内容は奇妙なほどトラビス・ウォルトン事件と似ているのだ――

チャールズ・L・ムーディ軍曹――彼は米空軍の古参軍曹である。ベトナム戦争に従軍して戦功をあげた前歴をもっており、また空軍の神経科医の診断で精神的な異常のないことが確認されている。

昨年夏、彼はとんでもない出来事に遭遇していたのだが、何カ月もの間その事件について口を閉ざしていた。そしてようやく最近になって「インクワイアラー」紙に彼の驚くべき体験を話す気持になったのである。

「インクワイアラー」紙の記者は、からだつきのがっちりした32歳のムーディ軍曹の話をテープに録音した。後にこの録音内容はPSE（心理緊張度測定装置の一種）によって分析され、またウソ発見器にもかけられた。因みにウソ発見器の結果は信頼度が高いため現在米国内の八つの州で裁判所が証拠として認めているものだ。

ムーディ軍曹の話を分析した後、PSE考案者のひとり、チャールズ・マクイストンはきつぱりとい切った。

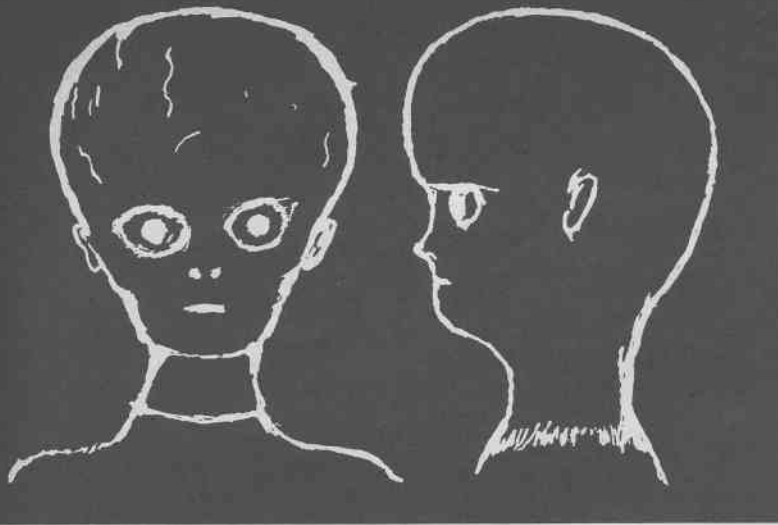
「心理的圧迫や詐称の形跡はみられない。彼は明らかに事実について喋っており、その点で疑問の余地はない」

彼は宇宙人を殴り倒したのだが――

流星雨を見るため砂漠へ行ったら

さて、ムーディ軍曹の話によると

彼はニューメキシコ州アラモゴードの近くで空飛ぶ円盤の中に連れこまれた。この場所は、昨年十一月五日、森林労働者トラビス・ウォルトンがUFOに乗った地点（アラバマ州）から四



●ムーディ軍曹が描いた宇宙人の顔

〇〇キロの距離にある。（トラビス・ウォルトンの事件については本誌18号既報）

彼は現在駐留している米空軍の海外基地でインタバビューに応じ、誘拐事件の詳細を次のように語った。

「私は自分の体験を世間に話したものがどうか、ずいぶん悩みました。それというのも、私自身、これまでひとがUFOの話をしているのを聞いて笑いとばしていたから、私の話もまたあざ笑われるだろうと思っただけです」

彼はちよつと話すのをやめ、何かを思い出すような表情をしてからまた低い声で続けた。

「それは去年の八月十三日のことで、私はアラモゴードのホロマン空軍基地に勤務していました。その夜、流星雨が見られると聞いていたので、私も見たいと思い、車で砂漠へ出かけたんです。人気がないところで車から下りて左側のフェンダーに腰をかけた。とても天気の良い夜で、私は四十分位そこで待っていたんですが、流星は見られませんでした。結局、一時二十分になって、帰ろうと思ったんです。

そのとき、突然私の前方百メートルくらいのところにそれが落ちてきたんです。まるで閃光みたいでした。それは砂漠の上八メートルから十五メートルくらいのところで止まり、そこで揺れだしました。それから揺れは止まり、私の方に向かって滑空してきたん

です。私はほんとうにどうしようもないほど慌てふためいてしまいました。た。

私は自分がいい聞かせていました。

「確認せよ、確認せよ。私はアメリカの飛行機ならすべて見分けられるし外国の航空機もほとんどわかります。点検整備飛行の副機長ですし、約千五百時間の飛行経験がありますから。しかし、それはこれまで見たことのないものでした」

車のエンジンがかからない

ムーディによると、その物体は円盤型をし、鈍い金属的な灰色に輝いていました。直径は十二・十五メートル、高さは五・五七・五メートルで、下部に三個の球体が見えたという。

「私は戦闘訓練も受けていたんですがとても恐ろしくなって、何だあれは、何だあれは、と考え続けました。それから、その飛行物体を凝視したまま車のフェンダーから飛びおりて運転席に飛びこみ、イグニッション・キーを回したんですが、エンジンはウンともスンともいわないんです。私の車はまるで役立たずになっていました。バッテリーは一カ月前に交換したばかりだったんです。

私はキーを何度も回し「クソッ、か

かれ」と言いながら物体が進んで来るのを見て、まったく恐れおののいてしまいました。これは未知の物体に違いない、と思いました。

飛行物体は車から十五メートルくらいのところまで近づき、止まりました。そしてカン高い声が聞こえてきたかと思うと物体に窓が一つ現れ、そこに人影が見えたんです。

すると、急に私の車の周囲を奇妙な光が包み、私は全身がしびれたようになりました。まもなくしびれは消え、気がつくとも私は車の中に座って飛び去っていく飛行体を見ていたんです。それはジェット機よりもはるかに速いスピードで急上昇して行きました。

私はもう一度イグニッションを回してみました。すると、すぐにエンジンがかかったので、アクセルを目いっぱい床まで踏みこんでその場を走り去ったんです」

こうしてムーディ軍曹は車をぶつ飛ばして自宅に戻り、息もつかずに彼の妻にUFO目撃のてん末を話した。

しかし、彼がただUFOを見ただけでは足りないことに気づいたのは、自分の腕時計を見たときだった。彼はどこかで一時間二十分という時間を「失って」いたのである！

ムーディはUFOの目撃についてだれにも話さないことにした。というのは、バカにされそうだったからである。しかし、次の日は終日、あの空白の



●チャールズ・ムーディ軍曹

くり返ってしまいました。

私は車から飛びおいて、もう一人の顔のど真ん中に一発くらわせた。その顔はグニャッとした感じでした。彼はひっくり返って、それから光は消えました」

ムーディが気がつくと、彼は固い、石板のようなテーブルに横たえられ、ひとりの「人間」が彼を調べていた。彼は起き上がろうとしたが、だめだった。

「彼らの頭部は我々人間より三分の一くらい大きく、まゆも頭髪もないんです。眼は丸く二十五セント貨くらい大きさで刺すような眼光を放っています。額が出て、その下の眼は暗い色をしてました。」

耳、鼻、口は我々よく小さく、唇はとても薄いんです。身長は五フィート前後で、とてもひ弱に見えました。ピツタリした白いものを身に着け、顔と両手以外はすっぽり覆われており、顔の色は白っぽい灰色をしていました」

それから、その「人間」はしゃべり始めたが唇は全然動かなかったという。彼はムーディに向かってアメリカなまりの完全な英語で「元気になるましたか」と聞いたという。

「私が『ええ』と答えると彼はこういうんです。『動けるようになっても隙つたりしないでしょうね』と。私がうけ合うと、彼は長さ十八センチ、太さ

三センチくらいの金属棒で私の体に触れました。すると、たちまち私の体は自由に動くようになり、それと同時に私の恐怖心も消えてしまいました。」

その「人間」はリーダーらしく、私がテーブルから下りるのに手を貸してくれました。私がいる部屋は円型で、見たところ手術室のように非常に清潔でした。床は固く金属質で、アーチ型の出口が三つあり、部屋にはむかつかような甘い香りが漂っていました。ちょうど葉巻か糖みつを燃やしているようなそんなにおいででした。照明は間接光で、まるで壁が光っているように見えました。

軍曹はここでUFOがどうやって飛ぶのかということについて興味を抱きリーダーに推進装置を見せてほしいと頼んだという。ところが意外にも、彼は同意したのだ。

「我々は別の部屋へ行きました。そこはひどく変わったところで、物体全体を外側から見たときと同じくらい大ききがあるように見えなりました。まるで、船体内部の方が外側より大きいような感じなんです。そこには別に三人の「人間」がおり、そのうちの二人は床から数ミリ浮き上がっていました。もう一人がリーダーに話しかけました。明らかに女性の声でした。彼女のことばはドイツ語と中国語を混ぜこぜにしたように聞こえました。」

UFO これは調査用の小型

その部屋には平テーブルの前に二脚の椅子があり、テーブルの上にはレバーがありました。リーダーが、私にメートル四方くらいの場所に立つように言うので、言う通りにすると、その部分が下降し、下の部屋に出ました。

この部屋には、私が船体下部に見た三つの球形物体の上部が突き出ていましたが、この部分は透明で、中に大きなダイヤか水晶のようなものが、入っていました。そしてそれぞれの水晶体にはロッドが斜めに付いていたのでした。

私はリーダーにこの推進装置がどうやって作動するのか聞きました。すると彼の答は『理解しようとしてもだめです。あなた自身のことをちょっと考えてみれば、皆さんにも同じ装置を開発できるはずですよ』というものでした」

ムーディ軍曹によると、この「人間」は彼の乗っているUFOがほんの小型の調査用のものであること、そして八千〜九千キロ彼方の、これよりはるかに大型・高速の母船からやって来ていることを伝えたという。

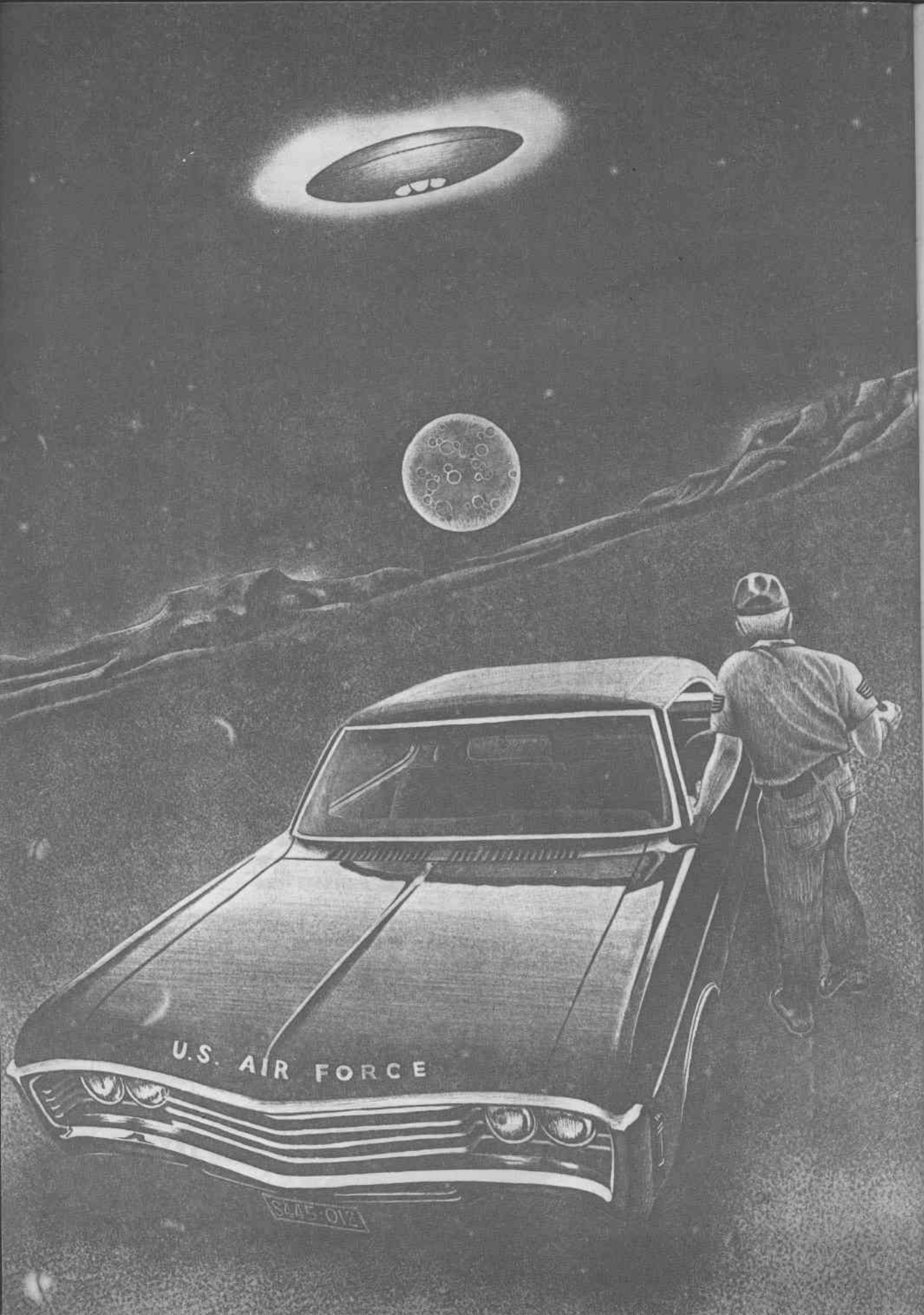
「それから彼は、三年以内に彼の同胞が地球人にその存在を知らせるだろう、場合によってはこの夏かもしれな

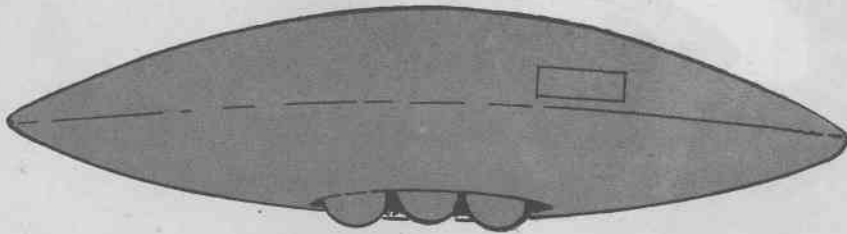
宇宙人の顔に一発くらわせた

「私は思い出したんです。車が光に包まれているとき、飛行物体から人間が二人、私の方に近づいてきました。彼らは歩いていませんでした。——滑っていたんです」

空軍勤務十四年になるムーディ軍曹は話を続ける。

「彼らは手を車のドアにおいて開けようとしたようでした。私はとても恐ろしくなりましたが、戦う覚悟を決め、百六キロの体重をかけてドアを勢いよく押し開けたんです。ドアがその「人間」の一人にぶち当たり、相手はひっ





い、と言っていました。ただ、はじめはある範囲内でのコンタクトをしながら、我々についてさらに学ぶことを計画しているようです。彼らは自分たちの生命について懸念を抱いています。彼らの宇宙船は核ミサイルで破壊されてしまうし、また戦闘機を非常に恐れているという

ことです。もし彼らが攻撃を受けて追いつめられ逃れられなくなれば反撃に出るでしょう。彼の話によれば彼には多くの同胞がおり、ある種の連帯制度、連盟のようなものに入属しているようです。ムーデイによると、この宇宙人は、地球人類がいつの日かこの「人類連盟」に受け入れられるかもしれないが、それは地球人がこ

の連盟を受けられるかどうかではなく「連盟」が地球人を受けられるか否かの問題だ、ということをはのめかしたという。

そして、軍曹がUFOを去るとき、彼は細い腕を軍曹の肩におき『あなたに危害は加えません。決してそのようなことはしませんよ』と言い、またこのことを医療機関に報告するようにつけ加えた。軍曹は最後にそのリーダーから、しばらく記憶を失うといわれ、そして光が消えたという。

「そのあと、気がつくとい私は車の中に座り、宇宙船が飛び去るのを見ていたんです」

ムーデイ軍曹の背中に四角形の傷跡

翌日、ムーデイ軍曹は背骨のつけ根のあたりに焼けつくような感覚を覚えた。彼が妻のキャロンに見てくれと頼むと、彼女はそこに奇妙な傷を見つけた。

キャロン（三十四歳）はインクワイアラー紙にこう話している。「傷はおかしなパンクの跡のような形をしていました。丸くはなく、四角なんです。私は手術室で技手として働いていたことがありますが、あんな傷跡は見ることがありません」

彼女は静かにこうもつけ加えた。

「私はチャック（ムーデイ軍曹）の話をすべて信じています。彼がかわって帰ってきたとき、顔はまっ青でした。彼があんなふうになったのを見たのは初めてですもの」

ムーデイは、誘拐された後、身体に異常が起きていると言っている。「あのあと二、三日して、胸からヒザまで小さな赤い斑点ができたんです。結局、医者にかかって治りましたが」

この発病の原因が何だったのかたずねると、軍曹は「基地の法律担当官にそのことについて話し合いをしないよう言われているので、話せません」と言う。

また、事件以来、彼は頭髪が抜け続け、いつも頭痛に襲われ、それに気短かになったという。

しかし、彼はこの体験を悔いてはいない。

「あの宇宙船を見たとき、私はジャン

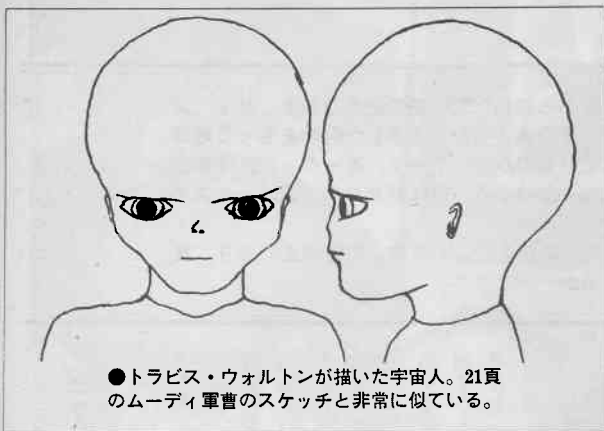


ボ・ジェットを見たオービル・ライトのような気持ちになりました。彼らの宇宙船は我々の航空機を廃物のように思わせますよ」

トラビス・ウォルトン 事件との類似

彼が現在駐留している基地のムーデ

UFOと宇宙 24



●トラビス・ウォルトンが描いた宇宙人。21頁のムーディ軍曹のスケッチと非常に似ている。

イ軍曹の上官アーサー・ライトはインクワイアラー紙の質問に答えて、彼が真実を語っているのは間違いないと言っている。

彼によると、ムーディ軍曹は米空軍のヒューマン・リライアビリティ・プログラム(HRP)に入って精神分析医から綿密な検査を受け、精神面でまったく異常のないことが確認されている。

「ムーディは信頼のおける男です。彼がこれまでウソをついたりしたことはありません。彼のことばは信ずるに足るものですよ」とライトも明言しているのだ。

ところで、このムーディ軍曹誘拐事

件はトラビス・ウォルトン事件と驚くべき類似点をもっている。

ムーディ軍曹が宇宙船に乗ったのは昨年八月で場所はニューメキシコ。一方ウォルトンの方は十一月で、場所はムーディ軍曹の誘拐地点から四百キロしか離れていないアリゾナ州のヒーパー近くである。

二人共、無意識の状態でUFO内に連れこまれ、気がつくまでテーブルの上で宇宙人に身体検査をされていた。

二人の説明したUFOの形状も似ている。ムーディは「皿状」と言い、ウォルトンは「皿状」と述べている。両方共、いくら揺れながら飛行し、光を放っている。

そして、二人が描いた宇宙人(イラスト参照)は極めて似ている。彼らは次のように説明しているのである。

ムーディ「頭部は人間より三分の一くらい大きく、まゆも頭髪もない。眼は丸く二十五セント貨くらいの大きさ……身長は五フィート前後で、とてもひ弱に見えた。ピタリした白いものを身につけ、顔の色は白っぽい灰色……」

ウォルトン「彼らは五フィート位の背丈で体にピタリした茶褐色の衣服を着ていた……。皮膚はマッシュルームのように白く、髪はない。額は張り出して眼はとて大きかった……」

あなたにも“念力”がある！ 念力開発器 (ロジクルッシュン・ダイヤレット)



¥7,000(送料共)

人はだれでも潜在的に念力を持っています。ただそれに気がつかないことが殆んどです。このダイヤレットであなたは自分に念力があることが自分自身で確認できますし、訓練によってそれが強化されてゆくのが分ります。バラ十字団の団員は現にダイヤレットを使って自己の念力を強化して実生活で幸福をつかむ手段としていました。あなたも自分のかきされた力を発見し、強化して幸せをつかんで下さい。



¥5,000(送料共)

プランセット (西洋式こっくりさん)

プランセットとはそれを行う人の意志とは関係なく自然に動き文章や図形が記されるもので、プランセットの実験は精神統一にも有益で家庭や友人と一緒に楽しめます。

プランセットで不思議な現象を試してみてください。プランセットはあなたの将来や為すべきことを暗示してくれます。

●カタログ請求・お問合せは

〒103 東京都中央区日本橋小舟町2-7

発売元

ポラックス株式会社 U係

TEL (03)-666-0511(代)

製造元

潜在能力開発研究所

ご注文は

紙に商品名、住所、電話番号、氏名を書き捺印の上代金を現金書留封筒でポラックス株式会社U係にお送り下さい。

我々は宇宙人からメッセージを送られていながら無視しているのだろうか？ ^{スペース・アイ}SI（スペース・インテリジェンスの略＝宇宙人）は、その途方もなく進歩した科学をもって地球人の気象、文明、生活などをコントロールしているのか？ テッド・オーウェンスは本当に宇宙人の警告や予言の伝達者として選ばれた人なのか？ 彼はUFOの“スポークスマン”か？

テッド・オーウェンスは本誌17号に掲載した「奇蹟を起こす方法」の指導者であり、また偉大な超能力者でもある。さて何が展開するか――？

ニクソン大統領への警告

一九六九年七月三十日付でリチャード・M・ニクソン大統領のもとへ届いた一通の書簡中に次の一節があった。

「SIが私に語ったところによりまずと、地球人によるある陰謀が企てられているということです。キービスケイン（フロリダ州）にあるあなたの住宅で、あなたを誘拐するという計画です。あの「悪者ども（キューバ人）」はあなたに嚴重に護衛されていることを知っています。夜間に海面から高速艇で高度に熟練した五十名ないし百名の特別攻撃隊が攻撃を仕掛ける予定です」

最後に『超能力者、テッド・オーウェンス』と署名がしてあった。

この三週間後——すなわち一九六九年八月二十四日のマイアミ・ヘラルド紙は次の大見出しを掲げた。

「スパイの陰謀によって米―キューバの提携更新の予想はくずれた」

フィデル・カストロ政府の国連外交団がスパイの役割も果たしていた事実を暴露した上、同記事は次のように書きたてた。

オットー・B・ワインダー

○のスポークスマン？

「米国の大衆は、辺境地のゲリラ活動よりもはるかに重大な、大統領の警護に関する使命を帯びたスパイの募集を考える傾向にある。報告によると、この募集計画にはジェームズ・ボンドのような人がタッチしているらしい。この計画は、ダイバーなどを使って、キービスケインにおけるニクソン大統領の行動を見守ることにあった」

大雨を降らす

北東部各州の数年にわたる旱魃の後、一九六六年三月十日、テッド・オーウェンスはリンドン・ジョンソン大統領に次のような手紙を書いた。

「すばらしいニュースがあります。これはUFO人から超能力者を通じてあなたにもたらされたものです。SIは東部沿岸地方の旱魃をすべて解消するように決めました。まもなく連続降雨があるでしょう。しかも記録的な大雨になるはずですよ」

一九六七年七月二十二日のフィラデルフィア・エンクワイアラー紙は報道した。

「喜ばしいことに、米気象局の発表によれば、過去六年間米北東部を襲った大旱魃は終わったという」

春と初夏を通じて北東部に異常な大雨が降ったと報じて、ニューヨークの貯水池は満タンになったと述べた。

一九六七年は「春のない年」ともい

われた。雨が多すぎたからである。草花の咲き乱れる陽光の日々や生物の眼覚めは稀で、降雨の春は夏まで続き、自然が六年間の日照りを一年で取り戻そうとしているかのようだった。

謎の大停電

一九六五年十月二十六日、一通の電報がワシントン市のCIA要員、ジョージ・クラークのもとへ届いた。警報の電文である。

「重大な警報。彼らは（SIは）十日以内に恐るべき変動を生ぜしめる。超能力者（オーウェンス）」

何事もなく十日以上がすぎた。ところが一九六五年十一月九日、米北東部七州とカナダの一部にわたって大停電が発生し、三千万市民が暗黒に突入したのである（訳注：これは謎の大停電といわれた有名な大事件である）。実に十二時間も電流がとどえて、各都市のライトは消え、機械類は停止し、テレビやラジオも沈黙した。立ち往生したエレベーターや地下鉄の中に閉じ込められた人々を救出する緊急措置が要求され、各病院は重大な手術用に自家発電機を回した。これは電報の内容が実現したのだろうか？

アポロ十二号の故障

一九六九年十一月十四日の朝、史上



●左からテッド・オーウェンス、8歳の息子ボウ、妻のマーサ。

● テッド・オーウェンスの予言を果たしてUFOが実現させたのか

UF

二度目の月着陸を目指して、アポロ十二号が発射台で最後の秒読みの段階に入っていた。バージニア州バージニアビーチのケーブネディーの北方で三人の著名な人物が(三人の署名入り宣誓書は保管してある)テッド・オーウェンスの予言を聞いた。

「発射台かロケットのどちらかをカメラが直撃するだろう」

巨大なロケットが曇り空へ轟音と共に上昇してまもなく、地上の管制センターの要員はロケットから送られるテレメーターのデータが急にとどえたのに気づいた。交信すると宇宙飛行士のチャールズ・コンラッドが船内のライトが消えたかと告げて、つけ加えた。「何が起こったのかわからない。カミナリにやられたのかも知れない」

超能力者はまたも予告を実現させたのである!

ケネディー暗殺事件

もつと悲劇的だったのは一九六八年三月四日付でテッド・オーウェンスから米政府関係者へ送られた手紙の中に述べられた予言である。宇宙人から伝えられた警告として、「一人またはそれ以上の米政府高官が暗殺される」と記してあったのだ。

そして三カ月以内にマーティン・ルーサー・キングとロバート・ケネディーが兇弾に斃れたのである!

以上はテッド・オーウェンスが行った二百例以上の予言による実現の内数の例にすぎない。

さて、この稀代の大超能力者、テッド・オーウェンスとは何者なのか?

オーウェンスとは何者か

彼は背の高い、肩幅の広い五十歳あまりの(訳注)現在(は五十六歳)男で髪をオールバックにし、唇は薄く、鋭い茶色の眼を光らせて、知能指数は百五十ある。だがこれは彼の外観にすぎない。彼を最もよく知る人——すなわちテッド自身——に言わせると「私は宇宙人と二通りにコミュニケーションしてそれを証明できる唯一の生きた人間で超能力者である」

SI^{サイエンス・インテリジェンス}というの(Saucer(またはSp. ace) Intelligence の略称で宇宙人を意味し、P.K^{サイキック}は Psycho-Kinesis^{サイキック} すなわち念力によって物体を動かしたり影響を与えたりする能力を意味する。テッド・オーウェンスはSIからPKの力を授けられたと称している。

オーウェンスによると、この能力が始まったのは一九六五年である。妻と三人の子供を養うために彼はすでに五十種類もの仕事をマスターしていた。講演家、ジャズ・ドラマー、マジシャン、催眠術師、ボディガード、ボクサー、私立探偵、オフィス支配人、占い師、自己暗示の教師、ナイフ投げの

指導者、宝石デザイナー、精神病医の秘書、水泳場の救助員、そして雨の降らせ屋等、実に多彩である。

彼は大学を出ておらず公的な立場にもないことを楽しそうに自認するが知能指数百五十という記録を持ち(百四十以上が天才である)、二年間、デューク大学のJ・B・ライン博士と共に各種の超能力実験にたずさわった。ラインとその妻ルイサや友人などの私的な集会で、オーウェンスはPK力を用いて驚くべき実演をやつてのけた。テーブル上のハサミに手を触れないでサッと払い落としたり数フィートも空間へ飛び上がらせたりした。

UFOが出現

——そしてすべては一九六五年のある日に始まったのである。彼は言う。「テキサス州フォートワースに住んでいた頃、娘と私はある夜、田舎をドライブしていた。

突然、葉巻型のUFOが左方の野原の上空に出現して無音のまま車の方へ滑空して来た。船体から鮮やかな赤、白、青、緑などの色光を放っている。鼻先を地面の方へ傾けていた。見つめていると車に接近して、あつというまに消滅した。まるでライトが消えたようだった」

これだけのことなら、ありふれた多くの円盤目撃事件の一つにすぎないよ

うにみえるが、テッド・オーウェンスにとつてはそれどころではなかったのである。

「その日から私の生活は根本的に変わってしまった。フォートワースで娘のローニーに、雷雨の際中に数カ所で落雷現象を発生させて見せてやった。私は自然の力に対してPKの力の実的な応用法について持っていた理論の実験を遊び半分にやっていた」

ここで「遊び半分に」という言葉に注目されたい。彼が家族と共にアリゾナ州フィニックスへ移住したあと——その頃は大早魁ダイエースの最中だった——その「遊び半分」が真実のものであることを発見して愕然としたのである。「超能力を用いて気象のコントロールの実験をやってみようという考えがまた起こったので、子供たちを集めて、嵐を起こさせる状態を見せてやった。これはうまくいって、大嵐となったので、フィニックスの町は被災地域に指定されたほどだった」

どうやらテッド・オーウェンスはその成功を予想以上に驚いたらしい。そして自分のPK能力を少々疑わしく思っていたようだ。

「この大嵐は単なる偶然ではなく、これをもたらししたのは自分なのだということを確認するために、私は家族に向かって、これから次々と嵐を起こしてみせようと宣言した。また、そのことを地元の新聞にも予告した」

オーウェンスはたしかに賭けていたらしい。というのは、これは自分のPK能力による実験を公表した最初であったからだ——その能力があるとすれば、だ。

結果は驚異的だった。「それから三週間以内に、すさまじい雷光を伴った恐るべき豪雨が八回も発生した」

これがすべて事実であることをオーウェンスは家族に証言させ、自分もそれに署名している。

「この成功に狂喜し、たしかに私には何かの力があることを知って、政府関係者や重要な地位にある人々へ手紙を出したが、何の返事もなかった。だれも私を信じようとしなかった。そこで私はロサンジェルスへ移住した。ここも日照り続きだった。それでまた大雨を降らせてやった」

このことも詳細に記録してある。

オーウェンスは、やってみせようと約束したことを各種の役人が重要人物に予告し、予定どおりに発生した現象のあとで彼らに宣誓書を書かせて、自分のPK能力による離れ業を慎重に記録している。この内の数例はあとでもっと重要な事件に関連させて述べることにするが、続いてテッド・オーウェンスに意外な事が発生した。「とにかく私は大自然自体の背後にある英知のエッセンスとうまく接触したと思う」

そうかもしれない。というのは、その後まもなくハリケーン「クレオ」がフロリダ州の沿岸を襲い始めたとき、オーウェンスは興奮して簡単な地図を描き、自分がそのハリケーンを「コントロール」しようとして家族に予告したのである。

「家族は驚いた。ハリケーンはまさしく地図に書いたコースに従ったのである」

ハリケーンをコントロール

自信を持ったオーウェンスは首をかけた。一九六六年十月、彼は大胆にもフロリダ気象局へ予告した。ハリケーン「アイネズ」(訳注「米国ではハリケーンに女性の名がつけられる」)をキューバから、予測された西へ向かわせるかわりに、北へ行かせて、そのあとまた逆コースを走らせ、フロリダ州沿岸地方を直撃させる、というのだ。当時、気象専門家は海上へ抜けるだろうと予測していた。そんなことはまずあり得ないことと考えていたのである。

しかし「アイネズ」は徹底してオーウェンスの「スケジュール」に従ったのである。

もっと「厚かましかった」のは、オーウェンスが一九六七年六月に米國ハリケーン・センターの局長へ出した予言である。SIが同時に三種類のハリケーンを発生させるといふのだ。この

現象は一八八六年以来四回しかない。一九六七年九月にハリケーン「ビューラ、クロエ、ドリス」の三つが同じ週末に暴れまわったのである。現代では予想のできない異常現象だった。

オーウェンスが本当にハリケーンのコースを変えさせる能力があるとすれば、国家に対して大サービスがやれるということになる。そこで彼は自分の有する「災害除け能力」を提供すると述べた手紙をワシントンの政府筋へ出し続けた。しかしCIAのクラークとかNASAのイーストウッドというような人々は個人的にオーウェンスに会って、その主張に強い関心を示したけれども、残念ながら行動は起こさなかったのである。彼らがオーウェンスを害のない狂人とみなさなかったにしても（本人は狂人らしくない）、どうやら上司を動かそうという試みに失敗したらしい。

テッド・オーウェンスの個人生活における別な一大転機が来た。それは彼が「大自然の英知のエッセンス」との気味悪い接触によって、自分の力で嵐を呼び起こしたり導いたりできなかったことを発見したときである。それは何かの別な英知だった。一九六五年、ワシントン市へ移住した後、彼は次のように書いている。

「私が接触していたのは大自然ではなくて、UFO人の英知であったことに初めて気づいた。彼らが私を導いてい

たのだ」

オーウェンスはワシントン市のUFO出現騒動に気づいた。これは一九六五年から六六年にかけて発生したUFOの一大出現ブームの一環だった。そのとき彼は思いがけずSIからのメッセージを受け取った。北極と南極に信じがたいほどの磁気嵐が起ることをCIAに予告せよというのである。この「予言」をCIA係官のクラークに送った後、オーウェンスは次のように書いている。

UFO人がやった？

「一九六五年七月八日に、あらゆる新聞は次の記事を掲げた。『南極の二つの基地の上空に円盤が目撃された！この巨大な円盤型UFOは数カ国の多数の科学者によってはっきりと目撃され撮影された。しかも円盤は基地の装置類に対して強力な電磁効果を及ぼしたのである』」これはオーウェンスの予言どおりだった。

ここにおいてオーウェンスの心中に爆弾が炸裂した。

「私は次の事に気づいて体が震えた。『私が接触していたのはUFO人だったのだ！』と」

それ以来彼はいつでもこのSIたちと心で「同調」することができたのである。SIはオーウェンスが何事かを予言すると、その一連の現象をアレン

ジシ、実現させるのである。あるときはSIが彼のPK能力を強化し、彼にその仕事をさせて実現することもあった。別なときにはSIがオーウェンスに知らせながら直接に仕事をするのもあった。

その結果、二百件に及ぶPKの離れ業と信じがたいほどの予言となった。これは過去六年間にテッド・オーウェンスから流れ出たもので、すべて記録してある。

ここで明確にしておきたい事が一つある。テッド・オーウェンスは眼の血走ったコンタクトイではないということだ。彼は面と向かってSIに会ったことはないし、UFOに乗ったこともない。理想的な惑星へ行つたこともなければ彼らの食物を食べたこともないのである。

オーウェンスが繰り返しはっきり言っているのは、自分はSIと「精神的に」コンタクトをしているにすぎないということである。自分にもわからない何かの理由により、彼の脳はSIから送られるテレパシクなメッセージの理想的な「受信局」なのである。そして最も重要なのは、彼は両道通話でもってSIと直接に話ができることである。彼は自分こそこの異常な超能力を持つ唯一の人間だと信じており、過去においてはエドガー・ケイシー、モーゼ、その他古代文明の賢人たちが、これに似たSIとのコンタクトをして

いたのではないかと考えている。

テッド・オーウェンスは自分自身にいろいろな呼称をつけている。「SIと人間との仲介者、SIの送話口、フロント、メッセージを受ける人間中継局」など――。

オーウェンスは絶えず繰り返して言う。SIのやる事に責任はないと。オーウェンスを通じてSIが異常な事を行う目的は、SIの存在を証明して当局が彼を通じて彼らの言うことに耳を傾け、援助を受けることにある。テッド・オーウェンスがいかなる災害に関連していても、SIはある大きな変動を防ぐために地球へ来ていると称している。このSIが地球へ来る動機についてはあとで詳細に述べよう。

テッド・オーウェンスはUFO研究者でもなければUFOの分野で活動したこともないが、SIとの特殊な関係は一般的なUFO現象に光をあてたのである。

パワーの停止

まず電磁効果がある。「なぜ円盤が接近すると自動車や電気装置に影響を与えるのか」という疑問に答えて、オーウェンスは次のように言う。

「それは良い質問です。最近SIがそれを私に説明してくれたからです。彼らが(UFOが)調査したい地域へ来ると、ちょうど漁師が網を投げるよう

に、彼らも“網”を投げるのです。つまり電磁気の網を周囲に広げるのであって、それにより一帯のあらゆるパワ―をとらえてストップさせ、目撃者がS Iの網の外にいる人間に無線で援助を求めたり空軍基地などに連絡したりするのをさえぎるためです。米国の国有森林を管理するフォレスト・レインジャーが、クマその他の動物を射殺しないで麻酔にかけたりする理由をご存知ですか？ S Iもやろうと思えば人間を殺せるのですが、そうしないで電磁気の網を投げて麻酔にかけたりパワ―をストップさせたりするんです”

このことは電磁効果を示すUFOの着陸事件類がある種の人間標本を麻酔にかけたりつかまえたりする目的を持つことを意味している。もちろん、このような行為は円盤目撃事件で眼に見えないし、報告もされない。我々はS Iが人間と混ざるときに行う奇妙な活動についてほとんど何もわからない。

物体の落下

次に空中から突然物体が落下する現象がある。必ずしもUFOの目撃と直接に関係があるわけではないが、空中から物体が落下する現象は歴史を通じて謎とされてきた。魚、ヒキガエル、肉の片、血液などが大量に降ってくるのだ。こうした数百件の報告はチャールズ・フォートが集めているが、この

ような現象は現代でも発生し続けている。ときとしてこの現象はUFOが飛んだ直後に起こることもあるし、エンジェルヘアーとか奇妙な繊維のような特殊な物質がUFOから直接落下するのが見られることもある。

空中から肉片や血液が落下したという近頃の報告や、S Iがこれに関係しているかという質問に答えて、オーウェンスは魅惑的な回答を出している。「私は空中から肉や血液が降ったとは思わない。それらは別な次元から(S Iがやって来る次元から)落下したのもと思う。おそらくS Iが彼らの宇宙船を出したり引つ込めたりしようとして彼らの次元の割れ目を開くことよって起こるのだろう」

更にオーウェンスは、UFOが水中から飛び出る特殊な例をあげた。「彼らS Iは湖か海の岸に人々がいるのを見るので、S Iは別な次元に切り替えて消滅してしまうのだ。しかし水中から外へ飛び出るときに船体のパワ―が魚や岩石などを一緒に引つ張り上げる。そして再び別な地域で地球の次元に返ったとき、引つ張り上げられた魚、岩石、人間の体などが落ちて来るのだ」

これはかなり興味悪い説明だ。無情で残酷と思えるだろう。しかし地球製の宇宙船がいくつか別な惑星に到着して再び離陸する予定の時間が来たとき、現地人や動物が噴射ガスにやられて焼

き殺されるからといって、ロケットの出発を中止するだろうか。

ヒューマノイド

“怪人”——“ヒューマノイド”——円盤着陸の際にしばしば見られるこんな生物について、オーウェンスはほとんど知らないと言う。だが彼は敢えて次のような考えを述べた。これは自著の中で同じ説を展開したコラル・ローレンゼンの興味を引くかもしれない。彼女は円盤からヒューマノイドすなわち“毛深い小人”が出て来て、植物や岩石を採集するのを人々が目撃したと書いている。

オーウェンスは言った。「そう、あれはS Iのペットで、それらがS Iにかわって地上の標本を集めているんだ。ちょうど我々がチンパンジー、イルカ、ネコ、イヌ、ウマなどに仕事をさせるようなものだ。だが、何の目的で彼らがこんな標本を欲しているのか、私にはわからない」

彼は言う。

「S Iは私に対して重荷になるような問題の意見を聞かないし、地球の運命に関する重要な協議に私を加えることもしない。彼らからのメッセージは自分が遂行できるPK能力の仕事にはつきりと限定されている」

このことは彼を山師とか自己偽瞞(ごまか)の変わり者と呼ぶ前に我々をホッとさせ

る。変わり者や山師は常に自分を神の一步下において全知全能者ぶるのである。

多くの記者や権威者はこの超能力者の予言を偶然の一致とか運がよかったのだと言うかもしれないが、そうは思えない。事実がみずから語っているようにだ。

イーグルズ軍を解体させる

オーウェンスの超能力による最もセンセーショナルな離れ業の一つを見ることにしよう。

彼はかつてあるスポーツ記者に言ったことがある。

「スポーツは皮相的なものだが、それは少数の人々にS Iの力を見せるのにすばらしい方法だ」

彼はフィラデルフィアの二つのスポーツチームであるナショナル・フットボール・リーグの“イーグルズ”とプロバスケットボールの“セヴンティンクサーズ”に大破壊を起こさせることよって予言の真実さを示した。なぜフィラデルフィアを選んだかは未解決の疑問となっている。

彼は一九六八年のシーズン開幕前に十二人のスポーツ記者へ次のような手紙を出した。

「私はPK能力でイーグルズ軍をバラバラにして、選手獲得のチャンスを絶対に得られないようにしてみせよ

う」

彼はイーグルズ軍が少なくとも二十名の負傷者を出して、それまでの勝ち数以上に負け数をとりせると予言したのである。

その結果、イーグルズはシーズン中に三十名の負傷者を出し、連続十一試合で負けた。

この事が予期できない、気味悪いほどに信じがたい出来事であったことは新聞のスポーツ欄に書かれた次の表現でわかる。「呪われた負傷でイーグルズ、ダウン」「魔法にかけられたイーグルズ」「このチームを狙う不吉な眼」

一九六八年九月三十日付のフライデーファイア・デリー・ニューズ紙に、記者のスタン・ホッチマンは、オーウェンスをイーグルズが出る試合へ連れて行ったあと、次のように書いた。「私はオーウェンスがそのチームに魔法をかけると言うので、彼のインチキをその場であばいてみようと思った。イーグルズが得点をあげて三対ゼロで勝っていたとき、オーウェンスは言った。

「SIはウッドシク選手を外す必要があると考えている。彼を試合から外すんだ」

ウッドシクはそのチームのスターだった。すると他の二人の選手のあいだで口論が始まった。突然、ウッドシクがそこへ出て来た。そこでみんな

が彼をケンカしたというので外へ連れ出した。試合は第三クォーターでおかしくなってきた。

ファンブルをやったあとイーグルズの四名の選手はボールを取ることができず、相手チームのカウボーイズの手に渡って、イーグルズは負けた」

別な記事でスタン・ホッチマンは次のように書いている。

「六年間も雨が降らなかった土地に大雨を降らせて、しばらくのあいだド・オーウェンスは満足していた。彼は一九六七年六月に東部海岸の電灯を消して、あの大停電をひき起こした。だが彼の「豪雨招き」や「電灯消し」の能力を求めて押しかけて来た人はいなかった」

続いてホッチマンは一九六八年の公開シーズン中におけるケガ人の名前や風変わりなブレイ、イーグルズを圧倒した手きびしい混乱などについて述べている。テッド・オーウェンスの主張を裏書きすることなしに、ホッチマンはイーグルズに発生したあらゆる事件はこのPKマンによって予言され公表されていたと繰り返している。

当然のことながらイーグルズに向けられていた人気はガタ落ちになり、オーナーのジェリー・ウォルマンは破産してしまっただ。これらはすべてまぐれ当たりなのだろうか? イーグルズはPKマンの超能力の介入がなくても、一九六八年に

うつ伏せに倒れる運命にあったのか?

オーウェンスはプロバスケットでもたもや自分を試した。一九六八年四月二十三日、ある有名な弁護士が、フライデーファイアのセヴンティシックスサーズ軍はボストン・セルティックス軍との決勝試合で負けることや、セヴンティシックスサーズは信じがたいほどにシヨットをミスすることをオーウェンスが予言したという書類に署名したのである。

結果についてはスポーツ記者のジョージ・キンダが書いている。

「セ軍のシュートははずれた。こんなことならカップの中へ丸薬でも投げ入れていた方がよかった」

ボストン・セルティックスのサム・ジョーンズは述べた。

「わが軍のディフェンスは相手を負かすほどのものではないと思う。相手はシヨットをミスしただけなのだ」

あるスポーツ記者は言う。

「セ軍はバスケットの中へボールを入れることができなかつただけだ」

おかしなことに、セ軍はシャープなシュートをするチームとして有名だったのである。その意外な結末について

別なスポーツ記者が書いている。

「セ軍は立ち上がりからメクラになっていた。そして百二十二対百四の惨敗を喫した。水曜日にボストンへ帰ってからもメクラ状態が続いていた」

本格的UFO研究団体

日本宇宙現象研究会

常時に数冊の論文を執筆し、7月1日発行のNo.7「未確認飛行物体」の特号を出版する。この特号はUFO研究の最新成果を掲載する。

会誌 未確認飛行物体 No.7 (特大号)

- 主な内容(予定、いずれも仮題)
- 日本UFO研究史 荒井伸一郎
- UFOの謎と問題 池田隆雄
- UFOの現象 加藤
- 豊田市のUFO写真はトリックか? (現地調査報告) 丹羽正二郎
- 甲府UFO着陸事件の真相 (現地調査第二報) 林一男
- 甲府UFO着陸事件と放射能 英恒夫
- 土偶宇宙人説の探求 志水一夫
- UFO写真鑑定法 大槻哲三
- 誰が書いたUFOの証拠 丹羽昌公
- UFOの墜落と物 UFO 高橋三夫
- 地球空洞説とUFO ライツ最後の秘密 志水一夫
- ライティング

B5判・120~130ページ以上・高級オフセット印刷・写真、図版多数掲載1500部限定・非売品(会員のみ送呈)

この研究会は、UFOに興味のある方々を歓迎し、会費を徴収し、会誌を発行する。入会金は500円(年会費100円)で、1年間2,000円(通常誌4冊)の会費をお支払いください。住所氏名をお申し込みください。

日本宇宙現象研究会

振替:東京6-128740 (当会は非営利団体です)

負け犬として名を馳せていたセルテックは試合に勝ち続け、下位から上位へのし上がった最初のチームとなった。以上の驚くべき要素を心にとどめると、チャンスの法則が完全に混乱してしまっただけか、PKマンの恐るべき力が彼の予言を実現させたのか？読者の選択におまかせしよう。

彼の最近の予言類のいくつかは、入手し得る証拠によれば驚くほどの中しである。

その他の出来事

一九七〇年二月十日、バジニア州バージニアビーチのバジニアン・パイロット紙のローレンス・マドリーがオーウェンスにインタビューした。オーウェンスは遠く離れたメイン州のブレワーバンガー地域上空に一機の空飛ぶ円盤が目撃されるだろう、そして同時にパワー停止が起こるだろうと予言した。その期限は二週間後になっていたが、一週間後には早くもバンガー地域の新聞が大見出しに円盤目撃事件を書き立てたし、一目撃者の車のバッテリーがダメになった話も載せた。

インタビューでマドリーは尋ねた。「さて、オーウェンスさん。あなたがここに居るあいだに何が起こるとお考えになりますか」

「何かのパワー停止が起こることを望んでいます」とオーウェンスは言う。

記者が外へ出て車のエンジンをかけようとしたが、バッテリーがダメになっていた。マドリーの記事には次のように述べてある。

「この事実を知らされて、オーウェンスは少し眼を丸くして言った。『フン、彼らがすぐ近くに居るにちがいない』」

一九七〇年一月上旬に、オーウェンスは一記者に手紙を渡したが、それは一月二十二日に一つかそれ以上の地震を起こしてみせると書いてあった。

するとその日にカリフォルニア州バークレーと日本で地震が発生したと報道された。だが実際には六回もの地震が一月二十二日から二月十二日まで発生したのである。これはオーウェンスによると、一月二十二日の地震の結果、連鎖反応が起こったのであり、SIはこれをコントロールできなかったのだという。

ジャンボ機をねらった？

もっと劇的な予言を彼はローレンス・マドリーや他の記者たちに行っている。SIがパンアメリカン航空と「私的な戦争」を起こし、大西洋は同航空のジャンボ機七四七にとって「無人地帯」になるだろうというのだ。

二日後にパンアメリカンの七四七が一機プエルトリコを飛び立ったが、大西洋上空で航行不能におちいり、空港

へ引き返すはめになった。翌日、ロンドンを出発した別な七四七が燃料を投下せざるを得なくなり、やはり空港へ引き返した。その次の日もカリフォルニア州ストックトンの滑走路で七四七が墜落した。

これはまぐれ当たりか——それとも的中したのか。

この他にもオーウェンスが行った予言とその実現は沢山ある。PKの治癒力もあるが、エドガー・ケイシーのそれに比べれば実例ははるかに少ない。

また、彼の言うSIとは何者で、正体は何なのか、彼らは何機のUFOを持っているのか、どうして作動させているのか、SIが他の宇宙人と戦うならば地球の運命はどうなるのか等々、不可解な問題が残っている。

予言はずれた！

最後にオーウェンスの予言をもう一つあげてみよう。これは実際にはSIが未来の計画に関して送ったメッセージである。これはあらゆるユーフオロジストの注意を引くだろう。署名されたこの予言書は一九七〇年二月十三日付のもので、以下は原文のまま。

「今度の(SI)の実験は一国だけに限定されたものではなく、UFOの力による世界的なデモンストレーションとなるだろう。本日より私はSIとコンタクトし、彼らの特殊な装置を作

動させて世界的規模で気象をコントロールするように頼んでみよう。その目的はSIの存在と、彼らが私からのコミュニケーションを受け取る能力があることを証明することにある。目標は、本日より一九七〇年の夏を通じて世界的に「悪気象」を起こさせることにある。

そればかりではない。SIが署名するかわりに彼らはあらゆる場所に大多数でもって出現するだろう。

簡単に言えば、あなたがたは最大のショーの一つが見られるだろう。これはUFOの偉大な力によって遂行されるものであり、この力はパーミュニダ・トライアングルと、太平洋のデヴルズ・トライアングルから放射されるだろう」

テッド・オーウェンスは多少ともこの予言に関して名声を賭けた。読者がこの記事を読む頃に、もし世界が激しい暴風雨や大災害で打撃を蒙り、史上最大のUFO目撃や着陸事件等が発生するとすれば、それは偶然の一致か、それともテッド・オーウェンスなるPKマンの予言が実現したかのいずれかであろう。

(訳注) 以上の記事は一九七〇年の夏以前に書かれたものだが、その年の夏に世界が荒れ狂うほどの異常気象はなかったし、世界的規模のUFO目撃大事件もなかった)

航空機や船舶が不思議な消滅をとげる
地域はバーミユードだけではない!

世界の十二の「魔の墓場」

飛行士アーサー・ゴッドフレイはテレビに出演した際、例の不気味な「菱形海域」について彼の体験を話し聴視者を驚かせた。彼があるときその海域を飛行中、あらゆる計器類が一時間にわたって機能を停止してしまつたというのだ。またあるとき彼がリーダーを見つめていると、一機の飛行機が同海域に進入して行き突然消滅してしまつた。捜索隊が現場にかけつけたが、彼らには油の一筋さえ発見できなかったのである。



●謎の消滅をとげたマース飛行艇

●アイバン・サンダーソン

保険が証明する

ロンドンのロイド社は、数百年前保険を一つの事業として正式に開始されて以来、全世界の海運記録を保管している。今日、海上保険は世界的な企業となり、船舶の喪失は綿密に検討された上、次の六種類の項目に分類されて定期的に公表される。(1)海難のみが原因である浸水沈没、船体折断。(2)船火事、(3)衝突、(4)岩盤、海岸、暗礁による遭難、(5)行方不明、それに(6)その他の原因、の六種類である。「行方不明」とは、何の痕跡(破片、遺体など)も残さず、緊急信号が受信されることなく消滅することである。

一九六一年一月一日から一九七〇年末までの間に、ロイド社のリストには

二千七百六十六件の船舶喪失が記録されている。そのうち千三百三十六件は遭難、七百七十一件は浸水沈没によるもので、行方不明も七十件にのぼる。行方不明の最大のものは、植物油と苛性ソーダを積んでルイジアナ州ニューオーリーンスから南アフリカのケープタウンに向けて出航した一万トンのミルトン・イアトリデイス号であり、二番目は穀物を積んでバージニア州ノーフォークから英国のマンチェスターに向かった七千四百二十六トンのイサカ・アイランド号である。どちらもバーミューダ付近で姿を消したものである。地図を開いてみれば何かを思い出すだろう。「バーミューダ三角海域」という名に心当たりはないだろうか。もしなければ、大西洋のこの海域ではたくさん船舶や航空機がまことに不可思議な状態で行方不明になっていることを記憶していただきたいのだ。

海で船が沈没したり行方不明になったりするのとは大昔からあたりまえのことのように思われてきた。船舶と陸地との間に無線連絡が行われるようになったのは比較的新しいことで、前述の六種類の分類のうち「行方不明」が異常な事態として注目を集め始めたのもそれ以後のことだった。続いて航空機が登場する。もともと、小型飛行機は陸上基地やお互い同士、船舶、そして軍用機の場合には潜水艦などとも緊密に連絡をとり続けているものだ。それ

に、航空機は水平線が障害となるまでは肉眼でもレーダーでも監視可能だし、それ以上になれば無線連絡がとれる。そこで、航空機の行方不明が記録されはじめると、事態はもともととやっかいなことになってきた。

航空機がレーダーや無線の到達範囲から出てしまっても、自家用機以外は飛行計画が提出しており、コースが記録してある。それに気流の乱れにより空中分解して沈没したり、衝突、火災などで遭難しても、水上または地上に何か痕跡が残るものだ。たとえそれがただ一筋の油の流れにしても、である。だが、第二次大戦中から戦後にかけて大洋横断飛行がさかに行われるようになる、飛行機の行方不明が続発し始めた。もともと戦時中はゆくり調査するひまもなかったのだが、戦後になって次の事件が起こり、事態は新しい展開を見せはじめた。

雷撃機と飛行艇の謎の失跡

一九四五年十二月五日、フロリダ州フォートローダーデル海軍基地から五機のTBMアベンジャー雷撃機が、おきまりの哨戒飛行に出発した。飛行計画によると、大西洋上を真東に百六十マイル飛行し、それから北に変進して四十マイル飛んだのちまっすぐ基地に帰投することになっていた。編隊は午後二時に離陸して、三時三十五分に

はあまり順調でないという最初の連絡をしてきた。どこを飛んでいるのかわからない、どっちが西かも不明であり、「何もかも狂っていて……おかしい。方角がはっきりしないし。海までがふつうと違う」というのである。それから一時間、基地では五人の操縦士間の交信に耳を傾けた。四時二十五分に編隊長がフォートローダーデルあてに「どこにいろのかわからないんだ。基地の北東二百二十五マイルだろうと思う……そうらしい」と報告してきた。五機のTBM消息はそれきり絶えたのである。数分後に一機のマーチン・マリナー飛行艇が搜索に飛び立ったが、十五分後にはこれも消滅してしまつた。それから実施された搜索作戦は時間からいっても搜索範囲からいってもおそらく史上最大のものであったが、五機のTBMに関してもマーチン・マリナーに関しても何の痕跡も見されなかつた。

だが、読者がもう一度地図を開かれれば、この事件はひどく間違つた名称をつけられたことがおわかりになると思う。いろいろと調べた結果、私はこれは意味をとり違えたのだという結論に達した。事件を最初に報道した記者が、この飛行経路は三角形としていたと書いたのは正しかった。ただ、そのあとで他の記者たちが、この三角形の頂点はバーミューダと一直線上にあることに気づいたのだ。それから一九六

四年になって有名なビンセント・ガイイス記者がその記事に「バーミューダ三角海域」という表題をつけ、それが、どういふわけだかわからないが人々の気に入った。表題はまぎらわしいが、物語はなかなか面白かつたのである。

魔のバーミューダ三角海域

ビンセント・ガイイスはその後も調査を続けた。私を仲間にはびりこんだのも彼だったのである。私たちが不可思議現象研究協会を設立したのもその年（一九六六年）のことだった。研究計画を立案することになったときに、「三角海域」は即時調査が必要ということで全員の意見の一致を見た。十年後の今日ではそれほどでもないけれど、当時はきわめて神秘的な話題だったのである。

そこでこの海域は単に「バーミューダ三角海域」という名で調査リストに記入され、(1)これも意味のはっきりしない名前だが、まだ補護も確認もされていない超原始人「雪男」、(2)これも未捕獲未確認の、湖、河川、海に住むと伝えられる大型動物の「海水性・淡水性怪獣」、それに(3)UFOに続き、四番目の座を占めることになった。ついでに申し上げるなら五番目は「I・T・F」(固体が他の固体を即座に通過して移動する現象)で、六番目は「T

・T・T」（固体が時間の中を移動する現象）なのである。このことの重要さはやがて明白になるだろう。
 パーミュニダ三角海域に関する資料を持ち寄ったとき、私たちはいくつかの驚くべき事実に出面した。その一つ

は、旧友でもあり現在は私たちの仲間でもあるピンス・ガディスから出たものだ。彼のペンによりはじめて紹介された、日本本土と小笠原諸島間の西太平洋に位置する有名な「魔の海」をもっと詳しく調査しようではないかと

彼は言うのである。

日本付近の「魔の海」

この海域のことは日本人の間では何百年も昔から知られていた。だが有難

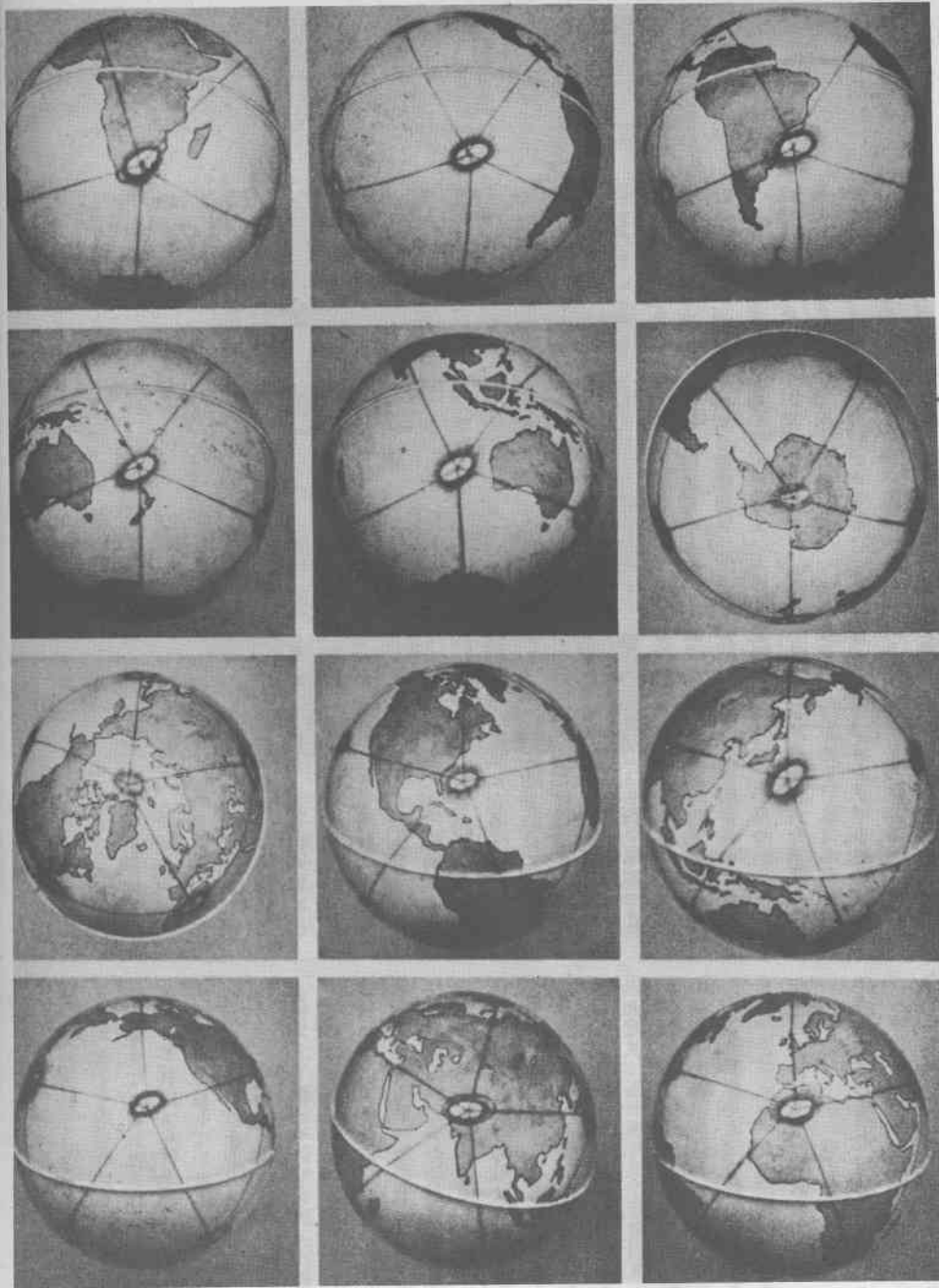
いことに、「三角海域」という名前はつけられていなかった。ここでは無数の船舶が行方不明となり、第二次大戦中には日米双方の航空機がその付近を調査した。その結果、この海域は南西から東北に伸びた長円形の斑点形をしていることが明らかにされた。その上、この時分には人々は船舶喪失の記録から、「パーミュニダ三角海域」もこれと——全く同じとは言わないが——よく似た形をし、同じくらいの傾きで伸びていることに気づき始めていたのである。

私が受けた教育の専門は地理学だった。そこで私には、何か新しい調査計画の話を聞くとすぐに地図か地球儀に手を伸ばすくせがある。これからお話ししようという発見をするに至った調査に着手するようになったのも、もとはといえば私のこの地図をさがすくせが原因だったのだ。

地中海西部の菱形海域

まず第一に私たちが気づいたのは、この二つの海域が——もっと正確に言うなら、菱形をしている——同一緯度の上にあるということだった。その中心（らしいもの）はどちらも北緯三十六度にある。続いて、とても偶然の一致とは思えない偶然の一致が起こった。二隻の潜水艦（一隻はフランス、一隻はイスラエル）が地中海で行方不明

●世界に存在する12力所の「魔の地帯」



明となり、さらに四隻の小型船舶がポルトガル、モロッコ、マデイラ島の中間で、晴天だというのに消滅してしまつたのである。

ただちに、大量の新聞の切抜きや、国内、海外のメンバーたちや今まで聞いたこともない人々からの手紙が各国から殺到し始めた。彼らは異口同音に「地中海西部も例の『菱形』の一つではないか」と聞いて来たのである。もう一度地球儀をよくよくながめてから私は、測地学の心得のあるメンバーを集められるだけ召集した。彼らは国中あちこちから飛んで来た。だが最初に具体的な提案をしたのは、技術者のアルフレッド・D・ビーレックだつた。

私たちはメルカトル式図法で描かれた世界地図を使って会議を始めたのだが、ビーレックは、問題の海域もやはり北緯三十六度線を横切る菱形海域で形も大きさも同じくらいである上に、同じように南西から北東に傾いており、その中心は地中海南部のモロッコとアルジェリアの国境付近にあるらしいことを指摘したのである。

アフガニスタンの魔の地帯

それから翌日の郵便が到着し、まったくの偶然の一致と思えない事実がまた一つ明らかになった。この手紙は私たちがまだ聞いたこともない婦人

からのもので、彼女は明らかに私たちの仕事のことは何も知らないようだったが、バーミューダ三角海域の話も聞いたことがないらしくかった。ずっと以前に彼女はある事に気づき、それ以来一人で悩んでいたのである。第二次大戦中彼女は、現在のパキスタンで米国情報部に勤務していた。連合国の軍事援助の一環として、大型輸送機がイラン経由で当時のインドとロシアの間を往復していた。その中の何機かは金塊の輸送に使用されていたが、連合国の悩みの種は、かなりの機数がアフガニスタン上空で行方不明になることだった。この婦人の関心をひいたのは、少なくとも二度、金塊だけは山中の土民によって発見されたことである。しかし、機体の破片はひとつかけらも見つからなかったのだ。

私たちはもう一度地球儀と計算尺に手を伸ばした。これで四番目の、今度は陸上の「消失地域」が見つかったからである。それも最も怪奇な消失事件ではないか。まだある。私たちが地中海西部、アフガニスタン、小笠原諸島の間隔を経度ははかってみると、それぞれ正確に七十二度だった。その上に、地中海西部の菱形からバーミューダ三角海域までの経度までが正確に七十二度だったのである。

ところで、七十二度といえば円周(三百六十度)の五分の一だ。大西洋西部から太平洋西部までの間に四個の

菱形が一列に並んでいるとすれば、五番目の菱形も存在するのではなからうか。そして、それはどのへんになるか? それは太平洋北郡、ハワイ諸島の東北に位置していなければならぬことが明らかになった。

それに続いた沈黙を私は一生忘れないうだろう。私たちのうち五人は経験豊かな科学者が技術者であり、残りの四人は報道関係の仕事をしていて、地理学者のビーレックを見つめてただ座っているだけだった。やがて、電子工学の専門家が沈黙を破った。

「ね、自然というものはめつたに正確じゃないものだ。でもこればかりは物理学的に正確だ。太平洋北西部で何か事件が起こったのを聞いたことはないかね」

人間コンピュータのような私たちの秘書兼図書室主任のマリオン・フォーセットがすぐに、全然何も聞いていない、と答えた。実際、私たちはまだ何も知らなかったのである。

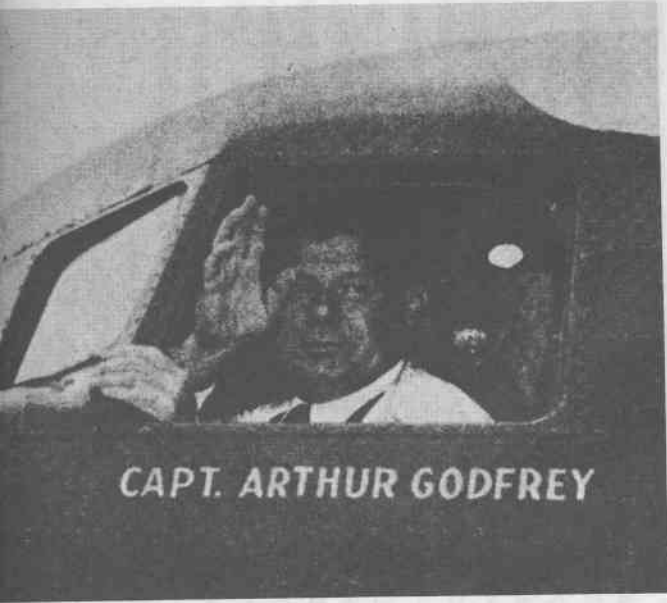
南半球の消失海域

その間私の心の中では小さな虫が一匹うごめき始めていた。私たちがバーミューダや小笠原に関するデータを整理したりもつと集めたりする数カ月かの間、私自身は静かに自分だけの思いつきについてあれこれ考えていたのである。それは南半球だ。

通信と調査を通じて私は、南半球にもおそろるべき「消失海域」があることを知ったのである。それは(1)アルゼンチンの南東海岸の沖、(2)南アフリカの南東海岸の沖、そして(3)オーストラリアの南東海岸の沖、つまりタスマニア海の三カ所だった。私はもう一度地球儀を取り上げて、南極が上に来るようにひっくり返してみた。そしてこれらの三つの菱形海域をそつと指でたどると、計算係に仕事を命じたのだ。そこで何がわかったか? 二つの海域は経度にして七十二度離れており、どちらも南緯三十六度線上に位置していたのである。ただ三番目の海域は他のど

ちらからも百四十四度離れていた。百四十四度は七十二度の二倍である。それでは未発見の残る二つはどこになるのか? 一つはインド洋東部に、他の一つは南東太平洋にあるはずになる。ここまですべての都合で明らかになった。ところがやがて、聞いたこともない人物から全然頼みもしないのにまたもや「偶然の一致」とでもいうしかないような情報が私の手許に届いた。

米国南西部に住む若い婦人からの連絡だった。彼女には二人の兄弟があつて、一人は海軍に、一人は空軍に勤務しているが、二人は軍隊で聞いた話を彼女に話して聞かせた。その話を聞いて思い出した彼女は二人に、「魔の渦巻」のことを書いた私の記事を見せたという。二人の反応は早かった。渦巻



CAPT. ARTHUR GODFREY

●アーサー・ゴッドフレイ

形海域からは
二十三・五度
離れていたの

地球には規則正しい間隔で並んだ
十個の特別な地域があり、そこでは船
のである。

は他にももう二カ所、一つは北太平洋
に、もう一つは南太平洋にある、とい
うのだ。

オーストラリア

南西海岸沖の魔海

これだけでも驚くような話だが、そ
れから一カ月もたたぬうちに私の旧友
から手紙が来た。彼は前記の話につい
ては何一つ知らないが、探検史の研究
に没頭しており、特に捕鯨船とアザラ
シ漁船が専門だった。彼は南極海寄り
のインド洋に浮かぶケルゲレン島その
他の孤島の話をあこれ書いてきた
が、その中で、オーストラリア南西海

岸沖に横たわる荒涼たる海のおそろし
さに触れていた。私が更に詳しく照会
したところ、この海域も南緯三十六度
線上にあり、南アフリカの海域の東七
十二度、タスマニア海域の西七十二度
に当たることが判明したのである。

何もかも「偶然の一致」というには
あまりにも不思議すぎる。数学者、地
理学者、電子工学者たちにとってはな
おさらだった。電子工学者たちの求め
によってもう一回特別の会合を開くこ
とになった。

その間に地球物理学者がちよつとし
た実験を試みた。私たちの地球儀は
中空の金属球だが、彼は北半球の五カ
所の海域から

地球中心めが
けて串を突き
通し、先端が
南半球のどこ
に現れるかを
調べたのであ
る。その結果、
先端は五本
とも南緯三十
六度の線上に
現れた。しか
し、どれもこ
れも、南半球
の五カ所の菱
形海域からは
二十三・五度
離れていたの

である。彼は、五対の菱形海域はそれ
ぞれ地球の正反対の位置にあるのでは
ないかと考えていたのだ。二十三・五
度の変移が生じたことで彼も仲間もす
っかり当惑してしまった。だが、だれ
かが二十三・五度とは地球の自転軸が
その公転面に対してなす角度だとい
うことを思い出した。これには何かの意
味があるのだろうか？

第二の重力

どの科学者にも別にはつきりした考
えがあるわけではなかったが、だれも
彼もが今まで見たこともないほど積極
的に意見を述べた。最後に具体的
な見解を発表したのは物理学者のジョ
ン・カースチュー博士だった。彼は重
力の専門家、第二の重力ともいうべ
き力の存在を理論的に想定し、それを
数式にまとめあげた人物である。この
力は、微弱ではあるが地球などのよう
な固体の表面では規則正しく並んだ渦
となって現れる、と彼は述べた。その
上、私たちの知る限りでは、渦という
ものは北半球では時計方向に、南半球
では反時計方向に回転するものである
から、それに対して他の力——第二重
力ともいうような——が生じること
は色々な理由から考えられる、とい
うのである。

船や航空機が行方不明になったり、風
もないのに風速一時間五百マイルの風
に乗らなければ到底考えられないほど
早く飛行機が目的地に到着したりする
という「おかしい事が起こる」という
事実を多かれ少なかれ容認せざるをえ
なくなつた私は、それまでに協会が集
めたデータを発表することにした。す
るとまたもや不思議な事件が起こつた
のである。

飛行士ゴッドフレイの
不思議な体験

私は、テレビ界で活躍している友人
のディック・キャヴェットから、彼の
番組に出演してこれも旧友のアーサー
・ゴッドフレイとこの問題を話し合わ
ないかという依頼を受けた。アーサー
と私は第二次大戦後、テレビ放送が開
始された頃からの友人である。彼は経
験豊かな飛行士で、以前「パームユ
ーダ三角海域」が話題になりはじめたこ
ろディックのショーに二度出演し、こ
の問題をさんざんやつつけたことがあ
る。そこでディックは心配して私に、
あまり攻撃されたら困りはしないかと
たずねてくれたが、私は、反論する自
信は十分あるから心配するなど答えて
おいた。

さて放送が始まるとアーサーは、
私が「菱形海域」すべての位置にする
しをつけておいた地球儀をつかみ、そ
れにまつわる不思議さむらむら体験談を

物語って、私たち二人をはじめ、会場のお客やスタッフを完全に圧倒してしまつた。アーサー・ゴッドフレイは軽々しくあつかえる人間ではない上に、彼の誠実さは申し分のないものだった。一度は菱形海域だの三角海域だの因縁話はみんなでたらめだと放送で公言した彼が、私の地球儀を手に数百万の視聴者に向かって、自分の経験を話したのである。彼の物語には三つの事件が含まれていた。

第一に、彼が双発ジェット機で世界一周飛行をしたときの出来事がある（この飛行のことはマスコミもいろいろと取り上げている）。「魔の海」の上空を飛行中に、コンパスもその他の計器も、無線も、一時間近くいっさいの機能を停止したという。「燃料が四時間ぶんしかないとときには、これは決して愉快なものではありません」と彼はつけ加えた。

大飛行艇マースの謎の消滅

次に彼は、ハワイと米国本土北西岸との中間の海域をカメラがとらえるように地球儀を回転させた。「マース」と命名された試作大飛行艇で彼は本土に飛んで帰ることになっていた。ところが彼の乗った飛行機の到着がおくれて、彼は飛行艇に乗りそこなつた。つまり、マースは彼を残したまま離水してしまつたのである。だが彼はレーダ

ーに映る飛行艇の像を見つめていた。ところが突然に——彼はカメラに向かって指をパチッと鳴らした——「飛行艇は突然消滅してしまつたのです」

私はすっかり仰天して口もきけなかつた。だがさすがにディックは質問を一つはさんだ。それに答えてアーサーは、この大飛行艇はたしかに存在していたが次の瞬間消失してしまつたのだとくりかえした。「捜索隊には何にも——油の帯さえも——発見できません——」

コーンシャルが入つたあとアーサーはもう一度私の地球儀を取り上げ、バリーミューダ菱形海域がカメラに正対するように回転した。北が真上になるように地球儀を支えた彼は、米国東部の海岸線が正しく北東から南西に伸びていることを指摘し、ニューヨークとフロリダ間を四六時中たたくさんの家用機が飛んでいるという話をした。彼らが始末せずに海を突き切れば百マイルは近道をする事ができる。だが彼らはバリーミューダ海域を避けて少し西を回って行くのだ。そしてこれはほかならぬアーサー・ゴッドフレイ自身が米国最大のテレビ番組の一つで物語っているのである。私自身でさえ信じられないような気がしてならなかつた。だが更に二つの事件が続いて起こつたのである。

私たちはある婦人からの手紙を受け取つた。彼女は定期的に西インド諸島に旅行しており、ジェット・バックのメンバーの一人だという。彼女の友人がプエルトリコからフロリダに飛んだとき、バリーミューダ三角海域を避けて飛ばねばならないので飛行は二時間半かかりますと航空会社の職員が説明するのを聞いて、友人はキモを冷やしたという。そこで彼女は、西インド諸島への飛行機に乗ることが「安全」かどうか知りたかつたのである。

軍用機も民間機もこの海域上空を飛行してはならないと命令されているという噂については、いろいろとバカバカしい話が口で伝えられてもいるし出版されてもいる。私たちはこの現象を調査してみることにした。その結果わかつたことは、軍にせよ民間会社にせよそのような指令を出した者がいたという証拠は全くない、ということだつた。民間航空路の操縦士である協会メンバーの一人は、この婦人の報告はまったくバカげた話だと言明した。事実、彼自身この空路を定期的に飛行しているのである。嵐を避けるために飛行経路が変更されたとき、だれか「ユーモアを解する」人物がバリーミューダ三角海域の話を持ち出したのではないかと、と彼はほめかけた。だがその彼も、この海域上空を飛行するときは特別に注意深く計器盤を監視していることは認められたのである。

謎の地域は十二カ所ある

毎年、文字どおり何百万人もの人々がこの海域を安全に航海したり飛行したりしているのが現実だ……信頼するに足る幾人かの極めて不思議な、人を不安にさせるような報告を別にすればである。このような報告にヒントを得て私たちは、例の手紙の内容についてももっともつと突つ込んだ調査を試みた結果、また新しい局面が開けてきた。

職業飛行士たちからの報告である。それによると、時間の歪みとでもいうべき現象が存在し、その大部分は十個の「菱形海域」に集中していることが——公式飛行記録の写しなどを基礎にして——証拠立てられたのである。

次に彼らは、そのような地域は十カ所ではなく十二カ所あるという、私たちのだれも気づかなかつた新事実を明らかにした。残る二カ所は北極と南極だということである。むしろ、両極で船舶や潜水艦が「行方不明」になつたという記録は一つもない。もっとも南極の場合は大陸だから当然のことである。飛行機が北極上空で行方不明になつたという記録は数も少ないし、それもありふれた原因で説明できるものばかりだ。北極（少なくとも）の不思議さは、時間と空間の歪みがいくつか存在することであり、それについては飛行士や艦または徒歩で水上を横断した

探検家たちが言及している。

もし両極が第六番目の一対であるなら、これら十二カ所の魔の地点は地球表面にきれいな幾何学的図形を形作ることになる。私たちは南極についてはまだほとんど何も知っていないが、北極に関してはかなりの知識を持っている。そして、極地に見られる重力、磁気、その他の異常を互いに関係づけて研究してみたらどうかとすすめたのは飛行士たちだった。だが私たちに、北極の大洋や氷原、南極の氷冠地方に特有のその種の既知の異常性とこの不思議な現象との関連性を発見できなかった。ただこの地域では明らかに「時間」に何らかの異常があることが判明しただけだった。

極地では羅針儀も正常に作動しないし、星を利用して位置を測定することさえ何週間も不可能なことがある。測定者の乗っている流水さえ流水原の中を動きまわっているのだ。現代の進歩した計器を使用しても、現在位置、進行方向、進行距離などが全くわからないうことさえある。一部の探検家や旅行者たちが進みすぎたとか進み足りないとか感違いしたのも無理からぬことだったのである。

時間の歪みがある！

以上の事実を総合した結果、航空機が異常に早く到着するなどの「時間の

歪み」とでもいう現象が存在すること、明白に記録されたような事件が十二カ所の「菱形地域」のあるものの中ではかなりひんぱんに発生すること、そして残りの「菱形地域」の中でも発生しているという噂や証言があることについて、具体的な証拠がそろったのである。

これらの地域が推定されるとおりに存在するとすれば、それらは三角形の眼を持った巨大な漁網のように地表をすっぽりおおう格子を形作ることになり、何か理論的な説明が可能であるはずだ。既知の物理的原因があてはまらないとすれば、私たちは今まで述べてきた現象に立ちもどるしかない。つまり、そこでは「時間」に何か異常があるということである。

ロンドンのロイド社が「行方不明」とその他のすべての既知の真の行方不明とを区別分類するのであれば、私たちはこの問題をきわめて真剣に考えるべきだ。それに、軍、民間の飛行記録が私たちの宇宙から「飛び出したり、また飛びこんだり」することの可能性を証拠立てている時代なのだから、もうこの問題と本格的に取組んでもよい頃だと私は考える。世界中の「行方不明」航空機に関するあらゆる詳細なリストがあればよいと私は思う。私たちは現在それを作成しようと努力しているのである。

増野一郎訳

UFOs & SPACE

No. 19 July-August, 1976

Price ¥ 390

Published by Universe Publishing Co., Ltd.

© 1976 All rights reserved

Captions for Color Photographs

TADANORI YOKOO IN INDIA

Cover

Tadanori Yokoo is internationally known for his fantastic illustration art. He is also famous as a UFO enthusiast and insists that he has seen UFOs many times in his life.

SAUCER-SHAPED OBJECT APPEARS OVER THE SEA OF GENKAI

page 2-3

Toshio Yokoyama is a sixth grade schoolboy of Iki Island, Nagasaki Prefecture. On April 17, at about 4 p.m., he was doing his lessons in his own room of his house when he heard odd sounds outside. He looked up at the sky from the window and found a dark silver object with the shape of a saucer. In an instant, he picked up his pocket size camera and took ten pictures in succession. He says, "It was fine and no wind on that day. So, I don't think it was a kite or an illusion caused by weather conditions."

A UFO CAUGHT THROUGH THE WINDOW OF AN AIRPLANE

page 4

This photograph was taken through the window of an airplane flying to Hong Kong from Osaka on April 2 by Tokuo Kataya, 28-year-old electric apparatus dealer of Kyoto. At around 10 a.m., when his plane came to the northeastern skies of Okinawa at a height of 8,000 meters, he found a white looking object flying under the right wing of the plane through the round-shaped window. About ten minutes later, the object suddenly began descending. So, he hurriedly released the shutter of his camera aiming at the object. The

object, which was elliptical and about 1 meter wide, had something like tentacles of a jellyfish, he said.

AN ELLIPTICAL LUMINOUS BODY FLEW LOW

page 4

Hayashi Tetsuji (23) is an employee of a company in Niiza City, Saitama Prefecture. He lives in his company's dormitory. At about 9 p.m. on May 3, he found a white elliptical luminous body flying low from the third floor window of the dormitory. He rapidly got back to his own room to take his camera, and went up to the housetop where he shot some pictures of the body. The subject is not distinct because he did not set the camera on a tripod. The body is orange in this picture, but it was white to his naked eyes, according to him.

MYSTERIOUS BODY NOT RECORDED ON THE PLANISPHERE

page 5

An amateur astronomy fan of Mogi-machi, Tochigi Prefecture, Tetsuo Yanaka (22) took two pictures of Mercury in about ten minutes time lag on the night of May 5 last year as Mercury had been in position for good observation. After he had the film developed, a luminous object which is not recorded on the planisphere was found out. Besides, the two pictures showed the object had moved from one place to another. The picture on page 5 is the second one. A blue luminous body is caught just at the left below Venus, the biggest white dot in the upper center.

JAPANESE SPACE DEVELOPMENT

page 6-7

These pictures show the launching of N Launch Vehicle-2 at Tanegashima Space Center on February 29 by NASDA (National Space Development Agency of Japan). N Launch Vehicle has three stages with the dimension of 32.6 meters in height, 2.4 meters in diameter and 90 tons in weight. It has a capacity for launching a satellite of 600 kilograms to the Earth orbit at an altitude of 1,000 kilometers.

宇宙人はなぜ人類と正式に 交流しないのか？

UFOの地球人類との接触のしかた解釈

坂元 邁つとむ

UFOが今年の最高の話題になっているが、これだけマスコミでとり上げても、UFOが人類に接触してきたこれまでのデータからそれを正確に説明できる意見を言う人が現れないのは残念でならない。そこで、私とその試みをやってみようと思う。

UFOの存在を確信する人たちは、たいてい銀河文明が存在すると思っっている。しかも彼らの文明は地球よりはるかに進んでいるだろうと想像する。もしそうであるならば、どうして人類に正式に接触してこないのか。

たとえば、通信手段でも、現在ほもつと進んだものを使っているとしても過去に電波を使っていたらうし、彼

らの技術をもってすれば、今ただちに全世界の家庭のブラウン管に直接呼びかけることだってできるだろうと思われる。

どうしてそういう方法で近づいてこないのか。このような質問はよく聞かれる。しかし、それに対し満足できる回答がない。

私はここ数年、そのことを考え続けやっとな確信をもって言える結論に達した。

マイナス領域の認識

SF映画に「サルの惑星」というのがあったが、地球の文明が銀河文明に對しただ「サル」の位置にあるという

ことである。

動物学的には彼らと対等の位置であり、宇宙人と交流できる資質では劣っていない。

しかし、知的レベル、意識という面で彼らとの間に、もう一つ進化しなければ仲間に入れない何か重大な欠陥をもっているということである。

その欠陥とは、一口に言えば「地球人は真理の半分の世界しか知らない」ということである。表にすると表1のようになる。

私達はプラスの領域の真理だけの自然科学をもっている。マイナス領域は自然科学の対象ではないと思っっている。それは客観できないからだが、精

神文明という形にしてしまった。

けれども、私たちはマイナス領域は「見えないのだ」ということをはっきり自覚しているだろうか。

昭和四十九年にブームを起こしたスプーン曲げがこの眼に見えないマイナスの創造現象であることを何人が自覚しているだろうか。

いくら高速度撮影をしても、曲がる瞬間の創造は眼に見えないのだという自覚があつたらうか。命や精神や心と同じ領域なのだ。

武蔵村山市の埋設管探査にしても、針金を人が手にしたとき、生命のオーラが針金に伝わり、それが埋設管に反応するのは生命の創造する力の応用で

あって、現代科学の領域外にあることを何人が自覚しているだろうか。

西洋医学と東洋医学

眼に見えない領域は科学の対象外という考え方もくずれ始めている。

ここに二本の銅線があつて、一本には電流が流れているとしても私たちは見分けることができない。人間が電気存在を知ったから客観できる電流計を作ったのである。

ここに録音してあるテープがあるとすると「これは鉄粉を塗ったテープである」(物質)とも言える。「これは情報である」(見えない)とも言える。では、この喜怒哀楽を含む情報をテープという物質に込めることができたのはどうか。

それは眼に見えない電気を科学としてとり入れ、その性質を研究してきたからである。

肉体は見えるけれども生命は見ることはできない。しかし、電気と同じように生命の電流計ができるはずである。少なくとも、心電図を見ているときの西洋医は、そのときは生命を見ている。あの機械の教本のペンが動きをやめ、描く線が直線になったとき「生命がなくなつた」と知るわけである。死体という肉体は存在するのに。

肉体の解剖学だけ知っている西洋医学は幼稚であり、見えない生命の解剖学(配線図)を知っている東洋医学は

はるかに真理を見る眼において進んでいる。

マイナス領域は

マイナス科学で

昭和五十一年は決定的な年になるだろう。眼に見えない領域を自然科学に組み入れようとして、またUFOも研究対象にする唯一の学会として日本P S学会が発足した。

さて、真理にプラスとマイナス領域があることをようやく悟り、共に自然科学としてとり組もうとしているのだが、新しい領域を今までの科学でやって果たして進歩するだろうか。

やっかいなことに、真理究明の手段である科学にもプラスとマイナスの科学のあることがわかってきた。そしてマイナス領域はマイナス科学でやらなると進歩しないのである。

マイナス科学の

対象は生命

「なぜ物は皆下へ落ちるのだろうか」とニュートンが疑問をもつたからこそ科学は生まれたのであり、「疑問をもたないところに科学は生まれぬ」という神話は今も大半の人々の心を占めている。

「疑問をもたない」ところから生まれる科学があることを自覚していない。現実はこの世に存在し我々がそれを使っているにもかかわらず、まだ気づいていない。

水俣病証明で知られる疫学や生態学、行動科学、心理学などは、実験のデータを信ずるところから始まる科学である。データに疑問をもたずそれだけは動かないものとして受け入れ、それを積み上げて真理を見つめる学問である。つまり、マイナスの科学は、分解、分析、解剖という内への追求をしないのである。

事実を信ずることから始まるので、外へ積み上げるしかない。この科学は原因を追求しないで、データの集積から蓋然性で真実を証明するのである。今までの科学は既知の領域では決定的な力を発揮する。戦後三十年の日本の変化はそれを如実に物語る。しかし

未知の領域では手も足も出ないのである。

ところが驚くべきことに、マイナスの科学は既知、未知に関係なく、自由に未知の真理を人類の福祉に今すぐ利用できるといふ特徴をもっている。

たとえば、武蔵村山市水道課の二年間の実績を疫学調査すれば、間違いなく科学が正式にこの真実を証明し、マスコミで実施講座が行われて普及実践され、金属探知器産業が縮小消滅して、逆産業革命が始まり、脱工業化社会への第一歩が始まるのである。

創造現象さえ今すぐ利用できる科学である。

マイナスの諸科学は生命を対象とし

宇宙問題探求者必読の書 好評発売中

なぜ空飛ぶ円盤は来るのか

フレッド・ステックリング／久保田八郎訳

¥750 送料 ¥140

宇宙人から伝えられた人間の生き方を詳述

テレパシー

ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳

¥450 送料 ¥140

生命の科学

ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳

¥650 送料 ¥140

文久書林 〒113 東京都文京区白山1-29-12
振替・東京4-2521 Tel 03(812)2495

当社刊行物が書店にない場合は、振替・現金書留・低額切手等で当社宛直接ご注文下さい。代金あと払いの注文は、おことわりします。

真	プラス領域	非生命 破壊 物質 物 肉体	理	マイナス領域	生命 創造 精神 心 いのち
		見える			見えない

ていて物質を対象としていない。物理学が決定論であるという一事でもこの事は明らかである。

逆産業革命

科学の定義を現在のままにしておく、生態学や疫学、行動科学などはすべて非科学ということになる。

逆に東洋医学がいまだに民間療法といわれ、西洋医学よりはるかに進んだ生命を見ているのに学問としての扱いを受けていないのは、マイナスの領域が確立されていないからである。

定義を書きかえなければいけない。辞書からその部分を引用すると、

「あるものについて科学的な認識活動によって得られた知識は、同じものについて他の認識活動によって得られた

結果と違った性質をもっている」。だから「後者は科学とは別ものだ」と思い込んでしまった。

これを次のように改めるべきだろう。「あるものについてプラス科学的な認識活動によって得られた知識に対し同じものについてマイナス科学的な認識活動によって得られた結果は違った性質をもっている。即ち、違った性質をもった別な科学が生まれる」

そしてこの全領域科学によって作られる文明は、プラス科学だけの文明社会とは全く異質な文明である。

現在私達はプラス科学文明社会にいる。そしてマイナス科学が確立されると一十一二といったようなものではない。電球をともすためにはプラス、マイナス共に必要である。即ち、ゼロか百かの違いであり、真文明は地球にまだともっていない。またゼロである。今ようやく真文明が生まれようとするところである。

十字軍の遠征などの挫折感から宗教改革が始まったように、公害・汚染・地球破壊の挫折感から科学改革が始まるということであり、第二のルネッサンスが始まり産業革命があったように逆産業革命を迎えるということである。

それは退歩ではなく進歩であり、福祉を増進させながら量的には縮小するという唯一の道である。

プラス科学だけの量的拡大社会は人類の自殺行為であることを、宇宙人が

人類に知らせたいと思ったならば、彼らは真理のマイナス領域を人類の内政に干渉せずに知らせようとする。人類が自分で新領域を発見するように仕向けるであろう。彼らは地球人に「超常現象を見る機会を多発させる」という方法をとった。

信ずることの意味

彼らの目的は人類と交流することではなく、交流できるように、知的サルから知的人類に引き上げようとしているのである。

しかもそれは、交流したい目的よりも緊急な理由があるからであって、人口爆発と消費爆発という人類の自殺行為は、あと太陽を数十周で破局を迎える。

ここ二、三年のうちに人類が方向転換の方法を発見するよう、あらゆる試みをしていると思われる。

「もしそうなら、なぜおきて来て、それを説明しないのか」と言う人があるかもしれない。

どうもそうではないらしい。彼らが正式に人類代表に会えば「資本主義も共産主義も科学的に間違っている」と言わざるを得ないだろう。

これは地球の内政干渉である。人類の運命は人類が決定するといった宇宙的倫理があるような気がする。

彼らが善意をもつならば、最終的には次のような方法になってくる。

「事実であれば信ずる人」へはますます接触が盛んになり、「事実であつても科学的証拠がなければ信じない人」へは、ますます奇々怪々と思えるかたちでしか接しない。科学的に価値のないかたちでなら「すばらしい奇跡が起こる」という現れ方もするだろう。

それが人類を「信ずるところから始まる科学」に目覚めさせる、彼らのできる精一杯の善意である。

この「信ずること」がどれほど重大な意味をもつかを理解してもらうために、三列記してみよう。

○真理のマイナス領域の化学的・物理的变化を成功させ、確実にする法則を倫理または道徳という。(信ずれば物理現象が起こるなどの例は全てこれに含まれる)

○真理のプラス領域には「いつでも、どこでも、だれでも」という普遍性がある。マイナス領域にはそれがない。逆に言えば、真理のマイナス領域には「人格を磨けば磨くほど、いつでも、どこでも、だれでもできる」という普遍性がある。

○宗教とは真理のマイナス領域を人間の情念に訴えて説明しようとする試みであったと思われる。だから「真理のマイナス領域の自然科学が生まれる以前の状態を宗教という」とも言える。

(本稿のプラス・マイナスの設定はエントローピー増大方向をプラスとした)

絶賛 増刷発売中!

改訳合本決定版

米ジョージ・アダムスキー財団より翻訳合本出版権獲得

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

宇宙からの訪問者

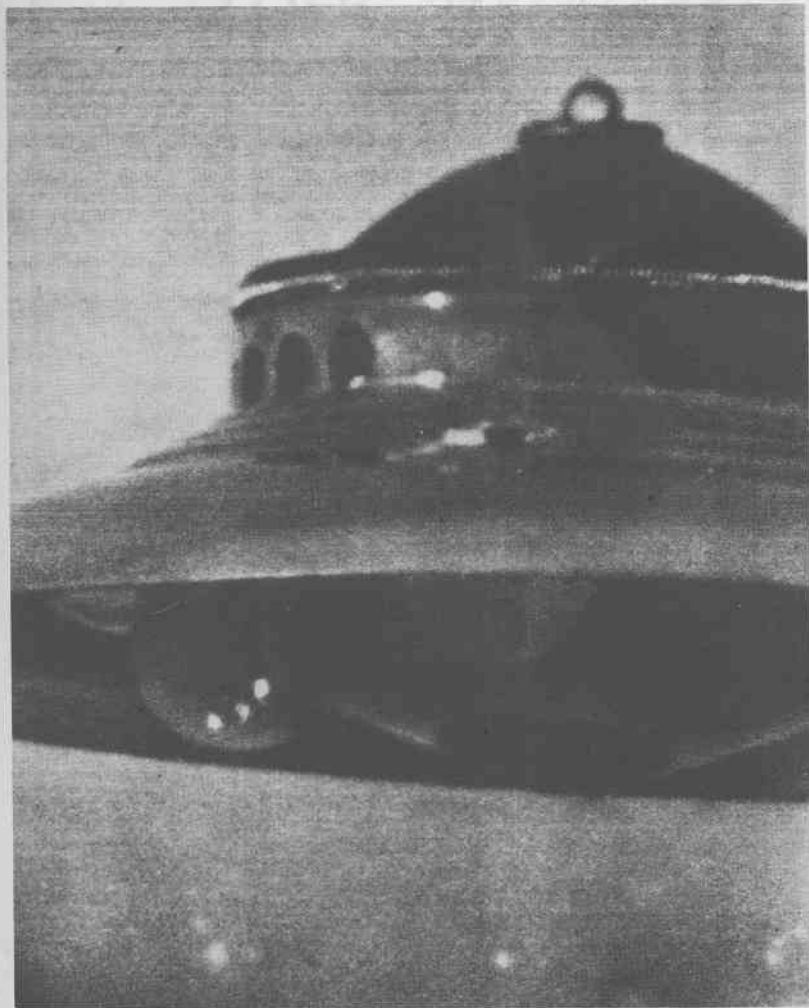
— 偉大な惑星人との会見記 —

定価1,300円＋160

●B6版342頁／本文厚手上質クリーム紙使用／写真頁極上コート紙使用／美麗カバー付保存版

●空飛ぶ円盤は実在する！ 遠い惑星から偉大な進化をとげた人類が大宇宙船を駆って地球の救援に飛来する！ 壮大きわまらない宇宙空間の大スペクタクルと驚異的事実を伝えた本書はまさに20世紀最大のドキュメントであり、UFO研究者のみならず全人類必読の永遠の古典である。

●本書はかつて「空飛ぶ円盤実見記」・「空飛ぶ円盤同乗記」として知られた名高い2点の記録書をアダムスキー研究者として著名な久保田八郎が流麗平易な訳文により全面的に改訳、「実見記」の内、アダムスキーの手記と「同乗記」全文を合本として事件の理解を容易ならしめ、また未発表の写真類を加え50点以上の写真・図解を一挙掲載した。なかでも金星人オーソンの肖像写真、金星のシンボルマーク2点、その他の貴重な写真類は読者をして遙かなる惑星群に限りなく憧憬と畏敬の念を抱かせるだろう。



〒110 東京都台東区
上野5-1-6 ヤマトビル

株式会社ユニバース出版社

電話(832)1341(代表)
振替・東京1-119478

大地震は予知でききるか

あなたもできる大地震の予知

一九八二年有史以来前例がないさそり座惑星直列で巨大地震が世界中に頻発か？

大地震を予知した椋平虹！

昔から、地震、雷、火事、親爺といつて、怖いものの筆頭は何といつても地震だ。雷、火事、親爺は、用心すれば難を避けられるが、地震だけは、いつ起こるかわからない。用心するといつても、突如グラグラとくると、何はおいても逃げる条件反射的行動をするのが人間の本能のようだ。しかし本当に大きな地震になると地面が波打ち、逃げるにも足腰が思うようにいうことができない、これは大地震の体験者が、異口同音に語る事実だ。こんな怖い大地震も、あらかじめ起こることが予知できれば、建物などの倒壊はヤむを得ないにしても、人命や災害を最少限に止められるだろう。鉄筋コンクリート七階建の大和百貨店が崩れ、駅のホームが地面すれすれまで、めり込み、

駅構内の鉄道線路が、そばか、うどんのように入り乱れ、大劇場が一瞬のうちに倒壊し、橋という橋がすべて墜落したり橋脚が倒壊したりして、大きな被害を出した昭和二十三年六月二十八日の福井地震の災害状況をこの眼で見れば、何とかこのような巨大地震を事前に予知できないものかと興味をもつようになった。

昔からの地震を予知する方法といえは、専門研究家でない限り、一般には、いわゆる迷信のたぐいで語り伝えられている程度の知識である。たとえば、井戸の水が濁ると地震が起こるとか、ニワトリやキジなどが夜中などに突然に鳴くと地震が起こる、また九星学では、地震を、五黄、大才、才破、月建、月破の部類と考え、六白、五黄、三碧などの星に大才や、月建、破れがまわったときとか、地面を申の事象と考え、申と反対側の寅のどちらかに大

才、月建、破がまわったとき、地震が起こる事が多いなんていう程度で、あまりあてになる予知手段とはいえない。ところが、京都の椋平孝吉さんは、普通の肉眼には見えない虹（椋平虹といわれている）が椋平さんの眼に見えるとき、必ず地震が起こる、そしてその起こる地点や、いつ頃起こるかを予知し、関係筋に知らせたという。しかし、だれもこれを信じなかったが、事実は必ず起こったので、不思議な存在として有名であった。

生活環境に潜む

巨大なエネルギー！

最近科学的に地震を予知する研究が進められて、その成果が次第にまわりつつあるが、私は、本誌にもすでに発表された空飛ぶ円盤とオーラの研究により、地震予知に関して不思議な事実が気がついた。

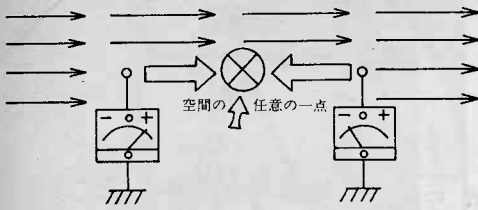
それは、昨年夏モンテカルロで開催されたサイコロトニクス国際研究会議

工学博士 内田秀男
で発表し、また今年五月、日本PS学会の会誌にも発表した「電場誘導効果」という仮説原理により説明できる天体電磁波エネルギーの仕業が原因ではないかということだ。

電場誘導効果というのは、第1図のように電磁波エネルギーの放射場のなかで物体が動くとき、磁場には無関係にその物体のなかに電気が起こる現象である。動く物体が導体のとき、一般に電磁波エネルギー放射場のより強い方に動くとき、導体中の負電荷が増え、より弱い方に動くとき、反対に減る現象を伴う。

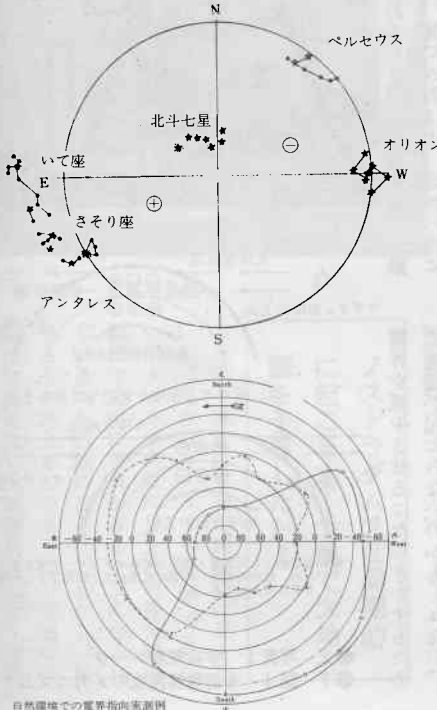
しかし、同じ電磁波エネルギーでも放射源がアイソトープのような核エネルギーのときは、反対極性の現象を伴う。これは核エネルギー源と考えられる太陽や、銀河の中心方向（いて座、さそり座の方向）の場合も同様の現象を伴う。これは導体片を空間でふりまわして、そこに起こる電気現象を検出してみるとハッキリ確認できる。写真

放射電磁波エネルギー



●上 図1 放射電磁エネルギー
 ●中 図2 宇宙電解の図
 ●下 図3 自然環境での電界指向実測例

1は、その検出メータの試作品で実例した結果より、第2図のような姿で第3図の例のような宇宙電界にたとえられる電気的なエネルギーが我々の生活環境に潜んでいることが観測できる。この観測実験により、オリオン座、ペルセウス座付近の方向の空間から、我々の生活環境に強力で巨大な電磁波エネルギーが放射して来ていることが観測できる。これは、ことによるとオリオン座の方向の空間の一角から放射して来る天体電磁波エネルギーにより、太陽系を含む銀河系全体が駆動されているのではないかと考えられる程、強力で巨大な電磁波エネルギー源のように観測される。このような天体電磁波エネルギーが充滿する宇宙空間を地球が自転するとき、我々の生活環境には、第4図のような上下方向の宇宙電界が潜在的に発生するであろうこと



自然環境での電界指向実測例

効果で、天体電磁波エネルギーによる。そしてまた地球自転に伴う電場誘導効果で、天体電磁波エネルギーによる。さて、この上下方向に極性がある宇宙電界エネルギーは、オリオン座の方向だけの影響とは限らず、いろいろの天体星座の方向から放射して来る天体電磁波エネルギーで我々の生活環境には時々刻々と変化する宇宙電界が発生することは、当然理解できるであろう。そしてまた地球自転に伴う電場誘導効果で、天体電磁波エネルギーによる。

巨大地震に関連する宇宙電界

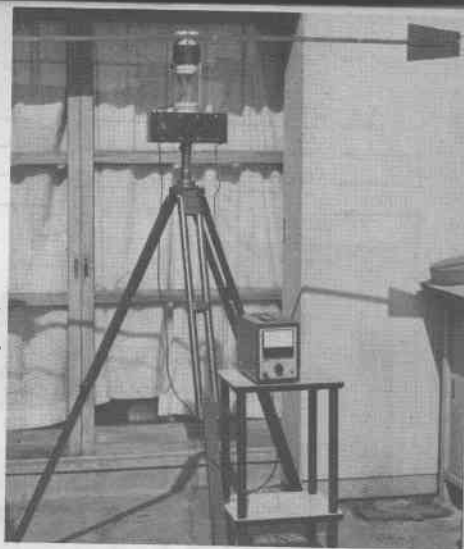
は、容易に推測できるだろうし、またこれを実測することもできる。これは、オリオン座の方向から放射して来る天体電磁波エネルギーの影響だけを考える図であるが、空気層を絶縁物、地面を導体と考えれば、空間と地面の上下の関係で、一の極性ができることを理解できるであろう。

宇宙電界発生が最大になるのは、地上で観測すると、東の地平線に昇る星からの天体電磁波と、西の地平線に沈む星からの天体電磁波によるものだという事は、円の接線を考えれば容易に理解できる。これは重要なことで、昔から西洋占星術では、東の空に昇る星をドラゴンヘッドといって、人間が生まれるとき、最初に受ける天体電磁波エネルギーの影響はどの星かで一生の運命を占う、つまり、運命のリズムのスタートポイントを示すものとして重要視されてきた基本原理なのだ。これは東洋占星術においても同様で、東の方向を震となし、運命のリズムの震動方向を考え、また霊字の分野では、東に昇る太陽に向かって両手をひろげて上げ、いっばい腹の底から息を呼吸し、靈感を得る修業法がある。これらは奇しくも、地球自転に伴う電場誘導効果による天体電磁波エネルギーが、人体のツボを介して人体に及ぼす影響を巧みに応用してきていたのではないかな。

雨が降っていると巨大地震は起こらない!

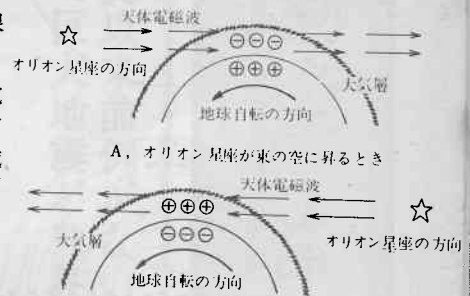
過去十年間に日本国内で起きた地震の発生日時を統計的に調べてみると、つぎの四種類に大別できるのが興味深い。すなわち、

- a オリオンが東の地平線より昇り、さそり座アンタレスが西に沈むとき、この時間帯は、東北東から西北西に銀河が橋のように空にあるときだ。
- b さそり座アンタレスが東の地平線より昇り、オリオンが西の空に沈むとき、この時間帯は、銀河がほぼ地平線と並行するときだ。
- c オリオンが南の空にまわるとき、この時間帯は、銀河がほぼ北西から南南東の方向に橋のように空にあるときだ。
- d さそり座アンタレスが、南の空



にまわるとき、この時間帯は、銀河が、東にかたより、北から南に橋のように空にあるときだ。

a、bの時間帯は、前述のように、宇宙電界の影響が最大、c、dの時間帯は、オリオンまたは、さそり座アンタレスによる宇宙電界の十、一の極性が逆転する時間帯と考えれば理解もしやすいであろう。そこに重ねて東の地平線に太陽とか月、惑星が顔を出すごとく昇って来るとか、西の地平線に沈むといった条件、そして太陽、月、惑星のどれかが、地球との関係で、「衝」とか、「合」になる時間帯が重なるとき、グラグラとくる。しかし、この時間帯についてこれまで丹念に調べてみると、雨が降っているときには地震が起こりにくい。これは地殻に潜在する歪の有無、大小に密接な関係があることはいままでもないが、たとえ、その歪があっても、ことによると空気中の電気的絶縁がわるくなり、発生する宇宙



注) 地表にも大気層と同様の電磁エネルギーが発生するが、導体のため、他の地表域との間に電流を生じ中和するため、極性が逆転すると考えられる。

●上 写真1 宇宙電解メータ
●下 図4 宇宙電解発生メカニズム

電界を減少させるはたらしきをするために地震が起こらないのかもしれない。

a、b、c、d、といった条件を調べるには、写真2のような星座早見盤を使い、また、衝とか合を調べるには、天文年鑑を調べるとよい。a、b、c、d、の条件は毎日必ず一度はあるが、他の惑星や、月、太陽の影響がタイミングよく重なる条件は、毎月あるようにも考えやすいが、よく調べると、一年のうちにはそうやたらと起こらない。まして雨が降るといった天候の条件を考えると、巨大地震の心配は数少ないことがわかるであろう。

星、太陽、惑星、月から の電磁波エネルギーが地球をゆさぶる!

果たして、a、b、c、d、の条件で地震が起こるか、また世界中に起こる地震についても、この条件が満足す

るかどうか実例について調べてみよう。

1、今年二月四日午前二時(日本時間午後五時)頃、グアテマラ市に起きた大地震。これを星座早見盤で経度を東に約一三〇度補正して調べてみると、現地時間で、ちょうどオリオンが西の空に沈む前述bの時間帯にピッタリ一致しているのだ。

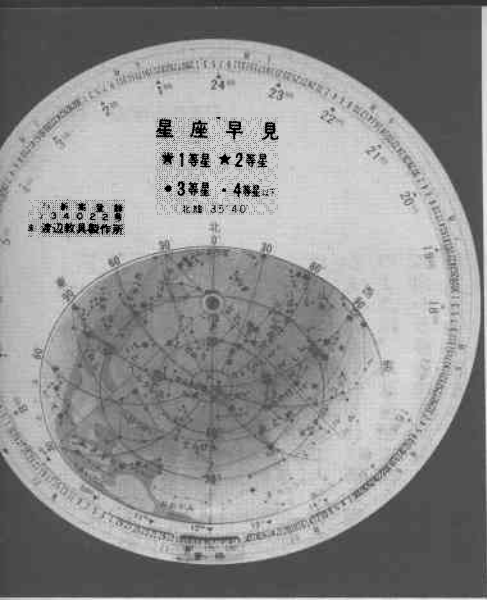
2、今年の五月六日午後九時(日本時間七日午前五時)頃、北イタリアのプイアの町に起きた大地震。これを同様、星座早見盤で経度を西に約一三〇度補正して調べてみると、現地時間で、これもまた、ちょうどオリオンが西の空に沈む前述bの時間帯にピッタリ一致しているのだ。

3、今年、六月十六日山梨県を中心にした強い地震。第一回目が午前五時三十四分、これを星座早見盤で調べると、前述aの時間帯にピッタリ一致しているのだ。つづいて第二回目以後に起こる地震は、東と西の地平線にどんな惑星が昇るか、沈むかによって、その影響が大きいときに起こる可能性があるようだ。たとえば、この第二回目の午前七時三十六分には、東の空に土星が昇り、第三回目午前九時五分には、西の空に月が沈む時間付近に一致している。これは第一回目の地震でできた不安定な部分が安定するまでは、わずかの宇宙電界の影響でも地震の原因になるのではないだろうか?

ここに挙げた実例は発生日時と場所がわかっている今年の例で、決して都合のよいものだけを取り上げたのではない。過去に起きた地震例も発生日時がハッキリわかるなら、星座早見盤で検討していただくとよい。またこれくらいいつ起こるかわからない地震について、果たして前述の条件に該当するかどうか、興味ある読者諸兄と共に研究してゆきたい。このような条件に従う地震が数重なれば、将来あなたも自分自身で地震発生の可能性を予知し、災害から逃れることができるようになるであろう。

大地震の前に起こるオーラ風!

さて、ここでいう宇宙電界というのは静電気メータでは検出できない。静電気メータのプローブ探針を動かしてはじめて検出できる生活環境に潜在する電場エネルギーなのだ。動かすということは空気分子との摩擦電気を測っているのではないかと考えやすいが、摩擦電気ではない。この現象は、プローブ探針を静電シールドしてアースを完全にともつても、なおこの現象が観測できるのだ。これは従来の電磁気学にはない電気現象で磁場には無関係であるところから、「電場誘導効果」として、モンテカルロでのサイコロロニクス国際研究会で発表したわけだ。この電場誘導効果によって検出され



●写真2 星座早見盤

る電場エネルギーの分布形状や、^{プラズマ}一の極性は、普通の肉眼には見えないが、何万人かに一人といった稀に存在する霊能者の眼に見えるオーラの特徴と極めて酷似している。つまり、電場誘導効果によって検出される電場エネルギーの分布はオーラ現象だということだ。

このオーラ現象とは、森羅万象すべてに躍動するオーラの姿があり、人体からも人体オーラを放射しているのだ。つまり、人体はオーラを介して自然界のオーラにつながっているのだ。鎌倉の鶴田照子さんは、十勝沖地震（これは前述のaの時間帯に起こっている）が起こった昭和四十三年五月十六日の前日、私が「電波技術」の松永記者と探訪したとき、ハッキリ大地震が近々に起こると予言した。これ

は当時の電波技術誌や、大陸書房発行拙著「四次元世界の謎」のなかにも記録がある。また前出の椋平孝吉さんの、大地震の前に現れるという虹現象、これも自然界のオーラ現象を観察していたのではないだろうか。これは、東京府中の井上知江子さんが、大地震の二十四時間前あたりから、大地震の起こる方向に、たとえ青空でも色の虹が見えるという実話を語ってくれたことから、大地震の前には自然界のオーラ現象に異常が起こるのだということがわかった。私は彼女が言うことを一年間信用しなかったが、二回も連続して起こったグアテマラ大地震のそれぞれ前日に、電話で虹の見える方向を知らせてきた、そして事実その大地震が起こった。大地震が起こる前には、大地震が起こる地域付近を中心に自然界のオーラ現象に嵐が起こるらしいのだ。

**ノストラダムスは周期的
に起こるオーラ嵐で大地
震を予言したか？**

オーラ現象は普通の肉眼には見えないし、現在のカメラでも撮影できない。カメラは肉眼に見える可視光線の範囲で忠実に写真が写るように作られているから当然のことだ。しかし、椋平さんや井上さんのように、普通の肉眼には見えない大地震前兆のオーラ現

象は光線エネルギーの一種とも考えられるので、とらえ方によっては、将来きつとオーラレーダのようなものができるであろう。もしオーラレーダなるものが実現すれば、気象台とか消防署の火の見櫓などに取り付け、連続観測によって大地震を完全に予知できるようになるだろう。

そればかりか、オーラ現象のなかに起こる変化を分析すると、二十四時間の未来などといった近視眼的な予知にとどまらず、数年、数十年、数百年先の未来まで予知できるらしい。

それは、かの有名なノストラダムスの予言詩集（たま出版刊「ノストラダムス大予言」）のなかに実例があるのだ。

四百二十年前に予言され、それが的中した実例がいくつもあるのだ。そして、やがて的中するかもしれない謎の予言詩がそこにいくつもあるのだ。

〈第九章 八三番の詩〉

太陽が雄牛座の二十番目(五月十日)にあるとき、大地は激しくふるえ、満員の大劇場は倒壊し、大気、天、地は暗くにごり、不信仰者は

神をよび、聖人をよぶだろう。

〈第十章 六七番の詩〉

地震は五月に起こり、土星、流星塵

木星、水星は雄牛座に、

金星も同じくかに座、

火星はゼロに、そこで卵より大きい

雹がふるだろう。

これらの二つの予言詩は、いずれも大地震が五月に起こることを予言している。五月には太陽が雄牛座の付近にある、ことに五月十日という日、朝、東に太陽が昇るとき、ちょうど西にさそり座のアンタレスが沈む。これは前述aの時間帯に太陽が東に昇る条件が重なっている。したがって、この時間帯の地球自転に伴う電場誘導効果で起こる宇宙電界、つまりオーラ現象は、東に昇る太陽のために東の方向が^{プラス}、西に沈むさそり座アンタレスのために西の方向は、東に向かつて一になっっている。ところがそれより約二時間後には、東に昇るオリオンのために東の方向が一、西に沈むさそり座、いて座のために、一になる。これは東の方向において、約二時間の間にオーラ現象に大きな変化が起こる。

このオーラ現象の変化は、地殻に歪が大きく潜在する場所付近の自然界のオーラエネルギーと相互作用を起こし、オーラの嵐のようなものが起こるのであるというところは理解できるであろう。

第一章、一番、二番、第四章二五番

などの詩から、ノストラダムスはオーラ現象が肉眼で見た霊能者と推定される。したがって、この大地震の予言詩は毎年五月頃というように周期的に起こるオーラ嵐の姿を霊視してこのような予言詩を作ったのではないだろうか。

惑星直列で世界中に 巨大地震が頻発するか？

地球の自転に伴う天体電磁波エネルギーによる天体オーラ現象は、基本的には、周期性があるので、ノストラダムスが予言詩にいうように毎年五月頃には地球上のどこかで大地震が起こるかもしれない。それは第5図の計算例のように、地球自転に伴う地表面の東に向かう移動速度が大きい地域の方が、天体電磁波エネルギーによる電場誘導効果が大きいので、同じ程度の地殻の歪でも、地震発生の可能性も大きいだろう。しかし、それは五月頃に集中するとは限らない。五月以外の月にも、前述のようなオーラ風を起こす条件が揃うときもあり、事実、巨大地震は世界の各地で五月以外の月にいくつも起こっている。したがって、ノストラダムスの予言詩にいう五月頃に集中して、大地震が起こるとは限定できない。

ところが、一九八二年にはさそり座の方向に太陽系の惑星が一直線に並ぶ惑星直列のときがやって来る。この惑星直列の現象は約百七十九年に一度起こるのだがさそり座の方向に集中するのは有史以来初めてのことであり、ここにノストラダムスが予言詩にいう五月の謎がクローズアップしてくる。それは惑星が集中するさそり座の方向が西に沈む時間帯に東の空に太陽が

昇る条件が重なるとき、それは、前出の予言詩のように五月十日頃に奇しくも一致している。惑星がさそり座の方向に集中することは、その方向からの天体電磁波エネルギーが重畳すると考えられ、天体オーラの嵐もグーッと強大なものになるのではなからうか。これによると、一九八二年の五月頃は強いオーラ嵐のために、世界中いたるところで巨大地震が頻発するかもしれないのだ。そして一度起きた巨大地震による地殻構造の不安定な部分は、安定するまで、ちよっとした天体オーラの嵐でもグラグラが連続して起こる原因になるかもしれない。ノストラダムスの予言詩のナンバーに秘められたカギを推定してみると、九一八三は、一九八三年頃、また、一〇一六七は、一〇を一年間と考え、六七は六月、七月、または比率から八月、九月頃までも連続することを意味しているのかもしれない。ということは、一九八二年に起こる惑星直列の状態に近づくにしたがって、世界中に巨大地震が起こる頻度が次第に増大しつつあるのではないだろうか。もし、前述の、a、b、c、d

の条件にしたがって巨大地震が起こる可能性が大きくなると、一九八二年の惑星直列のときには、地域によっては、朝、昼、夕、夜中と一日四回以上、場合によっては、東に昇る天体、西に沈む天体の数に対応して、毎日毎日たいやきではないが、グラグラゆす

られる可能性もあり、しかもそれが巨大化する可能性もあるのだ。それこそ世界中の休火山がつきつぎと大噴火を起こし、どこかの島は海底に沈没し、大洋のなかに新しく大陸が浮かび上がり、地球自転のバランスが狂って、地軸に大きな変化が起こるかもしれないのだ。もし地軸が大きく変化したら、それこそ北極や南極の水が溶け、世界中至るところに水位が上がり、大地震とともに巨大な津波が押しよせることになりかねない。これはまさにノストラダムスの大予言にいう謎が現実の姿になって起こることになる。

第一章五六番、第二章九一番、第八章十六番など、予言詩の文は略すが、前述の惑星直列に関連して起こるかもしれない地球自転軸の大変動や、これに伴う巨大な津波、どうにもならない大災害についての謎の予言が、暗号のキーナンバーにつながって沢山あるのだ。

ともあれ、このようなとてもない事態がもし発生すれば、それこそ人類は天に向かって神をよび、聖人をよび、命乞いをし、心から平和を神に祈るであろう。このような考え方は社会不安を起こすことになり、一部からけしからんと声がかかるかもしれないが、約百七十九年に一度起こる惑星直列がさそり座の方向に集中するのは、有史以来、全く同じ条件の前例はないから、以前のときはこうだったという

高性能 地下核爆発探知 三時間前から



ハッキリした記録もない。したがって、大地震に関連が深い天体オーラ現象を科学的に研究し、いっどこで起こるかわからない巨大地震を確実に予知し、災害を科学的に回避するのが目前の緊急課題ではないかと考える。

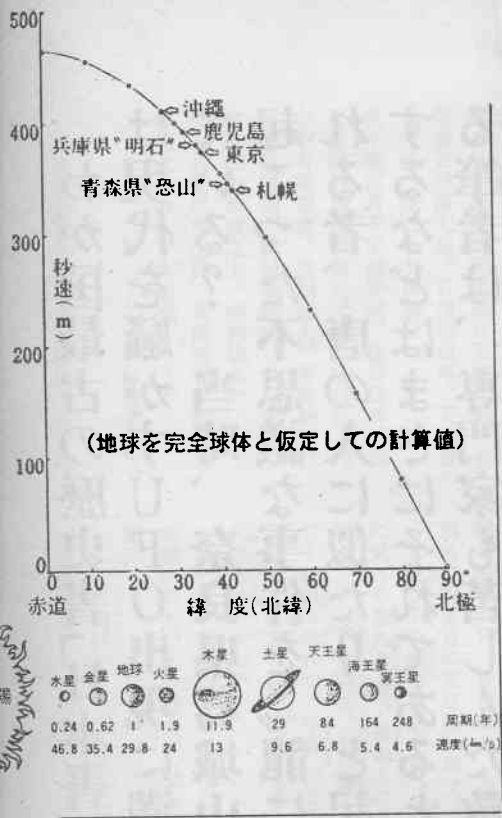
不思議現象に興味をもつ読者諸兄へ！

私は一九六三年以来、オーラ現象に関して科学的に慎重な調査と実験を繰り返して研究し、月刊誌「電波技術」「映像情報」にすでにその一部を発表してきた。また、大陸書房刊拙著「四次元世界の謎」正、続、新の三冊と「神秘の四次元世界」にもまとめられているが、本誌にも第八号に寄稿してある。

昨年度には、モナコ公国モンテカル

●写真3 東に星が昇る時、西に星が沈む時、地震が起きる (6月22日付朝日新聞)

間、観
感地
松代
日本に
計が設
の地下
に開発
倍の倍
を取り
四十九
引き上
一般の
3.5
以下の
さるま



●上 図5 地球北半球地表面における自転速度。
●下 図6 惑星が直線上に整列する。

今年一月一日より、情報理論で著名な関英男工学博士が会長で「日本 P S 学会」というのが発足し、この世の不

思議現象を純科学的に研究し、その成果を即実用化する学術研究団体に発展しつつある。P S というのは、プシー・サイエンス (Psi Science) 、一精神科学、サイコトロニクス (Psychotronics) 、サイコロジとエレクトロニクス、つまり心理学と電子工学、パーフェクト・サイエンス (Perfect Science) ー完全科学といった言葉のすべてに P と S があるので、日本 P S 学会というので、宗教的でなく純科学的な学会なのだ。

「電場誘導効果」という従来の電磁気学でない一つの仮説原理の結論をえぐりだし、迷信の謎を解くのはオーラ現象だという結論を得た。

公益法人(社団法人の予定)の認可を得るには、最低千名以上の有料会員が必要だとのことで、目下会員募集に懸命になっているところだ。有料会員といっても、入会金千円、年会費三千元、学生会員は、入会金五百円、年会費二千元、会員はすべて、この学会の役員の選挙権があり、毎月、最新の P

ロで開催されたサイコトロニクス国際研究会、また今年六月にはイタリアのサンレモで開催されたパラサイコロジ国際会議にも、オーラ現象を電気的にとらえる「電場誘導効果」に関して研究発表をした。私はなぜこのオーラ現象に関して重点をおくかの理由は、従来の電磁気学では説明ができていないいわゆる四次元科学の諸問題、たとえばテレパシー、念力などの現象は、現代科学がいかに迷信と否定しても事実がそこに起こる、これは非常に重大なことなのだ。私はこの謎を探った結果、

「電場誘導効果」という従来の電磁気学でない一つの仮説原理の結論をえぐりだし、迷信の謎を解くのはオーラ現象だという結論を得た。

今年一月一日より、情報理論で著名な関英男工学博士が会長で「日本 P S 学会」というのが発足し、この世の不

帰ってきた ユーホロジスト

昭和48年1月から49年10月までの22ヶ月間、「月刊ユーホロジスト」紙を発行し、450名の読者を有した、日本でただひとつの「ユーホロジスト」が、UFO研究界情報専門紙「ユーホロジスト」が、20数ヶ月間にわたる銀河系宇宙旅行から、ふるさと地球の日本に帰ってきました。「帰ってきたウルトラマン」帰ってきたあかねのねにつづく、「帰ってきたユーホロジスト」を、どうぞよろしく……。

〈当クラブに入会するには〉

- 一年分の会費 800円を「定額小為替」(全国のどの郵便局でも作ってくれる)で、お送り下さい(現金書留より、ずっと安く送金できる)。
- メモ用紙一枚に、あなたの郵便番号・住所(正確に)・氏名(フリガナをつけて)・年齢・職業(又は学校名)・TELを、ていねいな字で書いて同封して下さい(乱雑な字や、判読できない字でかかないこと。判断できない場合は、会費は寄付金として処理しますから念のため)。

〈会員には……〉

- 毎月「月刊ユーホロジスト短信」(ハガキ版)を送呈します(毎月20日発行)。内容は、国内各UFO団体の近況報告、UFO図書新刊情報、会合や講演会のお知らせ等々……。年一回「別冊ユーホロジスト」(B5判、タイプオフ印刷、4~8頁)を発行し送呈します。別冊の内容は、UFO関係の重要論文、旧資料の再録紹介などを予定しています。
- なお、当クラブは、「入会案内書」は、作っていません。旧ユーホロジストクラブの会機構は、自然消滅していますので、旧会員の方も、あらためて入会して下さい。

〒431-33 静岡県 天竜市 二俣町 南鹿島 58-18
ユーホロジストクラブ
代表者 平野泰敏

S 情報が掲載された月報と、季刊学会誌(将来月刊予定)の学会誌が配布される。この学会は世界中のこの分野の学術研究団体と提携しており、月報、学会誌の交流がある。

私は現在この学会に役員として奉仕しているが、オーラ現象をはじめ、この世の不思議現象に関して科学的研究に興味ある方は、この際ぜひともこの学会の活動に参加されることをおすすめしたい。それは、この分野の科学的研究に関して世界中の学術団体との交流を深める有力な窓口を作ることであり、また、公益法人として強力な研究活動を実行する学術団体を作り、その

成果を国家社会に還元し、世界人類の平和に貢献する活動につながることをのた。

希望者は、必ず本誌のこの記事で見たと書いて、ハガキで左記宛申込書類を請求するとよい。

〒150 東京都渋谷区渋谷一十二
五 渋谷ヒジネスホテル六階、
日本 P S 学会

この稿について同好の読者諸兄の御意見を頂ければ有難い、筆者住所左記の通り。

〒156 東京都世田谷区上北沢四一十八
一五

〈付記〉
この稿について同好の読者諸兄の御意見を頂ければ有難い、筆者住所左記の通り。

〒156 東京都世田谷区上北沢四一十八
一五

成果を国家社会に還元し、世界人類の平和に貢献する活動につながることをのた。

わが国最古の歴史書「日本書紀」は現代を騒がすUFO出現に満ちている？ 当時、奈良県葛城山に起こった不思議な事件を「龍に乗れる者、唐の人に似たり」と記述するなどはまさにそれであると語る筆者は、専門家も苦しんだ数々の謎めいた箇所をUFO出現事件ではなにかと提起している

神代

伝法千登里

UFOの日本書紀に出現!

淹海... 為地... 精妙... 合持... 皇湯... 之疑場... 難故... 先成... 而地... 後定... 然後... 中... 日... 皇... 湯... 之... 疑... 場...

先日、仔細あつて「日本書紀」の下巻を紐解いているうちに、実に奇妙な文章に遭遇した。原文にしてわずか二行、奇妙というより言いようのない文章を詳しく考証していくにつれ、言い知れぬ興味を覚えていった。
問題の文章は齊明天皇の即位から退位までを述べた「日本書紀」巻第二十六の冒頭に出てくる。
当時の日本の内政に目を向けてみると、折りしも中大兄皇子らにより大化改新が断行され、古代国家から律令国家体制に移りつつあった時代である。大化改新に際して退位した皇極天皇に代わり即位した孝徳

天皇は、在位は十年にして六五四年十月十日、病氣のため崩御した。そして次代の天皇には、孝徳天皇の前帝であり、また姉でもあった皇極上皇が日本歴史学上初めて重祚（一度退位した天皇が再び即位すること）して、齊明天皇として即位した西暦六五五年のことである。

まず、その条項の原文を掲げる前に一言申し添えておきたい。
ご存知のように「古事記」も「日本書紀」も神代から書かれており、天皇支配の強調のため、無理な歴史の歪曲もあり、いずれも神話の域を抜け切っていない。一般的に言えば、「古事記」は歴史書というより歴史物語であり、文学的に高く評価されている。「日本書紀」は歴史書として事実を正確に記録するという目的で書かれている。無論、史料として全面的に信頼するわけにはいかないし、太平洋戦争で悪用された事実もある。

しかし、ここで強調したいのは、「日本書紀」の特徴は時代を下るにつれ、記述が詳しくなり、より正確になっていくことである。これから掲げる齊明天皇の項も巻第二十六、即ち全三十巻のうちの二十六番目であるから、より正史であることは間違いない。

また、さらに特筆すべきは、これから私が指摘する奇妙な文章は、前後の内容とは一切何の関連性もなく、全く独立した、歴史の専門家にしてみれば

ば、あってもなくても

良いような、さらに強く言えば、専門家の常識では考えに余るような奇妙奇天烈な内容で、歴史的には何の価値もない文章であること。

以上のことを念頭に置いてから、次を読み進んでもらいたい。

日本書紀 第二十六
天豊財重日足姫天皇
齊明天皇

天豊財重日足姫天皇。初適於橋豊日天皇之孫。高向王。而生漢皇子。後適於息長足日廣額天皇。而生二男一女。二年、立為皇后。語見息長足日廣額天皇紀。十三年冬十月。息長足日廣額天皇崩。明年正月。皇后即天皇位改元。四年六月。讓位於天萬豊日天皇。稱天豊財重日足姫天皇。日皇祖母尊。天萬豊日天皇。後五年十月崩。

天豊財重日足姫天皇(皇極上皇)は

天豊財重日足姫天皇(皇極上皇)は
齊明天皇として重祚するまでの経歴

初に橋豊日天皇(用明天皇)の孫・高向王に適ひて漢皇子を生み、後に息長足日廣額天皇(舒明天皇)に適ひて、二男・一女を生みま

す。二年に立ちて(舒明天皇の)皇后と為り給ふ。語は息長足日廣額天皇(舒明天皇)の紀(卷第二十三)に見ゆ。十三年(六四一年)の冬十月、息長足日廣額天皇(舒明天皇)崩り給ふ。明年の正月皇后、天皇位・即して元年を改む。四年(六四五年)の六月に、位を天萬豊日天皇(孝徳天皇)に譲り給ふ。天豊財重日足姫天皇(皇極上皇)を称して、皇祖母尊と曰す。天萬豊日天皇(孝徳天皇)、後の五年の十月に崩りましぬ。

元年(六五五年)の春正月、壬申の朔の甲戌の日、皇祖母尊(皇極上皇)、飛鳥の板蓋官に天皇位・即す。『夏五月・庚午の朔の日(上旬)』、空中に龍に乗れる者あり。貌、唐の人に似たり。青き油笠を著て、葛城嶺より馳りて生駒山に隠れつ。午時(正午)に及至りて、住吉の松の嶺之上より、西に向ひて馳り去ぬ。

秋七月、己巳の卯の日、難波の朝に於て、北の蝦夷、九十九人、東蝦夷……。(『』は筆者付)

ここに掲げたうち、前半は皇極上皇が齊明天皇として重祚するまでの経歴

問題の文章、

六五五年の

五月上旬、空中に龍に乗れる者」があり、その「者」の「貌」は「唐の人」に似ていて「青き油笠を著て」おり、そして「龍」は葛城山から「馳」て、生駒山に隠れてしまひ、真昼頃に住吉の松の梢から西の方に向つて「馳り去」つてしまつたと述べ、その後には蝦夷征伐の下りが続いてゆく。

宇宙人が乗っていた!

では、この奇妙な文章を少し詳しく辿ってみよう。

まず、「龍」は言うまでもなく、形は大きな蛇に似ていて、角や鱗や鋭い爪を持ち、淵に住み、天に上り、雲を呼び雨をおこす、という想像上の動物で、四霊の一つでもあるわけだが、もう一つ、非常に興味を注がれる意味ももっている。それは木星という意味である。ただ「日本書紀」の著者が、そこまで知っていて「龍」という文字を使つたとは考え難い。

さらにその「龍」が「空中に有り」となっている。これは空上に居た、としか訳しようがないから、おそらく時間的な長短にかかわらず、空中に停止していたのであろう。つまり、この部分

は古代人の想像力において空に居ることのできるものと言え、鳥以外には龍しか考えられなかった、と解釈するのが妥当であろう。

そしてその「龍」には唐人(中国人)によく似た「者」が乗っていたという。しかしまさか本当に唐人であるはずはない。いかなる唐人でも想像上の動物を操って日本まで来れるわけはないし、飛行機の類は二十世紀の文明の産である。

これは当時の外交が朝鮮半島から中国大陸にかけての狭い範囲だったことを考えれば、すぐ納得がゆく。「唐の人」とあるのは、即ち「異邦(星)人」であることの表現であらう。「日本書紀」の著者は、その「者」は邦人ではない、ということを見つけたに違いない。おそらく見馴れぬ者を表現(あるいは説明)する単語をもたなかったのか。それとも「異邦(星)人」を見れば、皆、唯一の異邦人であった「唐の人」にしか見えなかったのであらう。

いずれにせよ塔乗人の顔まで見えたのであるから、よほど抵空飛行をしいたようだ。

そしてその塔乗人は「青き油笠を著て」いた。これについては「笠」の文字から幾通りもの解釈が生まれる。

まず、そのまま素直に読めば、油をひいた笠(ヘルメット?)を頭にかぶっていたことなる(注)著るはかぶ

るといふ意味もある。

着眼点を変えると、

別の解釈もできる。現代でも箕のかさ、と言

うように古代においても笠(あるいは傘)に

似た形、働きをもつもの

を笠と形容している

た。汁椀などもそう

ある。一般的なUFO

の形態も笠に似てい

る。それに「著る」と

いう言葉は何通りにも

使い分けられるが、

「身に負う」という意

味の用い方もある。そ

うすると塔乗人の顔が

見えたのであるから、

当然、上半身が見えた

であろう。その様子を

想像してみると、いかにも下半身に笠

がついている(負っている)格好にな

るではないか?

しかし、注釈によれば、別の解釈になる。注釈には、油笠猶油衣也。今俗云哈叭。蓋蓋語也とあり、つまり今でいう合羽(かっぱ)のことで「油笠」はおそらく外国語であろう、となつて

いる。この注釈によれば、合羽のよう

な衣服を「著て」いたことになる。た

だ、この注釈も通証であり、依然とし

●日本書紀に出てくる葛城山、生駒山を背景に3月27日、奈良県の弓場武さんが撮影したUFO



て明確な解釈はないのである。

笠か、飛行物体か、衣服かは定まらぬが、色は青(ただし、上代ではその指す範囲が広く、藍、緑から黒、白に

近いところまで及ぶ)で、「油」と形容しているところを見ると、やや金属

的な光沢があったのだろう。

そして「龍」は、現在の大阪と和歌

山の県境にある葛城山の嶺のあたりか

ら飛んで、奈良と大阪の県境にある生

駒山の陰に隠れた。この間、直線距離

にしてほぼ四十数キロ。方向を明確にするため、地図を広げてみると南から北へ、飛鳥の都から見れば、空を横切

って飛んだことになる。残念ながら、

このあたりまでの時間経過が記されて

いないが、その次には「午時」と明記

されている。つまり正午頃に消えたの

であるから、「龍」が姿を現したのは

午前中、それもかなり明るくなつてか

らである。

「住吉」についてだが注釈には「い

わゆる住吉岡」とあり、詳細は不明だ

が、現在の大阪付近であろうと思われ

る。松の梢から西方へ飛び去ったこと

については「梢にかかる望月」のごと

く、距離感を捨てた平面的な文学的表

現であり、この場合にも空に居る様子

であると容易に理解できるであろう。

そして西へ飛び去った、即ち大阪湾方

向に飛び去ったのである。

ところで、ここまで読んだ読者の中

には、不審気に首をかしげている人が

いるかもしれない。原文には「馳」と

いう文字は出てくるが、「飛」という

文字は、ただの一つも出てこないの

である。「馳る」を私が「飛ぶ」と訳し

たにすぎない。ただしそれなりの根拠

のだが、これについてちょっと考えてみると、ある文字が浮んでくる。それは「翔る」という文字である。これも「かける」と読み、空をかける、つまり飛ぶことを意味する。ただし、この場合は、鳥が羽を広げて空を飛びまわ

ることを指す。これに対し「馳る」は

人や車や馬が地面を走ることを意味す

る。

以上から考えると「龍」は地面では

なく空に居たのであるから「翔る」を

使ってもよさそうである。だが「日本

書紀」の著者は「馳る」を用いてい

る。なぜか、答えは簡単である。空に

居たものが、羽を広げた鳥ではなかつ

たからである。それは人の乗り込んだ

「龍」であつたからである。故に「馳

」を書き、「かける」と読む以外にない

のである。

最後に「西に向ひて馳り去ぬ」の

「去ぬ」の使い方に注目したい。これ

を「さる」と読めば、現代語とほとんど

同意であるが、「いぬ」と読むと、

時間空間の両方から離れることで、

「消える」「永遠に帰って来ない」と

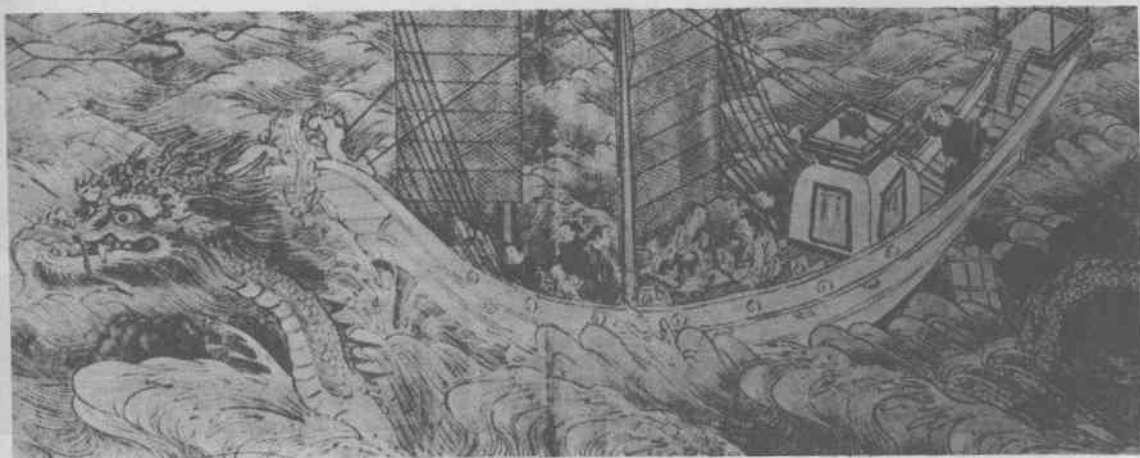
いう意味をもつ。

さて、この「さる」と「いぬ」の違

いを見てみよう。試みに「馳り去ぬ」

を「馳去りぬ」と置き換えてみる。原文のまま「いぬ」と読むと「飛び去

つてしまった」となり、微妙な違いが



● 華嚴縁起絵巻、に描かれた龍

明の飛行物体の記事が列挙さ
れているのである。下巻をか
なり乱暴に通読しただけで、
枚挙にいとまがない程、続々

六「に見える「龍に乗れる
者」が空に居たという記事、
これは一体、何を物語るの
であろうか。史書の体面を傷
つ、天皇支配の正統性を論ず
るにはあまりにもかけ離れ、
さらに歴史の記録にはほど遠
い突飛な記事をわざわざ残す
わけはなからう。

その証拠に「日本書紀」に
は彗星、日食、月食の記事は
言うに及ばず、数々の正体不

生じてくる。この微かなニュ

ランスの違いの中に読者は、
まぎれもなくスピードの緩
急の差を感じとるのであろう。

惜しむらくは、記述がさま
りにも簡潔すぎて「空中の

龍」を見た人々が、どんな反
応を示したのが、全くわか
らないことである。しかし、
当時（現在でもそうだが）の
センセーショナルな事件であ
ったことは、まず間違いある
まい。

日本書紀は UFO目撃記録!

この「日本書紀」第二

出てきた。簡単に列挙してみよう。

六三三年八月、長き星、南の方に
見ゆ。時人、彗星と曰ふ。……これが
「彗星」という文字が史書に見えた始
めである。

六三六年二月二十三日、大きな星
東より西に流る。便ち音ありて雷に似
たり。時人「流星の音なり」と曰ひ、
また「地雷なり」とも曰へり。……こ
の年の三月二日に日食が起こって
いる。

六三八年一月二十五日、長き星、西
北に見ゆ

六三九年二月七日、星、月に入れ
る。

六四一年七月九日、客星、月に入れ
り。

客星とは、恒星に対して一時的に現
れて、やがて消えていく星のことであ
るといふ。

六四二年元旦、五の色の大きな雲
天に満み覆へり。而して寅の方（北
東）に欠けたり。一色の青き霧、地に
周起りぬ。……この年の五月十六日に
日食が起こっている。

六六一年、齊明天皇の葬式の時、是
夕、朝倉山の上に、鬼ありて大きな
笠を著て、喪儀を臨み視る。人皆怪し
む。

六六二年三月、星ありて京の北に落
ちぬ。……隕石の落下であろう。

六七七年七月十六日、星有りて東に

出づ。長さ七八尺、九月に至りて意に
失せぬ。……これはまぎれもなく彗星
のことであろう。

六八二年九月十六日、彗星、見は
る。十七日、熒惑月に入る。……「熒」
は「惑」の意に同じ。

六八三年八月三日、是夕べの昏時に
大きな星、東より西に渡る。……五
日殿の内に大きな虹あり。十一日、
物有りて、形、灌佳の幡のごとくして
火の色なり。空に浮びて北に流る。

六八五年十一月には、星の落つるこ
と、雨降る如し。……とあり、流星群
の記事らしいが、この次に妙な文章が
続く。星ありて中央に光へり。すばる
星と並びて行く。……これは月末に消
えた、とある。

六九二年七月二十八日、是夜、熒惑
と歳星と、一足歩く内に、ある時は光
り、ある時は隠れつつ、相近づき、相
避ること四度。

敢えて私見は述べないことにしよ
う。これらの記事をどう読むかは、各
自の勝手である。しかし、明らかに彗
星、流星とわかる記事を切り捨てても
まだ不可思議な文章が残ることは明確
である。

他の文献にはまだ目を通していない
が、読めば読むほど、これらに似た記
事に出遭うだろう。そして、それらは
ほとんど事実であり、まさにUFOの
正史であろうと、私は考えている。

星生物発見の旅

索機ヴァイキング火星到達への期待

京都大学教授・理学博士 宮本正太郎

火星は昔から五つの惑星のうちもっとも不可解な行動をする神秘的な星として注目されてきた。夏の夕方、南の空に低く現れ、あかあかと輝いて人目を引く。このように、いわゆる火星の大接近は十五、六年ごと起きる。

血のように赤い火星の色は不吉な印象を与えるからであらうか。火星は軍神マルスとみられていた。ギリシャ軍がテルモピレの会戦に敗れた夜、戦場に倒れた兵士たちの屍の上に火星がひとときわあかく輝いていた。

地球は太陽から一億五千万キロのところであり、一年の周期で太陽のまわりを公転している。火星は地球の外、太陽から二億三千万キロのところであり、一年と十一カ月で太陽のまわりを公転している。

太陽から見ていると、地球の方が近くにあつて速く動いており、二年と二カ月ごとに火星を追い越して行く。このときが、火星と地球の接近である。

火星の接近は二年と二カ月ごとに起こるのであるが、地球の公転軌道が太陽を中心とする円軌道に近いのに対し、火星の軌道は細長い楕円になっている。このため、火星と地球が接近するといつても、どこで接近するかによって接

七月初め、アメリカが昨年打ち上げた火星探索機ヴァイキング一号が火星に到達した。ヴァイキングの目的は火星にいるかもしれない生物の採集である。地球に隣接する惑星火星は、砂漠を縦横に走る運河、タコに似た火星人など、昔から我々に多くの謎と夢を与えてきた。そのベールを、今ヴァイキングがはがそうとしている。

近の度合いが違ってくる。

地球北半球の夏の頃に接近が起こると互いの距離は非常に近くなる。これが大接近といわれるものである。たとえば、一九七一年八月の大接近のときに、火星は五千六百万キロメートルまで近づいた。

しかし、北半球の冬に起こる接近、たとえ一九八〇年二月の場合には相互距離は一億百万キロとまりである。冬のことでもあり、それほど明るく輝くわけでもないの、あまり人目も引かずに過ぎてしまう。こんなわけで、火星が話題になるのは大接近の頃で、それは十五、六年ごとにやってくる。

◆火星では地球と似た季節変化がある

火星の世界をのぞいて見ることができるようになったのは、望遠鏡が発明されて以後のことである。ガリレオの

最初の望遠鏡ではまだ火星表面の模様を見ることができなかったが、同じ十七世紀の中頃になると表面の模様は認められ、模様の観測から火星が自転していることも明らかになった。

地球は二十三時間五十六分で自転しているが、火星はこれより少し長い二十四時間三十七分で自転している。一日の長さは非常に長く似ている。ただし、一年の長さは火星の方が二倍近く長くなっている。

地球の太陽のまわりを回る軌道面に対して自転の赤道面が二十三度二十七分だけ傾いている。このため四季の変化がみられることになる。

火星では、軌道面に対する自転赤道面の傾きが二十三度五十九分で、これもまた地球によく似ている。このため、火星世界にも地球と同じ程度の季節変化がみられることになる。ただし、春も夏も地球の倍近く長く続くわけだ。火星は望遠鏡をのぞいても小さくし

火

米探



●上から火星、地球、月（大きさ比較）

◆火星の運河と火星人のイメージ

前世紀の中頃になると、望遠鏡の性

が見えないが、それは地球からの距離が遠いからである。実際の大きさは、半径が三千四百キロ、地球のおよそ半分、月の二倍の惑星である。また火星表面での重力の強さは地球表面の三分の一、月面の二倍となっている。

能もよくなり、広く普及するようになって火星の研究も盛んになってきた。とはいえ、大接近の際でも火星像の視直径はわずかに二十五秒どまりであるから、表面模様の詳細やその変化を観察するのは容易なことではない。最上級の望遠鏡を使って、その分解能を〇・二秒角であるとしてみよう。これは大接近のときの火星表面の五十四キロにあたる。この大きさ以下のものは一点にしか見えないということである。

火星表面の様子は、雲のように変化するものではなく、季節変化はするが半永久的なものであることがわかり、一八四〇年にはピアとメドラーによって最初の火星世界地図が作られた。

火星表面には赤褐色の砂漠がひろがり、その間に暗い地域がある。昔の観測者は地球や月とのアナロジーから、明るく赤い地域を大陸、暗い地域を海と受けとった。そうして陸地にはヘラス（ギリシャ）を中心に地中海沿岸一帯の古い地名を借用して名前をつけた。

前世紀の後半、イタリアのミラノ天文台で口径二十センチの望遠鏡を用いた火星の模様を観測していたスキアパレリは、奇妙な模様のあることに気づいた。広い砂漠地方をよこぎって暗く細い線がのびている。彼はこの種の模様



●火星の小学校：先生が黒板に地球の絵を描いて「今に地球人が円盤に乗ってやって来るから皆用心するように」と注意している。窓の外には地球からの円盤が着陸している（ノルウェー大学リングネスの描いたマンガ）

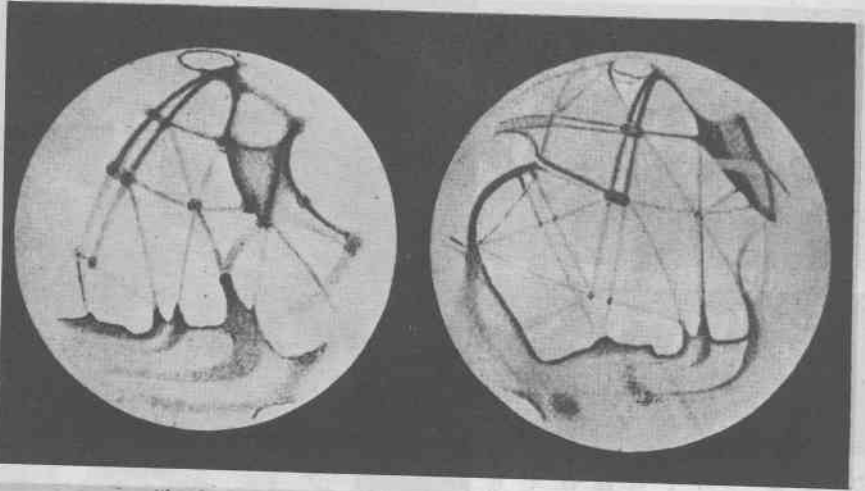
を「カナリ」と呼んだ。イタリア語で水路という意味である。

ところがこのカナリなる模様がとても天然自然の模様とは思えない。これは人工的なものだろうと主張したのがフランス天文学界の大ボス、フランマリオンであった。

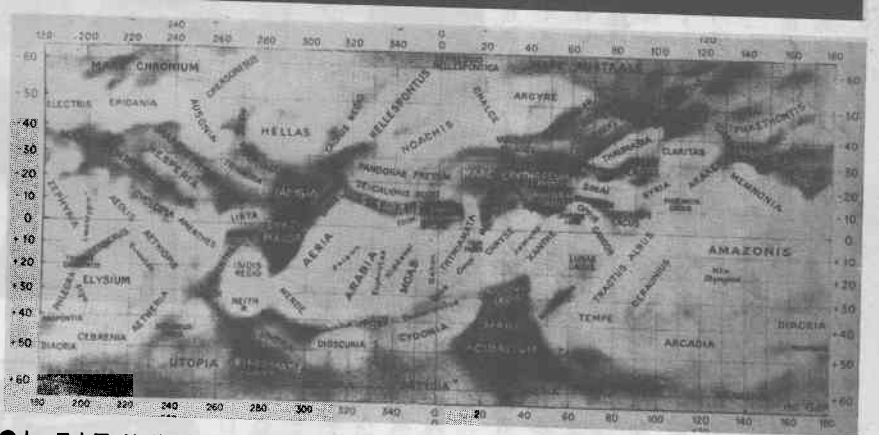
火星の運河説は世界一般の話題にのぼるようになり、大接近の頃には大変なブームを引き起こした。

今世紀の初め、アメリカのローエルは私財をはたき、アリゾナに火星専門の天文台をつくり、火星全表面に張りめぐらされた運河の地図を完成した。

今世紀の初めといえば、マルコニーが無電を発明した頃である。火星大接近のとき、火星から無電の信号が地球に向けて送られているという人が現れ



た。火星の運河は広大な砂漠をよぎり、千キロ、二千キロと延びており、しかも、砂漠を網の目のように覆っている。とても地球のスエズやパナマのように短いものとは比べものにならない。そこで、火星人は地球の我々より賢いに違いないということになった。各国で火星人類をテーマにした小説が



たくさん現れたが、なかでもイギリスのH・G・ウェルズは「火星人の来襲」(War of the Worlds)を発表して大当たりをとった。この功績?によってウェルズの名は、その後火星表面に発見されたクレーターの一つにつけられ永遠に記憶されることになった。火星人とはどんな格好をしているの

●上・スキアパレリの描いた火星の運河 (1888年) 下・火星略地図 (地名入り, 上が南半球)

であろうか。地球人類より賢いのであるから、頭はうんと大きいであろう。しかし重力が弱いので、頭を支える足はタコの足のよう細いもので充分であろう。太陽より遠く日射の弱い世界なので眼は大きくドングリ眼であろう。また空気が地球より希薄なので音を聞くための耳はロボの耳より大きいに違いない。このようにして有名な火星ちゃんイメージができてきた。

◆ジャガイモのよ うなダイモスと フォボス

その後、戦前のことだが、火星人の噂はいつの間にか消えてしまった。これにはいろいろの理由が考えられる。

まず第一に、火星の光を分光器にかけて分析し、火星大気中に酸素のないことが確かめられた。これでは人間を含めて、動物は生きていけない。

また大気そのものが予想外に希薄で地球大気の百分の一以下の気圧しか示さないこともわかった。この大気の主成分は炭酸ガスであった。

このような大気では太陽の有害な紫

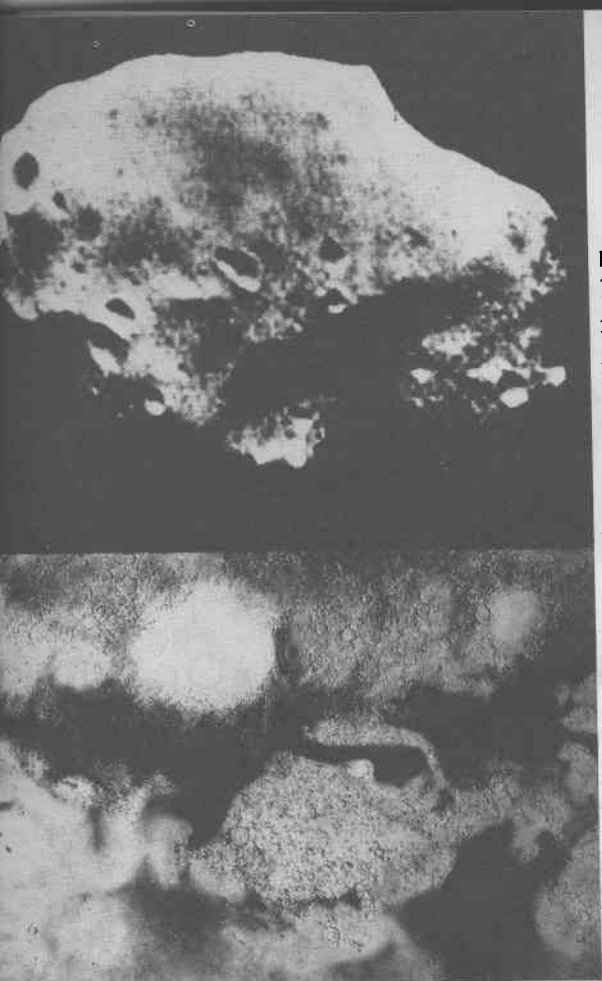
外線がそのまま地表にとどき、生物の細胞は殺されてしまう。

水分はどうであろう。昔の人のように、火星の暗い地域は海だとする説はすでにすたれていたが、それでも大気中には時々、雲が浮かんで流れているのを目撃するし、春から夏にかけて極地方に雪原が現れ、キラキラと輝いている。

湿気の少ない乾燥した世界であることは知られていたが、赤外の分光分析によると、これもまた予想外に水分の少ないことが明らかになった。地球上では一度雨が降ると五ミリ、十ミリと水がたまるが、火星大気中の水蒸気量は水として溜めてわずかに十四マイクロンにすぎない。

極地の雪原もせいぜい霜のようなものであろうとみられているが、アメリカでは、あれは炭酸ガスが凍ったドライアイスだろうという説が信じられている。とすると、火星世界は極度に乾燥した世界で、炭酸ガスはあるが、水がなく、植物も生存が怪しいということになった。

気温の方はどうかというと、火星全体の平均温度はマイナス四十度Cという極寒ぶりである。とはいえ、赤道地方の昼、太陽が天頂にあるときにはプラス三十度近くまで温度が上がる。ただし、大気が希薄なために夜屋の温度差が大きく、夜間は温度がマイナス七十度まで下がる。生物は暑さには弱い



●上・火星の衛星フォボス（マリナー9号撮影、NASA）
 下・火星の地形地図（ローエル天文台）

が、寒さには抵抗力がある。火星でも少しく地下にもぐって我慢できないでもない、といったところであろう。

火星人を含めて、火星生物への期待を完全に消してしまったのは一九六五年七月に火星に接近して地表の写真を撮ったマリナー四号からの情報であった。マリナー四号の送ってきた写真は運河らしい地形は一つも現れていなかった。おまけに、月の表面に見られるクレイターそっくりの地形が写し出されていたのである。火星表面にはクレイターがあり、月と同じように荒涼とした死の世界であるということになってしまった。

マリナー四号の飛ぶ少し前、火星人時代を飾る最後のはなやかな話題は、

ソ連から流れて来たものであった。火星には二つの小さい衛星のあることは昔から知られているが、この二つの衛星はあまりにも光が淡くて小さい。火星人の打ち上げた人工衛星だろうという説である。

一九六〇年代の初めといえば、最初の人工衛星打ち上げに成功し、ソ連の宇宙科学者たちの意気大いにあがっていた頃である。

その後、一九六九年、アメリカの打ち上げたマリナー九号が火星衛星の写真撮影に成功した。二つの衛星、ダイモスとフォボスは球状ではなく、石の破片かジャガイモのような形をしており、表面にはぶつぶつと小さいクレイターができていただけであった。

◆火星ロケット発射のタイミン

マリナー四号のあと、火星探査ロケットは次々と打ち上げられ火星世界の様子が次第に明らかになりつつある。

とはいえ、火星ロケットは月ロケットと違って好きなときにいつでも打ち上げられるというものではない。打ち上げにはチャンスがある。それは火星と地球との合同周期二年二ヵ月ごとにめぐってくる。

その理由を説明してみよう。例として昨一九七五年八月初めに打ち上げられたヴァイキング号を考えてみよう。
 (59頁の図参照)

ロケットはまず人工衛星軌道にのり二度目は噴射によって地球の進行方向に飛び出して行く。すると、太陽から眺めて、ロケットは地球より少し速い速度で動くことになる。ロケットは地球に比べ速く、少し遠心力が強くなるので太陽に打ち勝ち、次第に地球軌道の外に出ていく。

こうしてロケットは太陽のまわりを大きく回り、一九七六年七月初め、アメリカ建国記念日に火星に到着、着陸する。

ロケットが火星軌道に近づいたとき火星がちょうどそこに来てくれなければ出会いはならない。

このために発射の時期が制限をうけることになる。アメリカの建国が事実

より一年前またはあとであったら、建国記念日に着陸させるなどという派手なことはできなかったであろう。

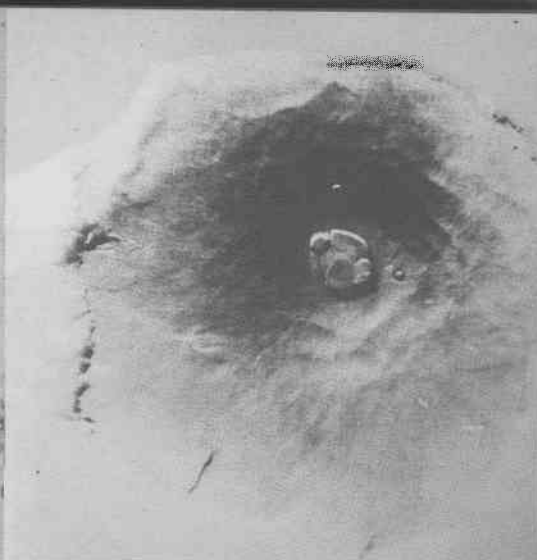
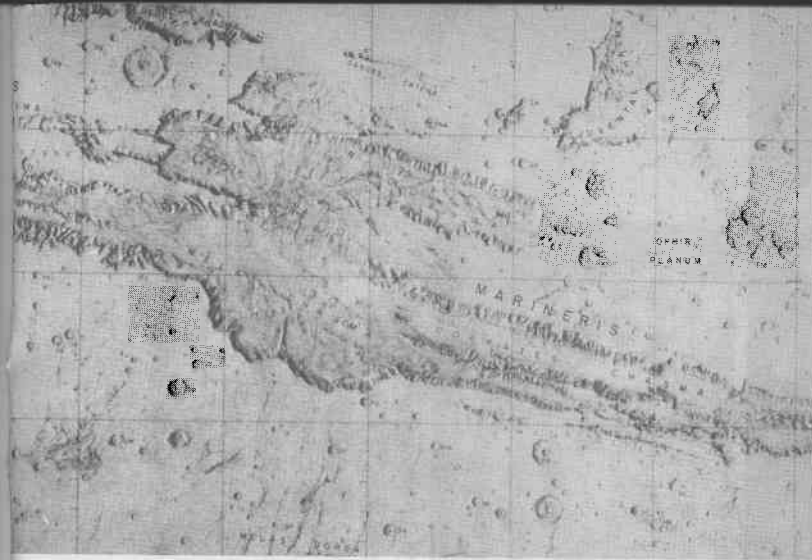
ちょっと考えると、火星へのロケットは火星が近づいたとき、火星めがけて真直ぐに打ち上げればよさそうに思えるが、それは不可能である。地球は軌道を秒速三十キロ、火星は二十三キロという高速度で運行している。現在のロケットは地球の引力から逃げ出すのが精一杯で、地球と少し違った速度を出す（太陽から見ても）のがやっとである。

地球の進行と直角方向に飛んでいくだけの力とはとてもない。速度を加減して出発の時期を多少ずらせることが出来るという程度である。

また、この軌道図からわかるように着陸時の火星と地球の位置は非常に離れているので、アポロのときのように着陸の様子をテレビで見たり、地球から指令の電波を出して次々と操作するということはできない。地球からの電波は十数分たたなければ火星にとどかないからである。

◆けたはずれの大景観

マリナー四号につづき、二年二ヵ月ごとの打ち上げのチャンスがおとずれるたびに火星ロケットが打ち上げられた。そのうち、一九七一一二年のマリ



●左・コプラテスの谷の地図 右・オリンピア火山

ナー九号は火星の人工衛星となり、火星全面の近接写真を撮った。これをもとにして現在では火星の地形を示す詳しい世界地図が作られている。

こうした作業は火星の地形・地質の研究のためであったが、同時に火星にいても知れない生物を採集するためのヴァイキング計画の準備であった。

マリナー九号によって明らかにされた火星の地形は驚くべきものであった。ノア砂漠、アエリア砂漠のように一面クレターに覆われ、月世界に似た光景を呈する大陸があるかと思ふと、アマゾン大砂漠のようにクレターはほとんどなく、かわりに富士山のような巨大な成層火山が幾つもあつた。それはむしろわが地球に似た光景といえるであろう。

最も巨大な火山はオリンピア山と呼ばれるが、付近の砂漠の面よりも二万四千メートルもそびえ立っているし、裾野の広がりも直径が五百キロもあるバケ物のような火山である。

アマゾン砂漠の東方にはコプラテスの谷がある。アメリカではこれを火星のグランドキャニオンと呼んでいるがこれも本物のキャニオンよりけちちがいにかいもので、谷の幅は八十から百キロ、長さは四千キロもある。

極度に乾燥した火星世界に海はないとして、暗く見えている地域がはたして地球の大洋底に相当するものかどうかはまだ明らかではない。暗い色は岩石

が砂漠地方とは違うためか、または未知の原因によるものか謎とされている。一部の楽観的な人たちのいうように、この地域に苔のようなものが生えていて、そのために暗く見えるとしてもマリナー九号の写真からは識別できない。ヴァイキング号が軟着陸して、火星表面の風景写真を電送してくれば事情ははっきりするであろう。

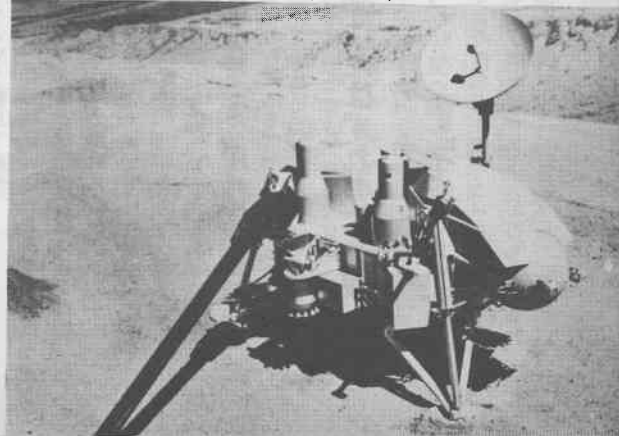
問題の運河であるが、マリナーの撮った写真には運河に相当する地形は現れていなかった。コプラテスの谷のような地形が、遠く離れた地球から望遠鏡で見え、いわゆる運河に見えたことは考えられる。しかし、その数は多くない。運河の謎についてはまだ結論を出す段階ではないようである。

◆火星生物を捕えるために

火星の世界では大気は炭酸ガスで酸素がなく、水分もほとんどない。また気温も低い。生物にとってまことに厳しい環境であるが、他の惑星に比べるにまだまだましな世界で、地球に次いで生命の育つ可能性のある惑星だといえよう。

厳しい環境ではあるが、地球もその昔、生命が現れた時代には大気中には酸素はなく、太陽の紫外線は地表にふりそそいでいた。そのような状況の下で、最初の生命が現れたのである。気

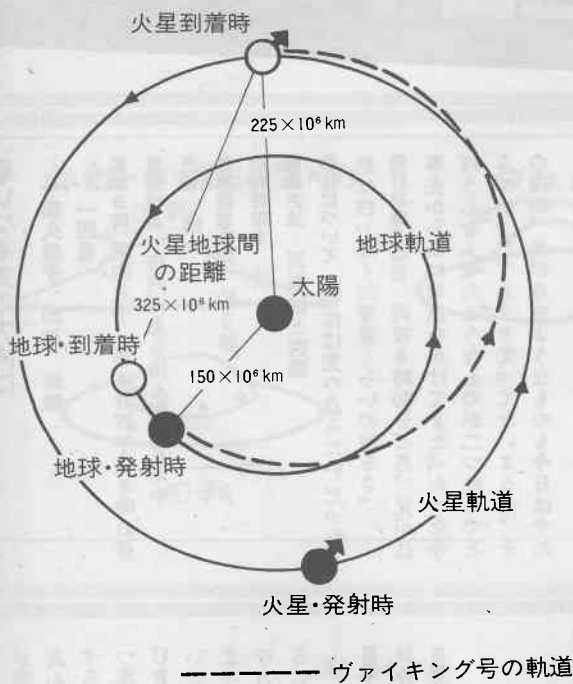
●ヴァイキング号の火星着陸部分 (NASA)



温の低い火星では、仮りに生命が育っているとしても、進歩のテンポは地球よりずっと遅く、まだ原始生物が見られるかもしれない。地球ではそのようなものはすでに亡んでしまっている。

遺伝子の構造が機能を問題にしている今の時代には、火星ちゃんも面白いが、最も原始的な単純な生物が手に入れば、それ以上に貴重な研究資料になるであろう。その研究を手がかりにして、高度に進化した人類、その他、地球生命の謎を解くことができるようになるであろう。このような意味においてヴァイキング計画は画期的試みといえる。

生物を捕えるためには、湿度が多く気温の高い地区への着陸が望ましい。



●ヴァイキング号、火星、地球の軌道図

ヴァイキング号の着陸予定地はこの条件を考へて北半球赤道帯のクリッセ地方が選ばれた。ここは赤道の方から、アレス、チウ、シムド、シャルパタナの方の谷が集まるところで、西の方からはカセイ谷（日本名）も合流している。

◆一九八〇年代の計画

ヴァイキング号が着陸して写した地面の写真に苔でも生えているところが出ていれば話は簡単であるが、砂漠の

土の中に微生物がいるといった場合を想定して、最も基本的で検出の可能性の高い方法が選ばれている。それは、あらゆる生物のやっついている新陳代謝の作用を利用するものである。生物のとる食べ物は、蛋白にして糖にしても、炭素原子が手をつないで鎖状につらなつた炭素の化合物である。植物は葉緑素の作用により水と炭酸ガスを材料とし、それに太陽のエネルギーを加えて糖が蛋白質をつくり出している。

生物が物を食べるということは、このような複雑な炭素の化合物を分解して、その際に出てくるエネルギーをと

ることである。分解され排泄されて出てくるものは水であり、炭素ガスである。この原則を利用しようというのである。

ヴァイキング号は火星表面に着陸して、地表の砂をひとつかみすくい上げ、用意したカプセルの中に入れ、数日の間じつとしておく。砂の中に細菌でも生きていれば、カプセルの中に炭酸ガスが溜るはずである。それを化学的に測ればよい。

もう一つの実験は、もっと積極的である。すくつた砂に食べ物を加えてカプセルの中にとじ込める。この食べ物にはもちろん炭素の化合物で作つてある。細菌がいて、この食べ物に食いつけば放射性をもつ炭酸ガスを排出することになる。カプセルの中に溜つた放射性のガスはカウンターによって検出される。また細菌の体内に放射性の化合物を取りこんでいるならば、砂を取り出し、熱してやると、細菌は分解して放射性の炭素を出す。それを検出すればよい。

間接的ではあるが、微生物のいる証拠がつかめたら、この次には顕微鏡を持って行ってその形を見ることもできるであろう。最初の第一回の試みで成功する確率は小さいであろう。将来機会の来ることに根気よく検出ロケットを打ち上げるべきであろう。火星の微生物がめでたくつかまつたとして、一九八〇年代にはいろいろの

計画が実行されるであろう。将来はロケットが無人の車を持って行き、火星の着陸地点一帯を広く調査する。

ところで、この車は月面のように地球から指図して動かすわけにはいかない。電波が火星からとどくにも、こちらから出した指令が火星にとどくにも長い時間がかかるからである。車の進行方向に崖があつたとしてもそれを避ける間がない。車は時速四分の一キロというノロノロ運転とし、自動装置によって危険を避けるようにしなければならぬ。

将来は火星の砂を現地で分析するのはなく、サンプルとして地球に持ち帰り、完備した実験室で十分に分析することも計画されている。このためには、火星から帰還用の小型ロケットを用意しなければならぬが、技術的には問題はない。

火星の本体と共に、火星の二つの衛星にもロケットは近寄り、また着陸してサンプルを拾うことになるであろう。そして、やがて人間を乗せた宇宙船が火星に向かう日が来るであろう。

アポロ用に開発された強力なエンジンをを用いて、そのような宇宙船を飛ばすこともすでに可能であるという。ただし、火星への旅行は往きがはやくても半年、火星から地球へ帰るための時間待ちが約一年、出発して地球へ帰るまでがまた半年、合計二年間の大旅行になるはずである。

UFO目撃レポート

●いつも東の方向に

千葉久美子 20歳 無職

一回目

目撃日時 昭和五十一年4月27午後8時41分

目撃地点 市内にある田んぼの真ん中

天候 晴

目撃継続時間 約5秒

同時目撃者 父

観測方法 双眼鏡と肉眼

物体について 物体は光の点みたいだった。色は白っぽく三等星くらいの明るさ。

飛行状態その他 同夜8時30分ごろ、兄が仕事先から私に電話をかけてきた。たった今ぼろしをふせたようなものが二つ並んでとんでいった。あまり光ってないようだ。そのほか、光の点のようなものも今日はやた

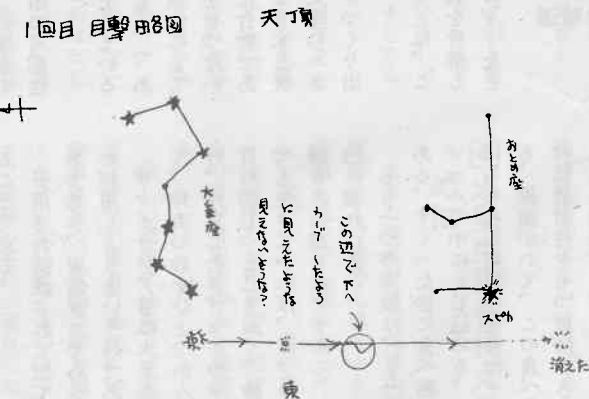


らととんでいる」……と！ すぐに私と父が車で2〜3分のところにある田んぼのど真ん中までかけつけ、空を見た。ちょっとすると星がそのまま動いたような感じでした。現れた。私は初めてUFOを見る父に、UFOと流星と飛行機のちがいを説明していたので、あまり位置ははっきりしないが北斗七星のしっぽの先あたりからオトメ座の方へ向かってとんでいったように思われる。

二回目

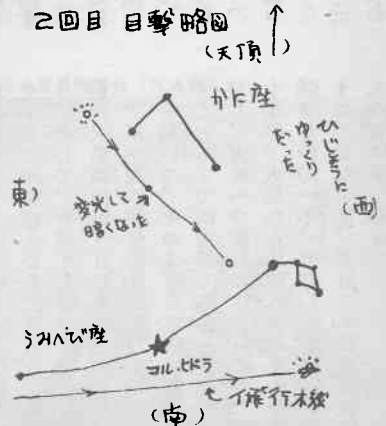
目撃日時 昭和五十一年4月27日午後8時48分

目撃地点 市内にある田んぼの真ん中



天候 晴
目撃継続時間 約15秒
同時目撃者 父
観測方法 双眼鏡、肉眼
物体について 物体は三〜四等星くらいの明るさ。
飛行状態その他 同夜、しつこくまっていたら今度はかに座の横からうみへび座の頭部の方までゆっくり動いているものを見つけた。とちゅうで変光して少し暗くなったが肉眼でもはっきり見えました。そのすぐあとに飛行機がとんでいたので、はっきりUFOだとかくにんできました。父もやっと信じてくれたのです。そしてちょっと気づいたのですが、私がUFOを見つける方向がいつも東だということです。動くのも北から南へという感じで、めずらしく北の方へ動いているなと思って、すぐUターンして南へ去るのです。どういふ事なんでしょうね。(空をながめている間、流星も2個流れたのです)

2回目 目撃略図



(〒036—33黒石市大板町4)

●円盤に赤い小さな点が

菅原弘輝 国際商科大

目撃日時 一九七五年8月27日午後9時8

分〜20分頃

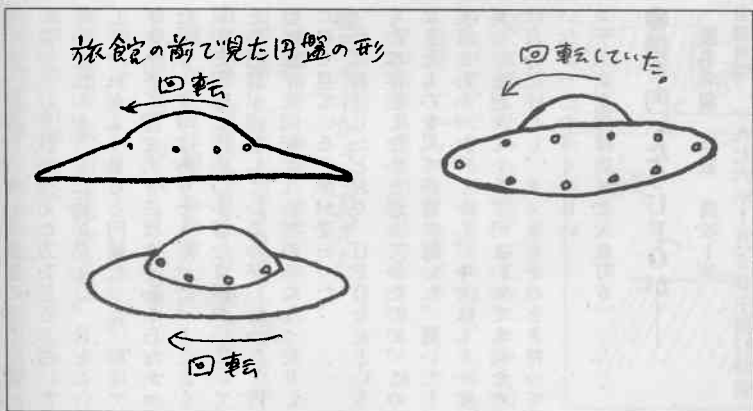
目撃地点 新潟県越後中里

天候 晴

目撃継続時間 5〜10分

同時目撃者 なし

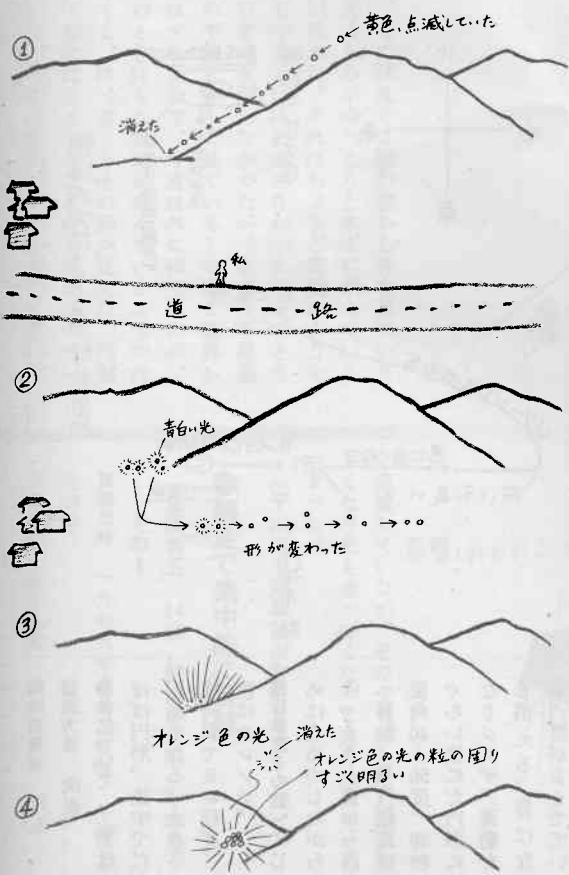
観測方法 肉眼



物体について 物体は3種類であったのか
3回形を変えたのかわからないが、とにかく見たのは分けると3種類になる。一つは飛行機に似たあかりのようなもので色は黄色。点滅していた。

次に見たのは青い光を放つ星のようなもの、最後にすごく鮮やかなオレンジ色をした非常に明るく大きい光のかたまりのようなものを見た。

飛行状態その他 道路に立って山の方を見ていると黄色い飛行機のあかりのような光の粒が点滅しながら山のふもとの方に高度を下げてゆき最後には着陸しようとした。着陸するとその光の粒は消えてしまった。次に青白い星のような光がさっきの光の粒が着陸したあたりから現れ、点滅しながら位置



を要する。その光もしばらくすると消えてしまった。さらに目をこすってそちらの方を見ていると山すそにうすいオレンジ色の光が反射しているのが見えた。さらに見ているとすごくきれいなオレンジ色をした光の固りのような物体が上昇してきた。この物体の光はすごく明るかった。その物体もちよつと上空へ行くと消えてしまった。なお見ていると、また山すそにうすオレンジ色の光が反射し、さっきと同じオレンジ色の光の固りが上昇してきて、また消えた。私はUFOなど信じていなかったため、実際に目をこすったりつぶってまた開いたり、ほったをつねたりしたが夢ではなかった。

私はなんとなくこわくなってきたので旅

館の方へ帰った。そして旅館の前の広場からさつきUFOが見えた方を見ると白いちよつとぼんやりした物が見えた。目をこらしてそれをよく見ると円盤だった。形はアダムスキー型で大きさはよくわからなかったが5〜6mはありそうだった。よくよく見ると円盤には赤い小さな点がついていてその円盤が回転しているのがわかった。円盤は水平に回転しないで斜めになったりしたので見ていると形が変わった。

私は前述したとおり、UFOなどというものは存在しないと思っていたので、このようなものを見て非常に驚いた。驚いたし実はこわかった。しかし、今ではもう一度見たいと思っている。何といても見たのは自分だけだし、カメラもそのとき持っていなかったのがくやしい。

(〒117東京都練馬区北大泉町6)

●横を向いたらUFOが――

匿名希望 15歳 高校1年

目撃日時 一九七六年一月六日午前11時頃

目撃地点 自宅から約150mはなれた路上。

天候 晴

目撃継続時間 約1分から1分30秒

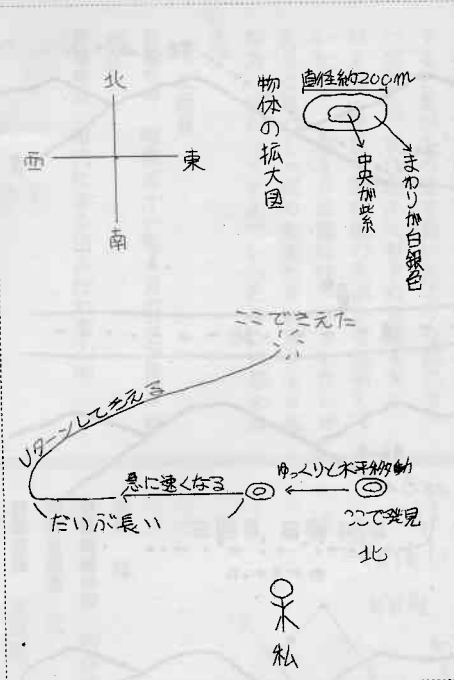
同時目撃者 なし

観測方法 肉眼(左右とも1.5)

物体について 中央が紫でまわりが白銀色。だ円形で直径は約20cmくらいだった。飛行状態その他 高度はみたくところあまり高くなかった。

買物から帰る途中、ちらっと横を向いたらUFOがとんでいた。思わず小声で「ア

物体のスクワカ・飛行状態



ッ!」と叫んだ。そばにいたよその女の人はその声で私の方をみたが、物体には気づかなかつた。物体ははじめゆっくり水平にうごきとまるとまらぬ急いで速く動いた。だいぶ水平移動してからターンして消えていった。(東京都板橋区)

●円形からだ円形になった

大谷法昭 14歳 榎原市立八木中学校3年

年

目撃日時 一九七六年一月十九日午後7時45分

目撃地点 自宅の横にある道

天候 快晴

目撃継続時間 約1分

買物から帰る途中、ちらっと横を向いたらUFOがとんでいた。思わず小声で「ア

同時目撃者 なし

観測方法 肉眼

物体について 形はほぼ円形、途中でだ円形になる。大きさは肉眼で8mm程度。色はオレンジ。飛行状態その他 はじめは点めつしながらゆっくりと東から西へ移動。飛行傾度は視角40〜50度。30秒くらい後にだ円形になりジグザグ運動をし消える。音はなし。星がよくでていた。星がよくていたのでUFOと思った。飛行機、ヘリコプターなどではない。

II

目撃日時 一九六七年四月一日午後7時35分ごろ

目撃地点 市内新賀町45番地付近

天候 晴

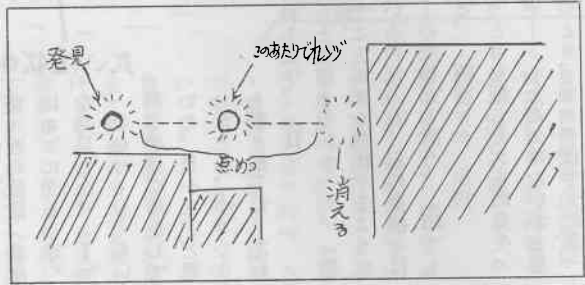
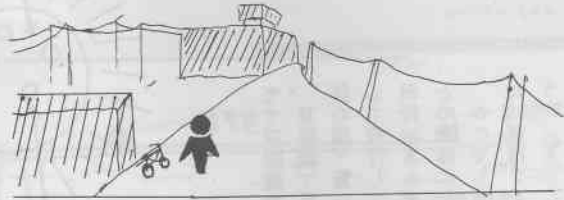
目撃継続時間 約40秒

同時目撃者 M・I(友人)同中学校3年

観測方法 肉眼

物体について 形は円形とだ円形の中間。大きさはIと似ている。色は初め黄色、しだいに色がうすいオレンジ色になり、それに伴って大きさも小さくなり、点滅しながら消える。

飛行状態その他 高さは低空で速度はおそ



め、点滅しながら移動。はじめピカッと光ったので、できるだけ近くに行き、しばらく観測してからM・Iを呼ぶ。
 (〒634奈良県橿原市上品寺町398ノ18)

●ライトが4つ見えた

佐藤裕子 19歳 学生

目撃日時 一九七四年九月二十五日午後7時頃

目撃地点 朝霞市栄町2丁目1番地付近

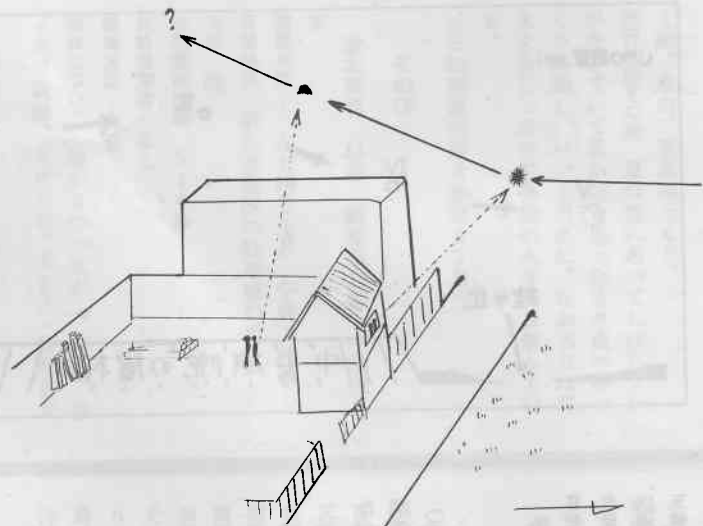
天候 この日は朝から快晴

目撃継続時間 約2、3分は目撃していたと思う。

同時目撃者 妹(現在中学3年)

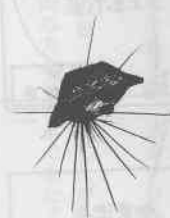
観測方法 肉眼

飛行状態その他 7時少し前だったと思う



が、なにげなく2階の窓から外を見ていると光るものがゆっくりと水平に飛んでいるのが見えた。それはちょうど電球のような感じで遠近感はわからなかった。そのときはUFOと思わなかったが、あまり不思議なので妹を呼んで見ているとやがて視界からはずれたので、今度は外に出て見たが、そのときはもう電球が飛んでいるようではなくて、はっきりとその形が見えた。円盤の下部にはライトのようなものが4つついていて、そのうちのひとつが黄色く光って

目撃したUFOの拡大図



点滅していたが、そのうちだんだん光が弱くなり色も赤っぽくなって遠くに消えてしまった。
 (〒307埼玉県朝霞市幸町2-1-17)

●網走で集中的に目撃

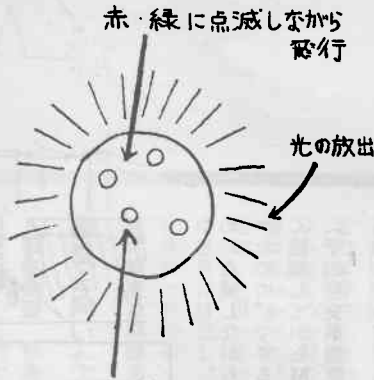
登藤慎五 14歳 網走市立第一中学校

その1

目撃日時 一九七五年2月23日頃 午後6時50分

目撃地点 自宅2階

物体拡大図



丸い粒状の物が4つ程あった

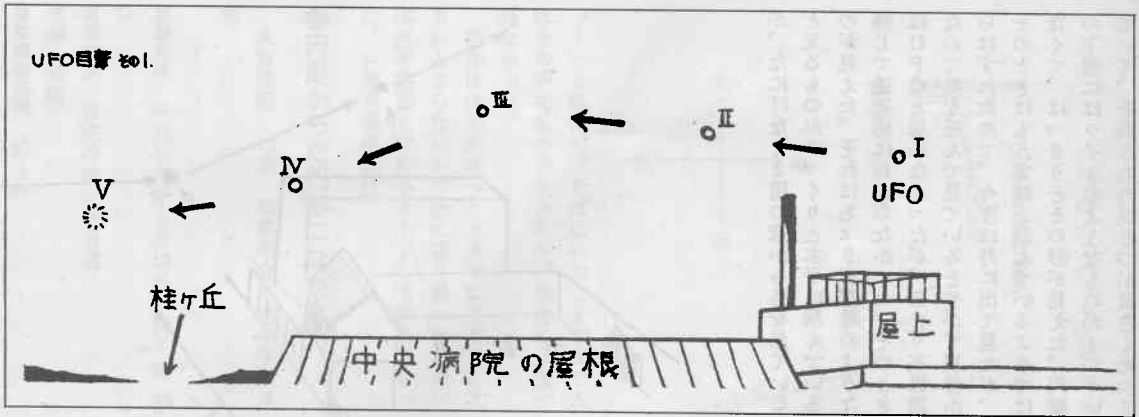
天候 晴(雲はあった)
 目撃継続時間 10分位
 同時目撃者 なし
 観測機器・方法 肉眼および双眼鏡(ニッポン9×30)
 物体について 形は球型、色は赤・緑に点滅、大きさは見た目2mm、双眼鏡では2cmくらいに見えた。速度はおそかった。全体的に本誌9号の狛江市で撮影されたUFOに似ていた。

飛行状態その他 南々西から南東へ飛行。そのときのようなすは午後6時48分頃、カーテンを引き夜空を観測中、約2分後に南々西の位置(高度130m)に光る"球"を発見した。(I)物体は6分くらい同じ場所に静止していた。星かな、と思ったとき、ゆっくりと動き出した。あわ

てて双眼鏡を持ち出す。(II)

双眼鏡で見ると細部までわかった。(物体の図)驚いたことに光を放出するようにして飛行しているのだった。私の推測では飛行エネルギーの廃物だと思う。(III)もとの物体になる。(IV)

ここでちょっと目を離れたスキに見失った。私はレポートしたのではないかと思う。(V)このとき、カメラは手元にあっ



UFO目撃の1

そのII

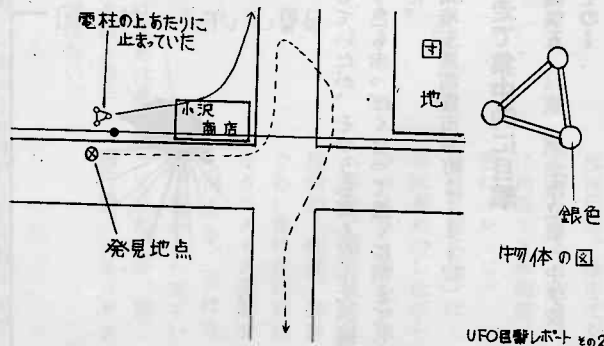
だが、フィルムが入っていなかったことを非常に残念に思った。
 (〒093北海道網走市南6条東1丁目)

佐沢勝 14歳 網走市立第3中学校3年

目撃日時 一九七四年8月 午後8時頃

目撃地点 網走市つくしヶ丘一丁目小沢商店

天候 晴(雲多少有り)



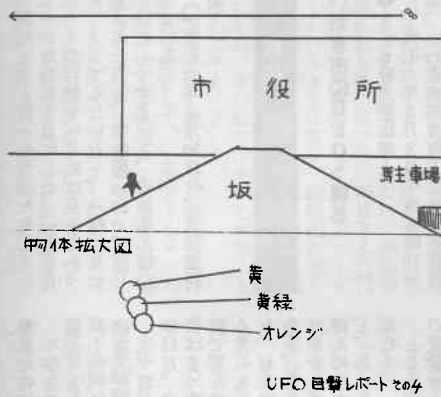
UFO目撃レポートの2の図



目撃継続時間 30秒位
 同時目撃者 岩淵和之君と同君の弟
 観測方法 肉眼
 物体について 球状のものが三角に並んでいて、その間にパイプがつながっていた。大きさ・見た目で70cm、色・銀色、速度・自転車でゆっくり走るくらい。
 飛行状態その他 星が見えていたので空を見上げるとかなり大きな物体がゆっくりと飛行しており、左の方へ飛行していったので追いかけたが急にこわくなり逆の方へ逃げた。なお、電柱のすぐそばを飛行していたので、ひよっとすると電気をとっていたのかもしれない。(佐沢勝 千093網走市つくしヶ丘6丁目)

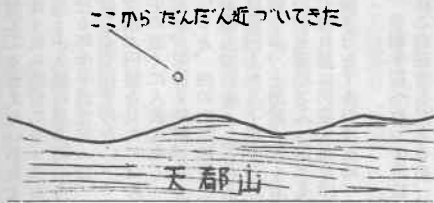
そのIII

年 田村高之 14歳 網走市立第1中学校3
 目撃日時 一九七五年8月10日午後8時
 目撃地点 網走港内
 天候 晴
 目撃継続時間 5分
 同時目撃者 近所の人々数人
 観測方法 肉眼
 物体について 形・粒状、大きさ・見た目

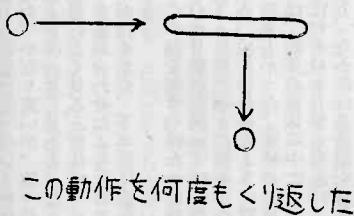


UFO目撃レポート 04

1mm、色白、速度ゆっくり。
 飛行状態その他 東の空にあつてしばらくか
 がやいていて星かなと思つたとき西へゆっ
 くり移動し、パッと消えた。なお当日は花
 火大会だったので多数の人々が目撃してい
 る。
 (千093網走市南8条東4丁目)
 そのIV
 年 室本英明 14歳 網走市立第1中学校3
 目撃日時 一九七四年1月 午後7時頃
 目撃地点 網走市役所の駐車場の近く
 天候 晴
 目撃継続時間 5〜6秒
 同時目撃者 なし
 観測方法 肉眼
 物体について 球が3つつながった形。色
 ・黄、黄緑、オレンジ。大きさ・見た目で



5mm、速度・流星くらい。
 飛行状態その他 西へ東へ飛行。遊んでいた
 とき空を見ると物体が高速で飛んでい
 った。
 (千093網走市南4条東4丁目)
 そのV
 年 東貴生 14歳 網走市立第1中学校3年
 目撃日時 一九七三年2月
 目撃地点 網走小学校の坂
 天候 晴
 目撃継続時間 30秒
 同時目撃者 白岩岳彦、東昇
 観測方法 肉眼
 物体について 形・球・葉巻型、色・白銀、
 大きさ・見た目5mm、速さ・ジェット機よ
 り速い。
 飛行状態その他 のび縮みしながら高速で飛
 行。天都山の方から飛んできた。



UFO目撃レポート 05



北海道

あれっ、円盤だ！

●小学生、夢中でシャッター
「あれっ、円盤だ！」室蘭市内の小
学生3人グループが一九七六年2月
27日午後3時頃、同市追漁港近く
で遊んでいた際、チャラナイ寄りの
小高い岬の上空に、正体不明の飛行
物体を見つけて、ちょうど持ち合
わっていたカメラにおさめ、3月4
日現像したネガフィルムと写真を北
海道新聞室蘭支社に届けた。

この3人は、室蘭・武揚小6年で
同級生同士の森信太郎君(12)、渡
辺憲二君(12)、寺内直君(12)。森
君がお父さんと共同使用しているカ
メラでみんなを写そうと、自宅近く
の漁港に出かけ、まず森君のボーイ
写真を撮った渡辺君が、次に何かを
写そうと周りを見回したところ丘の
上を飛んでいる黒っぽい物体をみつ
け、夢中でシャッターを切ったとい
う。7枚写したところで、物体は空
中でフット消えてしまったが、5分
ほどたってから再び現れ、今度はカ
メラ歴5年の森君
が22枚写した。

どのネガにも小
さいが、黒い点状
の物体が、確かに写
っており、一番大
きく写っているも
のは中央部分が空
白のドーナツ形が
「夢中だったのど
どのくらいの時
間、見せたいか
思いだか怖い気が
する」と3人とも興奮
がさめない。
(一九七六年3月
5日付、北海道新
聞)

中学生、自宅の窓から
UFOをパチリ

●大きさは自動車の半分ぐらい
これが空飛ぶ円盤か。江別市内
の中学生が自宅の窓からUFO(未
確認飛行物体)らしいものをカメラ
に写した。同じ日に中学生の自宅か
ら約3キロ離れた住宅地で主婦たち
が同じような物体を見ており、江別
ではちょっとしたUFO騒ぎがもち
上がっている。

写真にとったのは江別市角山四二
五、商業湯藤昇さんの長男昭治君
(12)江別市立角山中1年11。写真
によると、物体はちょうどボーイス
カウトの帽子のような形をしてお
り、つばに当たるような部分の下部
に車輪のような突起が2つ見える
あんまりはっきりうつっているの
オモチャみたいな感さもある。
昭治君の話によると、写真にとった
のは24日の午後2時過ぎ、自宅1
階の居間で本を読んでいると、「キ
ーン」という金属音のようなあまり
大きくない音がしたので、窓の方を
見たら空に黒い物体が浮いていた
ので急いで窓を開け、居間にあった
カメラを持ち出し夢中でシャッターを
切ったという。

物体は30秒ほど静止しており、そ
の後、上の方に動き、視界から消え
たという。この間、カラーフィルム
で2枚とったが絞りやシャッター速
度をどのくらいにしたか覚えていな
い。「初めは西洋ダコかと思ったが、ど
うも違うようです。大きさは自動車の
半分ぐらいあります。どのくらい
上空かはわかりません」と昭治君
はいいう。窓は南向きに開いていた。
おかしな飛行物体は同市対雁一
五の主婦菅原紀代子さん(35)も見
ている。昭治君が写真にとった日の
夕方、自宅の近くで建前があり、モ
チをまくというので、近所の主婦た
ちと外に出たところ、南側の国道12

号線の上空を行ったり来たりしてい
る(ヘンな物体を目にした。「どう見
たって飛行機やヘリには見えなかつ
た。タコでもないし、一緒に見た
奥さんたちも、気味悪いねって話し
ていたんですよ」と、菅原さんはい
っている。
(一九七六年4月30日付、北海道新
聞)

東北

いわき市にUFO? 現る

●5/6分上空に停止
一九七六年3月3日午後6時15分
頃、いわき市四倉町上仁井田字前原
一八ノ四、理髪業根本力夫さん(36)
から本社いわき支社に「UFOらし
きものを見た」と電話があった。根
本さんの話によると、このUFOらし
き物体は5/6分ほど上空に停止し
たまま光を放ち、その後南方に移
動してまもなく消えた。肉眼でも明
きり確認でき、光は一番星よりも明
るかったと言っている。
(一九七六年3月4日付、福島民
友)

二本松では会社員が目撃

●物体はオレンジ色
二本松市廓内三丁目、会社員清野
誠さん(29)は3月5日夜、福島民
友新聞本社に電話で、UFOらしい
ものを見た」と知らせてきた。
清野さんの話によると、4日午後
6時20分頃、帰宅途中の同市成田町
地内で、霞ヶ城上空を西から東へ向
かうオレンジ色の物体を見た。頭部
が大きく、すその方は尾を引いてい
る物体で、約1分間目撃した。
(一九七六年3月6日付、福島民
友)

UFO、絶対カメラに撮るんだ

●見たのに信じてもらえないから
中学生になったら絶対にカメラを
買ってもらう。久慈市夏井町の侍
浜小柄分校6年生平義光君(12)
はカメラが欲しくてたまらない。
生平君が空飛ぶ円盤を見たのは昨
年11月。自宅の近くに人家はなく、
夜はまっ暗だが、午後7時頃、家の
前で遊んでいると、西の山際に黄色
く光るものが飛んでいるのが見え
た。UFOは数回上がり下がりをし
たあと、数秒間であつと消滅。近くで
仕事をしていた兄辰己さん(24)も
確かに見た。流れ星は何度も見たけ
ど、あんな動き方をするのは初めて
だ。
ところが、翌朝学校へ行って分校
の友達8人にこの話をしたところ、
半分は信じてくれたが、半分は取り
合ってくれない。ウソなんかつかない
のに。
生平君はもうすぐ卒業する。今度
UFOを見たら、絶対カメラに撮っ
て信じてもらうんだ。そう決心して
はいるのだが。
(一九七六年3月7日付、読売新聞
岩手版)

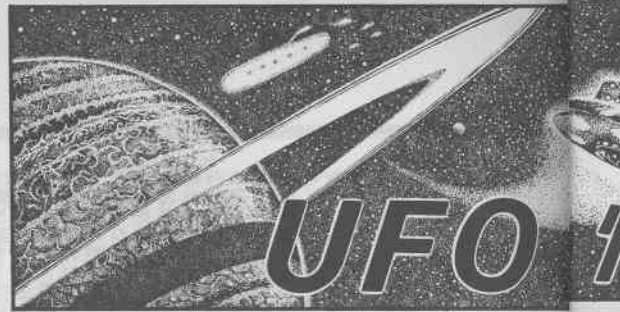
●小學生8人が次々と図解で証言
「宇宙人謎の遺産」がベストセラー
になるなど、出版界はSFブームだ
が、九戸郡軽米町では「空飛ぶ円盤
を目撃した」という小学生が次々に
現れ、ちょっとした話題になっている。
この空飛ぶ円盤らしきUFOを見
たのは、同町、増子内小(土佐行作
校長、児童59人)六年生の田中聡、
柏木敏雄、戸草内勉、五年生の戸草
内利幸、杉浦清昭、川島道明、四年
生の福田淳、二年生の小笠原隆君の
8人。
最初の発見者は田中君で、同君の
話によるとUFOが現れたのは、4
月15日午後4時頃で、放課後にみん
なでソフトボールをしているとき、

学校北側の山にある松林の上方に静
止した状態で光っている物体を見つ
けた。かなり遠いが、時々見る飛行
機よりは大きく見える。なんだろう
かと思いきや、物体は、ソングレ
ロを重ね合わせたような形で、上半
分が白く光り、下半分は黒かったと
いう。
この話を聞きつけた土佐校長がU
FOの目撃者を調べ呼び集め、一
人々に見たとりに絵をかかせたと
ころ、申し合わせたように同じよう
が出来上がった。同校の児童のなか
には、昨年の夏休み中に、父兄と
ともにUFOを目撃したという児童が
おり、なかには望遠鏡を持ち出して
形を確かめたという子もいる。
UFOの第一発見者の田中君は
「UFOはしばらく松のてっぺんに
引っかかっているような状態で止ま
っていたが、やがてその場でずうっ
と小さくなって消えてしまった」と
語り、他の児童らも「同校の通員
と同調している。一方、同校の教職員
は「子供らはUFOの存在を確信し
ているようだ。何かの錯覚だなど
というわけにはいかないし」と児童
らの話にただうなすくばかり。
とにかく児童らは「山の畑に行く
とUFOの着陸した跡らしい穴が十
字型にたくさんあり、草も焦げてい
る」とUFOの探索に夢中で、まだ
見ぬ。宇宙人」に首ったけといっ
たところ。
(一九七六年4月19日付、岩手日
報)

関東

手作り「円盤」初飛行に成功

●東京湾をフワリ30秒
「空飛ぶ円盤」東京湾上空に――。
わが国でただ一人の、UFO・空飛
ぶ円盤製作家、として知られる中山
達(とおる)さん(41)の手作り円
盤「新中山号」(直径1・2メートル



ル)が、一九七六年1月28日朝、大森海岸運河で見事、初飛行に成功。波おだやかな海面をすべるように離れると、30メートルの上空を、ゆっくりと輪を描いて飛んだ。

中山さんは、地元・大森地区では「空飛ぶ円盤研究者」として人気を集める町の発明家。本職は、電機製作所勤務の工員さんだ。最近、子供たちの間にまで

広がったUFO(未確認飛行物体)ブームに刺激され、自宅2階3畳の工房で、新中山号製作にとりかかったのが昨年10月上旬。折り箱に似たごく軽い工作用「バルサ材」を縦横、網の目に組み合わせた。円盤本体は外側にくまなくつないだバルサ材をセッ、盤の表裏に和紙をビンと張り付け、防水用ラッカーで赤と銀色に塗り分け、浮力をつけるために、盤後部をちょっとハネ上げた。この微妙なハネ具合が円盤の飛ぶ、飛ばないの決め手になるという。

20メートル滑走、グンと飛び上がった。大きく輪を描きながらグイグイと上空へ突き進む。豆粒のようにならながらスイと横へ流れ、2度く昇度と上空を旋回、また空へと駆け昇った。滞在時間約30秒。円盤は遠く離れた海面に水柱を立てて落下した。中山さんは、さる30年から35年にかけて五角型、ドーナツ型、ビートル型、土星型など合わせて24種類の円盤を作った。いま、ヒットソング「およげたいやきくん」にちなんで、新しい円盤「たいやき号」(直径1メートル)の製作に励んでいる。2月下旬には飛ばす予定だ。(一九七六年1月28日付、読売新聞夕刊)

星を撮るには手動ガイドを使い、星の動きを追いかけるようにして15分がかりで撮らねばならぬ。だからこの円盤が本物なら少なくとも15分間、星と全く同じ状態でいたことになる。鳥や他のものなら必ず動くわけだ。松本さんはフィルムでは1/2ミリになっており、仮に大気圏外にいたとなれば大きすぎるし、光を発してないのも気になる。とクビをひねっている。

星座にはくわしい松本さんもUFOのことは全く知らない。その方の研究をしている人にぜひ見てもらいたいと言っている。一九七六年2月23日付、上毛新聞

わかった。不気味ですね。工事は夜やることもあるが、休みのときでも聞こえるので、「工事音じゃない」と橋本さん。話を聞きつけた県温泉研究所(小田原)からも平賀士郎所員が派遣された。「地震の前ぶれ」という憶測が流れたからだ。報告を受けた大木靖衛所長は、「かなり周波数の高い、金属音のようだ。山鳴りならもっと低い。実は8日に地震計を現地に置いてきてある。4千倍から1万倍に感度を上げたので、振動、音も記録できる。近々、テープを解析するつもりだ」と、今のところ地震の前兆説に否定的。

14日には、遂に松田署員3人も現地にいった。「午前3時50分から鳴り始めたナ。キーン、キーン」と。たたく音でもなく、大杉山(86メートル)方向から。今後? 一応、犯罪に結びつくようなこともないので「静観」の構え。一緒に音を聴いた橋本さんは、音響測定器で音を計った。50ホン(一般住宅では、やや耳ざわり)と出た。「9日たり5秒間隔、余韻も出た。9日だけだったんですからねえ」

アダムスキー型円盤を撮影? 火星近くの天体で偶然キャッチ 伊勢崎市のアマ写真家が1月の末に撮った天体の写真の中に、空飛ぶ円盤らしきものがはっきり写っており、アダムスキー型UFOではないかと話題を呼んでいる。このUFOを撮ったのは同市馬見塚町、綿店経営松本庄八さん(49)松本さんは一九七六年1月25日の夜中に火星に焦点を合わせ近くの星座を8枚撮影したが、UFOらしき物体が写っているのは、午前零時から同15分までの間に撮った。使ったフィルムはカラーで、今月に入ってから、本市市の知り合いの写真店にDPPを頼んだ。取り合っからよく見ると火星の右下に黒いゴミのようなものが写っており、初めは写真店のミスかと思ったという。念のため近くの写真店で白黒に焼いてももらったところ、はっきり円盤らしきものが浮かび上がり、松本さんはびっくり。

丹沢の山奥で不気味な「怪音」 四時間続けた「キーン・キーン」 西丹沢の山懐深く、酒匂川源流の中川を臨む中川温泉郷(足柄上郡山北町)に、怪音騒動が続いている。不安がる住民たちの訴えで地元松田署からも14日、「捜査」の手が伸びた。夜を徹しての調べにもかかわらず、怪音の発生源はわからずじまい。「UFOだ」「地震の前兆かんだ」「いや鳥だろう」と、諸説ふんだ。

この怪音に気付いたのは、同温泉郷にある湯川館の湯川静雄さん(54)。「四日の未明でしたか、外でビービーというような音が、断続的に鳴り始めました。数秒間隔で朝5時頃まで続いたんです。それから毎日です。家の前の山を中心に聞こえるんですよ」という。あまですり続くので、湯川さんはそれを録音して、上流5〜6キロで三保ダム工事に向っている鹿島建設宿舍の勤務課長「橋本晃一さん(37)のところへ。8日でしたか。タカをくくっていったんです。笛のような音でした。それで9日未明に湯川館に泊まり込みで聞いて、本当だと

末論や超自然現象論議が盛んだったが、その一つの宇宙関係のUFO(未確認飛行物体)は今でも若い人の関心が強いとみえて、時々テレビの番組にも登場する。空飛ぶ円盤も実際に見たことはないが、写真に写されたのを見ると、やはり実在するの、かなと思える。丹沢に今、起きている「異変」をUFOに結びつけるのは早計過ぎよう。西丹沢の奥深い中川温泉で、夜な夜な怪音が聞こえてくるという話は、なんとなくUFOファンの興味をかき立てる。きのう本紙に報道された記事を要約すると、こんなふうだ。さる4日の未明、ビービーという断続音がするのを旅館の経営者が聞いた。

「一晩だけかと思ったら、それから毎晩続くと不思議がり、この音を録音にとるほか、ダム工事の課長に報告、さらに話は温泉研究所、地元警察署にも広がり、それぞれの角度からこの怪音を耳を傾けた。その結果、工事音でなく、山鳴りの音とも異なり、別に地震の前兆でもなさそう。また「犯罪」との結びつきも考えられない」ので、警察もしばし静観となった。

このほか今、ちょうど動物の交尾の時期で、近野鳥の会がまきかきというので、近く野鳥の会がまきかきを聞いてもらうそうだが、今までのところ、音はずれと正体がかめないうちの音が実情だ。

音はビーとかキーンという、波長の高い金属音、笛のようともいい、近くの大杉山の方から聞こえてくる。音響測定器で測ったら50ホンで、一般住宅ではやや耳ざわりな程度だが、住民にしたら夜明け、原因不明の音が聞こえたら、騒がしいより気味が悪い方が先だ。この温泉郷は武田信玄とゆかりが深いので、武田の落ち武者の夜泣き説もあるくらいだ。これから初夏に向かって、西丹沢は当分、この怪音騒ぎに包まれるだ。

怪音騒動、正体は何か? 「ノストラダムスの大予言」とか「スプーン曲げ」とか、ひところ終

らう。そのうちテントで夜明かしのUFOファンが現れるかもしれない。ただ、これだけその筋の人たちが確認した怪音だ。春の夜の夢物語に終わらせないで、確たる原因をつかんで欲しい。(一九七六年4月16日付、神奈川新聞)

怪音の正体、トラツグミ?

●県立博物館の研究者は小鳥と断定 松田署の依頼を受けて、怪音を鑑定した中村主任研究員は「トラツグミの鳴き声に間違いはない。トラツグミは4月から5月にかけての繁殖期、深夜から夜明けにかけて大きな声で鳴く。それが物寂しく聞こえるので、各地で、怪音」として問題になる」と説明。

これに先立ち、松田署は同日未明、入手済みのテープに雑音が多かったため、雑音抜きを編成。午前2時すぎから県中小企業従業員厚生施設なかがわ荘近くの空き地で、山口彦次次長ら7人が録音機をセットして待機した。しかし、待てど暮らせど、怪音は聞こえず、空が明るくなった午前5時、収録をあきらめてひきあげた。この間、報道陣をはじめ、怪音を確かめようとする人々など約100人が殺到、テレビのライトやカメラのフラッシュが激しく浴びせられた。

前日の15日、午前中から中川温泉郷の上空にはヘリコプター数機が舞い、時には低空飛行を続けた。そのため、この日に音が聞こえなかったのは、「怪音」の主がヘリコプターの音に驚いて逃げだしたものと考えられ、「トラツグミの鳴き声」とする中村主任研究員の説明と、ビタリ一致するわけだ。ところで、これまで「地震の前ぶれ」「間けつ泉の噴出」「UFO(未確認飛行物体)」「富士山頂レーダー

の影響」「ダム工事の関係」「高圧線の振動」など、正体がつかめられないまま諸説ふんぶんととりざされてきた。そのため、胸を張ってテレビに間違いはない」と、胸を張ってテレビのインタビュアーに答えるヤジウマも出るほどの騒ぎだったが、大山鳴動の割には極めて「常識的」な結論に落ちついたようだ。

一方、横須賀市立博物館の林公義学芸員は金属音、50ホンということから、トラツグミ説に首をかしげているが、録音を聞いて「私もトラツグミには間違いはないと思う。金属音というよりも、口笛を遠くで聞くような音で、50ホンあるとは思えない。トラツグミは早朝、夜間、また曇天の日中にも鳴くが、ほぼ一定の時間帯に連日鳴くのが普通です」と、トラツグミ説に賛同している。(一九七六年4月17日付、神奈川新聞)

中部

「ビービー」岐阜でも怪音

●石を投げたが鳴りやまず ビービーと、4月16日未明、岐阜市岩崎地内の百々峰山ろく一帯で金属音に似た音が数時間にわたって聞こえた。この怪音に住民の間でUFO(未確認飛行物体)からの信号音ではないか、と話題になった。この怪音は15日午後11時頃から聞こえ始めた。たまたまマイジャンをしていた同所、広瀬峰久さん(40)ら4人が目撃ならぬ、耳撃。早速、「証拠品」として録音テープに収めた。

広瀬さんらの話では夜がしらみ始めた翌日の16日午前5時頃まで続き、約4秒間隔でビービーという音が、自宅から500メートルほど東方にある百々峰中腹あたりから聞こえたという。この録音テープを聞いた野鳥研究家のYさん(36)は「テ

ープ音なのではっきりしないが、ツグミ科のトラツグミの鳴き声に似ている」と語っている。広瀬さんも当初は野鳥かと思いきや、音のするところをめぐって石を投げつけたが、音は続いたという。もし鳥なら驚いて鳴きやむのではないかと、鳥の鳴き声には首をかしげている。

しかも、この種の怪音については、神奈川県・丹沢山ろくの中川温泉一帯でもとある6日から明け方近く「ビービー」という音が聞こえ、地元警察署が「音源」の調査に乗り出したのはじめ、愛知県下の豊田、大山市などでもこの怪音騒ぎが相次いでおり岐阜市にも、UFOの怪音騒ぎが飛来してきたようだ。(一九七六年4月17日付、岐阜日日新聞)

近畿

UFOものはなぜ売れる?

●テレビ番組も一役 UFO。未確認飛行物体。いわゆる「空飛ぶ円盤」のことだが、最近これを「見た」と証言する人が増えている。少年むき雑誌ではすでにおなじみ、テレビのスタジオショー番組に登場することも多くなった。ブームに敏感な出版界も右にならぬ。これでもか、これでもかとUFOモノを出版している。だが、これがUFOだ、という決定的な資料はなく、ブームになるにつれ、ますます謎に包まれていくのが実態。正体見たり枯尾花のと、全く信じない人も多いのだが。

「UFO入門」「UFO追跡」「聖書とUFO」「日本のUFO」「UFOの謎」「UFO大襲来」「UFO目撃」……固定読者がいるうえに、ブームとあって、いま出版界はUFOラッシュ。書店の書架にはずらりとUFO関係の本が並んでいる。

「なぜ、こんなにモテるのでしょかね。実のところ私たちが反響のすごさにびっくりしているんですけど」というのは、「ワニの本」で知られる(株)ベストセラーズの宣伝マン。同社では「UFO大襲来」を昨年12月に発行したが、売れるわ、売れるわ。わずか1ヵ月で53版まで発行するさまじさ。2月までの3ヵ月間に約35万部を売りつくした。

またUFOモノを出版する大きがけとなった東京・新宿の(株)大陸書房は「UFOシリーズ」と銘打って、昨年8月から今年にかけて、わずか7ヵ月の間に13冊を発行した。「売れゆきは好調ですね。読者から、実は私も見ました」とか、見てしまったのですがどうしたらいいのでしょうか」という問い合わせもあるほどで、反響は大きいですね。このシリーズは今後もつづけますよ」(同社宣伝部)と鼻息が荒い。

ところが、本当にUFOは存在するのかわからない。宣伝マン諸氏も「どうですかね」と首をかしげる始末。どうも怪しげな雰囲気だ。つまりところ「別にどうでもいいじゃないですか。夢があるんですから」となってしまう。ただ、アメリカをはじめUFOの目撃者が多いことは確か。日本でも、ユリ・ゲラーがブラウン管に登場した頃から、全国各地で「見ました」という情報がISPS(日本宇宙現象研究会)に殺到している。また、東京・調布市の会社員、高坂勝己さんが「テレビ番組でUFOを呼ぶことが出来る」と豪語。テレビにも出演し、高坂さんとグループのチビチ子が「宇宙の友よ、テレビを見ている人にあなたちが人類の友であることを証明して下さい」と、夜空に向かってコールしたところ、本当に現れた「からびっくり。テレビカメラが「夜空にビカリビカリと輝く物体」をとらえたのだ。

だが、これはテレビ局ぐるみのデッチアゲだったらしい。同番組の収録にたまたま同席したJSPSの志水広報部長の友人A氏の話によると「輝く物体は、だれが見ても飛行機だとわかるもの」だったという。また、同番組は当初の予定では司会の大野しげひさ、岸ユキが「放送時間がなくなってきたよ」「まだ見えませんか」「残念時間です」「ご機嫌よう」で終わることになっていた。A氏によると、局が用意していたUFOの写真も実はネガにキズをつけたもので、現れたUFOも飛行機であることを薄々? (あるいははつきり?) 知りながら、番組をおもしろくするためにデッチアゲたものだった。

では、UFO騒ぎはすべてデッチアゲで、嘘のかたまりなのか、といえは、そうではない。UFO研究者で名高い並木伸一郎氏は「90%以上は誤認、あるいは嘘」といながらも10%の可能性を信じる1人だ。「飛行機や気球、人工衛星をUFOとまちがう人がほとんどで、90%以上がUFOとは別のものですね。だがアメリカの国防省が力を入れて調査しているうちに、何とも説明がつかない発光体、つまりUFOの存在を裏づける写真もあることだし、全く否定してしまふことはできません」というわけだ。

要するにUFOの存在は現在のところ、解明できない。というのが妥当な見方になりそう。出版界の宣伝マンがいう「殺伐と、時代の清流。夢を失った大人たちとビートルズ、漫画で育った若い人たちが夢をつなぐためにUFOを信じる。子供はもとど空想家ですかね」というのが、一番マトを射ているように思われる。

「一九七六年3月6日付、新大阪新聞」

大好評の宇宙開発展

●世界のUFO写真が2000点

ジャスコ四日市店で、4月1日から7日まで市教委後援の宇宙開発展が開かれて、春休みの子供たちの人気を集めた。この開発展、ジャスコが1人でも多くの人に宇宙への関心をもってもらえたらと企画したもので、わが国宇宙開発事業団自慢の人工衛星打ち上げ用3段式ロケットや、国産衛星の模型のほか、米航空宇宙局が29億円をかけて開発したという月面車(ルナー・ローバー)や宇宙服が展示され、ほかにも実物のいん石、世界のUFO写真など2000余点が飾られた。月面車や宇宙服などは、いずれも本物で、テレビで見ただけの子供たちは、想像以上に大きな月面車に感心していた。

またUFOの写真は、日本でも研究会が生まれるなど関心が高く、会場でも人気の中心で、母親に説明したり、父親になかなか高度な質問をして困らせるなど、春休みの社会科の勉強に役立っていた。この企画子供たちは相当宇宙への夢を育てたようだ。(四日市)

(一九七六年4月5日付、伊勢新聞)

飛行機の横に黒い物体

●すかさずシャッター

岩倉市本町宮東、電気器具商吉田守孝さん(37)は、さる16日昼頃、小牧空港近くで飛行機のすぐ近くに黒い物体を発見、すぐシャッターを押した。現像したところ、物体のような物体が写っており、この物体は肉眼でも見え東の方へ消えたという。吉田さんは「ネガフィルムに黒点が写っている。空飛ぶ円盤ではないか」といっている。

(一九七六年4月25日付、中日新聞)

飛行機の窓から不思議な物体発見

飛行機の窓から不思議な物体発見

●京都の青年、カメラに納める

「さては、UFO(未確認飛行物体)の新型か」。先月はじめ、京都府船井郡八木町の青年が香港旅行の途中に、飛行機の窓から、奇妙な飛行物体を発見、カメラに納めて帰り、論争を巻き起こしている。

同町栄町、電器商片谷督夫さん(28)。先日2日、知人と空路香港へ旅行の途中、沖縄の北東上空約8千メートルにさしかかったとき、進行方向の右側下方約500メートルに飛行機と並行して飛んでいく不思議な物体を発見した。物体は1メートルぐらいのダ円形で、表面は金属製らしく銀色に輝き、クラゲの足のようなヒラヒラがついていた。

片谷さんが帰ってフィルムを現像してみると、はつきりうつっていた。これを見た近所の人たちは「新型の空飛ぶ円盤だ」「宇宙衛星が軌道からはずれただろう」など議論百出。

(一九七六年5月5日付、京都新聞)

高校生、受験の合間にUFO同好会を結成

●未知に対するあこがれは大切

真夏の夜空にUFO(未確認飛行物体)を求めて――但馬でも有数の進学校、豊岡高校に敢し受験勉強の合間、UFOを追い続けるグループがある。

グループは今年度事業のトップに、この夏、UFOをテレビ番組で呼んで現認しようというロマン豊かな計画を立案、近く資料収集に乗り出すほか、現認施設などの準備にとりかかる。

このグループは北村茂弥君(17)「コスモ」を会長とするUFO同好会「コスモ」(宇宙の意味)の21人。コスモは昨年12月末、中井敦子さん(17)と同いら女子だけの9人で発足。その後、UFOに心をときめか

すファンが加わった。コスモ会員のうち半数がある日、どこかでUFOを目撃、残りの半数も家族の1人が見たとか友人が半たかわりという直接、間接的にUFOにかかわりをもっている。

今春、入会した豊岡市京町、小幡昌弘君11年11は中学3年の昨夜、弘根にのぼって天体観測をしていて円盤らしい飛行物体を目撃、カメラにおさめている。

コスモ会員はUFOの存在を確認している。小幡君はUFOが飛来する目的について昨夏、目撃したさい、レポートに記し①地球征服説②保護観察説など7つの理由を挙げている。

宇宙の神秘に胸をときめかせる会員たちは、それぞれカメラや望遠鏡を放さず、自宅では窓ぎわにカメラを据え、いつでもシャッターが押せるよう準備している。

計画では、UFO現認が比較的多い夏季を利用、夏休みには神戸高原か香任にキャンプを張り、必ず呼び求める――と会員は張り切っている。

この結果は10月上旬の学園祭で発表するという。

同会顧問の橋本正信教諭は「コスモは現状からの逃避、不満から出発したものでない。未知に対するあこがれは人間にとって大切なこと。合理性、知性を失わないよう研究して高校生活のプラスとなるようなものにした」と話している。

小幡君は地球に飛来する7つの目的の一つ「監視警戒説」の中で「宇宙人から見れば地球文明は物質面ばかり発達し、精神面はきわめて野蛮。こんな地球人の宇宙進出を放置することは他の星の文明にとってありがたない。だから地球文明の進歩を見張り、場合によっては地球文明が退化、自滅の指導しようとして地球人社会を指導しようとして」と報告している。

(一九七六年5月15日付、毎日新聞兵庫版)

中国

平田市に葉巻型物体現る

●決して錯覚ではない

この間、平田市で、UFO(未確認飛行物体)が現われ話題が広がっています。

少しさかのぼりますが、15日午後6時半頃、平田市の牧戸住宅団地の住民たちが見たもので、団地から見ると北方の西田地区の山の上空に、葉巻型に近い長円形の物体が浮いており、20分後に山かげに消えました。私も見ましたが、青味があった水銀灯のように光る物体で、先の方が少し太い感じでした。団地のごとですから騒ぎを聞きつけてかなりの人が見に出て確認しています。子供たちも、空飛ぶ円盤だなどと推測話でにぎやかなことでした。

4月の初めごろにも、午後3時頃、細長い光る物体を見たという人があり、私も一昨年、出雲市内でこんな物体によく似たのを目撃したことがあります。

決して錯覚といったものではなく、正体は何だろうかと思議でなりません。(平田市・安部)

(一九七六年4月25日付、山陰中央新報)

岡山県に毎夜UFO

●中学生や主婦たちでにぎわう

和気郡和気町の県営泉団地でこのところUFO(未確認飛行物体)騒ぎが中上がわっています。毎晩同団地に住む中学生や主婦たちが大勢同団地の遊園地に集まり、UFOらしきものをにぎやかに見物している。

この始まりは約1カ月前。同団地の中学生が友達から、UFO出現の話聞き、自宅の2階から夜空をのぞいてキャッチ、同団地に話がパッと広がった。

約1週間ほど前から、午後9時前後になると、住民たちが集まり、上空をながめているが、「私も見た」という主婦や子供が相ついでいる。

話はまちまちだが、UFOらしいものは夜9時前後に東の空に現れ西へ向かい、同町和気町の通和気富士の方向に飛行することが一番多いそうである。大きさはピンポン玉くらいからもっと大きく見えた人もいっている。

オレンジ色の発光する物体が上下に波を打つように飛んだり、真つすぐ飛んでパッと消えることもあるという。2分間も見えることもあり、月や星の出ている明るい夜がよく確認でき、双眼鏡をもち出して、確認する人もおり、このところ同団地はこの話でもちぎっている。

(一九七六年4月29日付、山陽新聞)

毎晩数十人が怪光探し

●UFO研究会をつくらうか?

「泉団地から毎晩の調子でUFOらしきものが見えます。調べて下さい」と和気郡和気町県営泉団地の主婦から本社備前通信部に電話があり、望遠カメラを片手にいつも現れるという午後9時から1時間ほど夜空をのぞき続け、雲が多かったせいかこの夜は空振り。

1カ月前、泉団地の和気中2年伊丹高志君(14)が、友人の話から怪光を見つけたのがUFO騒ぎの発端。もう1カ月前の夜の目撃している中学生をはじめ、30、中学生や主婦たちが毎晩、20、30人も団地の遊園地に集まり、就寝前のひとときを怪光探しに血まなこになつてい

みんなの話をつなぎ合わせる、UFOの正体はパンコ玉ぐらいの丸い物体が2つで、中空をゆっくり東から西へ移動、時折見えなくなったり、後戻りもする。色は赤、白、

黄、オレンジとそのときどきで変化、望遠鏡で見たら、丸いさら状の下に脚が2つ付いた宇宙船そっくりだという話も。

「UFO研究会をつくらうか」といった相談も持ち上がり、春の夜のケンケンガクガク、結構、団地のコミューンタイづくり役に立っているようだ。

四国

冬の夜空にUFOと星のロマン

●高知の星空の美しさは抜群
UFO発見が——一九七六年二月十二日午後5時頃、高知新聞社上空をオレンジ色の物体が猛スピードで飛び去った。歩道を歩いていた通行人らもこのUFO(未確認飛行物体)を目撃。本社カメラマンが撮影に成功した。

——というのは残念ながら全くのデタラメで、写真はトリック撮影。だが、2月の空は1年でも視界抜群なことだからUFO情報は多いのだ。今週の「ふれF」は、空に目を向けて高知のUFO情報と一段と輝きを増した冬の星座の話題あれこれ。

UFOに乗ったとか、宇宙人と接触したの話、最近はずいぶんと聞かされている。高知新聞社やセキスイ星で有名な高知市の関勉さんに寄せられた情報だけでも数十件にもなるが、決定的な証拠がないため信ぴょう性は薄い、という判断が実のところ。

たとえば佐川の人からの情報で、夜中に国道を歩いているら発光体がジグザグ運動をしながら高知方面へ去ったというのがあった。これなども関さんの説明では、視界が良くなかったため、軌道を飛行する人工衛星が見えたもので不安定な運動は雲の

せいだそう。ほかに「もしかしたら？」との情報もあった。浦戸湾で夜釣りにしている人から「五台山上空を火の玉が飛んで海に消えた」とか、通行人からの「夜10時頃、正蓮寺上空を数十個のUFOらしき光が編隊飛行をしている」というもので、ムムッ、これは怪しい。

だが、関さんは「天体の専門家の情報が全国的にないことから、UFO騒ぎは目の錯覚ではないか」と前置きして、この2件を流星と流星群とみて、高知大で天文学を教えている山口信之教授も「流星は一晩に数十個もあり間違えられるが、UFOはまず実在しない」と否定的。

このほか、夜間に東の空でオレンジ色に光る木星や夜明け前の東の空に光る金星もよく間違われるという。とはいえ、高知でも2月の夜空に約6千個の星が見えることから宇宙への夢が広がるのは当然だ。昨年の夏にチリで発見されたウエスト大星は、現在太陽の裏側に走っているが2月末から3月初めには高知でも観測可能という。肉眼でも「尾」がはつきりわかるというから楽しい。

この宇宙の放浪者は夕方と朝方に太陽の軌道に現れ、そしてまた宇宙に永遠に去ってゆく。高知は日本でも有数の星空の美しいところという。南西の空高くに輝く1等星カノープスなどは山口教授が推薦する「高知特有」の星だ。天体望遠鏡がなくとも手持ちの双眼鏡で宇宙の迫力は増すと関さんは話す。

天の川の中央付近のオリオン座でポーンとした輝きはガスから大星群の過程を観察できる。その北西のスピル座の青い六つ星の更に北西にかすんで見えるのは、私たちのいる銀河系に一番近い小宇宙のアンドロメダ星雲。輝きは今から1900万年昔のものという遠い宇宙だ。このように冬の夜空の輝きには多くの夢があるのです。

(一九七六年2月13日付、高知新聞)

夕刊ふれあい(ERIDAY) 奈良の少年、宇宙人を目撃

●ダイヤのような目、光るベルト：暖かくなると、きまぐれ登場する話題に、UFO(空飛ぶ円盤)がある。

今年もそのトップを切って「空飛ぶ円盤研究」という小冊子の第76号にUFOの最新実見報告が載った。この小冊子は、UFO研究者高梨純一氏が主宰する近代宇宙旅行協会の研究誌で、76号の表紙に「奈良の少年が目撃したという宇宙人の図」が掲載されたのだ。

「奈良の少年」とは、奈良県生駒郡に住む吉井弘至くん(9つ)で、今年3月13日の午後に見たのだという。近くの山中で宇宙人に出会い、観察したのが、この図である。ダイヤのような目、赤く光る手、電気を発射するヘルムット、光るベルト：なにがテレビのゴレンジャーやウルトラマンを連想したくなるが、ともかく吉井君は「見た」と主張しているのだ。

吉井君に見つめられて宇宙人は空中に浮き上がり、さらに夜になってから彼は5個の飛行物体を確認した、という。

この他、同誌には日本の貨物船がシンガポール沖で発見したUFO、三脚の足を枯草の上に残したカリフォルニアのUFO、さらには今年1月、山形県川西町で、雪の上に書かれた宇宙人のメッセージ(?)などが紹介されている。

主宰者の高梨氏は、最近UFO関係の本も2冊発行して、UFOの季節「向かってはりきっているように」。さて、今年のUFOは、日本を「侵略」するのかもしれない。着陸地点は、いまだに楽しみなことである。(一九七六年5月11日付、愛媛新聞夕刊)

九州 見過ごしてよいのか UFO現象

●世界では毎年1人が目撃 最近の米国での情報によると、UFO(未確認飛行物体)を目撃した人は毎年1人の割合で世界のどこかで目撃されているというデータがある。米国約半数がUFOの存在を信じているし、大学ではその講座が開かれ天文学者に専門機関が設置され、フオード大統領はかつて下院議員時代にUFOに関する公聴会を要求したことがある。

その宇宙、仮に銀河系を考えれば合その星の数は、一億二千億ともいわれ、惑星系をもつて安定した恒星の数が少なく見積もって全体の1割と推定すると、百億〜二百億個になる。ならばこの中の1個〜2個には地球の文明よりも、高度に発達した星がないでもないのではないだろうか。

おびただしい数の目撃例、これは本人が目撃しないという理由で存在しないと決めつけるにはあまりにも問題を軽視しすぎているだろう。なぜならば、それは大きくそして長い歴史をもつ宇宙の中に、小さく歴史の短い地球を唯一の糸口だからである。このような問題を別世界での空論と見るかどうかは自由であるが、それでもUFOは飛来するものである。

具体的に県内の例をとってみるとこの数年間のUFOフラッシュ現象は少なからず宮崎にも影響を及ぼしており、一九七四年の16件をピークに一九七五年が9件、本年は3件、それとも私が調査した中でUFOと断定できなかった、私の手元に連絡がなかったものまで含めると、この倍以上は考えてもよさそうである。この中

で特記すべき目撃事件は、一九七四年11月に起こったいわゆる「日向市事件」、1978年、日向市鶴町で、午後8時頃、若い主婦がUFOらしきものを目撃したことから始まる。更に50メートルわたったとき、道路の上にはなんともいえない、黒い斑点があり、手で握るとペトペトしたもののようであり、においもなんとも説明のしようのないもので、それが17時前後に、きれいにこの道路上から消滅したのである。その翌日、隣に住むマッサージ師が自宅前広場で小さなUFOを目撃しており、ますますなぞは深まるばかり、私も翌日夜遅く現場に急行し、調査し解明にあたり、その黒い斑点がなんであるか、推論ではあるが、UFOからの放熱、もしくは廃物の落下というところで、私は結論を下す。その他一九七五年5月12日、今度は延岡から日向市の上空にかけ起こった目撃事件である。俗に「延岡事件」と言う。その日の夕刻、約1時間以上わたって、延岡市民の大部分が目撃した正体不明の物体、結局、長時間の目撃にもかかわらず結論は出ず。ただ言えることは、UFO特有の現象を幾つか備えていたということである。

最後に一九七五年8月27日、日南海岸沿いの伊比井で目撃された「生殖円盤」と呼ばれる種類の貴重な事件である。目撃者は5人、この目撃されたUFOの特徴は、1個が2個に分裂して、その形を自由自在に変化させてゆくという奇妙なものである。日本に類を見ないものであり目撃はあまり頻をしないものである。目撃時間20分間という長時間にわたるもので、その間詳細を究明に記録されたものとしては、貴重なデータである。以上のように、ありとあらゆる場所、それも明確にUFOとして位置される現象が起こっている現代、それを黙って見過ごして

いてよいものだろうか。日本宇宙UFO研究会代表・並幸夫(一九七六年2月20日付、宮崎日日新聞)

UFOと超能力研究の集い

愛好家など300人が出席 超能力やUFOは実在するかという珍しい研究集会「UFOと超能力研究の集い」が一九七六年2月28日、宮崎市民会館で昼夜2回行われ、県内から愛好家など約300人が出席し、フィルムによる資料公開や研究発表に耳を傾けた。

この研究集会は、日本宇宙UFO研究会(並幸夫会長)が計画した。並幸夫が、県内の未確認物体や不思議な出来事の実例発表を行い、統一して日本推理作家協会会員で、日本サイコロニクス(精神力学)協会会長の中岡俊哉さんが「日本ではこういった現象について非科学的な」として片付ける風土にある」としながら、スプーン曲げ騒動で一部の週刊誌が面白おかしく取り上げたことも批判。自分の体験や見聞きしたことなどを中心に心霊現象や生体エネルギーなど貴重な16ミリフィルムなどを使って約1時間半講演した。

会場には興味のある小、中学生や会社員、女性愛好家などが詰めかけて熱心に聴き入っていた。(一九七六年2月29日付、宮崎日日新聞)

宇宙に目を向け、未知の世界に挑戦しなければならぬ

米・ソでは国家が調査 私がUFO(未確認飛行物体)に興味を抱くようになって、すでに20年たつ

20年間も研究していると、だいたい資料も貯(たま)っただろうと人に言われるが、そうでもない。私の手元には20数冊のUFO関係図書とストラップブック1冊、それに知人や

円盤研究団体から集めた数十枚の写真 スライドだけである。私自身で撮影した写真は残念ながらまだ1枚もない。

私とUFOの出合いは、第2次大戦中、昭和19年の夏の夜、米軍の空襲直前に飛んだ大の円盤1機を上空の3機編隊、それに昭和42年夏の夕刻目撃した超低空を飛ぶ小型円盤と、はつきりしたもので3回ある。

このうち昭和42年に目撃したときはフィルムに入ったカメラを手に持っていたにもかかわらず、すっかり忘れていたくらいで、わずか3秒位のアップという間の出来事。しかも世にも不思議な螢光色の円盤型の物体が目もくらむばかりに輝いて飛び去ったものである。ある日突然、予期せぬ時に予期せぬところで目撃するのだから余程運がよくないと写真撮影は難しい。

ところが、ここ2、3年来UFOの撮影に成功した人たちが実に加えられている。以前は偶然に撮られたものがほとんどであったが、この頃はUFOの出現を事前に何となく感知(テレパシー?)して撮影したものが多く撃つたのは驚くべきことである。目撃例にしても、以前は夜空の星座の中に不思議な光のものをみたとか、雲の如き輪郭のはっきりしないもの、素人目にはほとんど判別できないものが多かったが、近頃では真つ昼間、住宅の上空には、ゆりした形で悠々(ゆうゆう)と接近したり同じ場所に数日間続けて出現するなど次第にその現れ方が意識的にかつ大胆になってきたように思われる。このような世界各地でのUFO情報が相次ぐ中で、連政府は国内に二百カ所もの調査機関を設置して国家規模で研究を続けている。

一方、アメリカでも国が大学に調査を依頼して世論対策をすすめたが「他の天体からの飛来物である証拠はない」という結論を出した。しか

しながら「他の天体からの飛来物でないという証拠もない」のである。一流の科学者、天文学者それに宇宙飛行士の中でそれを信ずる専門家がいても世界のアカデミーは沈黙したままである。

日本でも最近おびただしい数の目撃例が相次ぎ新聞、週刊誌、テレビで次々と報道されている。しかし科学技術庁も学術会議も大学でも問題になっていない。事実であるかどうかさえも考えようとしないうた。しかし一部の研究者や科学者の中にはUFO問題と真剣にとり組んでいる人々もいる。

私たちは既成概念にとらわれることなく、宇宙に目を向け無限の可能性に向かって未知の世界の探検と創造に挑戦しなければならぬ。現代の科学をさらに発展させるために……(二南日本放送テレビディレクター・徳森勇(一九七六年2月29日付、読売新聞鹿兒島版))

福岡に長円型の円盤

主婦が発見

3月20日夜11時半頃UFOを見ました。宗像町の里田地近くの自宅から東南東の方角、ちょうど北九州市ぐらゐの上空にオレンジ色に光る長円形の円盤がずっと静止していた。淡く淡くたまたま濃くなりました。寒くなったので11時50分には家に引つ込みました。22日午前1時半頃に妹が妹が見つけ、そのときは上空に消え行ったそうです。ほんとよ。2人の妹も両親も見ているんです。(主人は)。寝入りバナダし、勤務が早いので起こさなかつた。(宗像郡、主婦、28)

六ヶ岳の頂上付近から赤い光がスーッ

六ヶ岳の頂上付近から赤い光がスーッ

望遠レンズで撮影に成功 「ナゾの飛行物体」「空飛ぶ円盤」——このところ、全国的に「UFO」が話題を呼んでいるが、直方市西尾、三和運送トラック運転手、村上竜彦さん(21)が、鞍手郡宮田町大隈二坑(21)は、このほど鞍手郡宮田町と隣接の鞍手町にまたがる六ヶ岳の上空で、ナゾの飛行物体を撮影、毎日新聞直方通信部に撮影した写真を届けた。

六ヶ岳上空にナゾの飛行物体が出る、と聞いた村上さんは、3月から天気の良い夜には六ヶ岳のよく見える宮田町本城の町営ゴミ焼却場付近で辛抱強くこの物体の出現を待ち続けていた。

物体を見事にとらえたのは4月9日午後9時29分から同9時45分の2回。いずれも約1分間の短い時間だが、このときの模様を村上さんは次のように語っている。

焼却場から六ヶ岳は東北にあり、約1キロぐらゐと思うが、望遠レンズを脚立に据えて、じっと構えていたところ、頂上付近の尾根から突然、赤い光をキラキラさせながら、スーッと右から左へ1本のスジが流れた。光は1分ぐらゐで夜空に消えていった。

光の物体はふわっと本当に飛んでいる感じで、最初は1本の直線の赤い光がゆっくり飛び、線は長くなったり、波を打った形になっていたが、消えるときは光が点滅していた。高度は頂上付近から200メートルぐらゐ上空ではないかと思う。光の幅は小さかった。

このナゾの飛行物体を村上さんはこの1回目の発見から20分後の同9時45分に、鞍手町新北の上空で再び見た。宮田、鞍手両町ではこのナゾの飛行物体を見たという人はたくさんおり、うわさはUFOブームに乗って広がっている。村上さんは「こんどはカラーで必ず撮影してみせる」と大張切り。(一九七六年5月1日付、毎日新聞筑豊版)

宍岐上空にアダムスキー型円盤

小学生、撮影に成功し大喜び

宍岐の上空を空飛ぶ円盤らしい物体が飛行しているのを、小学生が撮影、評判になっているのを、屋間に写したカラー写真で、サラを伏せたような、ナゾの物体がかなり鮮明。

撮影したのは宍岐郷ノ浦町永田触、盈科小6年生、横山俊朗君(11)横山君の話によると去る4月17日午後4時すぎ、自宅2階で勉強しているとき「ウーイン、ウーイン」という音が聞こえた。

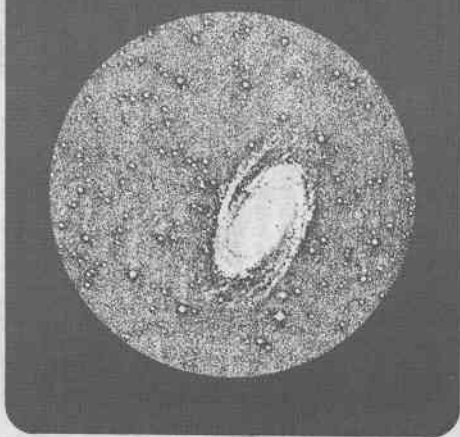
上空を見ると西の方に空飛ぶ円盤らしい飛行体。すぐ机の上に置いていたポケットカメラで、続けざま10枚のシャッターを切り、うち5枚に円盤らしい物体をとらえることができた。

飛行体は黒っぽい銀色で、サラを伏せたような形。約40秒間ゆっくり民家の上空を上昇、その後あつという間に姿を消したという。

横山君は「この日はよく晴れていて、風もなく、タコが揚がっていたり、気象状況のいたずらとは考えられない。絶対に円盤に間違いのないらしい。形はアダムスキー型」と珍らしい写真に大喜び。町の写真屋さんも、ネガフィルムを見たが、きちんと写っていた。

宍岐では数年前にも郷ノ浦町の岳ノ辻上空を円盤らしい物体が飛んだと話題になったことがあり、横山君も友人が円盤を見たとの話を聞きUFOを持つていた。ただこの日は、今のところ他に目撃者がなく、両親や写真屋さんも「ウーイン、これがUFO(未確認飛行物体)かな」と首をひねっていた。(一九七六年5月2日付、長崎新聞)

科学ニュース



地球誕生にできた

原始ヘリウム発見される

●磁気スペクトル計による結果

レニングラードのソ連科学アカデミー物理・工学研究所の科学者によって、約四十五億年前に地球がチリの雲から誕生したときにできた原始ヘリウムが、火山の噴出ガスや溶岩を強力な磁気スペクトル計で分析した結果、まだ姿をとどめていることがわかった。

これまで原始ヘリウムは、とうの昔に崩壊するか、宇宙空間に拡散してしまっていると考えられていたが、このたびの発見によって、地球の起源や構造に

新しい知識をもたらし、火山や地震の活動を予測するカギになるかもしれない。

(三月二十四日報道)

地上最古の岩石

ソ連で見つかる

●四十億年以上前のものと推定

ソ連の地質学者の発表によると、ソ連北部のコラ半島で地表数キロにわたって広がっている岩石は四十億年以上昔にできた地上最古の岩石ではないかと発表された。この岩石は明るい色の筋のはいった暗色の花崗岩(かこうがん)で、装飾に使えるほどのきれいなものだという。

これまでにみつかった最古の

岩石はグリーンランドの三十八億年前のもの。今回の発見はそれよりもさらに古いものということになる。

宇宙空間は

“無”ではなかった

●米科学者、巨大なガス雲を宇宙空間に発見

“小宇宙”の間の宇宙空間に巨大なガス雲があると発表したのはアリゾナ大学のロバート・ウィリアムズ、レイ・ウエイマン両博士で、これまで宇宙空間には物質は存在しないという定説をくつがえした。

両博士の研究結果によると、ガス雲には水素、ケイ素、炭素が含まれていて、ケイ素と炭素は星の内部でしか形成されないとみられているところから、ガス雲は星雲の爆発でできたものだろうという。このガス雲はクエーサー(太陽系から四十から百億光年の距離にあって、強い電波エネルギーを出す恒星状の天体)から地球に達する先の一部がガスによって吸収されることからわかったもので、これまでもクエーサーと地球の間にガス雲が存在することは知られていたが、その実態がつかめなかった。このたびの研究結果か

トピックス

警官二人、「ネッシー見た」と報告

●「怪獣ネッシーだ。ヒレが見えた」と四月十五日、英スコットランド地方のネス湖で巡回中の二人の警官が報告した。

目撃したのはドナルド・ニコルソン巡査部長とサンディー・グレー巡査の二人で、報告によると、パトカーで巡回中、湖上に故障したヨットらしきものを発見、数百メートルの距離まで近寄ってみると、湖面が、湯が沸きたつように大きくあわ立っていた。そして、およそ七・六メートルの間隔でヨットの帆のように見える二本のヒレを確認したという。目撃した様子から推測すると非常に大きなものに違いないと述べ、他の人にも確認してもらうため道路にもどり、観光バスの乗客を連れてきたが、すでに物体は消えていた。

(四月十五日報道)

一超大陸だったアジア、アフリカ?

●ソ連はキルギス共和国(中央アジア)のパミール山脈、天山山脈で古生玄武岩の調査を行っていた科学者らにより、このほど保存状態のよい古代有蹄類の骨格と頭ガイ骨が発見された。これは草食性のひづめをもったホ乳類で、シカあるいは馬に似た動物である。

これまで有蹄類の遺物が発見されたのは北アメリカだけで、今回の発見によってアジア、アメリカの両大陸が有史以前には一つの超大型大陸だったのではと推測される証拠となる。

(三月十一日のモスクワ放送により)

身長二・二メートルの巨人の墳墓

●三月二十八日のタスによると、約五千年前の

●中国に落下した大イン石

史上最大のイン石が中国東北地区の吉林に落ちた。

中国通信によると、三月八日吉林地区上空で燃焼、発光し始めた火の玉は吉林市郊外の金珠公社上空で爆発、イン石は四方にとび散り、最も大きな三つのものは西南方向にむかって落下していった。

最後のイン石は同日午後三時二分三十六秒地上に落下し、深

さ三メートル、直径二メートル余りの穴をつくった。幸いにして民家に被害はなかったが落下の衝撃で土煙は数十メートルの高さに達し、土塊は百メートル四方にとび散った。

現在、収集されたイン石の数はすでに百余りに達している。最小のイン石の重さは〇・五キログラム以下で、百キログラムを越すイン石が三つあった。なかでも最大の

イン石は重さが一・七七トンもあり、米国の世界最大のイン石の一・〇七トンを大きく上回っている。これらのイン石はいずれも黒色、黒かつ色の溶融した皮膜におおわれていて、主に輝石、カンラン石を含んでいるが、そのほかに少量のカマサイト、タエナイト、磁鉄鉱といった金属鉱物も含んでおり、典型的な球粒構造をもっているため「カンラン石・古銅石球粒イン石」と名付けられた。



●九站人民公社三台子大隊の畑に落ちた重さ 123.5kg のイン石 (中国通信)

TOPICS

墳墓の中から身長が二・二メートルという男の巨人が発見された。

この墳墓はソ連カフカズ(コーカサス)北部のナルチクで見つかったもので、青銅器時代初期とみられるこの墓は、よくみがかれた何枚もの凝灰石板でできており、そのうちのいくつかは一トン以上の重さがあった。墓の中からは巨人の男と女の一組が見つかり、その他、多くの日常家具と金の装飾品、ペンダント、ピアズなども見つかった。

そしてこの墳墓でもう一つ注目させたことは墓の基底が大石を使った巨大な三日月型(弓の両端が二十七メートル)に並べてあることだ。

古代エジプトの歯の治療にビツクリ!

●このほど米フロリダ州マイアミビーチで開かれた歯科研究国際協会の年次大会で、約四千五百年前のエジプトですでに数本の歯を「ブリッジ」で結ぶ治療技術が使われていたと発表された。

発表したのは米シンガン大学のハリス博士とカイロのアメリカ大学のイスカデル博士との共同によるもので、両博士の研究によると、エジプトのエルクアッタにある墓から一九五二年に発掘された三本の歯がそれで、二本の歯の周囲に金製の糸が巻きつけられ、さらに三本目の歯に開けられた穴に、この糸が通されていた。これは四本の歯を金糸で補強した「ブリッジ」の一部ではないかという。

「ナゾの怪物」シベリアに生息?

●チベットの雪男とはまたちがった「ナゾの怪物」が、東シベリア、ヤクーツクの氷に閉ざさ

ら、ガス雲は星雲やクエーサーから何百万光年も離れたところにあることがわかり、銀河系宇宙や星雲など「小宇宙」の間の宇宙空間は何も存在しない無の空間であるというこれまでの天文学的定説が今回の浮遊ガス雲の発見によって破られることになった。(四月二十九日報道)

●米科学者が研究成果を発表
太陽系最大の惑星である木星については、いまだにナゾとされている部分が多いが、米国科学雑誌「サイエンス」にA・P・イン・アメリカンに「木星の気象」と題して、興味深い研究成果を紹介している。

木星は特に表面の美しい縞(しま)模様や大きな赤いはん点(大赤点)が特徴であるが、

これは木星の気象が作る雲が原因であるというのが現在の考え方、ところがこのような木星の特徴は地球ではおよそ考えられないことで、地球の気象と違う最大の特徴は、木星の主要な模様のパターンが少なくとも数十年以上にわたって変化しないことだ。その理由としては、地球よりも太陽からずっと離れているため、受ける熱が少ないので木星の気象を暖めたり冷やした

●火星の生命存在論争に終止符なるか

オーストラリアの宇宙船追跡基地が火星上に生命が存在するか否かを結論づけるため計画に着手している。オーストラリアの首都キャンベラから四十キロ離れた谷間にあるティドビンピラ宇宙船追跡基地は、米国のバイキング計画で打ち上げられたロケット2基と地球とをつなぐ主要な通信ルートの一つだ。

バイキング計画に携わっている米国の科学者ジェラルド・ソフエン博士は、キャンベラに立ち寄り、「もし火星上で何らかの生命が発見されるならば文明は宇宙のどこにも存在すると

いう結論が導かれることだろう」と述べた。同博士は続けて「光学望遠鏡によって得られる情報のおかげで、科学者たちは近年全く新しい火星観をもつようになった。以前には火星は月と同様なもの思われていたが、四年前にマリナーが打ち上げられたとき以来、私たちは火星に対する従来の見方をほぼ完全に改めざるを得なくなった。すなわち、マリナーが打ち上げられた折、火星の北半球の様子が明らかになり、私たちはそこに地質学上、地球と同様に若い火山を発見し

(やまと新聞)

トピックス

れた山中に生息しているのではないかと、ソ連の有力日刊紙ソツィアルリスチエスカヤ・インドゥストリヤが報じた。

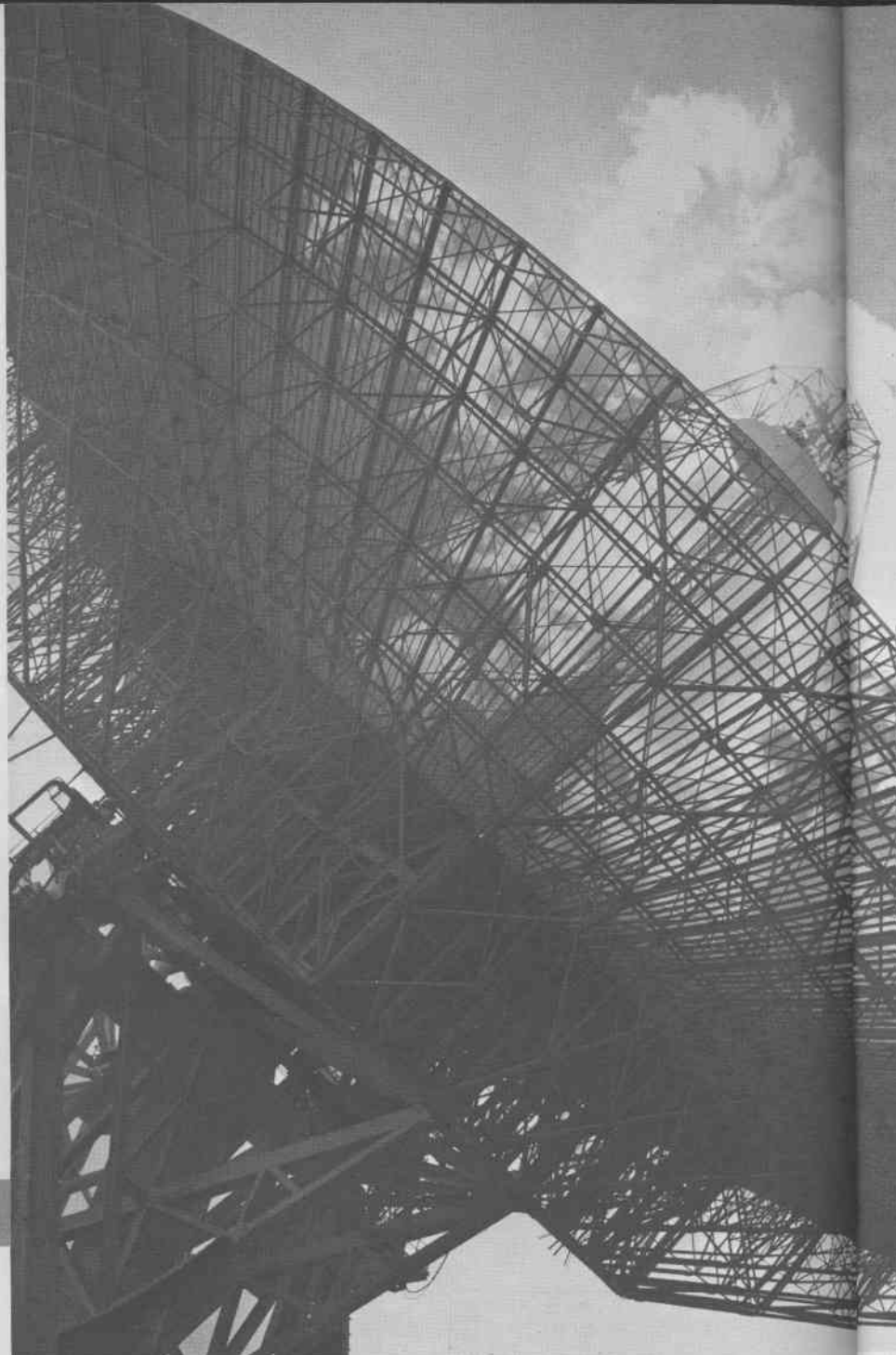
同紙によると、この「怪物」は身長が三メートルもあり、非常に速く走って弓矢も使う。言葉は話さないが、口笛を吹き、村人の魚を盗み出すこともよくある。身にはトナカイの皮をまとい、クマのように穴に住み、冬眠するといわれ、ヤクーツク住民には目撃者が多いという。土地の人たちはこの怪物を「チュチュナヤ(宿なし)」と呼んでいて。一九四八年には、このチュチュナヤに誘かいされ森に連れ込まれたという三歳の少女の事件がある判事が記録している。

また「チュチュナヤ」の存在に疑いの余地はないといい、進歩した人種が侵入してきたときに辺地に隠れた原住民の子孫かもしれないと、ヤクーツク科学アカデミーの民族学者セミヨン・ニコライエフ氏の話を引用している。

オランダ渡りの「魔法の箱」

●九カ月でやせ地が緑に覆われ、とれたためしのないリンゴが実りはじめたというわけで、インドネシアではいま、一つの小箱をめぐる大さわぎ。実はこの「魔法の箱」、インドネシア農民組合のマルチノ会長が一年ほど前、オランダ人から新発明「地質改良器」として手に入れた。(30×25×20)センチ、重さ二・五キロ。なんの変哲もない箱だが、土中に埋めておくだけで、三百ヘクタールの土地が肥沃(ひよく)になるというもの。

とにかくこの箱、不可思議な作用は科学と超自然力の混合による



●ティドビンピラ宇宙船追跡基地にある直径64メートルのアンテナ

りするのに必要な時間（放射時間定数）が長くなる。地球では、この時間が二、三週間と短く、大気中で雲のパターンが一定の形を保っているのと同じくらいなのに対して、木星の場合は、少なくとも一年以上あるというわけだ。

また木星の目玉のように見える大赤点については、周囲の大

気模様のパターンときわだった違いを見せることから、大気の下にある固体部分やその地形的特徴と直接関係していると思われる。しかし、最近の観測では他の縞模様にも大きくはな

いが独自の赤点があり、大赤点も他の縞模様と同じく基本的には気象的な現象だとされている。

このような同じ大気の現象ということからすると、木星の大気を研究することによって地球のそれと比較検討でき、地球の気象学もより深く理解できるだろうと結んでいる。

生きた化石「小エビ」

●仏科学者、フィリピンで発見
今回の「生きた化石」発見の

TOPICS

プリ・カシアクさんが語ったところによると、四十人の遊牧民が狩猟をしていたところ、戦闘用の木製オノヤヤリで武装した約十五人の「巨人族」が襲いかかった。

遊牧民は必死に抵抗し、これを撃退したが、小川で洗たくをしていた女性三人を「略奪」して逃げたという。

「巨人族」は身長七フィート（二・一三メートル）、皮膚は浅黒く赤毛で、首から赤い色の石をぶら下げて毛皮をまとっていた。

●「アマゾンの巨人族」遊牧民キャンプを襲撃、女性三人さらう

●ペルーの政府系有力日刊紙「ラ・プレッサ」が五月十七日報じたところによると、同国北部サンマルチン県のペルー・アマゾン地帯で最近、身長二メートルを越す「巨人族」が原始的な武器を持って遊牧民のキャンプを襲撃し、九人を負傷させた。

現場に居合わせた道案内人のナ

もので、オランダ人いわく開けたとたんに効力が失せるといいうわけ。マルトノ会長、これぞ農民にとつての福音とばかりにスハルト大統領の御前に。ところが肝心の箱の中身がわからないため、さっそく大統領、調査を命じ、国立科学研究所は十五個の「魔法の箱」を取り寄せ、比較研究することになった。（五月十三日報道）



(UPIサン一共同)

●火星の写真に科学者とまどい

(カリフォルニア州パサデナ発)

米航空宇宙局(NASA)のジェット推進研究所は六月下旬火星周回中のバイキング1号が高度約千六百キロから撮影した同号の着陸予定地域「クリセ」の写真五十八枚を発表した。これらの写真をみたNASAの専門家はとまどいをみせている。地質学担当のマイケル・カー博士は同地域の北西部を撮った写真には全域にわたって割れ目らしき地形が写っていると言った。博士は、何によってこのような割れ目が生じたか、非常に不可解だという。またこの計画の指揮担当官ジム・マーチンは、同地域は最終着陸候補地として他の地域ほどの障害はないだろうと述べ、カー博士は、この割れ目は極めて厚い溶岩の流れのあることを示していると語った。

重要性は一九三八年のシーラカンス(魚の祖先)発見に匹敵すると、このほどフランスの科学者二人が約五千万年前の地球第三紀始新世時代に絶滅したと思われる小エビ(NEOGLPHEA)が生息しているのを発見、十四を生け捕りにしたと発表した。

ファイビン国立大学海洋センターによると、この二人の科学者は仏自然科学国立博物館研究員のフォレ教授とローレン女史。二人は三月、ルバング島沖合で小エビを十四採取したという。

人類文明発祥地はタイ

●チクリス、ユーフラテス川流域ではなかった

世界の考古学会の常識を覆すような新説が五月十三日、タイ美術省、米ベンシルベニア大学の学者による合同記者会見で発表された。

この地域で発達していたことが確認された。

の地はチクリス、ユーフラテス川流域ではなく、タイ東北部にあったというもの。タイ、米両国の調査隊は二年前からラオス国境に近いタイ東北部のパンチエンで発掘作業を続けていたが、これまで人類最古の文化とされてきたチクリス、ユーフラテス川流域の文明よりも、さらに古い紀元前三千六百年頃、すでに青銅器を使用する文化が、この地域で発達していたことが確認された。

トピックス

ペルーの探検家カルロス・トレアルバ氏によると、この巨人族は十六世紀のスペイン侵略に屈服しなかったチャンカ族の末裔(えい)とみている。

オランダの超能力者「クロワゼット」

NETテレビに出演、

行方不明の少女を「透視」

●世界的な「超能力者」といわれるオランダのジュラルド・クロワゼットが五月五日、NETテレビ「水曜スペシャル」に出演、その超能力ぶりを紹介した。

クロワゼットは「ユトレヒトの魔法使い」とか「オランダの奇人」などと呼ばれていて、子供の頃には、人が驚くような事を口走るため、精神異常者扱いだったという。しかし一九四五年、オランダのユトレヒト大学超心理学研究所のW・テンハーフ教授が実験し、調べた結果、クロワゼットが「透視能力」に極めてすぐれていることが証明されたという。これまでに「透視」によって解決した未解決事件は八百件以上といわれ、その「透視範囲」もイギリス、アメリカなどにも及んでいる。

夏休み朝日科学教室開催

やさしい天文、地球、海洋セミナー

期日 八月二日～四日 毎日12時30分～4時30分 講師 村山定男(科学博物館)、竹内均(東大)、小尾信弥(東大) 他 入場料三千元 問い合わせは朝日新聞東京本社事業開発室科学教室係 電話03(212)0131



ウラン原子の動き撮影成功!

原子の動きを撮影した珍しい映画が5月10日、米シカゴ大学のアルバート・クルー物理学教授らにより公開された。

クルー教授らは厚さ200万分の1センチの炭素の上にウラン原子を置き、電子走査顕微鏡を使って1000万倍に拡大して写したもので、同教授らは当初、炭素上のウラン原子は静止したままだろうと考えたが、映画はウラン原子が炭素と反応したり、ウラン原子同士が互いに影響を与え合うなどの活発な様子を見せた。同大ではこのたびの成果によって、ウイルスや材料技術の研究に重要な情報が得られ医学や化学上の未解決の問題を研究するのを可能にしたという。

大豆に発ガン性物質発見!

●日本の食生活なら安心

大豆に発ガン物質があることが、四月二十三日に開かれた日本栄養・食糧学会第三十回総会で、東北大学農学部栄養化学研究室の木村修一教授らによって発表された。

木村教授は同大抗酸菌病研究所の佐藤春郎教授の協力で、白ネズミによる一年間の実験結果から、脱脂大豆を四十パーセント含む特別食を投与したところ甲状腺が肥大し、肺にも異常が認められた。そのため甲状腺ガンの疑いが強く、大豆の中に発ガン物質があることがわかったというもの。

一方、ヨード分を添加した特別食を摂取した白ネズミは全く肥大しないことがわかった。これまでにも日本人は大豆を多食するにもかかわらず、海草などのヨード分を食べるので、甲状腺腫ができにくいのではないかと言われていたが、このたびの研究によって木村教授は「日本人は湯豆腐にはコンブ、納豆にはノリと生活の知恵で大豆とヨードを合わせてとっているので発ガンの心配は大丈夫だろう」という。

分子生物学に画期的な成果

●日本の科学者英科学専門誌「ネイチャー」に発表される

生命現象を分子レベルで探求する分子生物学の分野で、最近わが国の研究者が二つの画期的な成果を挙げた。京都大・化学研究所分子生物学部門・高浪満教授のグループと国立遺伝研・三浦謹一郎分子遺伝部長のグループ。

高浪教授らの研究はDNA(デオキシリボ核酸)の「プロモーター」と呼ばれる部分の構造を決めたことである。

DNAは遺伝子の本体で、すべての生物は親から遺伝子を受け継ぎ、子が親に似るのであり同時に、個々の生物によって営まれる。遺伝子の情報に従って酵素などタンパク質がつくられこの酵素の働きによって、あらゆる生命活動が維持される。

これまでにDNAで全構造が決定されたものではなく、高浪教授らは大腸菌に感染する「fd」というウイルスのプロモーター部位が「T・A・T・A・A・T」という構造であることを突き止めた。DNAの構造決定はひと昔前までは不可能と思われていたが、今日ではそれを決定

するのも夢ではなくなった。

一方、三浦部長らはメッセンジャーRNA(リボ核酸)の末端構造が、バクテリアを除くほとんどすべての生物で同じであることを発見した。

RNAはDNAからの情報をタンパク質に伝達する役目をしている。三浦部長らはカイコの病原ウイルスを主とした研究材料を使い、RNAの末端構造が「クローメチル・グアニル酸」という物質がついていることを発見したもので、論文発表後も各国の研究室で調べられ、証明された。三浦部長はこの発見について「メッセンジャーRNAのこうした末端構造は、タンパク質合成の際に必要なのではない」と語った。

サル少年に専門家の関心集まる



●レーン博士

アフリカのジャングルでサルと一緒に約四年間生活していたとみられる少年が発見された。

報告によると六月二日、中央アフリカのブルンジで野生ザルの群にまじって怒りの鳴き声を上げているところを通りかかった兵隊が発見されたもの。この子供は黒人で、発見されたときは手足四本を使って歩き野生ザルと同じ食べもの、とくにバナナを欲しがったという。

その後、少年は「ジョン」と呼ばれ、ナイロビのケニヤッタ国民病院でテストを受けていたが、「少年がサルと暮らしていたと信ずる材料はなにもない。サルのようなしぐさや表情は、知恵遅れによるものではないか」ということになり、専門家たちをガッカリさせた。

●サルと一緒に生活していたという少年「ジョン」(UPIサン一共同)



〈連載科学記事〉

(続) 宇宙・引力・空飛ぶ円盤^②

レナード・クランプ

空飛ぶ円盤は重力場推進方式で飛ぶ！ 英国の科学者クランプが、フランスのリニョンでの目撃例、リンケ氏、ズッカラ氏の目撃例を詳細に検討、分析して、着陸装置、浮揚効果、レーダー効果、光学的効果、輻射効果等、UFOの科学的研究者にとって価値ある理論を提起！ さらに米空軍が試作した垂直上昇機、筆者製作の円型翼など興味ある写真も掲載！ 内容は一段と充実・深遠化！！

重力場の浮揚効果 3

離陸によるクレータ現象

宇宙船のパイロットが急激な離陸を

しようとしたら何が起こるか見てみよう。離陸はアンバランスの大きさに従った揚力を引き起こす。すでに見たように、場の強さが大きい程、アンバランスの効果は遠くまで広がる。付近にある空気は宇宙船と一緒に動こうとする。一方、地上に接近した位置で、宇宙船を保持するためにも空気が必要である。なぜならば、急激な離陸には非常に大きな上向きの推力ベクトルが生ずることが必要で、同時に負の“g”効果が宇宙船の下にあるすべての可動な物質を持ち上げるだろう。下にある地面を吸い上げるようにして円盤が急激に離陸した例がある。沢山の目撃者は実際に地面が吸い上げられたと報告している。

一九五四年十月四日、フランスのボンセ・シュル・リニオンで目撃された例では、直径3ヤード程度の円盤が急激に前進しながら上昇した後で、長さ一ヤード半、幅は、一方が二十インチ、端の方が二十七インチ程のすくいとっ

たような穴が発見されている。すくいとられた土は四ヤードの半径の範囲にちらばっていた。穴は地表に近くなる程広がっており、簡単に言うると、大きな真空掃除機で草の周辺の土が吸い上げられたように見える。

たしかに、我々が仮定している宇宙船の上向きの推力ベクトルは、場の強さが大きければ付近にある物を吸い上げることが考えられる。同時に前進ベクトルが加わると穴は長くなり、宇宙船が高く上がる程、穴の幅は狭くなるだろう。鉄粉と磁石による疑似効果を示したものが写真1である。この現象は非常に重要であるのもう一つの例をあげよう。ブラジルで起こった例では円盤が水面上十五メートルの位置で停止していたときに、円盤の下の位置にある水が沸騰しているように見えたり、吸い上げられているように見えたが、円盤の下部には実際にはふれていない。この点は航空力学的効果の個所を参照してほしい。弱い断続的なハミング音が聞こえ、円盤の下部から、皮ヒモのようなものが沢山、はねまわったりせずに、ぶらさがっている。この後の方の観察結果は矛盾しているようだが、そうではなく、後でわかるように事実である。

着陸装置

我々の仮定している宇宙船のフォース・フィールドが、構造の境界を越えて、垂直方向のみならず水平面内にも広がってゆくことを見てきた。垂直方向のフィールドは停止しているときに宇宙船の下にあるものの重量をなくし、吸い上げる効果を生じ、前述したように、浮上しているときに、地面との間にいくらかのクリアランス(隙間)が必要であると考える。このことは、たしかに離陸時にも必要であり、この問題を解決するのに着陸装置を設計しなければならない。我々の設計では、複数の足を持った着陸ギアとか十分な支持面積を持った一本の中心パッドとも呼べるものになるかもしれない。またも我々はだしぬかれたように見えるかもしれないが、これが実際のな解決法の一つである。

我々に似た宇宙人とのコンタクトまたはコンタクトに近いものの主張を調べると同様に、次のような実例を技術的に確認し得る価値というものを明確に考えてみるのが最も重要である。

第一は、一九五二年の夏に大論争と懷疑論を引き起こしたセンセーショナルな物語である。これらの物語は通常は受け入れられないが、忍耐強くすすめる必要がある。円盤の謎が解決されるまでにはもっと多くのショックが我々を待ちかまえているかもしれないのだ。

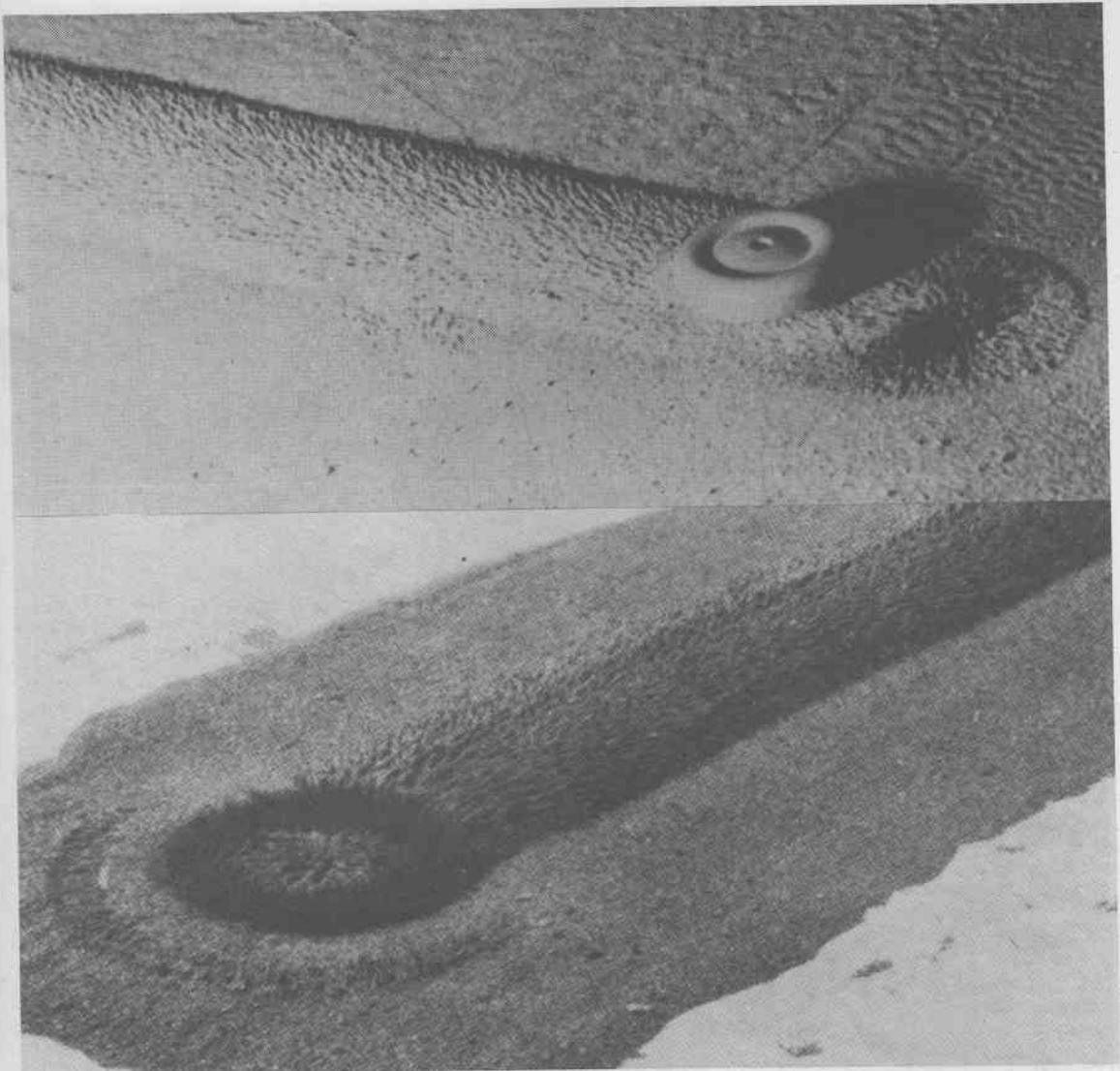
この物語に最初に光をあてたのは、ドイツ、マイニンゲン付近のグライマインシャウゼンの前市長である四十八歳のオスカー・リンケである。彼は妻と六人の子供と共に東ドイツから脱出した人で、西ベルリンの判事の面前で次のような宣誓書を書いたのである。

「私が娘のガブリエルを後に乗せてオートバイで家に向かって走っていたとき、ハッセルバッツハ村(西ベルリン)の近くでタイヤがパンクした。

二人でオートバイをハッセルバッツハの方に押ししていたとき、ガブリエルが百五十ヤードほど先に何かを見つけた。夕暮れの中で最初は小鹿と思った。

私はオートバイを木のそばに置いてその小鹿に注意深く近づいていった。大体七十ヤードくらい先の所だった。

そのとき私は最初の印象が間違っているのに気づいた。私が見たものは約五十ヤードむこうにいる二人の間ら

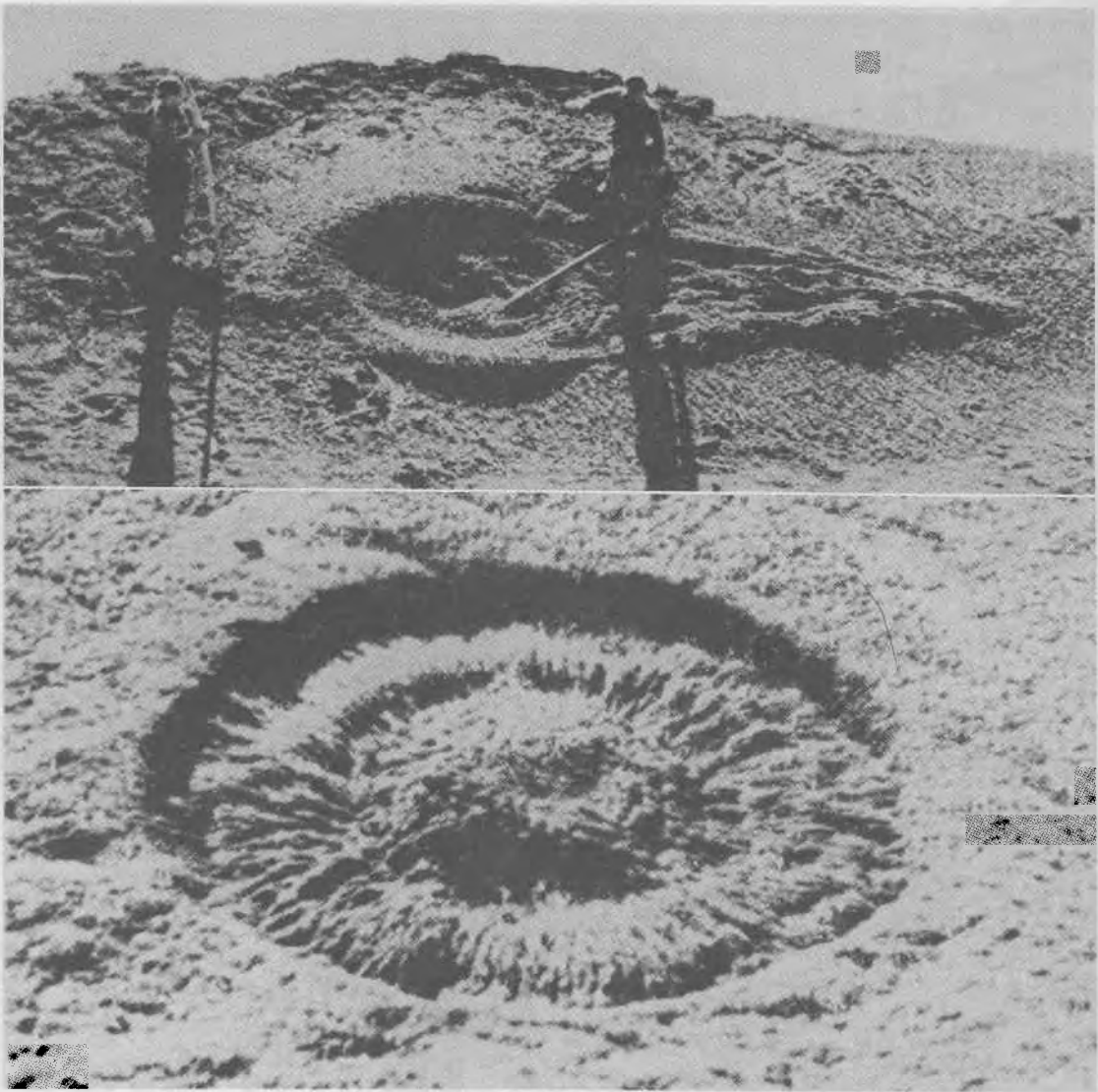


- 上 写真1 重力場の中心は円盤のずっと前方に位置している。
- 下 写真2 鉄粉に磁場を移動させて重力場の航空力学的な動きを再現させたもの。この場合、円盤の重力場の中心は機体の少し前方と下方に位置すると思われる。

しい姿だった。彼らは微光をはなつ金属のような物質で出来たものを着て、かがみこんで地面の何かを調べていた。彼らから三十フィート以内の所まで這って行き、小山の上からのぞいて見ると、大きな物体があるのに気づいた。正確に言うのはむずかしいが、それは直径四十ないし五十フィートあり、大きなフライパンのように見えた。側面にそって二列の直径一フィートくらいの穴が並んでいて金属らしいこの物体から十フィートくらいの黒い円筒型の司令塔のようなものが上に突き出ていた。(図8(a))

私は後方に残っていた娘の呼び声を聞いた。その声が相手の二人にとどいたのだらう。彼らはその物体の方へ走ってもどると司令塔の側面を昇り、上に消えた。

その前に一人が胸にランプをぶらさげているのが見えたが、そのランプは一定の間隔で点滅していた。穴がついているフライパンの外縁部は今や輝き始めている。最初は緑色で、次第に赤に変わった。その時かすかなブーンという音が聞こえ、輝きと音が大きくなるにつれて、フライパンの中心部に司令塔が入り込み、物体全体が地面からゆっくりと上昇した。輝く噴射の渦巻き効果のために全体がコマのように回転しているように感じた。そして本体は、中心部を通して沈んだ円筒型の上に乗っかっているように見えた。(図



- 上 写真3 鉄粉に電磁石を近づけて斜め前方へ浮上させた際にできたクレーター。ボンセ・シュル・リニヨンの例を再現した実験。
- 左 写真4 電磁石を垂直に上昇させた際にできたクレーター。

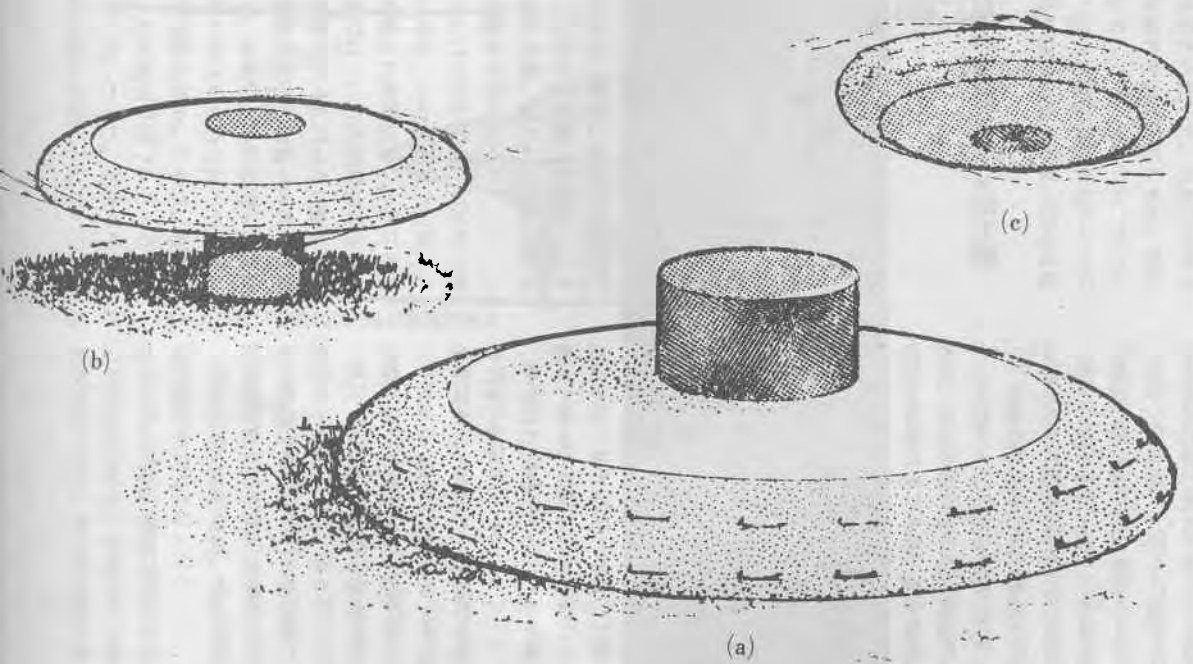
8 (b)

フライパンは輝く炎の外輪をとまな
つて地上数フィートに達している。全
体がゆっくりと上昇し、円筒部は中心
部の上に入って消え、上方に再び現れ
た。(図8(c)) 上昇速度は大きくなっ
たが、そのとき私と娘は口笛のような
音を聞いた。落下する爆弾の騒音のよ
うでもあるが、うるさい程のもので
なかった。物体は水平線まで上昇し、
近くの村の方へカーブし、丘や森を越
える高さを保ちながらシュトックハイ
ムの方へ消えた」

これは中心部に台を持つ物体の目撃
例としてユニークなものではなく、そ
れどころかザラにある例だが、もう一
つだけ実例をあげよう。

一九六二年四月十日、近くのフロ
レンスからサンガンサーノに向かつて
家路についていたズッカラ氏は午後九
時十五分頃サンカンサーノに着いた。

彼が通りを横切って流れている運河
の一つを渡って急いでいたときに、突
風によってかすかに持ち上げられるよ
うな感じがした。左側を向いて棒立ち
となり、極度の恐怖に襲われた。地上
六ないし七メートルの所に、一つの物
体が浮いているのだ。その物体は二つ
の鉢を重ねたようなもので、色は灰色、
直径は八・五メートルと思われた。物
体は彼の上を通り越えて六、七メー
トル先の、地上から二・五メートルの高
さで停止し、直径一・五メートル程の



● 図8 リンケ氏が見た円盤の離陸の光景

円筒が下部から伸びて、やがて地上にとどいた。

その後、円筒が再び上の方に上がり、下端が露出したままドアが開き、更に二つの小さなドアが両横にすべって開いた。円筒内部に更に二つの可動円筒があるのかもしれない。(図9)

開いたドアから、輝く白色の拡散光に照らされた空間が現れた。高さ四十センチの階段が三段見える。すると二人の人間がその出口から出て来た。身長は一・五メートルくらいである。身体は見た限りでは我々と同じようだ。

外見は、輝く金属の潜水服のようなものを着ている。彼らのヘルメットから二本のアンテナが出ていた。ここに掲げた図はズッカーラ氏の口述にもとづいて描かれたものである。この二人の生物はおだやかに彼の腕をとって、上へ案内した。彼は三段上がって中に入った。上はからっぽで外から見たのと同じ光で輝いている。内部にはこまかい部分が眼につかない。

これらの目撃者は眠っていたり、幻覚を見たのだろうか？ この本の中の情報のいくつかが読者の判断の助けとなるだろうが、まだ多くの研究材料がある。

これまで我々の宇宙船の設計には不利な面があることを私は示そうとしてきた。その一つは着陸装置で克服しなければならぬのである。しかし、円盤の下にある地面が強力なフィールド

によって持ち上げられることを知っている。この状況は未来の我々の宇宙船にも起こるもので、ゴミや草や石やジャガイモそれに不幸な猫などの物質を浮き上がらせるだろう。ひとたび離陸するとすぐにパワーを減少させ、我々の宇宙船は故意にはないがどこかで「荷物」を投下することになる。驚いた人々が空からの無数の破片で頭をかくことになろう。そのことは今まで多くの本に書かれている。これはあとで少し述べることにしよう。

その他の浮揚効果

重力場理論の基本的必要条件として、宇宙船の中から発生する、どの面に対しても宇宙船を動かすのに方向性がないようなフィールドとして、高度に集中した、局所的な重力場のようなものが考えられる。我々は宇宙船が動いたり、浮いて停止したりする飛行形態でのいくつかの面を考察してきたが、ここでは、浮上している円盤に付随する他の局所的な条件や、浮揚力とか垂直推力ベクトルなどの側面的効果などについて考えてみよう。

前進推力状態で、宇宙船を構成するすべての分子は、同時に上方への加速も経験する。惑星の大气の上で浮いている状況では、下方への1gの加速度すなわち引力とつりあうために、1g

の上方加速度を必要とすることはだれも知っている。しかし、地表から数百フィートの大気上に浮いているには少し修正が必要である。つまり、垂直の浮揚力が1gより少し小さくならねばならない。さもないと宇宙船は、航空力学的効果のために空気より軽い飛行船とか風船などと同じような振舞をするかも知れない。この浮揚力は宇宙船の体積に従って約数百ポンドだけでよいだろうから、1gに等しい上昇ベクトルということにすれば、これから先は問題は簡単になるだろう。

前進飛行の際、浮いている宇宙船の支持フィールドは外部に放射状に広がるだろうから、船体の周囲に浮揚変化

を生ぜしめる。そのため縁に接している空気の分子は、宇宙船から離れられなくなるので、同様に1gの上方加速度を受けるだろう。

この点は重要である。なぜならば、宇宙船の周囲の物質が無重量になるような帯域が存在することを意味しているからである。

何かの理由で宇宙船の乗員がガス状物質や液化した物などを投げ出したとしたら、宇宙船から離れるときにすぐ球状になるだろう。大気圏外ならたしかにそうなるだろう。

それは宇宙船からゆっくりと外側に離れて行き、重力場の減少している領域にそって落ちながら分解してゆくだ

ろう。

読者は一九五二年にフロリダでボーイスカウトの隊長だったデズバージスを無意識状態にしてしまった輝くボール状の光体がそれだったということをお思いだすだろう。彼は六人から八人くらいが立って入れるほどの大きな物体を見た。それは中央部の高さが十フィート、直径が三十フィート程度のもので、端の方は厚みが三フィートくらいになるラグビーボールを半分に割ったような形状をしていた。彼は十分ほどその物体の近くにいたと信じている。地上から十フィートの高さがあり、タイヤがへこむときのようなシューッという音がしていた。

物体から球状の炎が彼の顔の方へゆっくりと飛んで来るように思われた。気がついたとき全然感覚がなくなっていたと彼は言っている。副保安官の報告によると、彼の腕の毛は焦げて、帽子には焼けた小さな穴が沢山あった。このような現象の報告を私の理論にあてはめるために続ける一方、より新しい証拠の厳密な調査をして、はっきりするまで筆者は容認していくつもりである。

シェフィールドでの目撃の説明は出版されているが、ここでは、その重要性にかんがみて顕著な部分を失わないように繰り返した。

重力場宇宙船が作り出す雲

大気の上層を通過して飛ぶ従来の飛行機がしばしば飛行機雲を残すことはよく知られている。知られていないのはこの現象の共通の原因である。簡単に言えば次のとおりだ。大気中のある

蒸気含有量においては、雲を形成する前に、高速で飛ぶ飛行機の通過によって引き起こされる圧力の干渉によって、水蒸気の粒子が先に形成される。

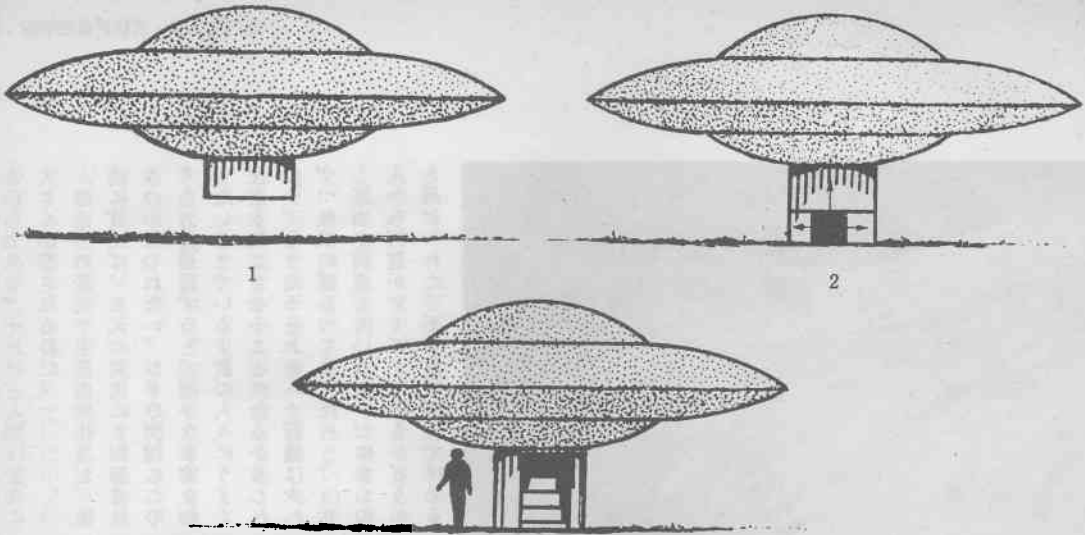
すると小さな粒子は次第に大きな水滴になり、雲を形成する。この形成過程は高空を飛ぶ飛行機の翼端のうしろやエンジンの後部にしばしば発生して、そこでは渦巻が更に干渉してこの現象

を大きくする。航空機はこの作られた雲を連続的に後に残していくことに注意しよう。

我々の未来の航空機は、その浮力場を発生するのに、大気上に同じような効果を起こす同様の乱気流を機体の近辺に作り出すことになるだろう。これはフィールドによって生ずる上昇気流によってさらに増大し、飛行機の場合

付随現象 4

と同じように、大気中の過飽和になっている部分で局部的な雲のようなものを作り出す現象が発生することが期待できる。この場合違うのは、この乱気流が宇宙船の周囲のすべての方向に放射して広がるので、雲が機体全体を包むことが考えられるし、浮上している場合には、遠く離れた地上からは雲としか見えないだろう。機体を支える強



● 図9 ズッカラ氏が目撃した円盤の着陸の光景

力な重力場は局部的に大気を凝縮させるので密度は更に増加し、露点以下にさげて霧を生ずるとも考えられる。機体が移動中には、すでにおなじみの普通の飛行雲を後に引く一方、便利なカモフラージュとしての覆いを保持することになるだろう。理論はこれくらいにして、実際はどうだろうか？ UFOの研究者ならだれでも知っているとおりに、雲のような円盤が見られるのが普通であって、その記録は多数ある。そのことを描写した引用文を紹介しよう。

「奇妙な円形の雲が、町の上空を高速で横切って行った。沢山の目撃者があつたが、それらの中心部に一種の輝く焦点のようなものがあつたという。同時にイグアツでは不思議な、輝く油のシミのような物が空中に見られ、きわめてゆっくりと西から東へと動いて行った。町に近づくとそのシミのような物体の中に強烈な青色に輝く別な物体があることが明らかになった。沢山の人がこの光景を見た。光体はオレンジ色で、暈のようなものでとり巻かれていた——輝く、霧に似た暈は透明な輝く雲のように見え、形は円形で、ときどき満月の大きさほどに見えた。ほとんど見えなくなると、大きな雲のように輝くボールみたいになつた」

これら比較的最近の記述と英国船「湖上の乙女」号のF・W・バーナー船長の北大西洋における航海日誌の一節

を比べてみよう。

一八七〇年三月二十二日北緯五度四十七分、西経二十七度五十二分（位置は北西アフリカ、リオデオロの海岸の西方）。

「船員が空に奇妙な物体があると報告して来た。私もそれを見た。それは円形の「雲」で、四つに分かれた半円形を含んだもので、中心のシャフトが円の中心部から出ており、外側に広がって、曲がって元の位置へもどつていた。その物体は風に逆らつて動いていた。それは南からやつて来て、風の中心の方にまっすぐ向かつて行った。一時間半ばかり見ていたが、雲よりはずいぶん低い所にいた」

私は疑う人が「雷光球——自然現象さ」と無造作につぶやくのをよく聞くが、私たちは重力場推進宇宙船の一面のみをここで評価するのではなく、むしろすべての面を集合的に評価しようとしていることを忘れてはならない。懐疑派の読者はこの記事が終わるまで賢明な態度で判断をひかえていただきたい。

重力場が及ぼすレーダー効果と光学的効果

この問題について書いたり講演してゆきながら、筆者は大半の一般大衆はもとより、特に科学者の間で惑星間あるいは恒星間を飛ばす円盤存在の仮説に

対する多くの自然な反応や反論があることに気づいているし、ある程度その気持はわかるのである。しかし私が彼らに同情したとしたら、ある意味で、運悪く近接して円盤を目撃した人々に対しては最大の関心と同情をもつていと言いたい。そのような目撃者は友人に事件を話すだろうが、それは友人たちにバカげた印象を与えるだろうし、たぶん多くの科学者には途方もない事のように響くだろう。

そうだとしても、これは矛盾したものではない。なぜならば現代の科学者でさえ、自分の専門分野では専門家であっても、他の分野で無知であることは明らかであり、彼もまた素人の域に後退するからだ。私はこのことを好意をもって言っているのであり、能力のある知識人ならまずこの事実を認めるだろうと私は確信しているのである。

一般大衆は科学の世界や現代の技術を心から当てにしており、それをUFOのようなケースのガイダンスにしているのだが、こうした集団のなかには意見を述べる資格の全くないものもある。

ある意味では、科学者たちが科学的に異常な物事について、頭かくして尻かくさずの態度をとるのも良いことなのかもしれない。我々のすべてのミステリーはそんなに早く解かれるべきものではないのかもしれない。なぜならば、人間が自分の環境をつくりだし、変えてゆき、反対に環境によって人間

「奇妙な円形の雲が、町の上空を高速で横切って行った。沢山の目撃者があつたが、それらの中心部に一種の輝く焦点のようなものがあつたという。同時にイグアツでは不思議な、輝く油のシミのような物が空中に見られ、きわめてゆっくりと西から東へと動いて行った。町に近づくとそのシミのような物体の中に強烈な青色に輝く別な物体があることが明らかになった。沢山の人がこの光景を見た。光体はオレンジ色で、暈のようなものでとり巻かれていた——輝く、霧に似た暈は透明な輝く雲のように見え、形は円形で、ときどき満月の大きさほどに見えた。ほとんど見えなくなると、大きな雲のように輝くボールみたいになつた」

これら比較的最近の記述と英国船「湖上の乙女」号のF・W・バーナー船長の北大西洋における航海日誌の一節

を比べてみよう。

一八七〇年三月二十二日北緯五度四十七分、西経二十七度五十二分（位置は北西アフリカ、リオデオロの海岸の西方）。

「船員が空に奇妙な物体があると報告して来た。私もそれを見た。それは円形の「雲」で、四つに分かれた半円形を含んだもので、中心のシャフトが円の中心部から出ており、外側に広がって、曲がって元の位置へもどつていた。その物体は風に逆らつて動いていた。それは南からやつて来て、風の中心の方にまっすぐ向かつて行った。一時間半ばかり見ていたが、雲よりはずいぶん低い所にいた」

私は疑う人が「雷光球——自然現象さ」と無造作につぶやくのをよく聞くが、私たちは重力場推進宇宙船の一面のみをここで評価するのではなく、むしろすべての面を集合的に評価しようとしていることを忘れてはならない。懐疑派の読者はこの記事が終わるまで賢明な態度で判断をひかえていただきたい。

重力場が及ぼすレーダー効果と光学的効果

この問題について書いたり講演してゆきながら、筆者は大半の一般大衆はもとより、特に科学者の間で惑星間あるいは恒星間を飛ばす円盤存在の仮説に

が変わるといふことはよく知られているからである。それほど人間は変化に大きく影響されるのだ。

考え方の変化や生活の変化など、極端に言えば、次元の変化にも影響されるのかもしれない。UFO問題にこの考え方を適用すると、確かな事実を知らないままにいる少数の人々にうまく注意を起こさせることになるかもしれない。そうなるとおそらく環境は少しずつ無限が変わってゆくだろう。

筆者が調査しているあいだに多くの人から円盤がレーダーに写るかどうかと尋ねられた。不満足な回答ではある

が、いつも真実を知るのに苦しんできた筆者の答は「イエース」でもあり「ノー」でもある。ときには検知されるが、検知されないときもある。レーダーに反応しなかった例をあげよう。

アメリカン航空のDC-6型機が三個の輝く円盤によって四十五分間つきまとわれたのを三十五人の乗客と乗員が見たのである！ ビーター・キリヤン機長は二十年の経験と飛行距離四百万マイル以上の経験を持つ。

一九五九年二月二十四日、午後七時十分に、その旅客機はニューヨーク空港（ニューヨーク市）を離陸し、ノン

ストップでデトロイトに向かい、ペンシルバニア上空を飛んでいたとき、キリヤン機長がUFO（複数）を見たのである。

「高度八千五百フィートで、フィリップスバーグとブラッドフォードの間を飛んでいた。午後八時四十五分、南の方に一例に並んだ黄色に輝く三つの光体を見た。

最初、オリオン座の星かと思ったが、すぐオリオン座と物体は別な物であるのに気がついた。オリオン座はもっと高い位置にあり、物体は星以上に輝き、色も違っていた」

行機のように作動する。ただし実用に至らなかった。

キリヤン機長は副操縦士のジョン・ディーや他の乗員及び乗客にその光体のことを知らせた。乗員は彼が幻覚を見たのではなく、物体（複数）がたしかにそこにいるのだと確証した。

機長はそれを確かめられる位置にいる二機のアメリカン航空の飛行機に無線で連絡をとったが、二人の機長は、間違いでではなく、自分たちも見たと返事をしてきた。

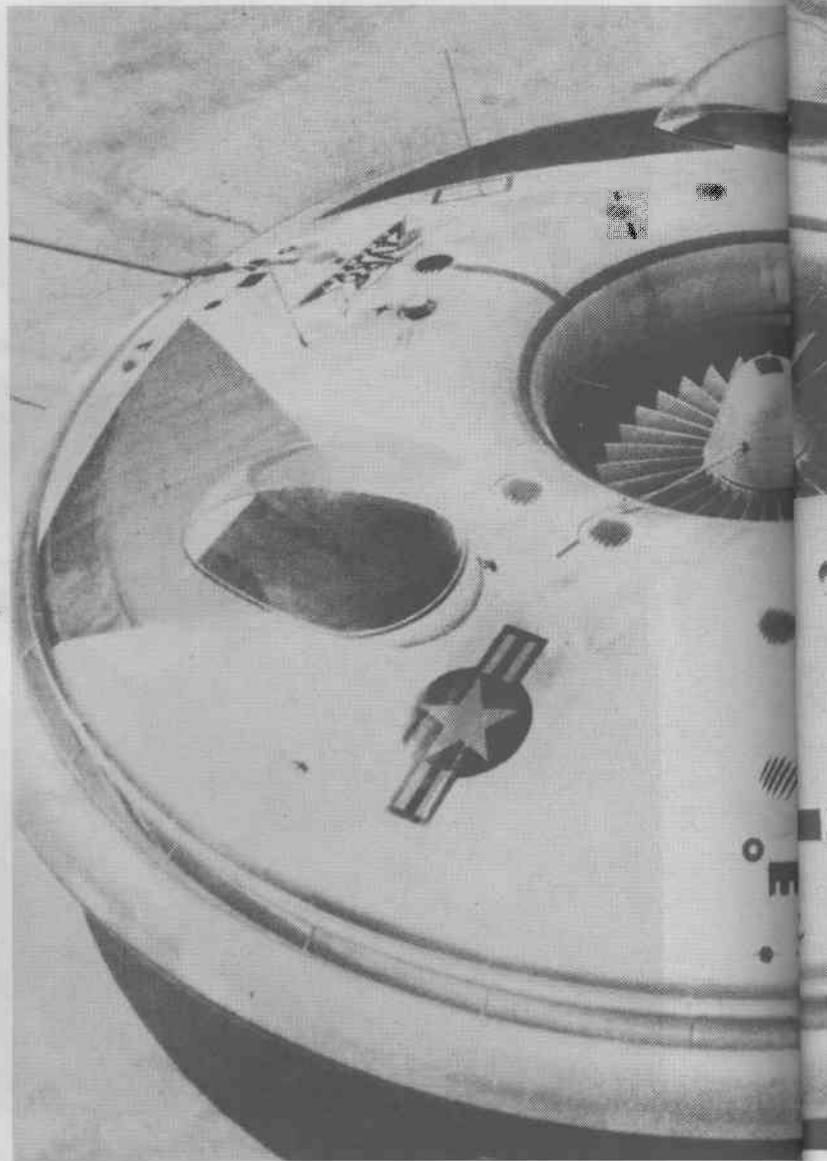
「こんなものをいまだかつて見たことがない」とキリヤンは言う。

乗客の中にN・D・パスカスという人がいた。彼はユートイカのカーチスライト支社の製造部長で、その物体が正確な編隊を組み、空中でダンスをしているように見えた」と述べた。

「それらは円形で、ときどき一個が他の物体より輝きが強くなり、飛行機に近寄ってくるように見えた」

機長もパスカス氏も飛行機の上空に雲はなかったと言っている。

「見まちがえることはなかった。飛行機の下方向約五千フィートの位置に小さな雲はあったが、そこから上は完全になにもなかった。百マイルは見通せた。最初私は物体が我々から一マイル以上も離れてはいないと目測した。大きさがわからないので、そう感じたのだ。今考えるとそんなに近くはなかったと思う。しかし、一個の光体が接近して来ては、また隊列にもどるといふことを繰り返していた」と機長は言う。



●写真5 米空軍が試作した垂直上昇機 一定の速度に達すると、従来の飛

スチュアーデスのエドナ・ラゲートとベバリー・ピンググリーがよく見えるように室内灯を消したので、乗客はみな、この世のものとは思われない幻想的な光景を四十分に渡って目撃したのである。乗客の一人が恐怖心を起こした。

「私は彼に言った。攻撃してくるものなら、相手はとっくにやっているはずだよね」とキリヤンは言った。「物体(複数)が見えているあいだ私はレーダースクリーンを見つめていたが、何も写らなかった」

(筆者註)一九五九年二月二十六日、

ロンドン空港における目撃のときに、二十分間飛んでいた黄色の円盤もレーダーには写らなかった)

機長は着陸前にデトロイト空港のアメリカン航空にこの事件のことを無線で報告したが、三機の物体は低高度の雲の中で見えなくなった。この他にも三機のユナイテッド航空の飛行機の乗員も目撃したことが無線連絡でわかり、乗員たちは、明らかに三つの分離した乗物であり、編隊飛行をしていたと言っている。地上での観測からの情報もある。アクロンUFO研究グループは九時十五分から二十分の間輝く

物体(複数)を見たという報告がある」と述べている。

NICAP(空中現象調査会)のレポートによると、ワーナー・フォン・ブラウンと親しい、ハンツビルの陸軍兵器部ミサイル司令部にいたミサイル専門家リー・ジェームズは、それらの物体は大気圏外からやって来たと言ったという! ミシガン専門技術者協会の集会で、ジェームズ陸軍大佐は、各社の乗員によって目撃された物体は大気圏から来た宇宙船である可能性が極めて高いと述べている。

「それらの物体はこの地球のものでは

ないし、ロシアから来たのでもない。我々の文明はまだそこまで進歩していない」と大佐は述べた。

報告された物体を本当に乗員乗客が見たのならば、「それらの物体は大気圏外から来たものにちがいない。我々の文明よりはるかに進んだ所からだ」一人の技術者がキリヤン報告について、レーダースクリーンがUFOを写さなかった点についてたずねると、ジェームズ大佐は答えた。

「そのように高度な文明においては、その問題は解決されているだろう。たとえばコーティングとか反射を防ぐような合成材料などが使用されているのかもしれない」

これはフォースフィールドではないだろうか?

筆者はUFOがレーダーで検知されたケースを知っている。

一九六四年、イングランドの田舎で時速三千マイルで飛ぶUFOがレーダーでとらえられたが、それは瞬間的に停止し、三分間静止した後、もと来た方向に飛び去った。その加速度は一瞬にして時速一万三千マイルに達するほどの驚くべきものであった。私にはこれが自然現象や流星だなどとは信じられない。もしレーダーが強力な重力場の存在する所で奇妙な事をやるとしたら、我々の想像の宇宙船にも他の変わった側面効果が付随して現れると言っ

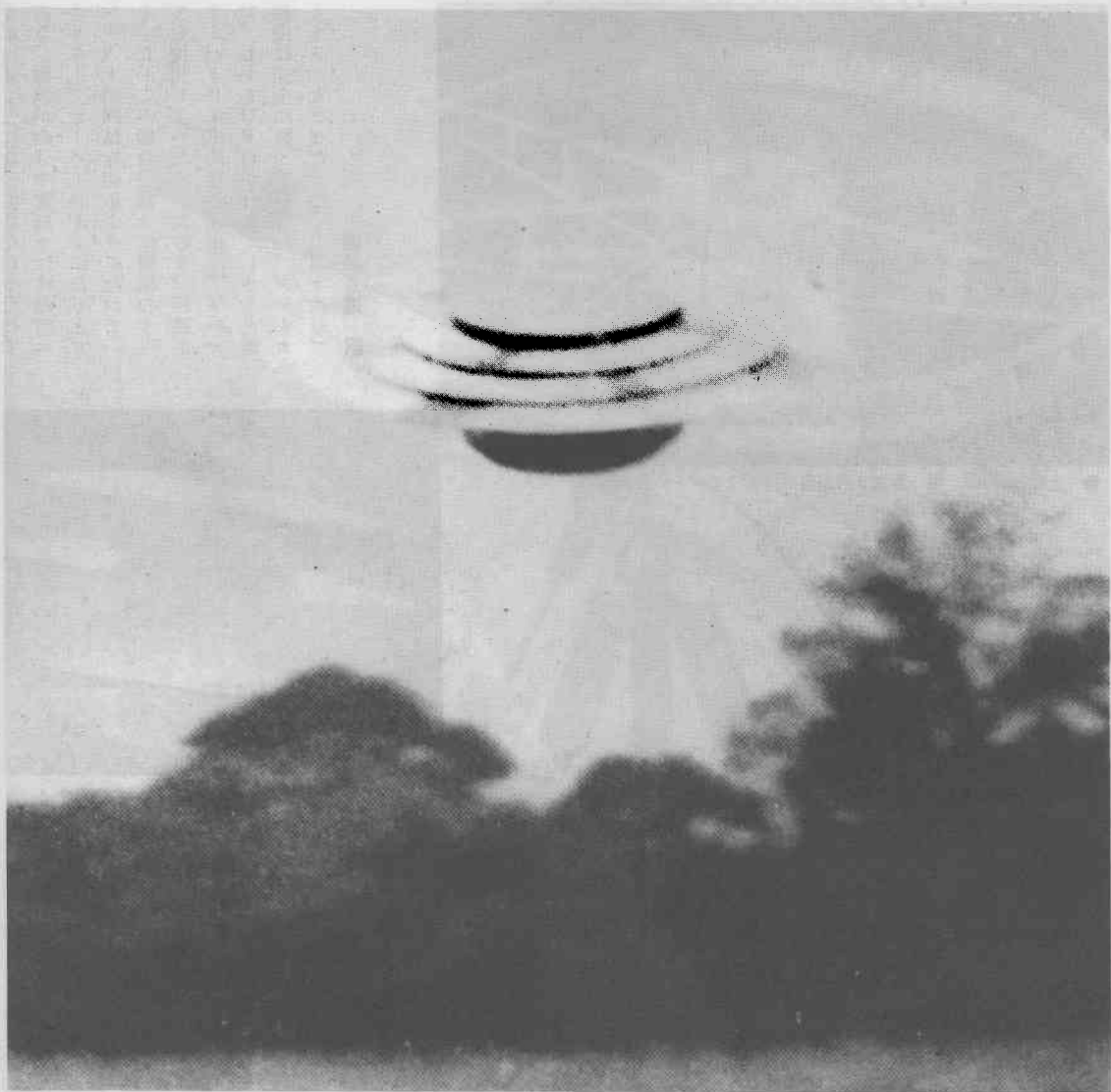


アルバート・アインシュタイン博士は、重力場の存在によって光が曲がる世界を教えてくれた。我々は、我々の宇宙船の重力場が他のフィールド（複数）と同様に一種の焦点を持つにちがいないことを知っている。これについては話をすすめるにつれてもっと詳しく解説しよう。しかも、フィールドが高度に集中した場合には光学的効果が期待できるかもしれない。

筆者の友達の一人であるロケット技術者がかつて次のようなことを言っていた。光も含めた電磁波を輻射する重力場宇宙船を建造できたとしたら、強烈なフォースフィールドの結果として起こる赤方偏移のようなものが期待できるだろう。言い替えると、宇宙船から放射される光は強烈な局所的な重力場に絶えず対抗することになるだろう。これは天文学でよく知られているスペクトルの偏移効果である結果として、光は周波数上がり、集中され、下で見ている人には可視光線の端にある赤の周波数で見ることが考えられる。簡単に言えば、円盤はオレンジ色から赤色のきわめてせまい範囲の色で見えるだろう。

輻射効果

我々は重力場推進に付随して期待される効果を考えてきた。結論はやや推測にとどまるが、我々が強力な重力場

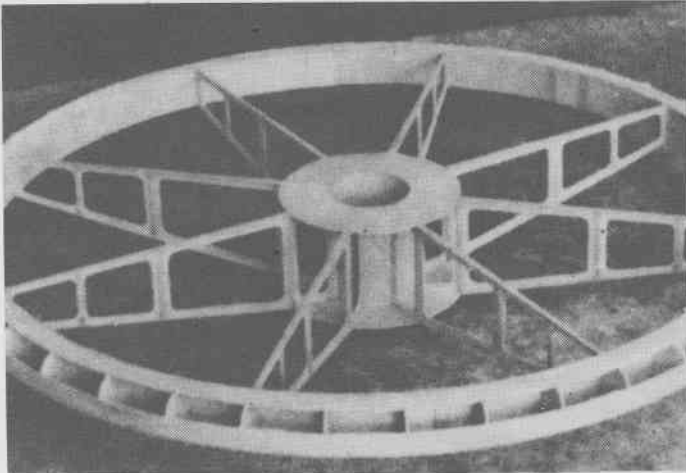


●右 写真6, 上 写真7 ともに、垂直上昇機の模型によるテスト飛行。

を発生し得たとすると、それにとりもな
って各種の波長の放射線を放射するこ
とになると考えられる。おそらくスベ
クトル全体を通しての周波数を含み、
光と放射線効果の両方を与えるだろ
う。これが真実だとすると、我々はそ
のような輻射の効果を知るところまで
きている。たとえば、ニコラ・テスラ
によって得られた結果と同じものを期
待できよう。彼は極端に高密度の電場
を放射させたのである。放射線は発生
源に非常に近いと干渉を起こす。これ
はほとんど共通することなのである。
ここに興味深い例がある。

一九五七年五月三十一日ケント上空
を飛んでいたイギリスの旅客機がUF
Oを目撃した。機長は次のように述べ
ている。

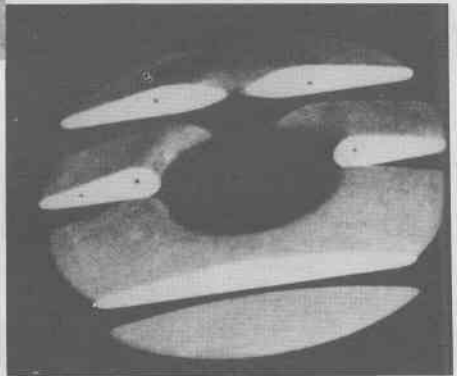
「私はクロイドン空港からオランダ
へ飛ぶ指揮をしていた。ロチェスター
の南二マイルの所で輝く物体を見た。
UFOは窓のスクリーンに六ペンス貨
の三分の二くらいの大きさに見えた
が、そのうち我々の方向にやってくる
らしかった。六ペンス貨ほどの大き
さになったとき、形が楕円形になり、
引き返した。以前のように小さくなり、
六ペンス貨の二分の一くらいになっ
た。驚いたことにUFOは我々が見て
いるにつれて完全に消えた。機内無線
の故障でロンドンのリーダーと連絡が
とれなかった。無線の故障は近頃はま
れなことだがこの場合、回路ブレーカ



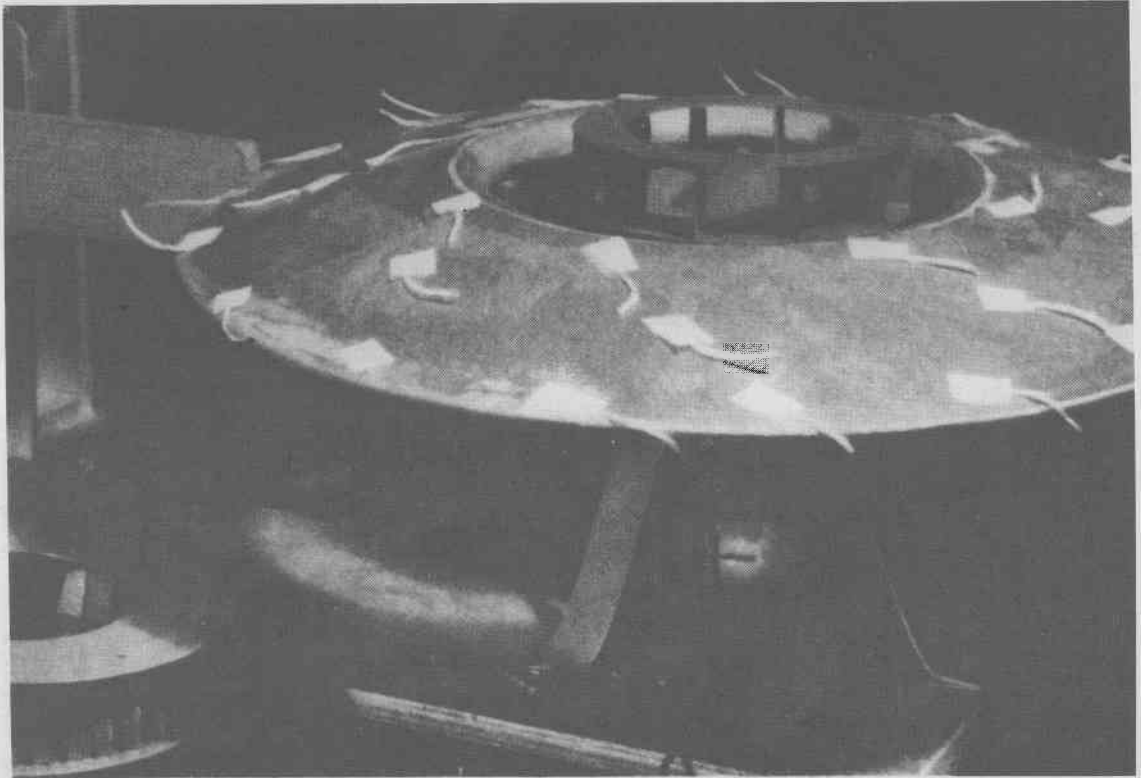
● 上 写真8. 中 写真9円型翼の径6フィートの骨組。

「イン」になっただけでなかった。ある。機械が余分の電気または熱のエネルギーでオーバードになるとブレーカーの回路を切るようになってい。だがこの場合、我々は機械のすべてを使用していなかった。回路がオーバードになる理由はなかった。しかしUFOが行ってしまおうと無線機は完全に直っていたし、ブレーカーも入ったままだった。(以下次号)

藤間弘道 訳



● 下 写真10 筆者製作のテスト用円型翼。



お望みの機種が
お求めになれます
メーカーから
ユーザーへ!

サテライト 天体望遠鏡

★ヤマモトの天体望遠鏡は
海外(アメリカ、フランス、
イタリア、ベルギーetc.)
で絶賛を博しております。

★この他多機種とりそろえてい
ます。詳しくは 250円切手同
封の上カタログをU係へご請
求ください。

株式会社 **山本製作所**

〒174 東京都板橋区大原町5-3

☎(03)966-2408

AE-108

- 有効径：108mm
- 焦点距離：1600mm





●西元 朗(画) 大阪府豊中市

の人は「UFOはトリックだ」なんて言うのです。しかし私はひたすらにUFOのナツにたちむかって行くのです(ヘンダッ)。私の友達は恋とか愛などと言っているのですが、私達はガンバットしているの。私の恋人は宇宙人」だって、ちょっとオーバーかしら(ヘヘ)。いつかは宇宙人に会ってみようと思ってる私。でも、あまりUFO、UFOと言っていると勉強が……、しかしUFO観測は科学の勉強にもなっているのです(ウシン。ヤッター)。やっぱり私ってドジ。どうか北海道に住んでいる男子諸君。UFOについて資料を送って下さい。足立真弓(13)

(千191-02 愛媛県温泉郡重信町志津川一四七〇)

この「声」の欄にはいろいろな方のご意見が載せられていてなかなか活気がありますね。本誌17号にも札幌の高橋さんや新潟県小林さんたちのご意見がとりあげられておりましたが、ぼくも大方その意見に賛成いたします。宇宙人による今世紀末の地球人救済計画：それが本当であるかどうかは別としてそのことはかり望んでいるのは地球人として

失格です、これから起こるであろうと思われる、いやかなり確実な天変地異は宇宙人たちにとつての問題ではありません。私たち地球人が面と向かわねばならない問題なのです。そして最も大切な事はそういうった地球規模の変動の原因は一体どこにあるのか、その変動から私たち人類は何を学びとらなければならぬか、そこにあります。この青く美しい地球は私たちの住む星です。私たちの家です。この地球上に起こる物事はすべて私たちの心、想念、行為の原因があります。ぼくたちのような若い人間でさえも何らかの、いや数多くの罪を犯しています。そうでない人はひとりもいないと思います。ですから「確かに我欲にふりまわされている人々々の想念、行為も大きな原因であろう。だが自分も地球人のひとりとして不調和を促進するような想念や行為を犯しはしなかつたであろうか」そう考えるのが私たちのあるべき姿ではないでしょうか。「よし、少しでもいい、今までのあやまちを反省して同じ事をくり返さぬようにしよう」、さらに「なんとかして自分も善き想いをいつももち、立派な行為ができるように自分なりに努力を重ねてゆこう」これから先、何十年かの間の地球を支えているのは私たち十代、二十代の人間のやる事です。自分で出来る限りの事をやろう。それが当然ではないでしょうか。

何をなすにしても、まず大切なものは「愛」です。しかもうわでなく、心の奥底、人間の一番奥深いところからわき出て来る愛。それこそ周囲を明るくし、人を感動させ、平和をつくり出す最高のものです。そして、その愛を自分の中に輝かせ、それによって自分の中につまっているすばらしいものを引き出します。実践できる人こそ本場に立派な人だと思えます。

ぼくは空飛ぶ円盤というものは人間を探索して得られたものだと思っています。ですから、これからの空飛ぶ円盤の研究というものは人間自身の研究と一体となったなされるべきだと考えます。若い人は(ぼくも含めて)どうしても理屈にはしりがちです。しかし理屈からは何も生み出されません。UFOだ地球救済だと言って騒ぐ前にひとと自分というものを隅々までじっくりと見つめてみる事です。頭だけで理解するのではなく心で理解

することです。そして日常生活の中でどれだけ自分を向上させることが出来るか、それが最も重要なことであり、第一歩であるとぼくは信じています。(富崎県郡城市) 横石 集(19)

みなさんこんにちは。ボクは宇宙人の意味のワカラン言葉に興味をもってしまいました。ボクは「UFOと宇宙」を読むでもともとシアワセなものです。宇宙のことを考えても物理学、数学、化学、天文学、心理学、地学、歴史学、と自然にすべての勉強が出来ちゃうんですね。本屋さんはボクの大好きなところ、このあいだ「Uは宇宙船のウ」なんていう面白い本を見つけてボクはうれしくなりました。卒業して宇宙人とお話しが出来ようにもっと勉強しましょう。暑くなるとお空もまぶしくなるから大変だけど、宇宙人は暑くないのかなあ。

匿名希望(宇宙の子、鉄腕アトム) (千葉 県野田市)

UFOファンの皆さん、私は重大なことを発見しました。本誌16号に三原市の北野恵宝師が宇宙人と一時間半にお話をした事件があったことを覚えてますか？ その話の中で「地球の地軸がだんだん傾くために外側地震帯が伸びていて、四国と九州の間を通過して山口県から日本海に抜けて頭を上げる。それが出口の変動だ」としてやがて地球にも大変動が起こる」と宇宙人は言っています。その変動は今すぐにはないらしく、もう少し先のことだそうです。

私はノストラダムスの大予言を信じているのですが、その第十章六十七の詩に地軸が傾くことが書かれてあり、エドガー・ケインの予言にも巨大な引力のために極が移動することが書かれてあるのです。これらから考えてみると、地軸が傾き、日本列島が沈みかけ、そして地球に大変動が起こることはまちがいないと言っても、言いすぎではないでしょう。

ではそれはいつか？ 私は一九八二年の太陽系直列のときにとらえました。エドガー・ケインの予言によると一九五八、一九八一

年の間に日本が沈むことになっていますが、一年ずらせば一九八二年でびつたり合うのです。ところで太陽系直列は一九九一年に一回起こるのですが、これまでの歴史上では、大変動は起こりませんでした。それなら今回だって何も起こらないだろうと思う人がいるかも知れませんが、それは考えが甘いのです。次にあげることがよく聞いて下さい。

東大天文学科の海野和郎教授、尾崎洋二助手、大学院生の柴橋博資さんら三人は、太陽が脈動し始めたことを説いた。太陽も進化を続けるが、その動きは様でなく、融合反応のある部分が促進するときとしないときとがある。軽いヘリウムから重いヘリウムになる。この「コブ」は平均分子量にムラがある重力的に不安定な層であり、この「コブ」ができたたり消えたりするくり返しは一千万年から一億年の間隔で起こるとのことです。

ここで私が言いたいのは、今から一億年ぐらいの前までは「コブ」はできていなかった。だからその間に何回太陽系直列があろうと、地球に変動は起こらないはずだ。ところが最近になって「コブ」ができたため、太陽の内層は重力的に不安定になっている。そこへきて一九八二年に太陽系直列があったら太陽系内の引力のバランスはくずれ、もちろん太陽と地球の引力のバランスもくずれ地軸は傾く。それは地球に大変動が起こるといえることです。

みなさん、私の考えを肯定していただけてますか。私の考えを肯定してくれるなら、どうぞ宇宙人との交信を盛んにして下さい。私たちが今できることは少しでも早くエスパーになって宇宙人の手となり足となつて働くこと以外はないと思います。お互いにガン張ろうではありませんか。

磯 久美子(17) (栃木県宇都宮市)

ハ イ、みなさん、はじめまして。このあいだ本屋さんに行きました。このお菓子をじゃなくって「宇宙からの訪問者」をそうしたら、なんとそれが無いのであります。あれでしかたなくその日は予約してあきらめて帰ったのであります。その十日後、本屋に

行きました期待に胸をふくらませて。だが、
「まだ来ていない」と言うのです。

「ふざけるなよ、どれだけ人が待ちのぞん
でたか知ってるのか」とは言わねえ、だまって
帰ってきて泣きねえです（今だに待っている
のよ）。その後、いじけつばなしなんです。
みなさん、特に私と同様僻地にお住いの方
ぼろっつい木屋には気をつけましょう。いじ
けるもですよ。体にもよくありませんから
ね。「UFOと宇宙」が出たらまっさきに街
の大きな本屋さんに行きましょ。

ところで突然話が変わりますが、私は不幸
な女の子なんです。私のまわりはみんなU
FO否定論者ばかり、百人中一人いるかない
かの割合なんです。あーなげなや、
かし私は一人でもたちむかいます。だって私
は正しいことを言っているんですものね。学
校でも日夜「UFOは存在するのだ」いや、
絶対にそんなものはない。そんな写真はで
たらめだ。バカみたいそんなの信じている
なんて」と論争しているありさまで。全
く腹が立ちます。でも私は負けはしません。
強い信念をもって、そして気持がいつか
をされて、もう少したったら否定論者、信
じていなくて愚かな人たちのあつげにとら
れたみじめな顔が見られるのですからね。で
は、みな様方もUFOの研究に精を出してガ
ン張って下さいね。私もついてるんですか
ら。ではGOOD BY、もしよかったです
らお手紙下さい。

猪瀬礼子（16 高2）
（〒306-01 茨城県猿島郡三和町諸川二五四

皆 さん、初めまして。私は皆さんにお尋
ねしたいことがあって筆をとつたしだい
です。

皆さん、今私たちがしなければならぬ
ことを知っていますか？ 私には正直言ってよ
くわかりません。地球が今、危機にさらされ
ていくことはよく知っていますし、よく耳に
します。でも、いつも危機にさらされている
というだけで、一向に私たちができるよ
うな対策というものが見当たりません。宇宙
人にとるべきことを考えないで自力でぬけ出
せるよう努力するべきだと言っている人がいま
すが、その人はどんなことをどれくらいして



●藤岡康治（画） 大阪府茨木市

いでしょうか。この「UFOと宇宙」を愛
読していらつしやる人でどれだけいらつし
やるでしょうか。

「UFOを研究する」それはよくわかります
が、それを考えると同時に私たちがなすべき
ことを知らなければならぬと思います。ま
た、それを研究することで、より一層深くUFO
を研究できるのではないのでしょうか。

なまじきなことを言わずすみません。ただ
私は皆さんに私の研究を知ってもらいたかつ
たのです。でもUFOを研究するということ
は、私たちが考えているほど単純なものでは
ないと思います（だから私たちがこうして悩
んでいるのです）。もし私たちがなすべきこ
とを知っていたら、私たちがなすべきことを教
えていましたら、私たちがなすべきことを教
えて下さい。

それと勝手なことを言うようですが、UFO
Oの写真を撮った方がいましたら分けてもら
えませんかでしょうか。お願いします。
池田陽子（高1）
（〒755 山口県宇部市昭和町三十一一五）

私 本誌4号から掲載された斎藤守弘氏の
「日本古来の天空人出現説考」を読ん

以来、古典文学に興味をもちました。そして
ある作品から発見したUFO飛来を目撃したと
思われる部分を見つけた。その作品とは
皆さんもよくご存知の「竹取物語」の「かぐ
や姫の昇天」の部分です。なお、あらかじめ
お断わりしますが、もしかしら私と同じよ
うな推理を発表された方いらつしやるかも
しれません。これはあくまでも私自身の推
理でありまして決して盗作などではありま
せん。まずこの点をご承知お下さい。
それでは、かぐや姫の昇天」の抜粋部分を
紹介いたします。

かかるほどに、宵うち過ぎて、子の時は
かりに、家のあたり昼の明さへも過ぎて
かりわたり、望月の明さを十あわせも過
ほどなり。大空より、雲に乗りており来
て、土より五尺ばかり上がりたるほどに
立ちつらねたり。これを見て、内外なる
人の心ども、物におそはるるやうにて、
あひ戦はむ心もなかりけり。からうじて
思ひ起こして、弓矢をとり立てむとすれ
ども、手に力をなくしき者、なえかかり
たり。中に心さかまへ行きければ、たれ
も戦はで、心地ただしにれに、まも
りあへり。

以上がかぐや姫を迎えに来た天人を表わし
ている部分です。これこそまさにUFOの飛
来した状況ではありませんか。UFO特有の
発光現象や空中停止。そして天人（宇宙人）
による超能力現象などはUFOの目撃報告と
しか思えません。
「竹取物語」は作者、成立年代がわからない
作り物語とされています。しかしこれは実際
にあったことを誰かが目撃して書いたもので
はないでしょうか。

このような文は書いたことがないので、何
を言いたいのかはおぼろおぼろになりな
かたと思います。かぐや姫のくだりに
私のこの推理に感想や反発をおよせ下さ
い。
吉村慎一
（〒820 福岡県嘉穂郡穂波町平恒二七八）

読 者の皆さん。今日は日本GAPの機関誌
を読んで思ったことをお知らせします。

その中に「意識は生命の連続です。決して
とまることはありません」「地球人が過去世
の記憶を保つのが困難なのは各生涯を切り離
して考えるからだ」というんです。つまり地
球人は「この生涯」「あの生涯」というふう
に分けますが、実際はすべてつながった一つ
のものなのだとわけてです。

これらの言葉だけで我々にとつては重大
な事です。なぜなら、G・アダムスキーが言
うのには「もし戦争になれば、世界の人間の
九十九パーセントは次の世に生まれ変わらな
いだろう。そのまゝ消滅してしまふ」とい
うことです。これを読んでほくはギョッとしま
した。つまり「滅亡」とよく最近の人は口走
りますが、それは単に今の生涯の滅亡（この
生涯の死滅）ということだけを考えた人々の
滅亡と言っているのにすぎないのです。そし
て真の滅亡とは、スペース・ブラザーズの語
る「生涯＝生命の連続」が滅んでしまうこと
ではないでしょうか。そう考えるとノストラ
ダムやその他の予言者たちの語る「滅亡」
とはいついどちらなのでしょう。それが
ぼくはいう真の滅亡ではないかと恐ろしい
ものはありません。だから今、地球の人間を
救おうとしてスペース・ブラザーズたちが必
死になっているのです。

「UFOと宇宙」18号のUFOは地球の救
済に来るのか？にあるようにUFOが死
の灰を吸収した？彼らは私たちがたひた
すにこの社会でなんとか、あくせくと生き
のびている間に「彼らの苦勞も知らないです
よ。地球のために、太陽系の十二個の惑星の
ために、そして宇宙のために」
「UFOと宇宙」の読者のみなさん！彼ら
を見れば、ありがたうかと。そして彼らの姿
を見れば、ありがたうかと。

米岡敬司（高2）（大阪府守口市）

やはり友はいました。本誌18号「声」の欄
に載つた宮脇康彦君らしい。実はほく
も宮脇君と同じようにUFOの研究にとりく
み新聞などを作つています。でもみんなは
「バカみたい」とか「そんなあほらしいこと
するな」とかでみんなにバカにされています。
今まで、どれだけバカにされたらうか？時
にはやめようと思つてもあります。しかし



●大木毅始 (画) 神奈川県横浜市

「不幸の原因を他人のせいだけにしているのは幸福にはなれ

この「声」の欄を読んで、また力がわいてきました。たとえどんなにバカにされようとも、ぼくは決して研究をあきらめず、ひとりでもわかってもらうために努力します。最後に、ぼくに勇気をつけて下さった宮脇君、そして皆さん、どうもありがとうございます。井口敦夫 (中2) (大阪府吹田市)

ア ポロ飛行士の頭上にUFO;という見出しの本誌17号の口絵写真を見てビックリNASAに対しての怒りらしきものがこみ上げてきました。それは「なぜこのことを隠すのか?」ということなのです。そりゃあ、急にこんな写真を見せられれば驚きますよ。でもそれをずうっと隠しておくなんて、ひどすぎると思います。人間はなんで新しい知識を受け取ろうとしないのでしょうか。なぜ今の科学で解明できない事を大人たちは、そんなのはウツダ! デタラメだと言いはるのでしょうか。きっと宇宙の使者はなぜ悲しんでいるでしょう。地球人が本当のことに目覚めたとき、そのときこそ円盤は人々の前に着陸するでしょう。

近頃、この欄に地球の終末にはUFOが出る現して地球人を救ってくれるという意見が多く見られますが、これはほとんどない大まかがいだと思えます。そういう人は地球救済計画というものを誤解しているのではないのでしょうか、彼ら(ブラザーズ)は決して自滅する地球救済計画の第一歩は我々地球人の手によってなされなければならないからです。決してこの計画はブラザーズの一方的な計画ではなく、常に両方の歩み寄りによってなされるべきものだからです。ブラザーズは地球人が自ら向上への道を歩みはじめたとき、本当の救済の手をさしたるべきです。だからブラザーズはひそかにある一部の人(コンクティ)とコンタクトして、地球人自ら向上への道を進むようにならなければならないでしょうか。

これでは、どうする。それは知外のものか?という疑問が根本的につがえされるからだと思います。こんなことをしていたら地球は宇宙に一つりのこされてしまいます。まるで江戸時代の鎖国のように。ぼくたちは地球の運命を早く知り、そのための対策を宇宙の使者と共に考えなければいけません。これで筆を置きますが、まだ無知といつていいほどのぼくの書いた中に、気づいたことがあったらどんとん反論してほしいと思います。文平英樹 (神奈川県横浜市)

「不幸の原因を他人のせいだけにしているのは幸福にはなれない」この言葉をよく肝に銘じておくべきです。話が変わりますが、どなたかアダムスキーの金星文字の鮮明な写真か、そのコピーをもっている人、私に譲って下さい。上杉栄二 (15) (〒533 大阪府枚方市東船橋二二九一三)

先 日、本屋さんでフツと見つけたのが「UFOと宇宙」でした。さっそく読んでみたら、ただただ「感激」の一言につきるのです。わたしの興味あることが盛り山。そして同志が沢山いることを知り、とてもうれしく思いました。でも、わたしはやつとUFOについてかじりはじめたばかりでよく知らないし、UFOらしき物しか見たことがないので、ですから見たことがある方、UFOについてくわしく知っている方がいたら教えて下さいませんか。またUFOの本格的研究会に入会したいと思っています。どなたか詳しいことを教えてください。今日もまた空を見上げてUFOは見つかりません。でもわたしは、バカにされても「たくさんの同志がいるんだ」ということを胸に、自分じゃどうにもならないという考えも捨て「UFO、UFO」ひたすら「UFO」とガン張りと思うのであります。もしよかったですらわたしとお手紙交換して下さい。男女を問わず地球人も、宇宙人も方でも。小島由紀 (15 高1) (〒399-41 長野県駒ヶ根市赤穂一五〇九九)

本誌17号の高橋さんの文を読み、大変心を動かされました。たしかに私たちは宇宙人に対して甘えているのではないでしょう。もし心の中で宇宙人をたよっているとしたら、これは大変なまちがいです。私はいつも宇宙人イコール文明人、地球人イコール原住民と考えています。ちょうどマッチで火をつける文明人を見て腰をぬかしている原住民の姿が今の私たちに当てはまるからです。私たちが原住民なのでは。だから私たちの心、考え、社会その他すべてに原住民の範囲内ではないことを深く自覚しなければなりません。

本誌17号の高橋さんの文を読み、大変心を動かされました。たしかに私たちは宇宙人に対して甘えているのではないでしょう。もし心の中で宇宙人をたよっているとしたら、これは大変なまちがいです。私はいつも宇宙人イコール文明人、地球人イコール原住民と考えています。ちょうどマッチで火をつける文明人を見て腰をぬかしている原住民の姿が今の私たちに当てはまるからです。私たちが原住民なのでは。だから私たちの心、考え、社会その他すべてに原住民の範囲内ではないことを深く自覚しなければなりません。

本誌「UFOと宇宙」は確かに一般の人々を対象にしていると思います。この雑誌により多くの中学生から社会人まで、UFOの知識が広められた事実を考えると、その功績は大きいと考えられます。出版の際に、写真、記事の真偽についての程度チェックされているのか私には知りませんが、したがってその内容にどれ程、信頼性があるのか判断できません。しかし我々は賢くあらねばなりません。ところでアダムスキーの真意は何であったか? それは宇宙哲学です。古い習慣である利己心、つまらない虚栄心のために我々ほとんど人々に不自由な思いを起していることではないでしょうか。著書「生命の科学」「テレパシー」は決して新しい哲学ではありませんが、普遍的な哲学として、真摯に「生命の法則」を探究する人にとっては十分納得のいくものだと思います。自称、円盤研究者でさえアダムスキーを批判する人たちがいることは聞いています。現に私の知る人の中にもいるのです。しかし、アダムスキー撮影の写真や著書の教行を引用して批評を加えることは笑止です。同様に月あいは他の惑星に人類がいるはずがないというような個人的意見では、アダムスキーの宇宙哲学はビクともしません。アダムスキー哲学

そこで、私たちは何をすればいいのでしょうか。原住民はなかなか文明人に近づこうして、むしろ文明人を恐れているのです。これから私たちがどういう方向に進んで行くか、また宇宙人たちがどんな態度で私たちに接して来るかわかりませんが、おそれるのではなく、私たちがまだまだ原住民です。だから甘えの心は捨てて一刻も早く文明人を暖かく迎えられるような地球を築こうではありませんか。私の知識はまだほんの少しですから、みなさんと共に少しでも多くの知識をえて多くの人の考えを聞いて心と体を改善し、少しでも社会につくせる人間になりたいと思っています。永田 浩 (15) (東京都中野区)



UFOと宇宙の一人じめはゆるせない!!

●中川康之(画) 奈良県宇陀郡

におけるUFOの地位は証しであるところの「結果(現象)」であると思われまふ。我々は長い間、結果の世界で生活してきたため、UFO問題に関しても、ついUFOの観測だけに夢中になりがちですが、その行為は結局、現象の世界のみにとらわれて、アダムスキーが提示した「因の世界」に一步も足を踏み入れていないことなると思えます。
塩津憲雄 (京都府京都市)

私 はこの「声」の欄を読みまして二、三言いたいた事があります。まずこの雑誌についての社会的役割ですけど、私は現在の科学信仰の時代と考えます。本来、科学は自然科学の法則の一部を見つけて出すことであって、今やすべてを知ったわけではありませぬ。しかし現在では科学主義の名のもとに、科学に対する過信がなされています。そしてそれは、自らの体制を作り上げ、自分たちの世界観に合わない物事には目をそむけるのです。それが科学的態度でしょうか。事実を事実として受け入れあくまでも前向きな姿勢で取り組むのが科学的態度ではないでしょうか。
その意味において、本誌はUFO問題を取り上げることによって社会に問題提起を行っている

ている貴重な雑誌と私は考えています。この事は読者の中・高生諸君も心得ていると信じますが、また心得なくてはならない事です。UFO問題は決して好奇心を満足させるだけのものではないのです。広範な精神的変革運動の一翼を担っているのです。それだけでも地球救済運動と言えるものです。
それから地軸は傾かないという意見に対してですが、まだ地球物理学は初期の段階ではありません。何が起るか分からないのが未来で鼓動が起きているように思えます。人間は常に謙虚な態度を忘れてはいけないと思います。
小浪茂博(26) (東京都練馬区)

は じめて便りを出します。長野県といえはUFOの専門誌が少なく本誌だけをたよりに勉強をすすめていきます。ぼくの親は少しもUFOを信じようとせず、ましてや「UFOらしきものを見たよ」なんて言えはバカよばわりされるしつです。こんな様子ですから本誌を買ってほしい顔をみるわけがありません。ひたすら宇宙人、UFOが存在することを感じて親にないしよて買わしめてます。日本GAPの会員になりたかったのですが、まだ中3ですので入会できません。そこでどなたか信頼のできるUFO研究会を教えて下さい。お願いします。
丸山敏彦 (〒399-46 長野県上伊那郡大宇中箕輪二八九三一五)

よ オノ、オレさあ、本誌17号の札幌市の匿名希望さん(匿名希望)に言いたいんだけどさあ、チヨットひどいぜ。宇宙人ビビ君の反論が本誌に載るのを期待して、って、もうちょっと別の言い方があるんじゃないの。オレが宇宙人ビビ君だったらブライドがメタメタメタに傷つけられたって感じで、三日三晩、泣きあかすたらなあ。匿名希望さん、なんで結局は反論されるのがこわいんじゃないの?自分の意見に自信があれば堂々と名前だせると思わないだけ。他の人はどう思う?
高橋智美(13) (新潟県新潟市)

本 誌17号の堀川満氏のレポートに誤記があったのでペンをとりました。
それは「三朝町のUFO出現騒ぎ」の写真Aの説明図です。説明図には「カシオペア」とあるが、これは「ベガナス」の誤りです。他に残念に思うのは写真真の露出時間が正確なことです。UFOは予期せぬときに出現するので気が動転するのも無理ないが、真に惜しいことです。これからUFOの速度を求めても推測の域を出ることはできません。
匿名希望 (栃木県宇都宮市)

工 ーと、どなたか僕を誘ってくれる人ありませんか。UFO等の興味は人一倍もっています。だから日本GAPの会員になっていろいろ本を読んでいます。ところで本を読むだけでは飽きて日本GAPの月例研究会に出席したいと思っています。ところが何分、当地は広島県の奥、「ちよつと行つてくる」というわけにもいかず、困っています。夏休みに、旅を兼ねて高知か大阪に行つてみたいと思つています。それでお願いなのですが、GAP会員のどなたか僕を誘ってくれる人ありませんか。そして、そういう機会を利用して、こういうし事についていろいろ会話ができたらずばらしいと思つています。
それから、どなたか本誌14号を譲つて下さい。その14号、心から切に欲しいと思つているのです。
小玉 勝(高2) (〒729-64 広島県高田郡甲田町浅塚七四五)

円 盤は未だに見えず、まだ見えず。しかしあのG・アダムスキー氏は十年以上も円盤の写真の撮り続けたし、清家新一氏も十年以上も円盤のエンジンを研究しているのだから、ここであきらめてはいけない。我々若者が立ち上がらなければならないのだ。日本沈没も近いとすれば、これからUFOの出現も増えてくるだろう。そのうちきつと見てやるのだ。
ところで、UFO関係の本を読むにあつて未知の用語があつて困っています。そこいらの辞典には載つてないし、だから教えてくれませんか。
北島秀樹(17) (〒011 秋田県秋田市飯島文京町一一一 高専)

こ のたびは、「UFOと宇宙」をご惠贈下さいまして、まことに有難うございませぬ。なお、今後とも刊行物ご発行の節は、お差支えなにかぎりご惠贈下さるようお願いいたします。
東京都台東区立台東図書館

つ 最近、僕たちの学校でUFO目撃があったこと、話を聞いたところ、飛行物体を発見、途中でとまったりジグザグに動いたりして気味が悪くなり去ろうとしたところ、突然はげしく光り上空へ消えたという事。クソッ、まだ目撃歴のない僕としては、ただただうらやましく思うかぎりでありませぬ。
最後に全国のUFOファンの女性の方、僕と交通して下さい。UFOにかぎらず話し合います。お手紙おまちしています。
遊佐正己(17) (〒343 埼玉県越谷市登戸町一七一七八)

北 海道の小樽市と余市町に、またはその近くににお住いの方どうか私に手を貸して下さい。私はスタターダストというUFO研究グループの一人です。
実は小樽市の手宮洞窟や余市町のフゴッペ洞窟、三笠山ストーン・サークルについての写真や資料を譲ってほしいのです。手宮洞窟にはナゾの彫刻があり、フゴッペ洞窟には不思議な絵や文字が、三笠山ストーン・サークルにはいろいろな仮説があるそうなのです。これらの資料については男女を問わず協力をお願い致します。まずはハガキにて連絡をして下さい。細かくはそれから。
中川康之(15) (〒633-22 奈良県宇陀郡菟田野町宇賀志)



●阪上清久(画) 茨城県土浦市

U FOに魅せられてしまった私は日夜情報を集めています。超自然現象に興味をおもちの方、暇をもてあましている方、私あてにお手紙下さい。趣味―切手収集、釣り、UFO、超能力など。

武田真広(昭和34年3月生)

(〒782 高知県香美郡土佐山田町岩次)

皆 さんこんにちは。私は今年短大一年で、中学の時からUFOに興味をもっていたのですが、このような雑誌があることを知らないばかりか、UFOに関しての本もあまり読んでいないです。そこで皆さんにお願いがあります。このことに関係したこと、またはUFOのUの字から私に教えてあげようという方はお手紙下さい。甘い考えかもしれませんが、本の紹介をお願いします。

西窪孝子(18 学生)

(〒060 北海道札幌市中央区北三条東六)

く わしく書いたUFO目撃レポート、または写真などをくれる人は、ぼくの所へ送っていただきたいのであります。UFO研究

会という名前はたくさんあるので、UFO研究会と名づけた。会に入りたい人、ぼくに手紙下さい。ひろしなのに、あつくんと呼ばれる寛君でした。

三橋 寛(13)

(〒434 静岡県浜北市於呂三〇八一―一八)

私 たちは「UFO研究クラブ」を作ってUFOを観測していますが、メンバーが少なくて良い収穫が得られません。入って下さる人がいたら大歓迎です。性別、年齢、住所は問いません。ただ熱心に研究して下さる人ならだれでも結構です。入りたい方は住所、氏名、年齢、目撃経験の有無を明記して私の所までハガキで送って下さい。(電話でも結構です)。案内書を送ります。広い範囲で活動したので遠方の方も歓迎します。

UFO研究クラブの名称はUSCです。

吉田弘明

(〒999-31 山形県上山市南町一三二六一―四 電0236712114397)

蟹 江超能力UFO科学研究クラブ会員募集。名古屋近辺に在住の方、性別は問いませんが、小学校六年から中学一年くらいまで入会を希望する方は電話して下さい。

林 茂治

(〒497 愛知県海部郡蟹江町大字西森坪内二)

中 学生だけのUFOクラブを作りたいので、す。クラブに入る人はハガキを出して下さい。

天野信也

(〒653 兵庫県神戸市長田区房主寺町七一―五)

U FOSSC(UFO・SPACE研究クラブの略)を作ろうと考えているので、同じ気持ちの人がいたらお気軽に手紙をお下さい。くわしいことは連絡して下さい。お返事します。

加藤邦明

(〒135 東京都江東区塩浜二一五―二八一―四〇九)

U FO・TOKYO・Jという研究会を結成しました。ただ今、会員大募集中、羽生一之

(〒302-02 茨城県筑波郡谷和原村筒井一〇七七)

今 度SEE・SPACEという同好会をつくりました。この会は全国各地のUFO情報の交換やUFOはいったいどこから来るのかを一緒に考えていく会です。入会金、会費は不要ですが、月一回SEE・SPACEという会報を発行いたしますので、その会報代三十円が必要ですが、なお申し込み書および詳しいことがお知りになりたい方は二十円切手を同封して私あてにご連絡をお願いいたします。人数に制限がありますので早めに!

鈴木浩伸(学生)

(〒411 静岡県三島市文教町一三二一―一〇六―一三六号)

全 国のUFOキチガイの皆さん。私たちはUFOクラブを作ったのですが、資金、資料不足で満足な活動もできず、カワイソウなクラブ員たちです。もし同情してくれるなら資料(切り抜き可)等をお送り下さい。研究のためトリック写真でもよいです。ヒマな人がいましたら会名も考えて下さい。お送り下さった中から抽選で切り抜き、レコード会誌等を差し上げます。

吉住芳広(代表者)

(〒349-11 埼玉県北葛飾郡栗橋町大字伊坂七一九五〇)

U FO研究会を結成しました。特典は本誌を借られること。また、いろいろな所からのUFO情報を集めて会員にお知らせすることなどです。どうかこの会にお入り下さい。まずはハガキで連絡を。会費は毎月百円。切手でもよい。

山根邦彦

(〒564 大阪府吹田市寿町一三二二―〇)

U FO研究会結成! 中学一、二年生のお心豊かなUFOファンの会員募集! くわしくは封筒に写真、自己紹介をして送って下さい。

西村英昭

(〒818-01 福岡県筑紫郡大宰府通古賀一〇二六一)

U FO研究会を結成しました。はじめてなので皆さんのご協力を得たいのです。私たちの研究会に入って下さる方、どんどん連絡下さい。

木内房子

(〒176 東京都練馬区練馬一八一―一電03199315772)

中 学生を主体にしたUFO、その他の超科学現象に関する研究会を創立しました。広く入会者を募集。スグに手紙を下さい。

平野里使 (日本革新科学会宛)

(〒470-03 愛知県豊田市東保見町江古山九二七―二)

日 本UFO研究会を結成して活動しています。活動内容は本誌、「日本のUFO」を教材にして勉強したり、会報を出しています。会名はオーバーだけど規模は小さいです。この会を発展させたいと思いますので、県内外の皆さん入会をどうぞ。女子歓迎。他の研究会の方々も協力して下さい。

倉知良次 (中部日本UFO研究会会長)

(〒470-03 愛知県豊田市八草町向田一〇四)

千 葉県千葉市近郊の神秘現象やUFO天文に興味のある高校、大学生の方々、同好会を作りたいのですが、やってみようと思う人はハガキで返事を下さい。女性の方も大歓迎です。

河野 徹(18 学生)

(〒280 千葉県千葉市貝塚一九二四〇二)

泉 超常現象研究会を作っています。石川県か。ただ今、会員は三名ですが、ESP、心霊現象を主として研究しています。日本全国の読者の方の中で、不思議な体験をご存じでしたら、詳しく書いて送って下さい。

平田浩二

(〒321 石川県金沢市久安町四一三四 電076214214507)



売ります・買います

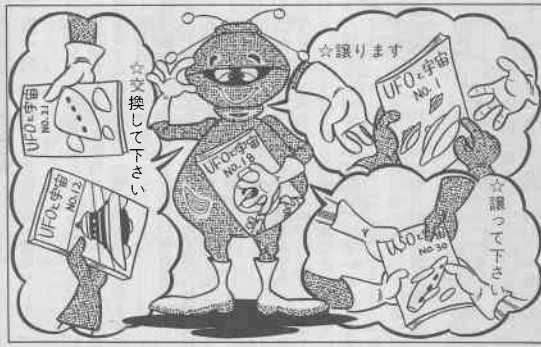
★譲ります

◎本誌創刊号15をまとめて譲りたく思います。連絡はハガキでお願いします。TELを明記することをお忘れなく。
◎鈴木卓哉(〒477) 愛知県名古屋瑞穂区神前町二(一三六)
◎「聖書とUFO」「古代竜と円盤人」「地球空洞説」「UFO目撃」「UFO入門」「宇宙人の痕跡」(以上大陸書房刊)を各700円でお譲りします。全品新同。
三浦孝雄(〒488) 愛知県尾張旭市西大道町前田三(七三五)
◎本誌№4・14まで8000円で一括購入して下さい。方、お待ちします。購入して下さい方には本誌創刊号と別冊「UFO写真集」を無料で差し上げます。また「写真で見える空飛ぶ円盤」200集 1200円「写真で見える空飛ぶ円盤・宇宙人200集」1000円「謎のバミューダ海域」6000円「灼熱の水惑星」9000円の全4冊をプラスαのサービスもつけて3000円でお譲りします。これらの本はすべて美品です。また送料もこちらで負担します。連絡は必ず封書でお願いします。
本田邦彦(〒133) 東京都江戸川区北小岩五(一六七)
◎次の本を譲ります。「UFO入門」「聖書とUFO」を各冊700円。「エスパー入門」「テレパシー入門」「狐狗狸さんの秘密」を各冊400円。すべて美品です。送料は本が到着しましたら払って下さい。(切手代用可)。

青沼哲哉(〒199) 北海道北見市常盤町四(一一二)
◎本誌№14を千共3500円にて譲る。またインターホン(千共700円)(9V電池付100円増し)。往復ハガキで詳しく連絡してね。
浜戸幸之(〒628) 京都府熊野郡久美浜町葛野四(四二) 電07728131046
◎本誌№14を2部保存しております。ご希望の方に1部3500円でお分け致します。破れ、汚れなどない美品です。大変お買い得だと思います。またG・アダムスキー著の円盤に関する本を求めたいです。所有している方は当方までご連絡下さい。ご希望に添うお値段でお買い上げ致します。どちらもお互いに連絡して下さい。
小林文人(〒681) 鳥取県八頭郡八東町日田七(九三)
◎「火星からの空飛ぶ円盤」「空飛ぶ円盤の秘密」「宇宙の使者」「UFO入門」「ヒューマノイド」についてのマジメな話「円盤についてのマジメな話」「天空人物誌」「私は宇宙人を見た」(総編もあり)「テレパシー入門」「エスパー入門」「中岡式念力強化法」を通個でお譲りします。また交換も可能。中西泰範(〒411) 静岡県浜松市村楠町三三四(一一一)
◎いろいろな情報をキャッチできるBCL、SWL用通信型受信機トリオR・R・59Dと、アンテナと受信機をつなぐ同軸ケーブル3C・2Vを20メートル送料別1万円でお譲りします。買ってください。方本誌№8をタダで差し上げます。まずは往復ハガキで。
早瀬弘文(〒518) 三重県上野市農人町四三(六)
◎「統一・恐怖の心霊写真集」(750円を500円)「悪魔の本」(550円を400円)「ガラスの熱い日」(980円を600円)「見えないもの影」(420円を320円)を買って下さい。(ペラ売り可)。まずは往復ハガキで。
田口 徹(〒346) 埼玉県久喜市東一(九一三)
◎G・アダムスキー著「空飛ぶ円盤同乗記」「空飛ぶ円盤実見記」(高文社)を2冊、2000円にて譲ります。(送料共)。連絡は往復ハガキでお願いします。山本良和(〒732) 福岡県朝倉郡杷木町大字志波本(二七)
◎自作の電子オモチャ「宇宙戦ゲーム」を1500円。5バンドラジオカセット・ガ115を15000円。3バンドラジオカセット・マックffを2万円。ポロロイドカメラZIPを5000円にて売りたい。土井武志(〒565) 大阪府豊中市新千里南町二(一四一)
◎本誌創刊号№11まで全部まとめて4500円以上で譲ります。高価優先にします。連絡は往復ハガキで。

朝野貴子(〒257) 神奈川県秦野市緑町四(一三)
◎本誌創刊号№13を各冊2000円、2000円(送料別)で譲ります。連絡はハガキでお願いします。中川 誠(〒522) 長崎県長崎市大橋町八(六一)
◎本誌創刊号№12の12冊を一括してお譲りします。
高文社の空飛ぶ円盤シリーズ8冊と大陸書房「宇宙の使者」の計9冊(購入価格4800円)を安くお譲りします(すべて美品ですが、高文社の空飛ぶ円盤シリーズにはカバーがありません)。送料も考慮に入れた希望価格をお知らせ下さい。
大前俊昭(〒670) 兵庫県姫路市伊伝居小山崎七八(一一三)
◎高文社、平安書局、大陸書房などのUFO関係の本10数冊を6000円均一で、なるべくまとめて買ってください。20円切手を同封した封書でご連絡ください。また本誌創刊号を譲ってください。ご連絡ください。
高橋正一(〒211) 神奈川県川崎市幸区北加瀬九五(一九四五)
◎「写真で見える空飛ぶ円盤・宇宙人200集」と「あなたは魔術師」の2冊を2500円(ペラ売り可)でどうでしょうか。もちろん共に無キズです。送料当方負担。連絡は往復ハガキでお願いします。江崎 淳(〒750) 山口県下関市丸山町四(一一九)
◎本誌創刊号№4までを6000円にて譲ります。ハガキで連絡して下さい。
小倉正明(〒239) 神奈川県横浜須賀町鴨居二(二〇八一)
◎一眼レフカメラ、ミノルタSR-T101(レンズF11、レリクス、ケース、説明書付。故障なし)を送料共46000円にて譲ります。連絡は往復ハガキで。
丸山勝司(〒399) 82 長野県南安曇郡堀金村扇町五(七八)
◎「空飛ぶ円盤のすべて」(高文社 8000円)を6000円にて。無キズ、切り抜きなしです。往復ハガキで連絡。
神山和幸(〒320) 栃木県宇都宮市西の宮町一五〇(八四)
◎当方、本誌創刊号№19までを所有しています。まとめて10000円(送料別)で譲りたく思います。分売するのは不可。すべて美品。欲しい方は往復ハガキで連絡して下さい。
宮田孝彦(〒453) 愛知県名古屋市中村区元中村町一(三三)
◎「空飛ぶ円盤ミステリー」「空飛ぶ円盤の真相」や「空飛ぶ円盤200集」①、②などがありません。

その他UFO専門書28冊、UFO写真(四つ切判)もあるがあります。切手40円分を同封して送ってもらえば、リスト送る。特別にタダで譲る物もある。沢井正次(〒270) 千葉県松戸市(七七七)
◎本誌創刊号№7(№3を除く)をまとめて1万円にて譲ります。原付自転車との交換も可。ちょっと望み過ぎたかな? 相談もします。手紙を待っています。
龜田広司(〒340) 01 埼玉県北葛飾郡幸手町大字戸島立二(九四一七)
◎ライオンP400ミリF4.3レンズ(キヤノン用マウント付)を8000円にて譲ります。絞りはフリーストップです。
橋本一雄(〒143) 東京都太田区北馬込二(一九一)
◎日本精光6センチ屈赤(昨年8月購入)と五藤光学MH12・5ミリを5500円程度で譲ります。竹中章雄(〒116) 東京都荒川区荒川三三四(一五)
◎本誌№5・10の美本を譲ります。UFO写真もありません。まずはハガキで連絡。
信田光秋(〒500) 岐阜県岐阜市金園町五
◎上記の本を譲ります。送料は2000円。何冊も買いたい求めている人には割引します。
◎世界のUFO(6900円を4000円) ◎自己催眠術(5000円) ◎三徳(3000円) ◎強奪事件(3000円) ◎中学生の強盗法(6300円を4000円) ◎刑事コナン・構想の死角(9000円を3000円) ◎以上①②③をまとめて買ってくれる人には、送料を5000円にします(全部美品)。◎キングカラーケミカルセット(5千円相当を千円) ◎パワーバック1可変抵抗器に使える。0・12V(2千円を千円) ◎説文堂新光社の反射望遠鏡の作り方(5000円) ◎方位磁針 夜光 ストップ付(2000円) ◎「蒸気機関車北と南」7500円「写真集」7500円「カ7」版蒸気機関車の世界「5500円」「私鉄写真集 近鉄」11000円「写真集電機機関車」9000円以上①②③を3000円にて譲ります。また5000円以上買ってくれる人にもれなくネオパNSS・36PXを差し上げます。まずはハガキで連絡して下さい。
岡山嘉成(〒356) 埼玉県上福岡市福岡(一六七〇)
◎講談社発行「四次元ミステリー」(カバーに少し汚れ)を送料共7000円です。または本誌創刊号№6・9のどれか1冊と交換します。連絡は往復ハガキで。
佐藤昌喜(〒012) 秋田県湯沢市杉沢(一一一五)
◎「超心霊学入門」「四次元世界の神秘」「超物理学入門」「超心理学入門」(他田書店)「悪魔1部2部」(三友出版)以上6冊まとめて24000円にて譲ります。



●阪上清久(画)茨城県土浦市

す。欲しい方は往復ハガキで連絡下さい。

三上勝男(〒310 群馬県高崎市石原町つるべ三七八)「宇宙の謎」(一四一八)

○「スペース一」(一四一八)

○「魔の川アマゾン」(「怪しきスリラー」を500円前後、それともあなたが持っているUFO関係の本と交換して下さい。)

UFOの写真らしきものなら7、8枚もっています。一緒に研究して下さい。

登坂祐明(〒484 山梨県犬山市横町九八 菊地勝男方)

○ゴダックポケットカメラ10フィルム、フラッシュ付(6500円)を送料共5000円で譲ります。1回使用しただけの新品です。連絡は往復ハガキで。

原田勇二(〒875 兵庫県加古川市加古川町南備後)

○本誌No.2、No.3を各3000円で。2冊ともなら5500円に割引。いずれも破れ、キリヌキなど一切無し。送料は当方負担。

信田 裕(〒182 東京都調布市小島町四九二一五有沢方)

○本誌No.2、11までを10000〜15000円で譲ります。高価優先。送料を自ら負担。No.10に少し切れ目がありますが気にならないはずです。

☆譲って下さい

☆交換して下さい

小俣耕一(〒107 東京都杉並区松庵二一四一八)

○次の本を譲ります。『未来の記憶』(「星への帰還」)『宇宙人の謎』(「奇蹟」)『エリッヒ・フォン・ドニケ』著、角川文庫刊(4冊まとめて定価11200円)『四次元の科学』(大陸書房刊(定価7500円)『宇宙人』(「空飛ぶ円盤の秘密」)平野威馬雄著(定価700円)『空飛ぶ円盤の謎』高文社刊(定価3800円)『謎のバリエーダー』海城 徳間書店刊(定価5000円)『謎のバリエーダー』海城 徳間書店刊(定価6000円)『超能力者エリッヒ・ゲラー』二見書房刊(定価6500円)『凍る地球』双葉社刊(定価8500円)『フストラダス大予言の秘密』文華新書刊(定価5500円)『実説・大予言』祥伝社刊(定価5500円)『宇宙からの脱出』ハヤカワ・ノヴェルズ刊(定価4500円)『宇宙バズル』白揚社刊(定価5600円)以上を送料別6割でお譲りします。バラでもまとめて結構です。連絡はハガキでお願いします。

山本年夫(〒711 岡山県真庭郡勝山町大字本郷一九五三)

○本誌No.3、13まで11冊まとめて8000〜10000円で譲ります。全冊美本、切り抜きなし。多少値引き可能。連絡は封書で願います。手渡しを希望します。

村田義昭(〒602 京都府京都市上京区七本松一条上ル滝ヶ原町500九九)

○本誌創刊号を送料12000円で。3冊まとめて買ってくださる方はタダで天文用語辞典を差し上げます(ラ売りも可)。くわしくはハガキで。

半田一也(〒382 埼玉県新座市野火止五一三二四六)

○本誌別冊「UFO写真集」(定価13000円)を送料共15000円で譲ります。またUFO写真とその他体験したことを送ります。1枚13000円、2枚15000円、3枚17000円。毎月UFO写真を送ります。まずはハガキで連絡を。

岡城 潔(〒719 32 岡山県久世局区内久世二四八二)

○スリーブ製60ミリ原赤NSST6000(新品)付底品一式付を共30000円で譲ります。

嶋 弥弦(〒048 26 北海道小樽市塩谷四一七七)

★譲って下さい

○G・アダムスキーの著書ならどれでもいいですから適価で譲って下さい。連絡は往復ハガキでお願いします。

菅沢昭夫(〒287 01 千葉県君津市栗原町岩部五八八)

○「UFOと宇宙」を愛読する皆さんの中にタロットカードと説明書を持っている人、是非10000円前後で譲って下さい。空飛ぶ円盤の写真をもっている方、我々SPACE UFO CLUBに写真を提供して下さい。詳しくは往復ハガキで官製ハガキで連絡して下さい。

岸本久行(〒299 11 千葉県小津津市大和田三三八三)

○「惑星面列」(ブラックホール)を半値で。また「鉄の道」(双子の騎士)「エンブルの丘」(ロケット冒険記)を定価で譲って下さい。まずはハガキでお願いします。

毛岐道浩(〒875 大分県臼杵市門前組一)

○UFOについての資料をおもちの方、ハガキで連絡を。お礼はします。まずは相談の上。

永田雄一(〒250 長崎県長崎市坂町五一四)

○高文社「空飛ぶ円盤同乗記」(「超対物理論入門」)「空飛ぶ円盤製作法」などを適価でお願いします。

沢海三男(〒941 01 新潟県上越市杉野袋)

○アイザック・アシモフの短編集「われはロボット」福島正史の「SF入門」をおもちで、私に譲って下さるといふ善人はいませんか。なるべくなら美品が欲しい。気遣い、変人と言われながら、それにもめげずUFOをさがしている16歳の私です。どなたか譲って下さいませんか。お願いします。

間中英美(〒941 01 新潟県北水本宿一六一)

○「SF入門」(早川書房)を定価くわいで。

SF、TVアニメ「レインボー戦隊ロビン」のソノシート、パルタ星人をやつつけろノ、またはその他のドラマ入りのソノシートを譲って下さい。定価以上の高い値段で買います。

林田雅子(〒598 兵庫県神戸市東灘区魚崎南町八一〇一〇)

○本誌創刊号4冊をまとめて1万円でお譲り下さい。バラでも結構です。

光永忠生(〒225 神奈川県座間市緑ヶ丘四四八五一)ミドリ荘 電04622549892)

○本誌創刊号No.4とNo.6を譲るだけ安く譲って下さい。またUFO写真の焼き増しを送って下さい。

い。希望の代金もお書き下さい。

石川冬樹(〒711 01 香川県高松市高松町一五六二一四)

○V・クリスチーナ著「西洋呪術秘伝」(二見書房)を定価で下さい。なるべく美本をお願いします。

岡沢 拓(〒710 高知県高知市中泉寺二九二一)

○本誌創刊号No.4、6を定価で譲って頂けないでしょうか。当方No.14から読み始めた者。本を大切にしている性分なので美本に限ります。1冊でも、まとめて結構です。普通ハガキで連絡して下さい。待つています。もちろん送料は当方で負担させて頂きます。

井上静江(〒230 神奈川県横浜市鶴見区下末吉六一一三七 美鶴荘E号)

○本誌創刊号No.4、6を適価にてお譲り下さい。連絡は往復ハガキにてお願いします。

岡村弁英(〒81 02 長崎県長崎市田上町二七九垣院内)

○ほくは「UFOと宇宙」を旧号からそろえたく思っています。創刊号No.4がどうしても手に入らないのであります。どなたか譲ってくれませんか。創刊号は10000円以下、No.2、4は5000円以下で、またNo.6がありましたら2000円以下で下さ。まずはハガキでお願いします。

大本達也(〒533 大阪府大阪市東淀川区山口町一五九)

○G・アダムスキー「UFO同乗記」(角川文庫)山根キク「キリストは日本に死んでいる」(たま出版)ロレンス・D・クシュ「魔の三角海域」(角川文庫)の3冊を適価で美本を求む。連絡はハガキで、掲載後一週間以内をお願いします。

酒井 誠(〒274 千葉県船橋市沼志野台四一五一三)

○本誌を読んでいる皆さんの中で円盤の写真を取った人、その写真を100円前後で譲って下さい。

佐伯哲也(〒182 東京都調布市国領町一三二一)

○本誌ファンの方でUFOや心霊の写真を書かれた方、焼き増しを1枚譲って下さい。送料共白黒が1500円。カラーなら2500円。特に良く写っている場合、1000円くらいサービスします(トリックは不可)

福田政也(〒431 14 静岡県小笠部大東町浜野新田七三二)電0537622729)

○本誌創刊号を譲って下さい。譲って下さった人には、「UFO」という本を差し上げます。それからUFOを写した人は焼き増しを一枚2000円で譲って下さい。

加藤 豊(〒988 山形県酒田市浜田一九一二二)

◎本誌刊号を適価で譲って下さい。
下洞一則(〒300 東京都墨田区横川五一九一三
一五)

◎本誌ファンの中でUFOを写された方、どうか私
に焼き増しを1〜2枚譲って下さい。送料と写真
代は必ず支払います。ハガキに写真の価格と撮影デ
ータを書いてご連絡下さい。
鷺尾智子(〒950-12 新潟県白根市桜町)

◎UFOを写したネガをおもちでしたら無料で貸し
て下さい。ネガは責任をもってお返し致します。プ
リントの場合はまずお手紙を下さい。(トリック不可
UFOの写っている状態を詳しく説明して)
川口博士(〒412 静岡県御殿場市新橋一九七四)

◎UFOの写真を譲って下さい。白黒なら100円
以下、カラーは250円以下。特に良く撮れている
ものは300円くらいで売って下さい。(あまり不鮮
明なものではダメ)。できれば同じ写真を2〜3枚。
封筒に写真と希望の値段を書いて送って下さい。
豊後克哉(〒533 大阪府大阪市福島区野田三一九
一七)

◎本誌刊号No.4までを譲って下さい。なるべく
1冊1000円前後でお願いします。
松田博樹(〒220 岩手県盛岡市上米内字米内八九
〇) 本誌刊号No.6まで買いたし。一括でもバラで
も結構です。期限なく気長に待ちます。(少々汚れ
やキズ、書き込みは可。少しの切り抜きは構いま
せんが、余りひどいのはダメ)。何冊あっても構いま
せん。是非ハガキで連絡を。ご希望の値段を書い
て下さい。

◎新聞史昭(〒310 三重県四日市前田町二九一五)
◎新聞を譲って下さい。読売新聞(昭和49年6月9
14、18日付、昭和50年6月10日付)、サンケイ新聞
(昭和50年9月21日付、同年10月4、8、25日付)
のものを部1000円でお願います。
清水和久(〒371-03 栃木県安蘇郡田沼町大字栃
木二七六六)

◎UFO、宇宙人に関する記事を譲って下さい。新
聞や雑誌の切り抜きでも構いません。またUFOや
宇宙人を写した人、写真を譲って下さい。お願いま
す。
安随利之(〒653 兵庫県神戸市長田区片山町五一
一五)

◎本誌No.8〜10を1000円前後で譲って下さい。(汚れ
書き込み可。切り抜きは不可)。またNo.12をタダで
譲ってくださる方、お願います。くわしくは手紙
で。
福島健一郎(〒223 神奈川県相模原市相模台団地
五一〜一三〇)

◎大変に勝手ですが、雑誌や新聞の切り抜きでも結
構ですからUFOに関するものをお譲り下さい。ま
た

●西元 朗(画) 大阪府豊中市



るならどんな破れ、アンダーライ
ン、汚れでも可。表紙だけでも結構で
す。美本の場合ならブルバックス
の「プラズマの世界」果して空間は
まがっているか」を差し上げます。
送料は当方負担。まずはハガキで号
数と本の保存状態などを書いて送っ
て下さい。
杉野隆三郎(〒468 愛知県名古屋
市天白区天白町八事鶴田五二)
◎あなたの本棚に寝ている本誌刊
号No.9のどれでも良いですからタ
ダで下さい。好意ある無欲のUFO
仲間の方、よろしくお願います。
(送料は切手にて支払います)
三井啓久(〒274 千葉県船橋市飯山満町三一〇
八)

◎G・アダムスキー著「空飛ぶ円盤実見記」「空飛
ぶ円盤同乗記」を各600円(送料共)で譲って下
さい。美品希望。連絡はハガキをお願いします。
中島正之(〒226 京都府宮津市鶴賀二〇七六一)
◎UFO関係のものなら何でも譲って下さい。どん
なに古くても結構です。ただし無料でお願いま
す。
西村英昭(〒818-01 福岡県筑紫郡太宰府町通古
賀一〇六一)

◎本誌刊号No.2が欲しいのですが、なかなか手
に入りません。どなたか1冊でも定価の300円で
譲って下さる心やさしい方がおられましたらお願い
致します。必ず大切にします。まずはハガキで、
東 秀永(〒575 大阪府交野市星田山手三)
(一)空飛ぶ円盤同乗記(高文社)「テレパシー」
(文久書林)「日本古代文書の謎」(大陸書店)を
各500円で譲って下さい。汚れたものでも構いま
せん。その他UFOの写真を安く譲って下さい。値
段をハガキで連絡して下さい。
山藤政夫(〒501-32 岐阜県関市下有知富士塚四
〇五一一)

◎アダムスキーの著書と早川書房の「SF入門」を
安く譲って下さい。
吉川 雅(〒594 大阪府和泉市鶴山台一一〇一
七)
◎古代の壁画、遺跡やUFOに関する写真、記事の
切り抜きなど、何でも結構です。是非譲って下さ
い。
池田久美子(〒300-11 茨城県稲敷郡阿見町上小
池四〇五)

◎本誌読者の中へUFOの写真を写された方、ネ
ガを貸して下さい。責任をもってお返し致します。
プリントにした場合、キャビネ判くらいのものを3
00円(送料共)で譲って下さい。まずはハガキで
ご連絡。
大貫宏次(〒921-08 山形県西置賜郡白鷹町荒砥
乙九九三)

◎UFOの写真や資料などを送って下さい。UFO
写真には解説なども書き添えて、カラー250円
白黒150円。特に良く写っている写真は300円
で買います。まずはハガキで。
村田正嗣(〒229-15 滋賀県蒲生郡蒲生町桜川西
八三一) 電074851510009)

◎本誌刊号No.4、6を定価かそれ以下でお願い
します。できるだけきれいなものを。なおタダで
譲ってほしいものがあります。ネッシー、UFO
、ジョーに関するもの、プロ野球選手、プロ
スラー、岩崎宏美に関するもの(サイン、ポスター
写真)などです。ハガキで連絡して下さい。(タダで
譲ってくださる場合は連絡はいりません)。よろしく
お願いします。
丸山貴義(〒412 愛知県豊川市開運通一一五七)
◎本誌刊号No.4(コピーでも良い)と外国のU
FO誌を安価でお譲り下さい。ハガキで連絡して下
さい。
白石安徳(〒229-08 岩手県東磐井郡千厩町千
厩一九)

◎UFOまたは幽霊の写真を写された方、焼き増し
を1枚300円以下で譲って下さい。はつきりした
ものならカラー、白黒どちらでも。トリック不可。
三枝広樹(〒701 兵庫県加古川市別府町新野辺
一一二五一一五)
◎本誌刊号No.4、6を安価で譲って下さい。で
きれば美品を希望。もしキズなどがあれば、どの程
度なのかを書いてください。またあなたの地方のU
FOに関する新聞記事やUFO資料、写真などがあり
ましたらタダで譲って下さい。それからUFOを
写された方、ネガを貸して下さい。責任をもってネ
ガはお返し致します。まずはハガキで。
青木美津子(〒66 愛知県豊田市陶師町四九〇)
◎本誌刊号No.6をあなたの希望値段で譲って下
さい。なるべく安く、ハガキでの連絡を待ちま
す。送料は当方負担。
小林雅夫(〒330 長野県長野市大字千野一五七三)
◎刊号No.14までを読んできたくなりました。少
々のキズ、ヨゴレ、ラカガキなどは構いません。私

◎本誌刊号No.5まで2500円(送料別)で譲
って下さい。多少のキズ、汚れ可。ただし切り抜き
絶対不可。往復ハガキで連絡。
川田昭司(〒270 北海道旭川市豊岡六条四)
◎どなたかUFOの写真をおもちでしたら無料で
譲り下さい。あつかましいお願いですがよろしくお
願います。
岐部俊夫(〒861-11 熊本県菊池郡合志町竹迫一
九九〇)
◎どなたか本誌刊号No.10を無料で譲って下さい
(このうち1冊でもお願いします)。内容が読みとれ

多情報化時代来る!!



地球の皆さん!!
求む!「コスモ」創刊号
「エゾ」UFOと宇宙金(星版)と交換
連絡はテレビで...

には「バスズル大学」「ノストロダムスの大宇宙」の2冊の本があります。早くお譲り下さった方、二人にはそれぞれこの本を差し上げます。ただ、私にはお金がないのでタダでお譲り下さい。

菅原 徹(〒229-34 岩手県東磐井郡藤沢町字仁郷一七七一)

◎本誌創刊号№4を各3000円です。またUFOに関する新聞記事も適価にて購入します。イオンクラブ、宇宙電器メーカー・オーラ測定器などの作り方を詳しくお知恵下さる方に謝礼をします。詳しくは往復ハガキにてお願い致します。

萩野圭一(〒701 北海道札幌市北区屯田二条四)

◎私は本誌に掲載されたデニクン答「神々の戦争」を読みたいのですが、手に入れることができません。学生ですのであまりお礼はできませんが、どうか本誌№9まで(1冊でも)のコピーを譲って下さい。また本誌№12が手違いにより1冊余分にありますので、ご希望の方に定価かそれ以下でお譲りします。

助川妃都実(〒435 愛知県小牧市南外山 北官舎七号)

◎第1集「写真で見える空飛ぶ円盤」(宇宙人200集)を譲って下さい。その他UFO写真の焼き増しを譲って下さい。

草野 稔(〒718 岡山県倉敷市玉島上成六八七)

◎本誌創刊号№14までのどれでもよいですからタダで譲って下さい。送料はお支払いします。破れ、汚れ、落書き、なんでも可。気長に待っています。

寺谷 進(〒91-21 北海道札幌市南区石山二五〇)

◎本誌№8を400円(送料共)で譲って下さい。多少の汚れ、キズ可。ご連絡は往復ハガキでお願いします。

高塚和幸(〒414 静岡県清水市折戸五六六 桜田調正方)

◎UFO写真またはネガを譲って下さい。ネガは賣

任をもってお返し致します。ハガキで連絡をお願いします。

山嶋 潔(〒720-01 広島県福山市大門町四丁目通一三三)

◎UFO、心霊などの切り抜き(資料)、写真などが余分にありましたら、タダで譲って下さい。写真はネガを貸して下さっても、こちらで焼きます(必ずお返し致します)。

大倉 崇(〒578 大阪府東大阪市若江本町二一三)

◎UFO写真のネガをもっている方、ほくに貸してください。ネガは責任をもって返します。(トリック不可)。

工藤康雄(〒240 神奈川県横浜市保土ヶ谷区和田町二四一)

◎本誌創刊号№6を安く、できればタダで譲ってください。破れ、汚れ、書き込みなどのあるものでも構いません。いつでも良いです。

松本 亨(〒93-41 福島県田村郡大越町上大越寺前一五三)

◎本誌創刊号№4までを譲って下さい。切り抜き、キズ、汚れ、アンダーラインなど、何でも結構です。たとえページ折れでも構いません。ご連絡をいつでもお待ちしております。

讃岐都夫(〒222 神奈川県相模原市若松二一五二)

◎手塚治虫の絶版マンガを定価の2倍程度にお譲り下さい。破れ、切り抜き、落書きがないものを希望します。お礼は相談の上です。

古藤浩美(〒581 島根県松江市大海崎町一四七)

◎また本誌創刊号№3を適価で譲って下さい。また本誌創刊号№3を適価で譲って下さい。なるべく美品の物をよろしくお願いします。連絡下さい。

石崎昭広(〒370-15 群馬県多野郡方郷町方郷三区甲一三二)

◎大陸書房のムー大陸シリーズ。市村俊彦、斎藤守弘氏の著書。高文社刊の本(G・アマダスキー以外)。や物理の本などをなるべく安く譲って下さい。本は読めれば結構です。往復ハガキで連絡を。

吉田正信(〒901-03 福岡県京都郡小野田町三三六〇)

◎UFO写真を写した方、焼き増しを1枚お譲り下さい。(本物に限る)

佐藤美保子(〒237 神奈川県横浜須賀野追浜町一五一 大井住宅二〇一)

●浜田公明(画) 神奈川県座間市

群列町町提三六〇〇

◎UFO写真を写した方、焼き増しを1枚お譲り下さい。(本物に限る)

佐藤美保子(〒237 神奈川県横浜須賀野追浜町一五一 大井住宅二〇一)

★交換して下さい

◎本誌№14(切り抜き無し、破れ汚れも一切無し)をナンシー・シナトラのLPレコード「SJET7326・N・シナトラベストセラーズ」「SJET7860・フレイディーズ・チャイルド」「SJET7967・カントリー・スタイル」「SJET8054・ナンシー&リ(キズ不可)と交換して下さい。また「古い」発行のナンシー・シナトラ・シングルコード「カフスポンとネクター・イン」「レモンキッズ」「フルトン・カラーのお月さま」「バラのほほえみ」「涙はどこへ行ったの」「冷たい愛情」「フレイディーズ・チャイルド」との交換も希望します。電話で連絡を。

伊野吉治(〒102-02 東京都多摩市和田一七五八)

◎本誌№15に掲載された豊田市に出現したアダムスキー型円盤および母船(サービスマン6枚1組)が現在手元に複数あります。本誌創刊号№4のいずれかと交換希望。また杉浦さんにインタビューした録音テープがあります。希望する方はコピーいたします。

文化祭でイオンクラブの飛行実験に成功しましたので、詳細を知りたい方は連絡して下さい。大学のUFO研究会との交友も希望します。以下返信用切手同封のうえ左記まで:

加藤光彦(〒444 愛知県岡崎市西本郷町和志山七五三六)

◎本誌№11までのどれでも結構です。私のUFO、超能力の本と交換して下さい。また安価なら買います。天体望遠鏡も作っているのですが、接眼部、鏡筒、主鏡の部品が手に入りません。どなたか取り扱っているメーカーを教えてください。詳細は勝手ながら、なるべくTELでお願いします。(夜8時過ぎに)。

宗像伊和夫(〒533 大阪府大阪市東淀川区淡路本町一四三三 錦城園内 電06-1323-1362)

◎本誌№6希望。できるだけ美品を望むが、少々折れ汚れならかまいません。こちらから提供できるのは、二見書房「狐狗狸さん2冊(交換にに応じてくれる方は早川SF文庫の秘(か)なキズ物)をおまかせします。連絡は往復ハガキで。

小林英也(〒355 埼玉県東松山市上野本一〇六六一)

◎本誌創刊号№8までを(1冊でも...)適価またはほかの「宇宙人の痕跡」1000円「先史への宇宙船」1000円「宇宙人の遺産」950円「地球空洞説」950円「空飛ぶ円盤製作法」950円

「日本のUFO」950円のうち全部またはいずれかと交換して下さい。ハガキでお願いします。久間啓司(〒278 千葉県八千代市八千代台北九一六一七)

◎ほくのドックインスタマチック20と一眼レフ(正常に作動する物)のどちらでも良いですから交換して下さい。UFO撮影にビタリのポケットカメラです。ハガキで連絡を。

井上好幸(〒233-01 京都府綾部市中山町)

◎どなたか私のもっている「神秘の四次元世界」と本誌創刊号を交換して下さい。

石川博也(〒76 広島県府中市本山町一四一四一)

◎ほくのもっている「スバイ暗号ゲーム」580円「虹を呼ぶ拳1・3巻」480円「ペルトクイズQ&Q」580円「ワンダーW3、1巻」350円「不思議の国のうらとび」600円「だじやれ笑学校」560円「欲ドン2やってみよう。いってみよう」380円以上計3530円と本誌創刊号№7までと交換して下さい。なるべく美品を。またUFO、異次元、ESPに関する本など、その他SFコミックマンガや宇宙に関する本を譲って下さい。

東 正順(〒991-81 鹿児島県曾根郡大隅町中内二〇六)

◎本誌創刊号№7が欲しいのですが、左記の本と交換して下さい。「妖怪大図鑑」「七つの世界の不思議」「恐怖幽霊スリラー」「きみは超能力者」「世にも不思議な物語」「流星群のひみつ」「四次元の世界をさぐる」「謎の白鳥座61番星」「わたしたちは幽霊を見た」「ほくらのサイクリング」往復ハガキで交換してくれる本誌の号数と、欲しい本の名前を書いて送って下さい。(コピー不可)多少のキズ汚れなら可)

永井隆博(〒551 大阪府大阪市西成区花園南一九一三三)

◎UFO写真をもっている人、ほくのアマダスキー型が写っているカラー写真と交換しよう(トリック不可)。もちろんほくのも本物です。まずはハガキで。

佐藤聖二(〒113 東京都文京区本駒込三一一七一)

◎本誌創刊号№15(切り抜き、キズのない物)をほくの早川文庫宇宙SFシリーズ12冊。角川文庫「鷹の三角海賊」朝日ソノラマ文庫「宇宙戦艦ヤマト」2000円と交換して下さい。おまけにUFO、宇宙人関係の本を追加する可能性があります。ご希望の方はまず電話でどうぞ。(午後6時以降)

市野竜一(〒62 兵庫県西宮市上甲東園一三三二六 電0798-1531-1572)

私は円盤に乗った！

驚異のホワイトサンズ事件

ダニエル・フライ著／久保田八郎訳



一九五〇年七月四日夜、米ニューメキシコ州ホワイトサンズのロケット実験場に突如一機の円盤が着陸し、内部から響く不思議な声に誘われて乗り込んだ科学者フライは、ニューヨーク上空までを三十分間で往復する！ その間、円盤の推進法や宇宙人の故郷と超絶した科学、哀れな地球の現状等を知らされるといふこの驚異的事実物語は、本誌第二号に掲載されて当時の読者を熱狂せしめたが、いま新装なった単行本として同著者によるすばらしい関連記事三篇をあわせ収録しあらためて読者に贈る！ UFO研究者必読の書。

付・宇宙人アランのメッセージ／進歩の曲がり道／原子・銀河系・理解

B 6判
272頁
¥ 750
〒 160

ユニバースUFOシリーズ

パプア島の円盤騒動

宇宙人の劇的出現事件

ノーマン・クラットウエル神父著／増野二郎訳



ニューギニア島パプアで一九五九年に一大UFO出現ブームが発生した。島内の各所に円盤が低空で降下し、堂々と姿を現したが、特にポイアナイにおける出現は劇的であった。地上数十メートルの位置に停止した円盤の上部から、数名の「人間」が、歓声をあげて手を振る島民たちに手を振ってこたえる。この驚異的事実を現地在住のクラットウエル神父が徹底的に調査報告し、大事件の全貌を克明に伝えたすばらしいドキュメント！ 更にフランスで発生した「火の玉UFO事件」と「多条光線を放つ円盤」他四篇を掲載した！

付・フランスの怪奇・火の玉UFO事件／多条光線を放つ円盤

B 6判
268頁
¥ 750
〒 160

ユニバースUFOシリーズ

望遠レンズは新しい世界を発見する!!

低価格で登場 スリコール交換レンズ



一眼レフの愛用者の多くが交換レンズの価値を認めながら持っていないのは、交換レンズがあまりにも高価だからだと思います。しかし、交換レンズを使わずして何のためか一眼レフでしょう。できれば交換レンズはカメラよりグーンと安い価格であってほしいものです。それが交換レンズを手軽に買え、気楽に使える条件だと私達は思います。その要望にスリコールがお応え致します。

スリコール交換レンズはできる限り安くお届けするためにユーザーへの直接販売システムでスタートしました。スリコール交換レンズの実力をお楽しみください。

●スリコールPマウント種類(付属品)35%一眼レフ用

アサヒペンタックス用 (SP, SL, ES, SPF, フジカ, マミヤ, リコー, ヤシカに使用)・オリンパスOMI用・ミノルタ用・キャノン用 (F1, EF, FTb)・ペトリ用・ニコン用・コニカ用 (FP, FS, FMは不可)・ミランダ用

●スリコール交換レンズ仕様(プリセット絞り、絞込み測光、マウント交換式)

品番	LP135	LP200	LP300	LP400	LP500	WP35
焦点距離	135mm	200mm	300mm	400mm	500mm	35mm
明るさ	F:2.8	F:4.5	F:5.6	F:6.3	F:8	F:2.8
レンズ構成(群/枚)	4/4	3/4	3/4	3/4	3/4	5/6
全長mm・重量g	80・340	140・420	230・550	315・700	410・790	52・150
価格	¥13,000	¥14,000	¥18,000	¥21,000	¥24,000	¥12,000
付属品	フード・マウント・ケース					マウント・ケース

●マウントのみ購入することにより2種以上のカメラに使えます。マウントのみ ¥1,500

長焦点交換レンズを天体望遠鏡に利用する



アイピースアダプター
¥1,500
アイピース
¥1,500~¥3,600

写真はLP400にアイピースアダプター、アイピース付

●スリコール オートテレコンバーター (焦点距離2倍、露出倍率4倍(数値で2倍)、構成3群3枚、重量110g、寸法・長さ25%、最大径63%)



マルチコーティング・TTLメーター連動開放測光

35%一眼レフ用のコンバーターで、撮影レンズとカメラボデーの間に取付けることにより撮影レンズの焦点距離が2倍の望遠になります。手持ちレンズが標準なら望遠に、望遠なら超望遠になります。テレコンバーターにより2倍になった焦点距離は同じ焦点の望遠レンズと同様の画角、焦点深度、遠近感になります。(AEは絞り優先の電子シャッターのみ使用可能)

アサヒペンタックス用 ¥7,000
(ペンタックスSL, SP, SPF, ES)
キャノン用 ¥8,500
(F1, EF, FTb)
ミノルタ用(全機種) ¥8,000
オリンパスOMI用 ¥8,500
ニコン用(全機種) ¥8,500
コニカ用(FP, FS, FMは不可) ¥8,800

●スリコール セミ魚眼コンバーター (焦点倍率0.43、露出倍率約2倍、構成3群3枚、重量300g、長さ53cm)



標準レンズ、広角レンズのフィルターネジに取付けて超広角、セミ魚眼になります。焦点距離は標準レンズ50%なら22mmに、広角レンズ35%に取付ければ15mmの超広角セミ魚眼になります。焦点深度が深くなりますので一般撮影には∞で使用し、ピント調節の必要はありません。自動露出TTLは機構上変わらず使用できますし、露出倍率は2倍程度ですので、たいへん明るい超広角セミ魚眼になります。

最短撮影距離(レンズ前面から) 3cm程度 Gアダプターサイズ(フィルター径)
写角 標準レンズ50%の場合 113度 46%、48%、49%、52%、55%、58%、62%
広角レンズ35%の場合 150度(タル型) ¥11,500 (Gアダプター、ケース付)
広角レンズ28%の場合 150度(丸型) Gアダプターのみ ¥600

☎121 東京都足立区平野3-7-17

振替口座東京103033

株式会社 スリービーチUFK係

電話照会・受付時間
平日午後1~5時迄
東京(03)850-6110

●詳しいカタログはハガキでお申込み次第無料進呈致します。(電話申込み不可)

本誌バックナンバー

★1.2.3.4.6号は売切れ、
5.7.8号は残部僅少!

※5号を倉庫の奥より200部発見! 早いものがち!

第5号 (1974年3月発売) ¥330

日本古来の天空人出現説考(2) 齊藤守弘/複雑怪奇な点滅光跡の謎高梨純一/円盤の中に連れこまれた男(2) 南山宏/ミシガン州光体目撃事件A・ユートク/私のUFO目撃体験記/太陽エネルギーと水で無限の燃料を!/神々の戦車(完)E・F・デニケン/科学トピックス/国内UFO目撃報告/読者の声 その他

第7号 (1974年7月発売) ¥330

ガルダの発見黒沼健/大ピラミッドはUFO記念碑? 志田真人/アルゼンチンの奇怪なUFO着陸事件O・A・ガリデス/海上に着水した円盤/W・ビューラー/空飛ぶ円盤はGエンジンか? 橋本健/連載科学記事/宇宙・引力・空飛ぶ円盤(2) L・クランプ/科学トピックス/国内UFO目撃報告/読者の声 その他

第8号 (1974年9月発売) ¥330

マンテル大尉の悲劇荒井欣一/イタリアの不思議な小人出現事件C・コンティ/千葉県に出現した大型円盤/ネス湖における悪魔ばらいの儀式とUFOの着陸F・W・ホリデイ/天体オーラと宇宙電界の謎内田秀男/宇宙・引力・空飛ぶ円盤(3) L・クランプ/科学トピックス/国内UFO目撃報告/読者の声 その他

第9号 (1974年11月発売) ¥400 特大号

UFOによる米空軍機追尾事件翼淳/スペインに出現した円盤と乗員J・マシアス アンヘル・バリゴン/ジョージ・アダムスキーはまだ影を投げかけている/G・クレイトン/地震の鏡をにぎるマントル対流/竹内均/宇宙・引力・空飛ぶ円盤(4) L・クランプ/科学トピックス/国内UFO目撃報告/読者の声 その他

第10号 (1975年1月発売) ¥360

銀色の服を着た宇宙人高梨純一/科学を曲げる男ユリ・ゲラーG・クレイトン/月世界の謎の現象を探る京都大学花山天文台台長・理学博士・宮本正太郎/NASAの活動と、その未来読売新聞科学部・中村政雄/宇宙・引力・空飛ぶ円盤(5) L・クランプ/科学ニュース/UFO情報/UFO目撃レポート/読者の声 その他

第11号 (1975年3月発売) ¥360

月面は円盤の中継基地か 荻沢潤一郎/ニューヨーク州の着陸事件T・アリーチャー/1980年代の宇宙連絡船理学博士・河島信樹/原子・銀河系・理解(1) D・フライ/アダムスキー型円盤/尾道市に出現!/宇宙・引力・空飛ぶ円盤(完) L・クランプ/科学ニュース/UFO情報/UFO目撃レポート/読者の声 その他

第12号 (1975年5月発売) ¥360

甲府市にUFO着陸!/オーストリアの光るカタツムリ状物体E・ベルガー/古代の天空人E・F・デンケン/長野県に落下した小型円盤!/重力波とは何か千葉二郎/原子・銀河系・理解(2) D・フライ/<>連環のUFO現象(1)>シベリアの謎の大爆発/科学ニュース/UFO情報/UFO目撃レポート/読者の声 その他

わが国唯一の空飛ぶ円盤専門誌UFOと宇宙は今や世界のトップクラスをいく専門誌です。本誌には世界各地で発生したUFO事件のほかUFOに関する広範な記事・写真が貴重な記録・資料として満載されています。旧号をお持ちになっていない方は早目にご注文されるようおすすめします。

送料 1冊 ¥160 2~3冊 ¥200 4~6冊 ¥240

第13号 (1975年7月発売) ¥360

千葉市にアダムスキー型円盤出現!/円盤に乗った宇宙人を見た!/宇宙交信のためのテレバシー通信市村俊彦/原子・銀河系・理解D・フライ/中学生にもわかる微分積分(1) 三好要市/<>連環のUFO現象(2)>ルーマニアのUFO出現事件/科学ニュース/UFO情報/UFO目撃レポート/読者の声 その他

第14号 (1975年9月発売) ¥390

円盤をよく見る人/1897年の謎の飛行船/私は金星文字を解読した!/マルセル・オム教授の不思議な発見物/大気圏外生命体とのコンタクト? /原子・銀河系・理解(4) /実在する超感覚と念力関英男/中学生にもわかる微分積分(2) /<>連環のUFO現象(3) >ユーゴスラビアのUFO出現騒動 その他

第15号 (1975年11月発売) ¥390

ステラ・ランシング夫人の不思議な写真B・シュワルツ/ドラギニヤンの怪事件/ワルヌトンの奇怪なロボットG・クレイトン/聖書の予言とスペース・プログラム(1) C・A・ハニー/原子・銀河系・理解(完)/中学生にもわかる微分積分(3) /<>連環のUFO現象(完)>(続)ルーマニアのUFO出現事件 その他

第16号 (1976年1月発売) ¥390

<本誌特別取材>三原市の驚異コンタクト事件/テレポーテーションとテレバシー平野威馬雄/名古屋上空に円盤大出現!/聖書の予言とスペース・プログラム(完) C・A・ハニー/中学生にもわかる微分積分(完) /X博士の怪UFO事件A・ミシエル/科学ニュース/UFO情報/UFO目撃レポート/読者の声 その他

第17号 (1976年3月発売) ¥390

口絵・月面の謎アポロ飛行士が撮ったUFO写真初公開!/巨大円盤・横須賀に出現!/UFOは地球の救済に来るのかオットー・B・ウィンダー/奇跡を起こす方法デッド・オーウェンス/ピーター・フルコスの驚異的大発見! B・アン・スレート/科学ニュース/UFO情報/UFO目撃レポート/読者の声 その他

第18号 (1976年5月発売) ¥390

森林伐採エトラビス・ウォルトンのUFO同乗事件高梨純一/UFOは地球の救済に来るのか(完) /UFOインタビュー>私はUFOを見た・岡崎友紀さんの巻/私は宇宙人のクビをすげかえた!/ (続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(1) L・クランプ/科学ニュース/UFO情報/UFO目撃レポート/読者の声 その他

UFO写真集

戦後世界各地で目撃され、日本にもひんぱんに出現して話題を呼んでいる未確認飛行物体の正体は? 全国UFOファン熱望にこたえて全世界で記録された貴重な写真を集めた。UFO研究界の第一人者久保田八郎が和英両文で解説を加えた。
カラー写真21点、白黒写真33点
A4判のワイド面からくる迫力! 極上アート紙使用・美麗カラー付き豪華本。
一三〇〇円送料二〇〇円

■当社出版物が書店にない場合は、振替・現金書留・小為替・低額小切手などで当社宛直接ご注文ください。代金あと払いの注文はおことわりします。
■最近、住所不明で返送される郵便物が増えています。ご注文の際は必ず郵便番号・注文品名・号数・冊数を明記してください。

ユニバース出版社

本誌保存用

特製バインダー

本誌を破損・紛失しないためにバインダーをご利用ください。この特製バインダーは極厚手表紙・布装で表面と背に誌名を金文字で箔押ししてあり、一年分六冊をとりこむことができます。

荷造送料

一〜二個 三五〇円
三〜四個 七〇〇円

定価四〇〇円

高性能精密器 均 10ヵ月払 初回金1/10で ニコルス等 おてもとへ

たしかな品質 / 合理的良心価格
ご不満のときは交換・解約・返金自由

マニア向け
屈折赤道儀式の
決定版!

注文番号82-702

ニコルスRK-7012



キビシイ製品基準の超精密機

筒ブレを排除 / 最高級マウント使用

【定格】
対物レンズ76.2mm (有効径) アクロマート、焦点距離1,250mm、集光力118倍、分離能1.5秒、極限等級11.2等星、鏡筒径76mm、アルミ使用、全長1,270mm、歯数114枚
【付属品】
接眼レンズOR4mm (312倍)、HM6mm (208倍)、HM20mm (62倍)、ファインダー6×30mm、天頂プリズム、サングラス、ムーングラス、フレキシブルハンドル2個、ウエイト1個、二段式木脚、カメラ雲台、木製格納箱
初回金6,500円 千2,000円
分割払金(月)6,500円×9回
分割払価格65,000円
現金払価格62,000円

口径80mm
焦点距離1200
(光軸修正可)

注文番号82-801

ニコルスRK-8012



大口徑屈折式の最高級機!

光軸修正付
大口徑対物
レンズ使用

【定格】
対物レンズ80mm アクロマート(セミコート) 焦点距離1,200mm、集光力131倍(肉眼)、分解能1.45秒、極限等級11.3等星、赤道儀歯数140枚目盛付、鏡筒径85mm、全長1,220(1,250)mm、(接眼レンズ除く)

【付属品】
接眼レンズHM6mm (200倍)、HM12.5mm (96倍)、HM20mm (60倍)、写真雲台、天頂プリズム、ファインダー8×30mm、サングラス、ムーングラス、木脚(2段式)、ウエイト2個、フレキシブルハンドル(長短2個)
初回金8,950円 千1,500円
分割払金(月)8,950円×9回
分割払価格89,500円
現金払価格79,500円

●カメラアタッチメントF型



どのカメラでも
どの望遠鏡でも
使用可能。間接撮影、直接
撮影、拡大撮影、星野写真
等いずれも可能です。

現金払価格4,000円
送料300円

●60mm屈折用赤道儀(モータードライブ取付可)



赤径赤緯目盛付、歯数
138枚、使用鏡筒63mm、
(60mm屈折標準口径)、
バランスウエイト2個、
フレキシブルハンドル
2個(長短)付

初回金1,950円
分割払金(月)1,950円×9回
分割払価格19,500円
現金払価格17,000円
送料800円

●2メバローレンズ(アクロマート)

簡単に使用倍率を2倍にすることが
できます。特に短焦点の望遠鏡には便利
です。



現金払価格1,900円
送料150円

●地上用正立プリズム

天体望遠鏡を地上用として使用する
場合ご利用下さい。像が正立になります。



普及型
現金払価格2,000円
送料150円

広角型
現金払価格3,600円
送料150円

カタログ及び注文方法は次のページにあります

初回金 $\frac{1}{10}$ でおて 均等 10ヵ月払

ご不満のときは交換・解約・返金自由



大口徑114mm の人氣機種

注文番号82-011
ニコルスLS-1149

集光力265倍
(肉眼)の大型機!

上下・水平
微動装置付

【定 格】
対物主鏡114mmアルミナイズ済、
焦点距離900mm、斜鏡23mm、集光
力265倍、分解能1.00秒、極限等
級12.0等星、鏡筒内径138mm、全
長880mm、接眼部24.5mm

【付属品】
接眼レンズH M6mm(150倍)、H
M12.5mm(72倍)、ファインダー
6×24mm、サングラス、2段式
木脚、フレキシブルハンドル

初回金2,950円 千1,500円
分割払価格29,500円
現金払価格25,500円

マニア向け 大口徑 (114mm)

注文番号82-003
ニコルスHK-1149

反射赤道儀の決定版!

ガッシリ
した二段
式木脚

【定 格】
対物主鏡114mmアルミナイズ済、
焦点距離900mm、斜鏡23mm接眼部
24.5mm、36mm両用、集光力265倍、
分解能1.00秒、極限等級12.0等
星、鏡筒内径138mm、全長880mm

【付属品】
接眼レンズH M6mm(150倍)、H
M12.5mm(72倍)、HM20mm(45
倍)、ファインダー6×30mm、サ
ングラス、フレキシブルハンド
ル2個、2段式木脚(2ヶ所止)、
バランスウェイト2個、赤徑、赤
緯目盛付

初回金5,750円 千1,500円
分割払価格57,500円
現金払価格51,000円

二光カタログハウスチェーン
営業時間 AM10:00-PM7:00

ビバ店

至上新 昭通通り 秋葉原駅 至千代田

至山手 至千代田 至千代田

TEL 03(832)0713

ビバ光電店秋葉原店
年中無休

TEL 03(832)0713

今すぐのご注文は

- ご注文番号か品名を紙に書いて、月賦は初回金と送料を現金書留封筒でお送り下さい。
- 一時払いは同じ方法で現金価格と送料をお送り下さい。

あて先

〒133・東京 小岩局48号
二光通販(株)
技研事業部
74係

カタログのお申込は

只今無料進呈中
商品をよりくわしく知りたい方は、カタログをお申込み下さい。
下記のカタログ進呈券をハガキのうらにはってお送り下さい。
無料でお送りいたします。

カタログ進呈券74係

〒133 東京都江戸川区南小岩6-31-25 二光通販(株)技研事業部 (ニコニ 技研) 03(673)2101

〈苦情相談〉この広告についての商品未着や商品苦情はご遠慮なくお申出ください。東京都千代田区外神田3-2-3森ロビル2F・ニコニ消費者相談室 ☎03(672)8558

高性能精密器ニコルス

お求めやすい均等／分割クレジット

たしかな品質・合理的良心価格

初心者向きの
決定版／経緯台式の
最高級機

注文番号82-615

ニコルスRS-6091A

【定 格】

対物レンズ60mmアクロマート
(セミコート)、焦点距離900mm、
集光力73倍(肉眼)、分解能
1.93秒、極限等級10.7等
星、鏡筒径63mm、全長
890mm(接眼レンズ
除く)

【付属品】

接眼レンズHM6mm(150倍)
HM12.5mm(72倍)、ファイ
ンダー5×24mm、天頂プリ
ズム、サングラス、木脚(2
段式)フレキシブル
ハンドル

初回金2,300円 千900円
分割払金(月)2,300円×9回
分割払価格23,000円
現金払価格20,000円

二段ド
ローチュ
ーブ使用

上下・水平微動装置付

使いやすく
手頃な価格

注文番号82-617

ニコルスRK-6091A

【定 格】

対物レンズ60mmアクロマート
(セミコート)、焦点距離900mm、
集光力73倍(肉眼)、分解能
1.93秒、極限等級10
.7等星、鏡筒径63mm、
全長890mm(接眼
部を除く)、赤
道儀歯数138
、赤道儀と赤
経目盛付

【付属品】

接眼レンズHM
6mm(150倍)HM12
.5mm(72倍)HM20
mm(45倍)、写真雲台、ム
ーングラス、ファインダー5
×24mm、サングラス、木脚(2段
式)天頂プリズム、フレキシブルハンドル
(長短2個)、バランスウエイト(0.5kg2個)

赤経・赤緯
目盛環付
赤道儀

初回金4,500円 千1,000円
分割払金(月)4,500円×9回
分割払価格45,000円
現金払価格39,500円

注文番号82-613

ニコルスRJ-6092A

【定 格】

対物レンズ60mmアクロマート
(セミコート)、焦点距離900mm、
集光力73倍、分解能1.93秒、
極限等級10.7等星、鏡筒径
63mm、全長890mm

【付属品】

接眼レンズSR4mm
(225倍)HM12.5mm(72
倍)、ファインダー5×
24mm、天頂プリズム、サ
ングラス、木脚(2段式)、
上下微動棒

初回金1,950円 千900円
分割払金(月)1,950円×9回
分割払価格19,500円
現金払価格16,500円

高倍率225倍の偉力!

注文番号82-606

ニコルスRK-6050

【定 格】

対物レンズ60mmアクロマート
(セミコート)、焦点距離500
mm、集光力73倍(肉眼)、分
解能1.93秒、極限等級
10.7等級、鏡筒径63
mm、全長490mm(接
眼レンズ除く)

【付属品】

接眼レンズHM6mm(83倍)H
M12.5mm(40倍)、MH20mm
(25倍)、写真雲台、サン
グラス、ファインダー5×24mm、
ムーングラス、フレキシ
ブルハンドル2個(長短)、ウ
ェイト2個、木脚(2段式)

初回金4,400円 千1,000円
分割払金(月)4,400円×9回
分割払価格44,000円
現金払価格38,800円

広い視野、明るく鮮明な像

カタログ及び注方文法は
次のページにあります……

●本書はユニバーズ出版社国内独占販売のため一般書店ではお求めできません。ご購入の場合は、代金を現金書留または振替で直接当社業務部までお送り下さい。なお5日間無料で本書をご覧になれる方法もあります。ご希望の方は当社業務部まで資料(無料)をご請求下さい。

国内総販売元

株式会社ユニバーズ出版社

〒110東京都台東区上野5-1-6ヤマトビル 振替東京1-119478



最大の冒険

ADVENTURE

BRM SELAH 社版

月面と宇宙

●世紀の大偉業“アポロ計画”の全貌公開。アメリカ航空宇宙局(NASA)提供による驚異のカラー写真119点、モノクロ写真11点があなたを未知の大宇宙へご案内します。

●本書(BRMセラー社版)は横25.5cm、タテ34.3cmの特大版で本文極上アート紙使用、極厚手表紙・カバーつき、総頁数128の豪華写真集です。詳細な英文解説に別冊日本語版(全訳)がつきます。

●科学研究者・天文ファン、学校・図書館等の公共施設はもちろん、ご家庭の教養図書としてもぜひ一冊おそなえ下さい。

定価11,000円(梱包送料600円)

米国直輸入

超豪華版
MAN'S
GREATEST

会員募集

★UFOと宇宙哲学の研究グループ★

日本GAP

わが国UFO研究界の先駆者久保田八郎はジョージ・アダムスキー研究者としても著名であるが、1961年よりアダムスキー主宰の世界GAP（知らせる運動）組織の日本代表となり、日本GAPを設立。以来あらゆる困難と障害を乗り越えてアダムスキーの特異な体験と宇宙的哲学の促進活動を展開してきた。機関誌「GAPニュースレター」をすでに58号まで発行。毎月上野公園の東京文化会館で月例研究会を開催。「テレビシー」講義、テレビシー録音、研究発表などを行い、宇宙の法則と人間の真の生き方を探求。月例会終了後は夕食会を開催して会員の親睦を図る等、奉仕的個人活動として啓蒙運動を続行中である。真剣な探求者のご参加を歓迎いたします。

不定期刊機関誌

GAPニュースレター

第58号発行中!!

●本格的活版印刷・85版・極上アート紙40ページ●UFOに関連して、他の惑星の偉大な人類存在の認識と宇宙の法則の探究専門誌
 (主要記事) (第57号までは品切れ絶版)
 想念観察
 進歩した思索家のために(未公開遺稿)(2)……ジョージ・アダムスキー
 (連載)米GAP訪問記「きらめくビスタの星」(2)(写真多数掲載)……久保田八郎
 「青きパロマーの空」

その他

入会希望者は50円切手宛名明記返信用封筒を同封の上、「UFOと宇宙」19号で見たと書き添えてまず案内書をお申し込み下さい。高度な哲学的研究グループにつき、入会は高校生以上に限ります。非会員に機関誌の1冊売りはしません。

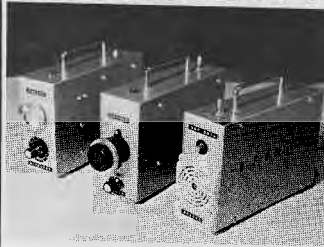
〒133東京都江戸川区本一色町365-818 日本GAP(主宰)久保田八郎

UFO探知機

超高感度

国産唯一の本格的磁気探知機!

現在200台が全国で活躍中!!
 既にUFO探知成功13件!!



左からT-5・T-3a・T-3b型

- T-5型……¥9,000
- T-3a型……¥18,000
- T-3b型……¥19,000

■その他、連続観測用のACアダプター及び、補助電池ボックス(新製品)があります。

申込先: 〒213 神奈川県川崎市高津区長尾1606

折田 至

Tel. 044-866-8347

●カタログ請求は100円切手をお送り下さい。

TAMA SOUL BOOKS

超能力少年達による実験証明 市村俊彦
 内田秀男 芝山輝共著 六八〇円 一六〇〇円

念力スプーン 眞実だ
 効果はトリックが真実か。日本の超能力少年達による実験証明 市村俊彦

宇宙のルネッサンスと逆産業革命によって、公害、戦争、大変動の危機を回避する。 坂元ツトム著 六八〇円 一六〇〇円

UFOは二の黒船だ
 地球人類より数万年も進化した他惑星から伝えられた宇宙の眞実 アダムスキー 著 久保田八郎訳 七五〇円 一六〇〇円

宇宙哲学
 新製
 地球人類より数万年も進化した他惑星から伝えられた宇宙の眞実 アダムスキー 著 久保田八郎訳 七五〇円 一六〇〇円

ついでに

あなたにもできる
 大地震予知法

木越保光著
 890円
 〒160円

最新刊絶賛発売中!!

思念力百科
 セルフコントロールやテレビシーをエジプト秘術から現代心理学などあらゆる超能力開発法で新方式図解 佐々木浩一著 九五〇円 一六〇〇円

超能力クロアゼ
 捜査官
 世紀の千里眼能力者の記録。迷宮入犯罪の解決、古代遺跡の過去透視、大学での未来予知実験等 Jポラック著 山下仁訳 九五〇円 一六〇〇円

エドガー・ケイシー秘密シリーズ
 超能力開発の原理と実践法 一三〇〇円 一六〇〇円

ソ連圏の四次元科学

80億円の国家予算でUFOテレビシー、念力の研究を軍事や宇宙開発に応用しようとする共産圏アカデミー上巻(ソ連前編)下巻(ソ後ブルガリア・チェコ編)オストランダー他著 照洲みのる訳 各巻1150円 200

ノストラダムス大予言原典

大地震、パニック、第三次大戦への宇宙人の介入など世界三大予言者の未来を集約。西暦3000年までの予言書「諸世紀」の全訳と解説 ノストラダムス著 ロバーツ編 内田秀男監修 大乗和子訳 保存版2400円 200

162 東京都新宿区納戸町33

たま出版

電話03-260-4367 振替東京94804

5年間品質保証書付

◆MOP高性能天体望遠鏡 (通産省光学検査合格品)

◆MOP本格派双眼鏡 (通産省光学検査合格品)

発売元「INTEL」株式会社インテ
製造元 武蔵光学株式会社

UFOをとらえるのはこれだ!

研究観測用高級機 100%反射型赤道儀式

MOP M109型

規格・性能 焦点距離
900mm 主鏡レンズ有
効径100% (主鏡アルミ
ナイズメッキ) 分解能
1.16秒 極限等級11.8
等星 集光力204倍

装置 直進ヘリコイド
式繰出 (接眼レンズ口
径24.5mm用) 赤道儀兼
経緯台 微動装置ウォ
ームギヤー使用 赤経
・赤緯目盛環付

付属品付き



先着5台のみ
ビックリ価格35,000円
(送料2,000円)

早い者勝ち!

価格35,000円
(送料2,000円)

MOP 610型

規格・性能 焦点距離
1,000mm 有効径60mm
(アクロマートレンズ
使用) 分解能1.9秒 極
限等級10.7等星 集光
力73倍

付属品 サングラス
6×30mmファインダー
天頂プリズムHM6mm
HM12.5mm K20mm
バランスウェイト2
フレキシブルハンドル2
木製2段伸縮三脚

研究観測用高級機
60%屈折赤道儀式



価格44,000円
(送料2,000円)

MOP双眼鏡 8×30

規格・性能 倍率8倍
対物レンズ有効径30mm
射出瞳径3.8mm 明るさ
14.1 実視界7.5度 1000
m先の視野131m 高さ
11.5cm 重さ550g

チャンス!

先着70台のみ
ビックリ価格7,500円
(送料800円)



●ミクロンシリーズ

MOPミクロン 10×40

規格・性能 倍率10倍
対物レンズ有効径40mm
射出瞳径4mm 明るさ
16 実視界7度 1000m
先の視野123m 高さ12
.3cm 重さ490g

10×40
特価17,000円(送料800円)



MOP双眼鏡 20×50

規格・性能 倍率20倍
対物レンズ有効径50mm
実視界3度 ひとみ径
2.5mm 重さ1,050g

チャンス!

全機種特価

- 6×30 8,700円
- 8×30 9,000円
- 7×35 9,500円
- 7×50 10,700円
- 10×50 11,200円
- 12×50 11,500円
- 16×50 11,700円
- 20×50 12,800円

高倍率で明るい!

先着50台のみ 20×50
ビックリ価格 9,800円
(送料800円)

付属品 ハードケース
保証書 使用説明書



●ミクロンシリーズ

MOPミクロン 8×20

ポケットにピッタリ!

規格・性能 倍率8倍
対物レンズ有効径20mm
射出瞳径2.5mm 明るさ
6.3 実視界5度 1000m
先の視野88m 高さ7.1
cm 重さ185g

8×20
特価13,800円(送料800円)



カタログ無料進呈

当社全製品満載のカタ
ログを無料で差し上げま
す。切手100円を同封し
下の請求券をはって
お申し込み下さい

ドカーンと安い!!

ご注文方法

広告価格はすべて現金価格です。ご注文の場合は品名・住所・
電話番号・氏名を明記し、現金書留でお申し込みください。

〒193東京都八王子市小比企町2957-9 ☎0426-25-7941(代表)

(株)インテル 光学事業部UFO係

あて先

当社製品の販売代理店を募集します。当社まで資料をご請求下さい。またこの広告につ

カタログ請求券
UFO19

UFOと宇宙のモニターを募集します

本誌UFOと宇宙では今回読者によるモニター制度をつくることになりました。この制度は全国のモニターから本誌あるいはUFO問題に対するご意見をお寄せいただき、本誌の誌面づくりに反映させていただこうというものです。

モニターにお願いすること

モニターになっていただいた方には本誌編集部よりモニター用紙をお送りしますので、毎号本誌発行後、質問事項にご意見を記入し、編集部までにお送りいただきます。

UFOと宇宙を毎号お届けします

モニターになっていただきますと、毎号本誌を無料でお届けします。

応募の方法は

モニターは一年間(年六回刊)続けていただきます。資格は本誌の読者ならどなたでも結構です。住所、氏名、年齢、卒業学校名、職業(在学中の方は学校名・学年)、電話番号、本誌に対するご意見を記入し、写真一枚を同封して封書でお申し込みください。八月十五日までにお申し込みいただいた方の中から編集部で五十名の方を選ばずモニターをお願いする予定です。お申し込みのあて先は、ユニバーズ出版社UFOと宇宙編集部モニター係です。

読者の投稿を歓迎します

UFO(未確認飛行物体)に関する原稿、目撃レポート、写真(できればネガも)などを広く募集します。原稿はなるべく原稿用紙(たて書き)をお使いください。目撃レポートの場合は左記の各項目を参考にし、なるべく正確・詳細にお書きください。なお投稿された原稿は一切お返ししませんので必要場合はあらかじめコピーをおとりください。ただし写真のネガは返送用封筒に切手を貼って同封してください。

採用分には当社規定の原稿料をさしあげます。

UFO目撃レポート参考事項

- (1)目撃者 住所・氏名・年齢・職業(在学中の方は学校名・学年)、電話番号、同時目撃者の有無、その他。(匿名希望の場合はその旨明記)
 - (2)目撃地点 地名、付近略図、時刻、天候、目撃継続時間、その他。
 - (3)物体 飛行物体の形(スケッチを添えること)、大きさ、色、その他。
 - (4)飛行物体 仰角、方向、飛行中の形態の変化、飛行中の色、形態、光度の変化、推定速度および高度、その他。
 - (5)観測機器 使用の場合はその機器名、性能その他。
 - (6)撮影用具 カメラ使用の場合はカメラ名、使用フィルム、レンズ名、絞り、シャッタースピード、その他のデータ。
- 注意 スケッチは厚めの白い紙に黒インクかボールペンを活用して描いてください。(1のに入った便箋は可)

原稿あて先

ユニバーズ出版社UFOと宇宙編集部(目撃レポートの場合は「UFO資料調査部」と明記してください)。

Across the Editor's Desk

★本号トップ記事の横尾忠則氏によるUFO目撃体験談は本誌が放つヒット! 多数の不可思議な現象と氏の高度な宇宙哲学的思想は読者に深い示唆を与えてでしょう。

★近來世界各地に巨大地震が頻発し、不気味な様相を呈しています。この惑星上の大変動の前触れなのか、単なる偶発的現象なのか——オーラ研究の権威・内田工学博士が独自の理論を展開された「大地震は予知できるか」は地球人必読の名篇です。

★それにしてもUFO問題は複雑怪奇ですなア。どこまでが真実でどこまでが虚偽なのか、背後に何者がひそんでいるのか、一体何の目的?——等 考えれば考えるほど不可解になるのがUFOの謎であり、ロッキード事件などの比ではありません。そして、そこにこの問題追跡の面白さがあります。推理・直感・科学的調査等を存分に駆使して真相に肉迫しようではありませんか。

★そこで次号から更に増頁を敢行し、体裁一新の上、内容の高密度化と充実を図りますので、ご期待ください。本誌はますます素晴らしくなりますヨ!

(K)

UFOと宇宙 一九七六年八月号 第19号

編集発行人 久保田八郎

発行所 株式会社ユニバーズ出版社
〒110東京都台東区上野五—1—16

電話(832)1341(代表)

振替・東京1119478

印刷所 三晃印刷株式会社

昭和五十一年八月一日発行

(隔月刊・奇数月二十日発売)








定価三九〇円・送料一六〇円

年々め講読料・送料共三二〇〇円(書店で入手できない場合は本社へ直接注文下さい)

●本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます。
●海外の記事はすべて翻訳転載取得済

スリーピーチUFOシリーズ

・UFOシリーズは正立像です。天体用(倒立像)はUFOシリーズより価格が安く成ります。

<p>No.MTZ40S アクロマートレンズ 口径 40mm 倍率 ズーム変倍 15×~40×</p>  <p>¥9,000 送料 ¥600 (¥7,200)</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	<p>No.ST60A-UFO アクロマートレンズ D60mm F800mm 倍率 100× 44× 上下微動装置</p>  <p>特価 ¥18,000 送料 ¥1,000</p> <p>[天体地上兼用]</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	<p>No.ST63A-UFO アクロマートレンズ D60mm F1,000mm 倍率 125× 55× 上下微動装置</p>  <p>特価 ¥19,500 送料 ¥1,000</p> <p>[天体地上兼用]</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>
<p>ビクトリー701-UFO アクロマートレンズ D60mm F700mm 倍率 114× 56× 上下微動装置 水平微動装置</p>  <p>特価 ¥25,800 送料 ¥1,200</p> <p>[天体地上兼用]</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	<p>No.ST67A-UFO アクロマートレンズ D60mm F1,000mm 倍率 125× 50× 上下微動装置 水平微動装置</p>  <p>特価 ¥30,500 送料 ¥1,200</p> <p>[天体地上兼用]</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	<p>グレートビクトリー700-UFO 屈折赤道儀 アクロマートレンズ D60mm F700mm 倍率 117×56× 経緯微動装置 経緯目盛環</p>  <p>特価 ¥35,800 送料 ¥1,200</p> <p>[天体地上兼用]</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>
<p>No.ST1000-UFO アクロマートレンズ 屈折赤道儀 D60mm F1000mm 倍率 167× 80× 40× 経緯微動装置 経緯目盛環</p>  <p>特価 ¥43,800 送料 ¥1,500</p> <p>[天体地上兼用]</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	<p>No.SST600 アクロマートレンズ 屈折赤道儀 D60mm F910mm 倍率 150× 73× 45× 経緯微動装置 経緯目盛環</p>  <p>特価 ¥42,000 送料 ¥2,000</p> <p>[天体地上兼用]</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	<p>No.SST76 アクロマートレンズ 屈折赤道儀 D76mm F910mm 倍率 151× 73× 36× 経緯微動装置 経緯目盛環</p>  <p>特価 ¥55,000 送料 ¥2,000</p> <p>[天体地上兼用]</p> <p>性能 1.5秒・11.2等星・118倍</p>
<p>No.SST80 アクロマートレンズ 屈折赤道儀 D76mm F1,250mm 倍率 208×100× 50× 経緯微動装置 経緯目盛環</p>  <p>特価 ¥62,000 送料 ¥2,000</p> <p>[天体地上兼用]</p> <p>性能 1.5秒・11.2等星・118倍</p>	<p>プリズム双眼鏡(アクリマートレンズ・ケース付)</p> <p>← No.SB1030 倍率10× D30mm 特価 ¥8,000 送料 ¥500</p> <p>← No.SB1050 倍率 10× D50mm 特価 ¥11,000 送料 ¥600</p> <p>← No.SB2050 倍率20× D50mm 特価 ¥12,000 送料 ¥600</p> <p>← No.KB3070 特大型高さ26cm 倍率30× D70mm 特価 ¥33,000 送料 ¥1,000</p> <p>くわしくは 切手300円 同封の上、総合</p> <p>カタログNo.12</p> <p>お申込み下さい</p> <p>屈折式望遠鏡 反射式望遠鏡 望遠鏡部品 双眼鏡 顕微鏡</p> <p>〒121 東京都足立区 平野 3-7-17</p> <p>K.K.スリーピーチ サービスセンター UFO係</p>	

特選光学機器通信販売のお知らせ

マニアに朗報! 自宅でお好きな機種が選べる



下記5大メーカーの光学器を、お手元のカタログで比較検討し
ご注文いただくシステム、ぜひ93年の伝統と信用を誇る

東京メガ本を
ご利用ください。

《取扱メーカー》

ア ス ト ロ
ニ コ ン
ミ ザ ー ル
ビ ヲ セ ン
カ ト ー 光 学

《取扱商品》

天体望遠鏡
地上望遠鏡・双眼鏡
顕微鏡・拡大鏡

他付属品及部品類など、
多数取り揃えております。

●カタログ(5大メーカーカタログ)ご希望の方は切手300円を同封してお申し込みください。なお、お買上げ商品は、どこでも無料配送いたします。いま当社通信販売にて10,000円以上お買上げの方に限り全員に「彗星を追う」「'76天文観測年表(天文気象年鑑)」「新天体写真技術」のうちご希望の専門書を一冊無料進呈致します。

お問い合わせは
株式会社 東京メガ本 光学通販B係

〒154 東京都世田谷区若林1-20-11

TEL 東京03(413)8711 (大代表) 郵便振替口座 東京134345・私書函世田谷局第33号



メガネは顔の一部です…だから

東京メガ本

支店—国内25店・海外—香港店、九龍店 工場—東京・群馬